

東近江市
男女共同参画に関する市民意識調査
報告書

令和3年3月

東近江市

目 次

第1章 調査の概要.....	1
第2章 調査結果の概要.....	2
1 男女共同参画の知識・意識について	2
(1) 男女共同参画社会に関する用語の認知	2
(2) 男女の地位の平等感.....	2
(3) 東近江市の男女共同参画推進の重点領域	2
2 女性の活躍について.....	3
(1) 管理職につく女性が少ない理由	3
(2) 女性の活躍が進むべき分野・立場	3
3 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について	3
4 固定的な性別役割分担意識について	4
(1) 「男は仕事、女は家事・育児」という考え方	4
(2) 家庭生活における役割分担	4
(3) 地域活動における現状.....	4
(4) 防災・災害復興対策における男女共同参画	5
(5) 職業生活における現状.....	5
(6) 女性の働き方について.....	5
5 DV、セクシュアル・ハラスメントについて	6
(1) 配偶者等からの暴力の状況	6
(2) セクシュアル・ハラスメントの状況	6
第3章 調査結果.....	7
1 回答者の属性.....	7
(1) 性別.....	7
(2) 年齢.....	7
(3) 居住地域.....	8
(4) 家族構成.....	9
(5) 婚姻状況.....	9
(6) 職業.....	10
2 家庭生活について.....	11
(1) 生活における役割分担の現状	11
(2) 男性が家庭生活に積極的に参加していくために必要なこと	28
3 地域活動について.....	29
(1) 地域行事等における男女不平等の内容	29
(2) 男性と女性がともに地域活動に積極的に参加するために必要なこと	30
(3) 防災・災害復興対策における性別に配慮した対応の必要性	31
(4) 防災・災害復興対策において必要な性別に配慮した対応	32

4	職業生活について.....	33
	(1) 職場の所在地.....	33
	(2) 職場での男女共同参画の取組状況とその理由	34
	(3) 女性の働き方についての理想と現実	37
	(4) 女性が仕事を続けていくために必要なこと	41
	(5) 管理職につく女性が少ない理由	42
	(6) 女性の活躍が進むべき分野・立場	43
5	仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について	44
	(1) ワーク・ライフ・バランスについての希望と現状.....	44
	(2) ワーク・ライフ・バランスの希望実現をさまたげている要因.....	50
6	配偶者等からの暴力について	51
	(1) 配偶者や交際相手からの暴力の経験	51
	(2) 配偶者や交際相手からの暴力に関する相談	57
	(3) 配偶者や交際相手からの暴力を相談しなかった理由.....	58
	(4) DVに関する相談機関の認知	59
	(5) 職場や地域等の社会的な場で不快な言動を受けた経験.....	60
7	男女共同参画社会について.....	61
	(1) 性別役割分担意識について	61
	(2) 男女の地位の平等感.....	63
	(3) 東近江市における男女共同参画社会づくりについての満足度と重要度.....	81
	(4) 男女共同参画社会に関する「ことがら」や「ことば」の認知.....	104
8	自由記述.....	114
	資料編.....	115

第1章 調査の概要

【調査の目的】

本市では、男女共同参画社会の実現を目指し、平成27年4月1日より東近江市男女共同参画推進条例を施行するとともに、平成29年に「第2次東近江市男女共同参画推進計画」を策定し、様々な取組を進めています。本調査は、同計画の改定に向けて、男女共同参画についてのこれまでの取組の成果や現状を把握し、今後の施策や計画づくりの参考とすることを目的として実施したものです。

【調査対象】

東近江市住民基本台帳から無作為に抽出した満18歳以上の市民3,000人

【調査方法】

郵送による配布・回収

【調査期間】

令和2年10月21日（水）～11月10日（火）

【回収状況】

	今回調査	前回調査 (平成27年)
調査対象数	3,000件	2,987件
不達数	12件	19件
有効回答数	1,236件	1,248件
有効回答率	41.4%	42.0%

【調査結果の表記について】

- ・ グラフや表にある「n=」に続く数字は、その設問の回答数です。
- ・ 百分率(%)は、それぞれの調査の回答数(n)を基数として算出し、小数第2位を四捨五入して表記しているため、各選択肢の数字の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・ 本文中で「少なくなっています」「多くなっています」などとあるものは、「統計的な有意差」の有無を踏まえた表現としています。
- ・ 既往調査との比較を行っているものについては、それぞれの調査名称を省略し、以下のよう
に表記しています。

平成27年度調査：「東近江市男女共同参画に関する市民意識調査（平成27年度）」

滋賀県：「令和元年度男女共同参画社会づくりに向けた県民意識調査（令和元年度）」

国：「男女共同参画社会に関する世論調査（令和元年度）」

第2章 調査結果の概要

1 男女共同参画の知識・意識について

(1) 男女共同参画社会に関する用語の認知 (P.104～)

- ★ 「男女共同参画社会」「LGBT」「ジェンダー」では、「内容(趣旨)を知っている」人が3割を超えている一方で、「ポジティブ・アクション(積極的改善措置)」「東近江市男女共同参画推進条例」では、1割未満となっています。
- ・ 「LGBT(37.1%)」「ジェンダー(33.5%)」については、「内容(趣旨)を知っている」が最も多く、3割を超えています。
- ・ 「男女共同参画社会(50.2%)」「育児・介護休業法(43.9%)」「ワーク・ライフ・バランス(37.1%)」については、「聞いたことはある」と回答した人の率が最も高くなっています。
- ・ 「ポジティブ・アクション(積極的改善措置)(64.3%)」「東近江市男女共同参画推進条例(61.5%)」については、「知らない」と回答した人が6割を超えています。
- ・ 「ジェンダー」「ワーク・ライフ・バランス」「ポジティブ・アクション(積極的改善措置)」「LGBT」「デートDV」については、18歳～29歳の女性で他の年齢より「内容(趣旨)を知っている」と回答した人の率が高くなっています。
- ・ 「女性活躍推進法」「ワーク・ライフ・バランス」については男女とも、「デートDV」については男性で、平成27年度調査より「内容(趣旨)を知っている」「聞いたことはある」と回答した人の率の合計が高くなっています。

(2) 男女の地位の平等感 (P.63～)

- ★ 「学校教育の中で」「法律や制度の上で」では、「平等である」と回答した人の率が高く、「社会通念・慣習・しきたり等で」「政治の場で」「社会全体で」では低くなっています。
- ・ 「平等である」と回答した人の率は、「学校教育の中で」が55.9%で最も高く、次いで「法律や制度の上で(37.9%)」、「家庭生活の中で(32.8%)」となっています。
- ・ 不平等について、「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答した人の率の合計をみると、「社会通念・慣習・しきたり等で(67.7%)」「政治の場で(64.1%)」「社会全体で(63.7%)」で6割を超えています。
- ・ いずれの項目も、女性で「男性が優遇されている」と回答した人の率が高いのに対して、男性では「平等である」と回答した人の率が高くなっています。

(3) 東近江市の男女共同参画推進の重点領域 (P.83)

- ★ ワーク・ライフ・バランスの前提となる、雇用環境の改善や行政支援の充実が求められています。
- ・ 本市の男女共同参画社会づくりの現状の満足度と今後の重要度の関係を見ると、「働く者を支援するための育児・保育・介護に関するサービスの充実」「働く場での男女の賃金・地位の格差をなくすための企業主などへの働きかけ」「企業におけるワーク・ライフ・バランスの推進」「子育てや介護等で離職した人の再就職を支援するための情報提供」について、重要度が高いにもかかわらず、満足度が低くなっています。

2 女性の活躍について

(1) 管理職につく女性が少ない理由 (P.42)

★ 「女性は、家庭における責任を多く担っているため、責任の重い仕事につきにくいから」と考える人が5割を超えています。

- ・ 「女性は、家庭における責任を多く担っているため、責任の重い仕事につきにくいから」と回答した人の率が54.3%で最も高く、次いで「会社や組織の中に昇進・昇格に対する男性優先の意識や、女性管理職に対する不安感があるから(43.6%)」、「女性は、勤続年数が短く、管理職になる前に退職するから(33.5%)」となっています。
- ・ 女性では「会社や組織の中に昇進・昇格に対する男性優先の意識や、女性管理職に対する不安感があるから」、男性では「女性自身が管理職につくことに消極的だから」と回答した人の率が、平成27年度調査より高くなっています。

(2) 女性の活躍が進むべき分野・立場 (P.43)

★ 議員や管理職・幹部などとしての活躍が期待されています。

- ・ 性別でみると、男女とも「国会・県議会・市町議会等の議員」と回答した人の率が最も高く、次いで女性では「弁護士・医師などの専門職」、「国の省庁・県庁・市町の役所等の公務員」の順、男性では「自治会・PTAなどのリーダー」、「企業の管理職、労働組合の幹部」の順となっています。

3 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)について (P.44~)

★ ワーク・ライフ・バランスの希望と現状が一致している人は、男女とも2割程度。

★ 現状を希望に近づけることをさまたげている要因は、男女とも「仕事が忙しくて時間がない」が多くなっています。

- ・ ワーク・ライフ・バランスの希望と現状の関係をみると、男女ともに「一致している」と回答した人が2割程度、「一致していない」と回答した人が7割程度となっています。
- ・ 希望と現状が一致している場合、女性では「『家庭生活』を優先」と回答した人の率が34.9%で最も高く、男性では「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」と回答した人の率が25.0%で最も高くなっています。
- ・ 希望と現状が一致していない場合、女性では、希望が「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」、現状が「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」と回答した人の率が14.3%で最も高くなっています。一方、男性では、希望が「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」で、現状が「『仕事』を優先」と回答した人の率が14.0%で最も高くなっています。
- ・ 希望と現実の一致を近づけることをさまたげている要因として、女性では「仕事が忙しくて時間がない」と回答した人の率が40.2%で最も高く、次いで「家事や子育てで時間がない(24.9%)」となっています。一方、男性では「仕事が忙しくて時間がない」と回答した人の率が57.8%で最も高く、次いで「職場の理解や支援が不足している(22.0%)」となっています。また、「家事や子育てで時間がない」では女性の率が高く、「仕事が忙しくて時間がない」では男性の率が高くなっています。

4 固定的な性別役割分担意識について

(1) 「男は仕事、女は家事・育児」という考え方 (P.61)

- ★ 「男は仕事、女は家事・育児」という考え方に、「反対」「どちらかといえば反対」と回答した人の率は、「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答した人の率を上回っています。
- ★ 「男は仕事、女は家事・育児」という考え方に、「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答した人の率は男性で高くなっていますが、経年比較すると、その傾向は縮小してきています。
 - ・ 「男は仕事、女は家事・育児」という考え方について、「反対」「どちらかといえば反対」と回答した人の率の合計をみると、女性では 61.2%であるのに対して、男性では 44.6%となっています。
 - ・ 「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答した人の率の合計をみると、女性では 21.3%であるのに対して、男性では 36.6%となっています。
 - ・ 平成 27 年度調査と比較すると、男女とも「反対」「どちらかといえば反対」と回答した人の率の合計が高くなり、「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答した人の率の合計が低くなっています。

(2) 家庭生活における役割分担 (P.11～)

- ★ 生活の多くの場面で性別による役割分担がなされているものの、経年比較すると、役割分担の傾向が変化してきています。
- ★ 男性が家庭生活に積極的に参加していくためには、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをはかること」が必要とされています。
 - ・ 「該当なし」を除くと「食事のしたく・あとかたづけ」「掃除・洗濯」「日常の買い物」「介護・看護」「育児」では「主として女性」と回答した人の率が、「生活費を稼ぐ」「農作業等」「自治会・地域活動」では「主として男性」と回答した人の率が、そして「子どものしつけや教育」では「男女同じ程度」と回答した人の率が、それぞれ最も高くなっています。
 - ・ 性別でみると、「食事のしたく・あとかたづけ」「掃除・洗濯」「日常の買い物」について、女性では「主として女性」と回答した人の率が高いですが、男性では「主として男性」と回答した人が 1.5 割程度あり、特に男性の 50～59 歳では 2 割を超えています。
 - ・ 平成 27 年度調査と比較すると、各項目で男女の役割分担の傾向が変わってきています。
 - ・ 男性が家庭生活に積極的に参加していくために必要なことについてみると、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをはかること」と回答した人の率が 67.7%で最も高く、次いで「男性も育児や介護の休業を取得しやすい環境にすること (55.4%)」、「男性が家事などを行うことへの、男性自身の抵抗感をなくすこと (52.4%)」となっています。

(3) 地域活動における現状 (P.29～)

- ★ 地域行事等においては、「男女の不平等はない」が 5 割超。
 - ・ 地域行事等においては、「男女の不平等はない」と回答した人の率が 54.6%で最も高く、次いで「役員選挙や運営に女性が参加しにくく、また選ばれにくい (26.9%)」となっています。
 - ・ 男性と女性がともに地域活動に積極的に参加するために必要なことについてみると、「地域の中に仲間がいること」と回答した人の率が 43.2%で最も高く、次いで「配偶者や家族の協力 (38.0%)」となっています。

(4) 防災・災害復興対策における男女共同参画 (P.31～、P.81～)

★ 防災・災害復興対策において、避難所における性別に対応した配慮が求められています。

- ・ 防災・災害復興対策において必要な性別に配慮した対応についてみると、男女ともに「避難所の設備（男女別のトイレや更衣室、物干し場など）を整えること」と回答した人が8割を超えており、次いで「災害時の救援医療体制（乳幼児、高齢者、障害者、妊産婦へのサポート体制）を整えること（62.1%）」、「避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること（51.0%）」となっています。
- ・ 本市の男女共同参画社会づくりのうち、「男女共同参画による防災や地域活動の促進」については、「重要」「どちらかといえば重要」と回答した人の率の合計が52.8%となっています。

(5) 職業生活における現状 (P.33～)

★ 職場での男女共同参画の取組は、「進んでいる」「やや進んでいる」を合わせて5割強となっています。

★ 職場での男女共同参画の取組が進んでいる主な要因も、停滞している主な要因も、ともに「仕事の内容」と「能力の評価」が挙がっています。

- ・ 職場での男女共同参画の取組状況についてみると、「進んでいる」「やや進んでいる」と回答した人の率の合計は52.5%であり、平成27年調査結果と変わっていません。
- ・ 取組が進んでいる理由としては、「仕事の内容」と回答した人の率が57.8%で最も高く、次いで「募集・採用の条件（41.9%）」、「能力の評価（39.9%）」となっています。
- ・ 取組が進んでいない理由は、「仕事の内容」と回答した人の率が55.7%で最も高く、次いで「仕事と生活の両立の支援（30.6%）」、「能力の評価（28.2%）」となっています。

(6) 女性の働き方について (P.37～)

★ 女性で、女性の働き方の理想と現実が一致している人は、2割弱。

★ 女性が仕事を続けていくためには、「育児の負担」「家事の負担」が軽減されること、「男女がともに日常的に家事・育児・介護を分担すること」などが必要とされています。

- ・ 女性からみた、女性の働き方の理想と現実の関係をみると、「一致している」が18.9%、「一致していない」が67.5%となっています。
- ・ 理想と現実が一致している場合では、「仕事を続ける」と回答した人の率が47.3%で最も高く、次いで「子育て中は仕事を一時やめ、その後はパートタイム等で仕事を続ける（24.4%）」、「子育て中は仕事を一時やめ、その後はフルタイム等で仕事を続ける（12.2%）」となっています。
- ・ 理想と現実が一致していない場合では、理想が「仕事を続ける」、現実が「子育て中は仕事を一時やめ、その後はパートタイム等で仕事を続ける」と回答した人の率が22.8%で最も高くなっています。
- ・ 女性が仕事を続けていくために必要なこととしては、「安心して子どもを預けられるなど、育児の負担が軽減されること」と回答した人の率が74.3%で最も高く、次いで「家事の負担が軽減されること（62.8%）」、「男女がともに日常的に家事・育児・介護を分担すること（62.3%）」となっています。

5 DV、セクシュアル・ハラスメントについて

(1) 配偶者等からの暴力の状況 (P.51～)

★ 配偶者等からの暴力は、心理的・身体的・経済的・社会的・性的のいずれの暴力についても、経験した人がいます。

- ・ 配偶者や交際相手からの暴力の経験についてみると、「何度もあった」と「1、2度あった」と回答した人の率の合計が最も高いのは、「心理的な暴力 (14.9%)」であり、次いで「身体的な暴力 (5.2%)」となっています。
- ・ 「心理的な暴力」については、女性の 50 歳～59 歳で「1、2度あった」と回答した人の率が他の年齢より高く、男性の 50 歳～59 歳で「何度もあった」と回答した人の率が他の年齢より高くなっています。
- ・ 「経済的な暴力」については、女性の 30 歳～39 歳で「何度もあった」、50 歳～59 歳で「1、2度あった」と回答した人の率が他の年齢より高く、男性の 50 歳～59 歳で「1、2度あった」と回答した人の率が他の年齢より高くなっています。

(2) セクシュアル・ハラスメントの状況 (P.60)

★ セクシュアル・ハラスメントを受けた経験がある人は、女性で多くなっています。

- ・ 職場や地域等の社会的な場で不快な言動を受けた経験についてみると、「容姿・服装・婚姻状況 (未婚・既婚・離婚) などについてからかわれた」と回答した人の率が 6.7%で最も高く、次いで「性的な話題 (自分が直接の対象でない場合を含む) を聞かされた (3.9%)」となっています。
- ・ 女性の 18 歳以上 50 歳未満で「容姿・服装・婚姻状況 (未婚・既婚・離婚) などについてからかわれた」、18 歳～29 歳、40 歳以上 60 歳未満で「性的な話題 (自分が直接の対象でない場合を含む) を聞かされた」、18 歳～29 歳で「必要のない場面で相手から身体的接触を受けた」と回答した人の率が他の年齢より高くなっています。

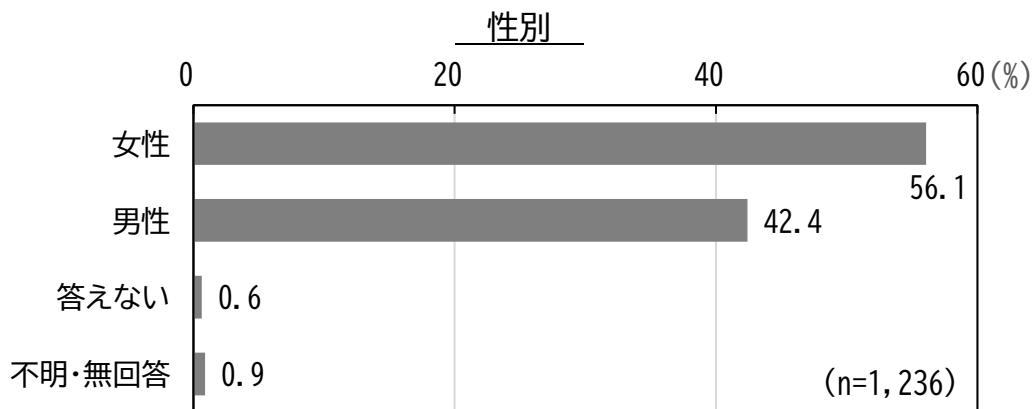
第3章 調査結果

1 回答者の属性

(1) 性別

問1 あなたの性別をお答えください。(1つに○)

「女性」が56.1%、「男性」が42.4%などとなっています。

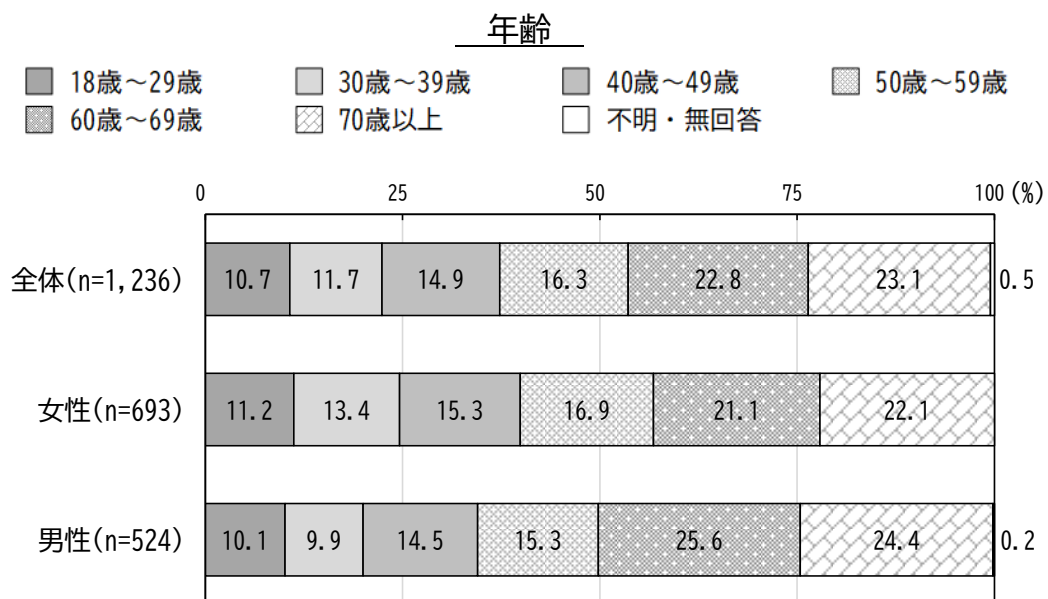


(2) 年齢

問2 あなたの年齢を令和2年10月1日現在でお答えください。(1つに○)

女性では「70歳以上」が22.1%と最も多く、次いで「60歳～69歳」が21.1%、「50歳～59歳」が16.9%などとなっています。

男性では「60歳～69歳」が25.6%と最も多く、次いで「70歳以上」が24.4%、「50歳～59歳」が15.3%などとなっています。



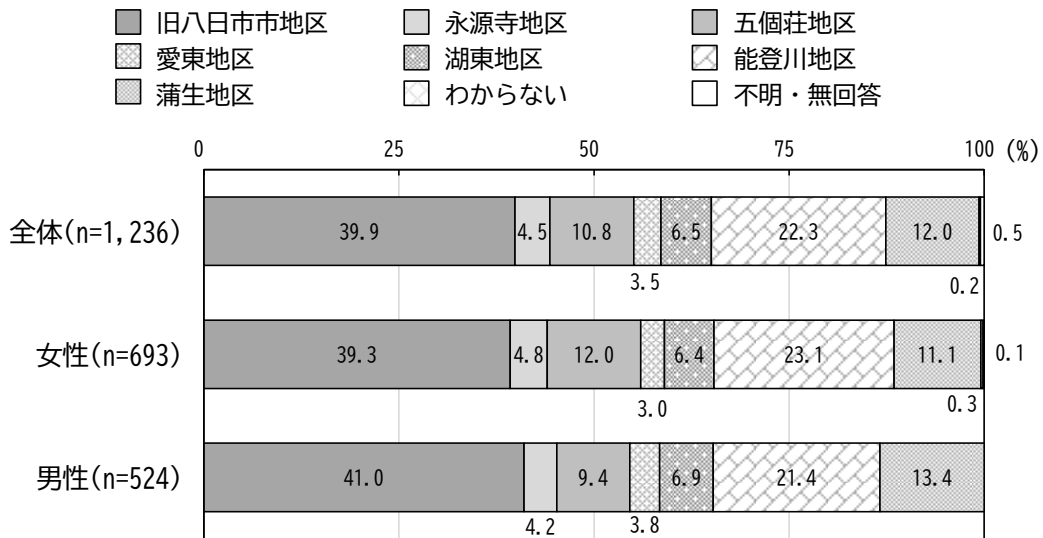
(3) 居住地域

問3 あなたのお住まいの地域はどちらですか。(1つに○)

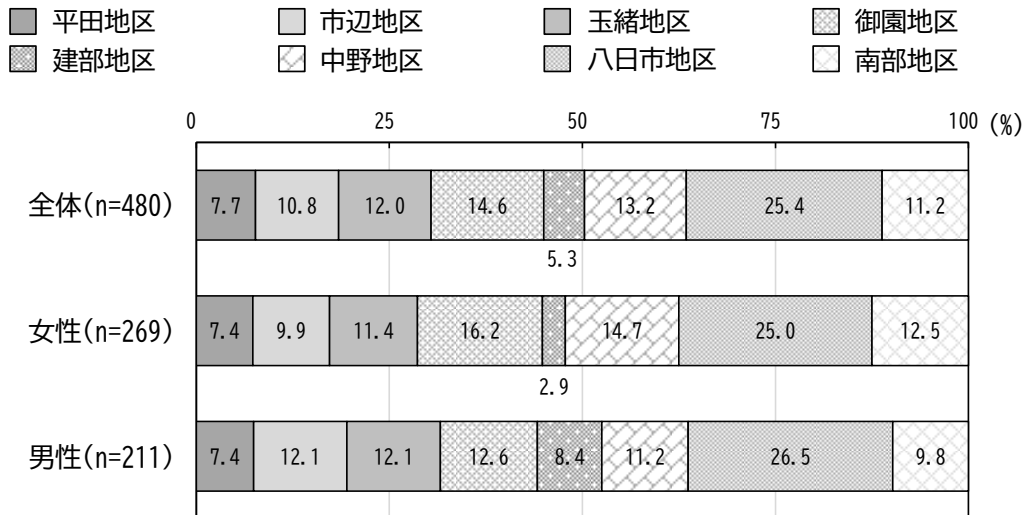
女性では「旧八日市市地区」が 39.3%と最も多く、次いで「能登川地区」が 23.1%、「五個荘地区」が 12.0%などとなっています。

男性では「旧八日市市地区」が 41.0%と最も多く、次いで「能登川地区」が 21.4%、「蒲生地区」が 13.4%などとなっています。

居住地域



(参考) 旧八日市市地区の内訳



(4) 家族構成

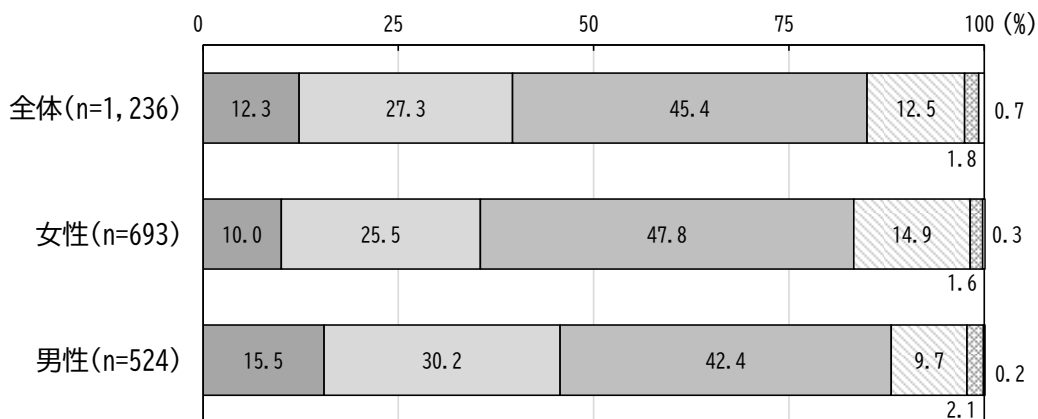
問4 あなたの家族構成はどれにあたりますか。(1つに○)

女性では「親と子」が47.8%と最も多く、次いで「夫婦のみ」が25.5%、「親と子と孫」が14.9%などとなっています。

男性では「親と子」が42.4%と最も多く、次いで「夫婦のみ」が30.2%、「一人暮らし」が15.5%などとなっています。

家族構成

- 一人暮らし(単身世帯)
- 夫婦のみ(1世代世帯)
- 親と子(2世代世帯)
- 親と子と孫(3世代世帯)
- その他
- 不明・無回答



(5) 婚姻状況

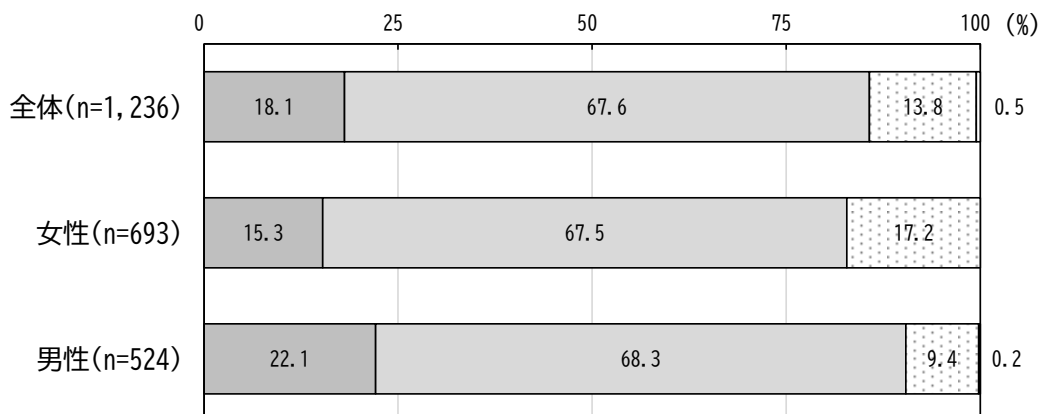
問5 あなたは結婚されていますか。(1つに○)

女性では「既婚」が67.5%と最も多く、次いで「死別・離婚」が17.2%、「未婚」が15.3%となっています。

男性では「既婚」が68.3%と最も多く、次いで「未婚」が22.1%、「死別・離婚」が9.4%となっています。

婚姻状況

- 未婚
- 既婚
- 死別・離婚
- 不明・無回答



※結婚には、事実婚を含みます。

(6) 職業

<配偶者については、問5で「2 既婚」と答えた方がお答えください>

問6 あなたと配偶者の職業はどれにあたりますか。(「あなた」「配偶者」それぞれに1つを選んで番号を記入)

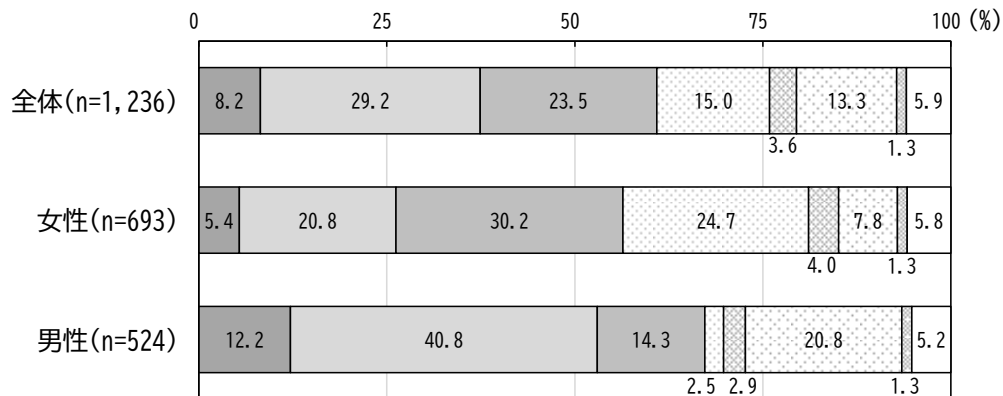
<回答者の職業>

女性では「非正規社員」が30.2%で最も多く、次いで「家事専業」が24.7%、「正社員」が20.8%などとなっています。

男性では「正社員」が40.8%で最も多く、次いで「無職」が20.8%、「非正規社員」が14.3%などとなっています。

回答者の職業

- 自営業及び家族従業員（農林漁業、商工業、サービス業など）
- 非正規社員（パート、アルバイト、契約社員、嘱託などの非正規雇用者）
- 家事専業（主婦、主夫）
- その他
- 正社員（会社、団体、公務員、学校などの正規雇用者）
- 学生
- 無職
- 不明・無回答



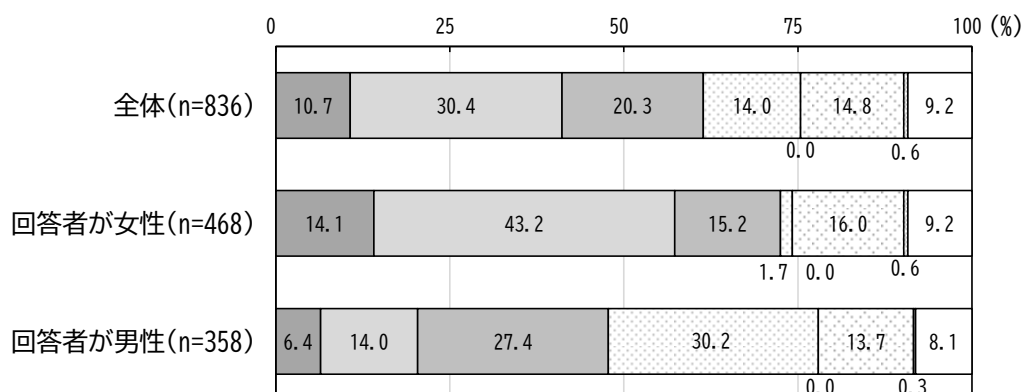
<配偶者の職業>

回答者が女性の場合の配偶者の職業は、「正社員」が43.2%で最も多く、次いで「無職」が16.0%、「非正規社員」が15.2%などとなっています。

回答者が男性の場合の配偶者の職業は「家事専業」が30.2%で最も多く、次いで「非正規社員」が27.4%、「正社員」が14.0%などとなっています。

配偶者の職業

- 自営業及び家族従業員（農林漁業、商工業、サービス業など）
- 非正規社員（パート、アルバイト、契約社員、嘱託などの非正規雇用者）
- 家事専業（主婦、主夫）
- その他
- 正社員（会社、団体、公務員、学校などの正規雇用者）
- 学生
- 無職
- 不明・無回答



2 家庭生活について

(1) 生活における役割分担の現状

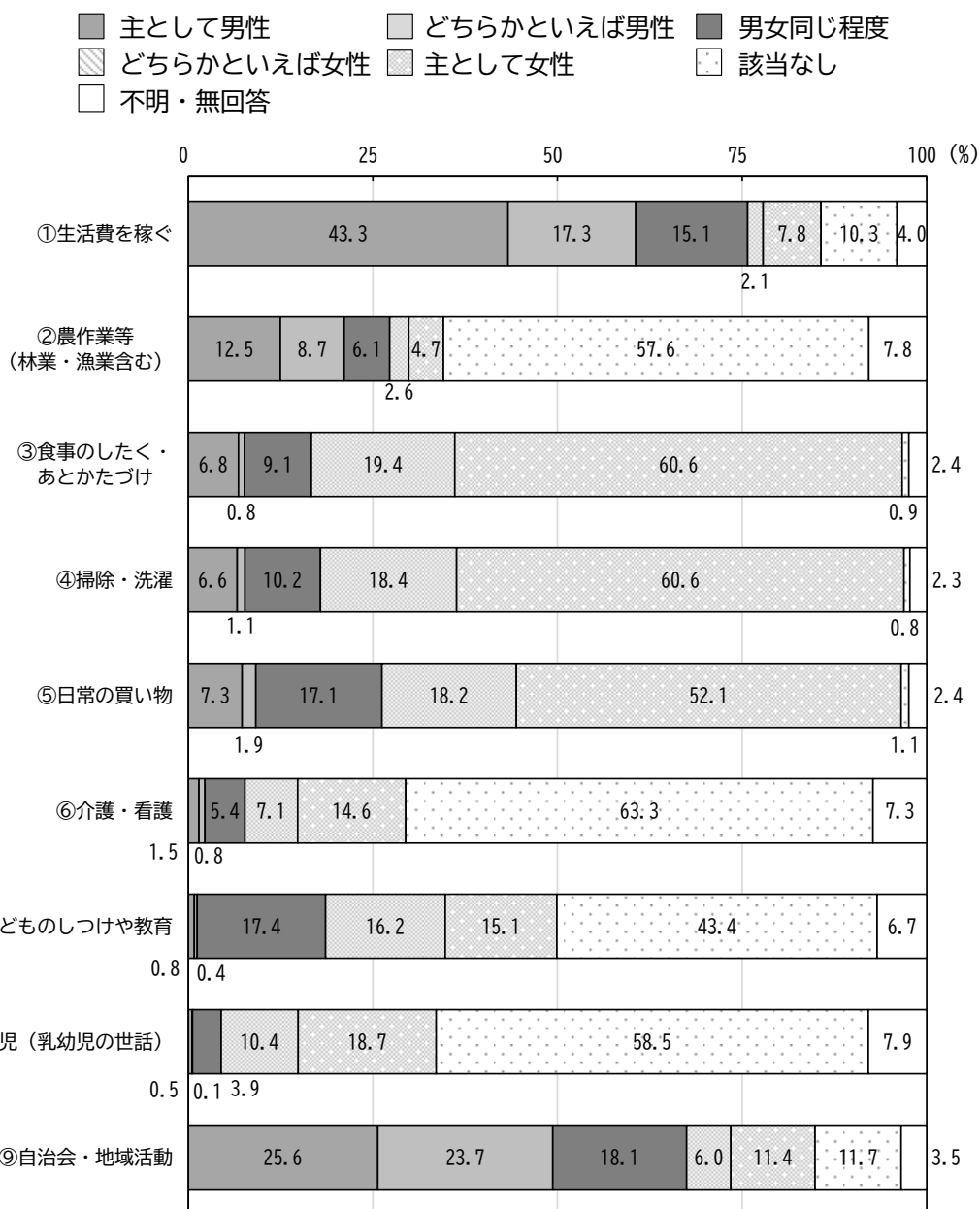
問7 あなたの家庭では、次のようなことを主として男性・女性どちらがされていますか。(①～⑨それぞれ1つに○)

(全体)

「食事のしたく・あとかたづけ」「掃除・洗濯」「日常の買い物」「介護・看護」「育児」は「主として女性」が、「生活費を稼ぐ」「農作業等」「自治会・地域活動」は「主として男性」が、「子どものしつけや教育」は「男女同じ程度」がそれぞれ最も多くなっています。

生活における役割分担の現状

[全体]



※ 「農作業等」「介護・看護」「子どものしつけや教育」「育児」については「該当なし」を除いて扱っています。

① 生活費を稼ぐ

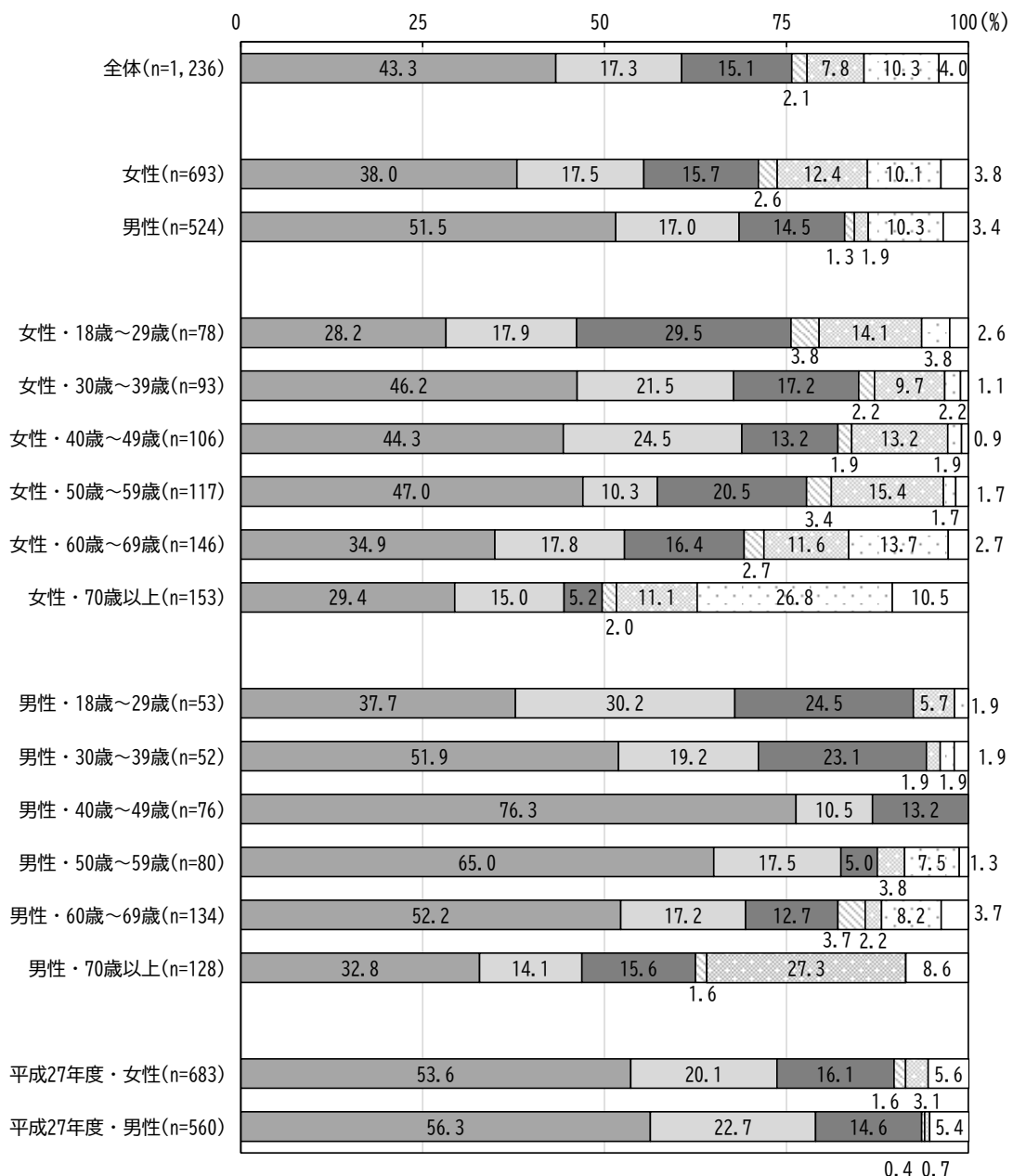
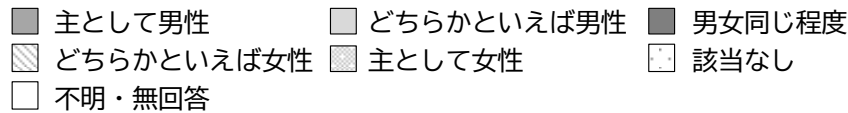
男女ともに「主として男性」が最も多く、女性で38.0%、男性で51.5%となっています。次いで「どちらかといえば男性」が、女性で17.5%、男性で17.0%などとなっています。

性別で比較すると、女性では「主として女性」が多く、男性では「主として男性」が多くなっています。

前回調査と比較すると、女性では「主として男性」が少なくなっています。

生活における役割分担の現状

①生活費を稼ぐ



※ 「どちらかといえば男性」「どちらかといえば女性」について、滋賀県調査では「主に夫（男性）だが、妻（女性）も分担」「主に妻（女性）だが、夫（男性）も分担」となっています。（以降、同様）

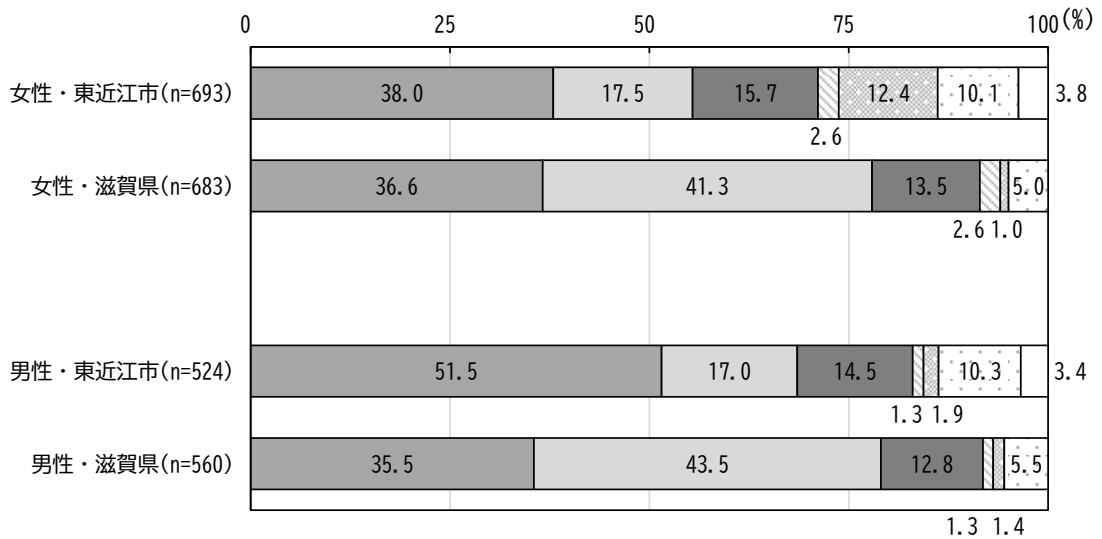
〔県との比較〕

県と比較すると、女性では「主として女性」が多く、「どちらかといえば男性」が少なくなっています。男性では「主として男性」が多く、「どちらかといえば男性」が少なくなっています。

生活における役割分担の現状

①生活費を稼ぐ

- 主として男性 □ どちらかといえば男性 ■ 男女同じ程度
- ▨ どちらかといえば女性 ▨ 主として女性 □ 該当なし
- 不明・無回答



※ 県調査の回答数には、この設問での「不明・無回答」が含まれていません。

② 農作業等（林業・漁業含む）

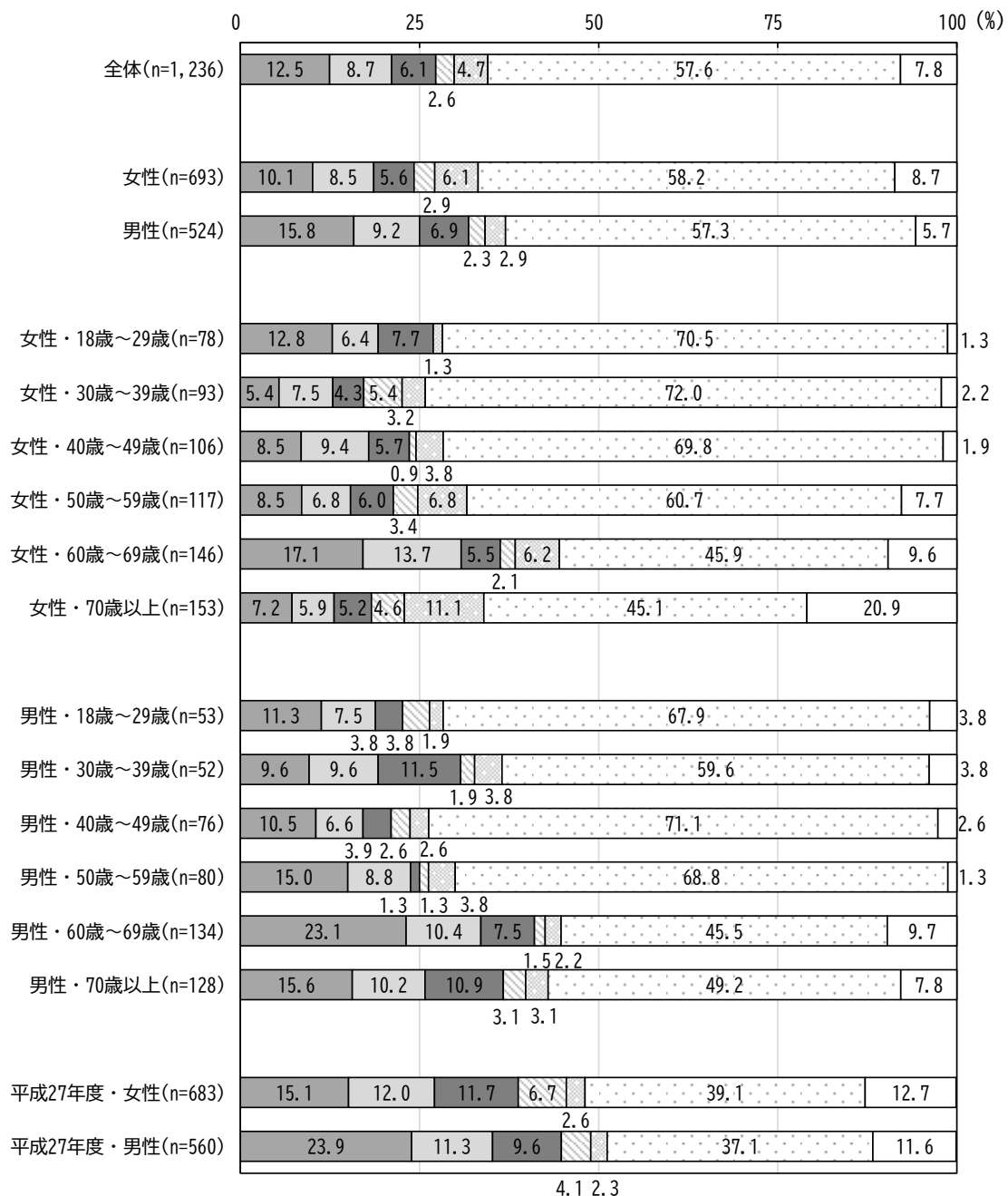
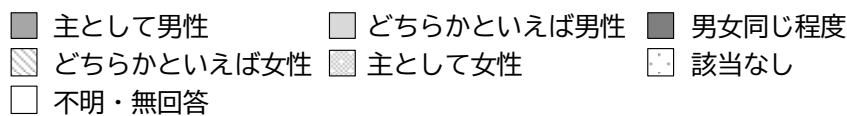
男女ともに「該当なし」が最も多く、女性で58.2%、男性で57.3%となっています。

「該当なし」を除くと、男女ともに「主として男性」が最も多く、女性で10.1%、男性で15.8%となっています。次いで「どちらかといえば男性」が女性で8.5%、男性で9.2%となっています。

前回調査と比較すると、女性では「主として男性」「男女同じ程度」「どちらかといえば女性」が少なく、「主として女性」が多くなっています。

生活における役割分担の現状

②農作業等（林業・漁業含む）



③ 食事のしたく・あとかたづけ

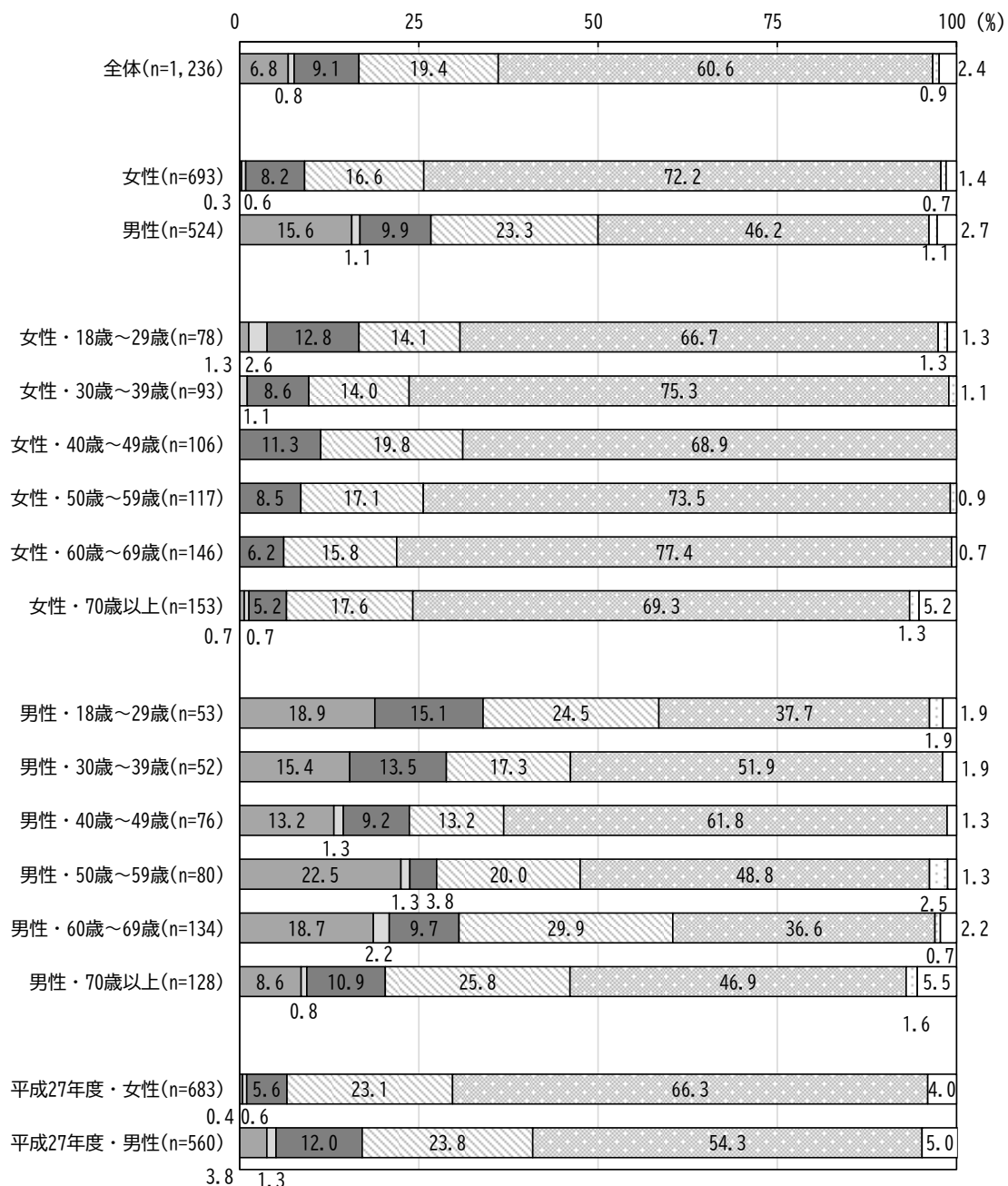
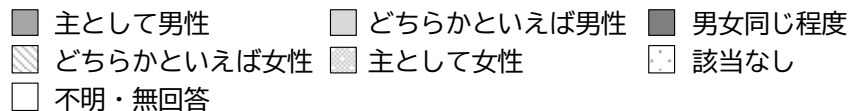
男女ともに「主として女性」が最も多く、女性で 72.2%、男性で 46.2%となっています。次いで「どちらかといえば女性」が、女性で 16.6%、男性で 23.3%などとなっています。

性別で比較すると、女性では「主として女性」が多く、男性では「主として男性」が多くなっています。

前回調査と比較すると、女性では「主として女性」が多く、男性では「主として男性」が多くなっています。

生活における役割分担の現状

③食事のしたく・あとかたづけ



④ 掃除・洗濯

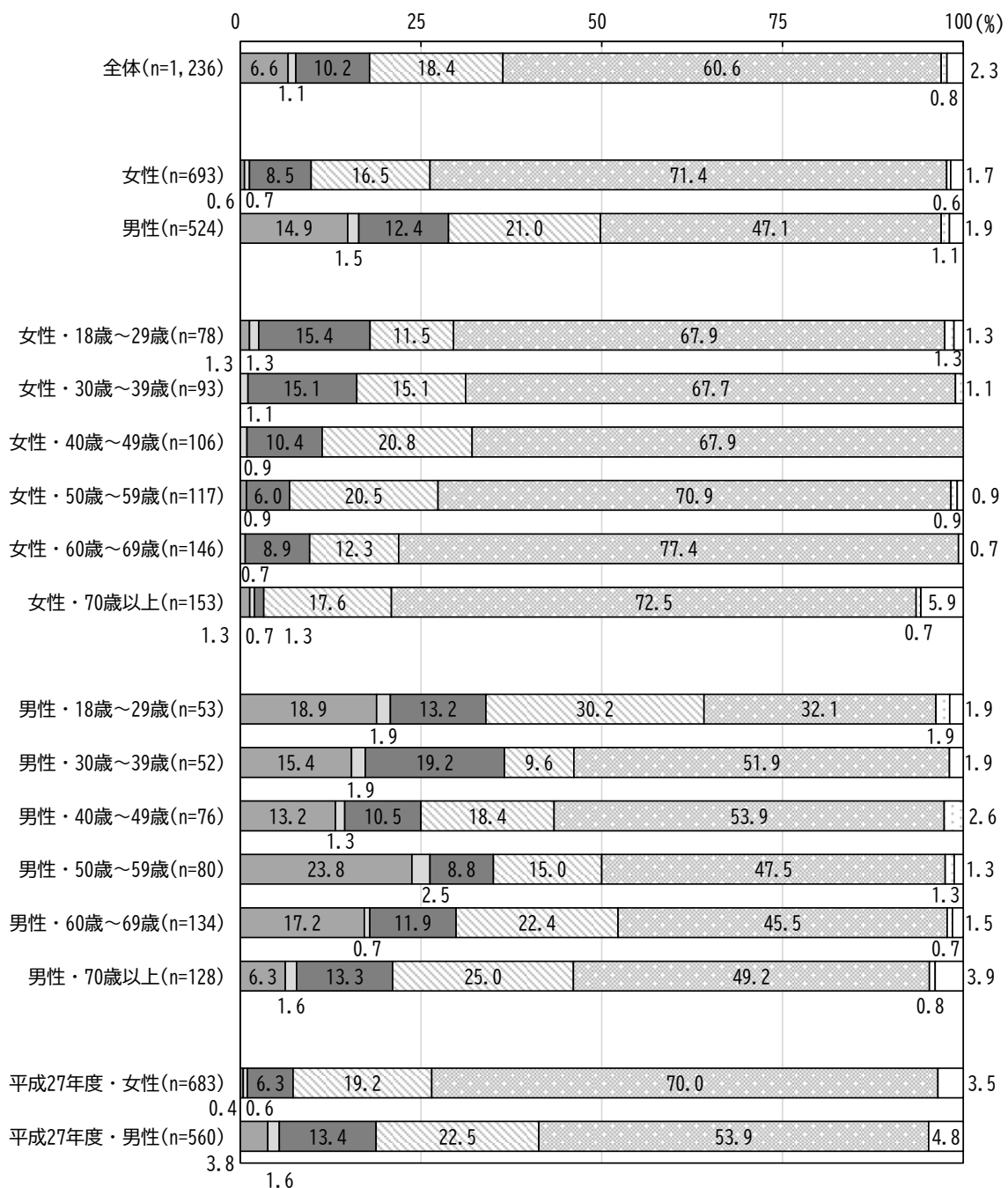
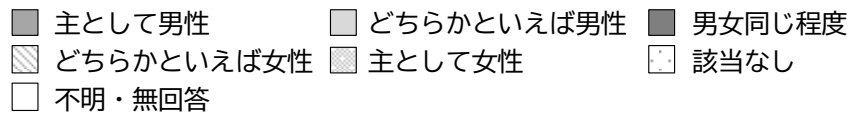
男女ともに「主として女性」が最も多く、女性で71.4%、男性で47.1%となっています。次いで「どちらかといえば女性」が、女性で16.5%、男性で21.0%などとなっています。

性別で比較すると、女性では「主として女性」が多く、男性では「主として男性」が多くなっています。

前回調査と比較すると、女性では「男女同じ程度」が多く、「どちらかといえば女性」が少なくなっています。男性では「主として男性」が多く、「主として女性」が少なくなっています。

生活における役割分担の現状

④掃除・洗濯



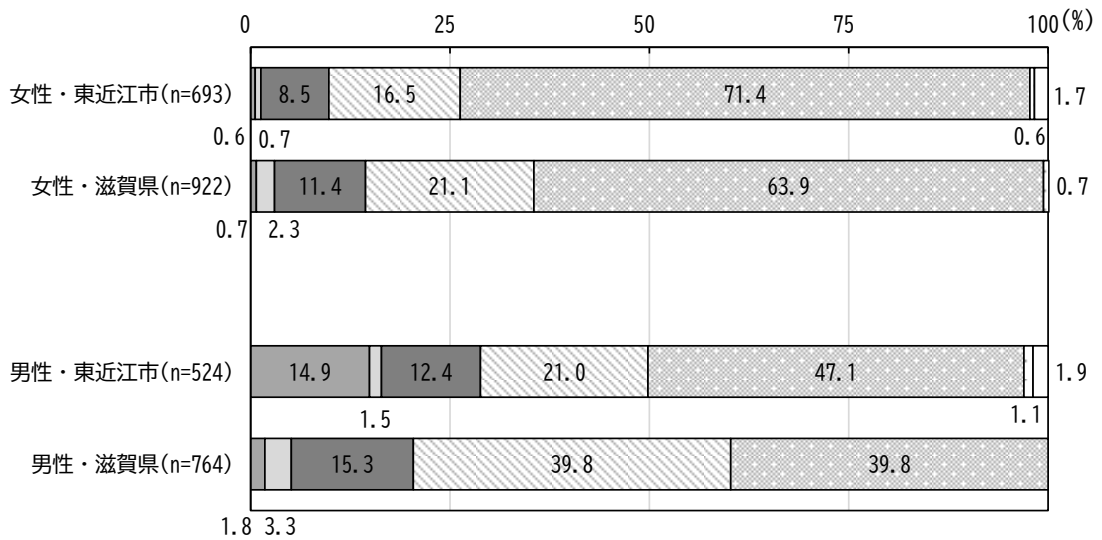
〔県との比較〕

県と比較すると、男女ともに「主として女性」が多くなっています。また、男性では「主として男性」も多くなっています。

生活における役割分担の現状

④掃除・洗濯

- 主として男性 □ どちらかといえば男性 ■ 男女同じ程度
- ▨ どちらかといえば女性 ▨ 主として女性 □ 該当なし
- 不明・無回答



※ 県調査の回答数には、この設問での「不明・無回答」が含まれていません。

⑤ 日常の買い物

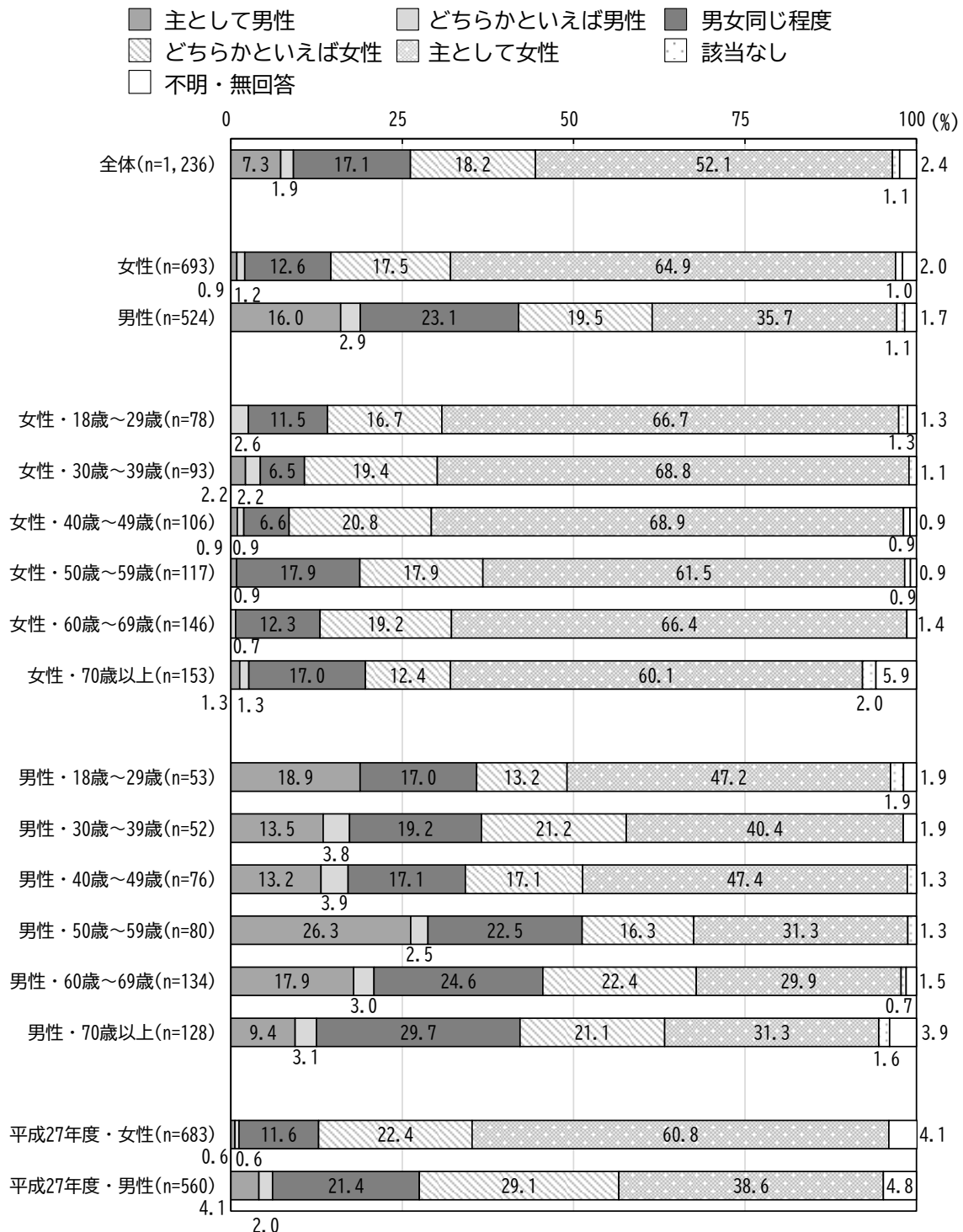
男女ともに「主として女性」が最も多く、女性が64.9%、男性が35.7%となっています。次いで女性では「どちらかといえば女性」が17.5%、男性では「男女同じ程度」が23.1%などとなっています。

性別で比較すると、女性では「主として女性」が多く、男性では「主として男性」が多くなっています。

前回調査と比較すると、女性では「主として女性」が多くなっています。男性では「主として男性」が多く、「どちらかといえば女性」が少なくなっています。

生活における役割分担の現状

⑤日常の買い物



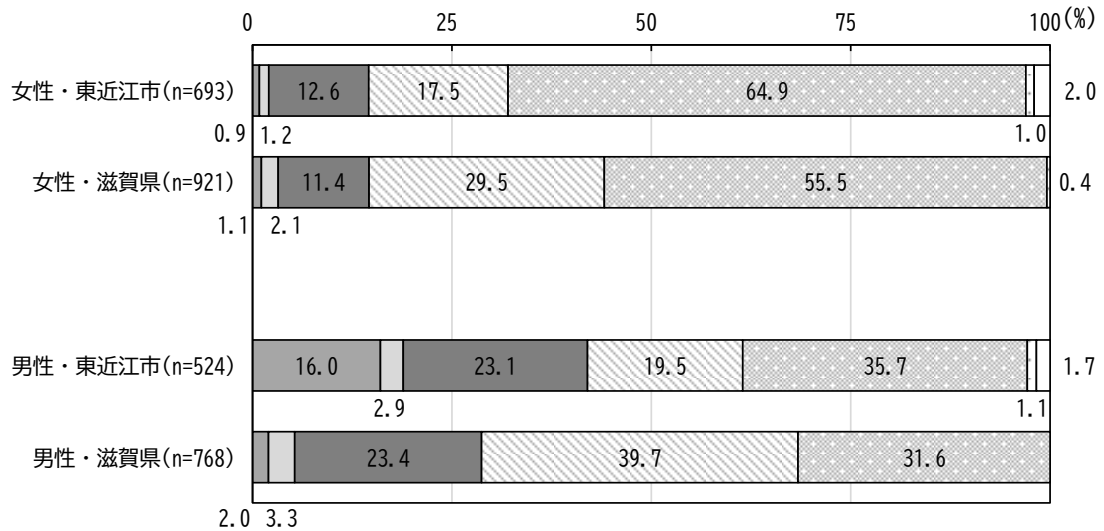
〔県との比較〕

県と比較すると、女性では「主として女性」が多く、男性では「主として男性」が多くなっています。

生活における役割分担の現状

⑤日常の買い物

- 主として男性 □ どちらかといえば男性 ■ 男女同じ程度
- ▨ どちらかといえば女性 ■ 主として女性 □ 該当なし
- 不明・無回答



※ 県調査の回答数には、この設問での「不明・無回答」が含まれていません。

⑥ 介護・看護

男女ともに「該当なし」が最も多く、女性で 58.4%、男性で 70.2%となっています。

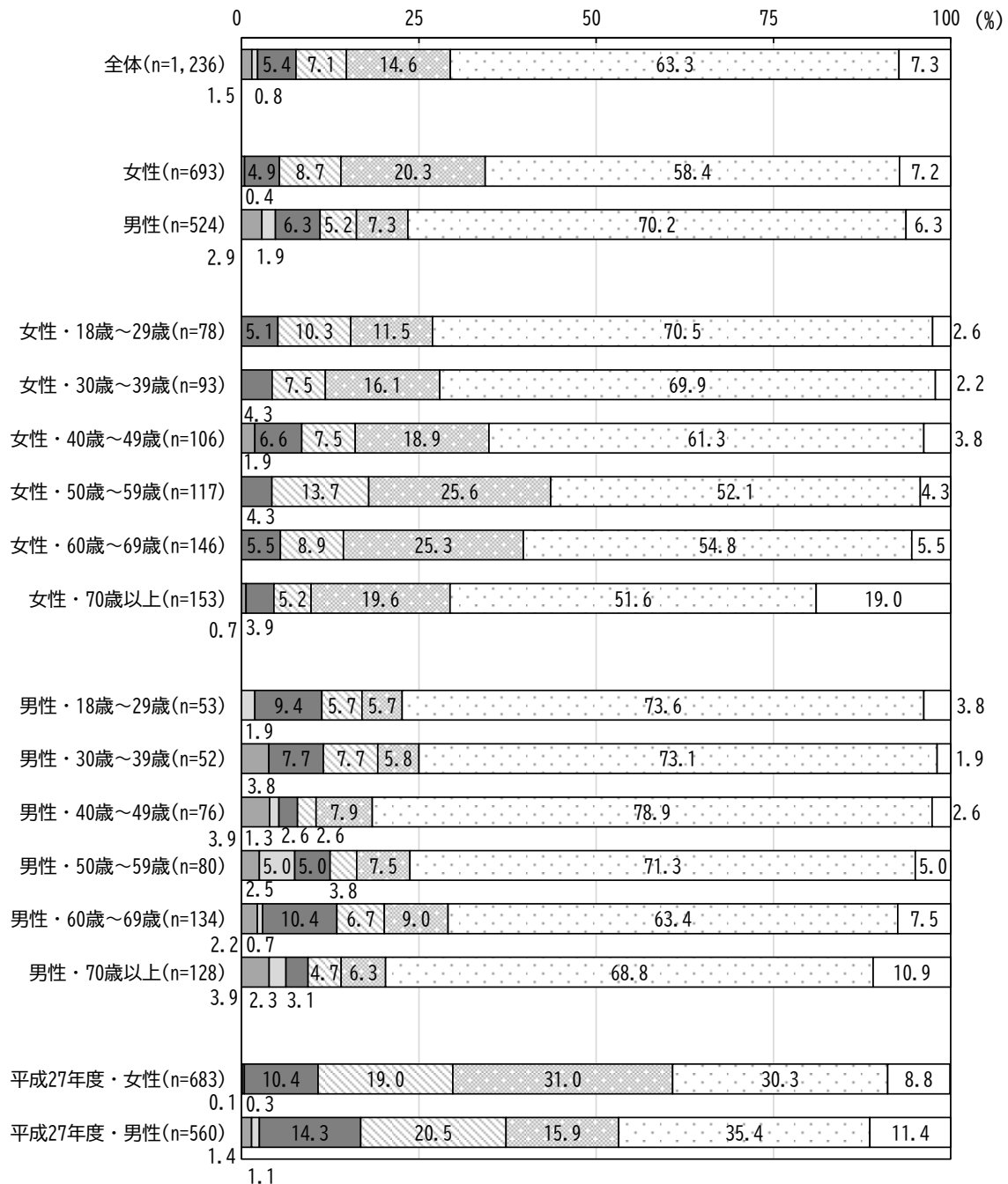
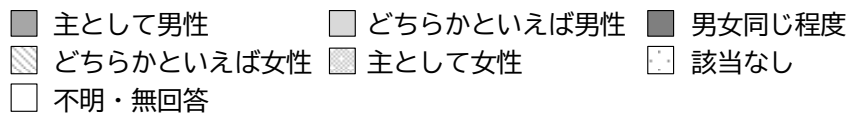
「該当なし」を除くと、男女ともに「主として女性」が最も多く、女性が 20.3%、男性が 7.3%となっています。次いで女性では「どちらかといえば女性」が 8.7%、男性では「男女同じ程度」が 6.3%などとなっています。

性別で比較すると、女性では「主として女性」が多く、男性では「どちらかといえば男性」が多くなっています。

前回調査と比較すると、男女ともに「男女同じ程度」「どちらかといえば女性」「主として女性」が少なくなっています。

生活における役割分担の現状

⑥介護・看護



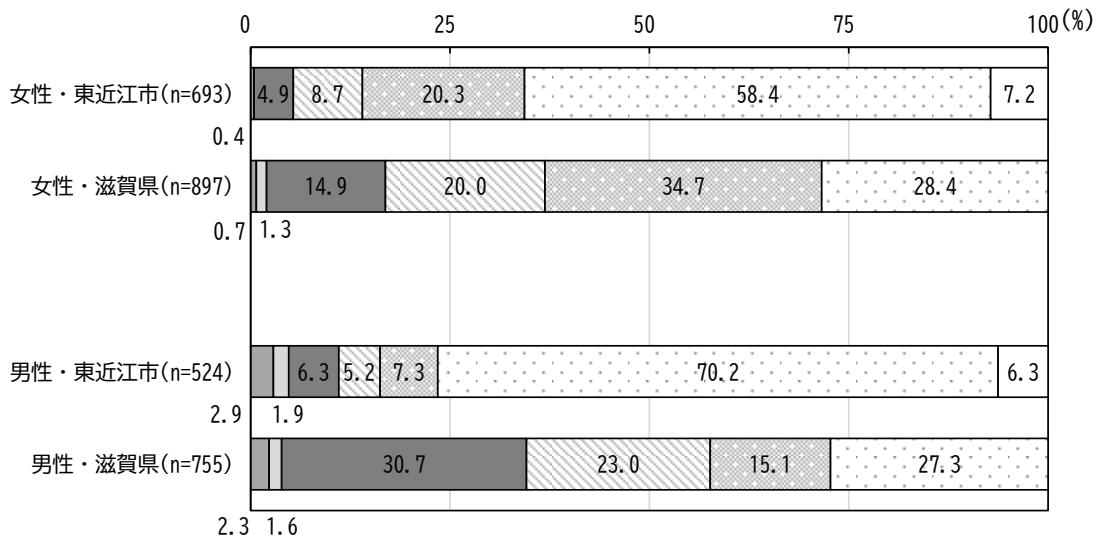
〔県との比較〕

県と比較すると、「該当なし」が多いことを考慮する必要がありますが、男女ともに「男女同じ程度」「どちらかといえば女性」「主として女性」が少なくなっています。

生活における役割分担の現状

⑥介護・看護

- 主として男性 □ どちらかといえば男性 ■ 男女同じ程度
- ▨ どちらかといえば女性 ▨ 主として女性 □ 該当なし
- 不明・無回答



※ 県調査の回答数には、この設問での「不明・無回答」が含まれていません。

⑦ 子どものしつけや教育

男女ともに「該当なし」が最も多く、女性で36.8%、男性で52.5%となっています。

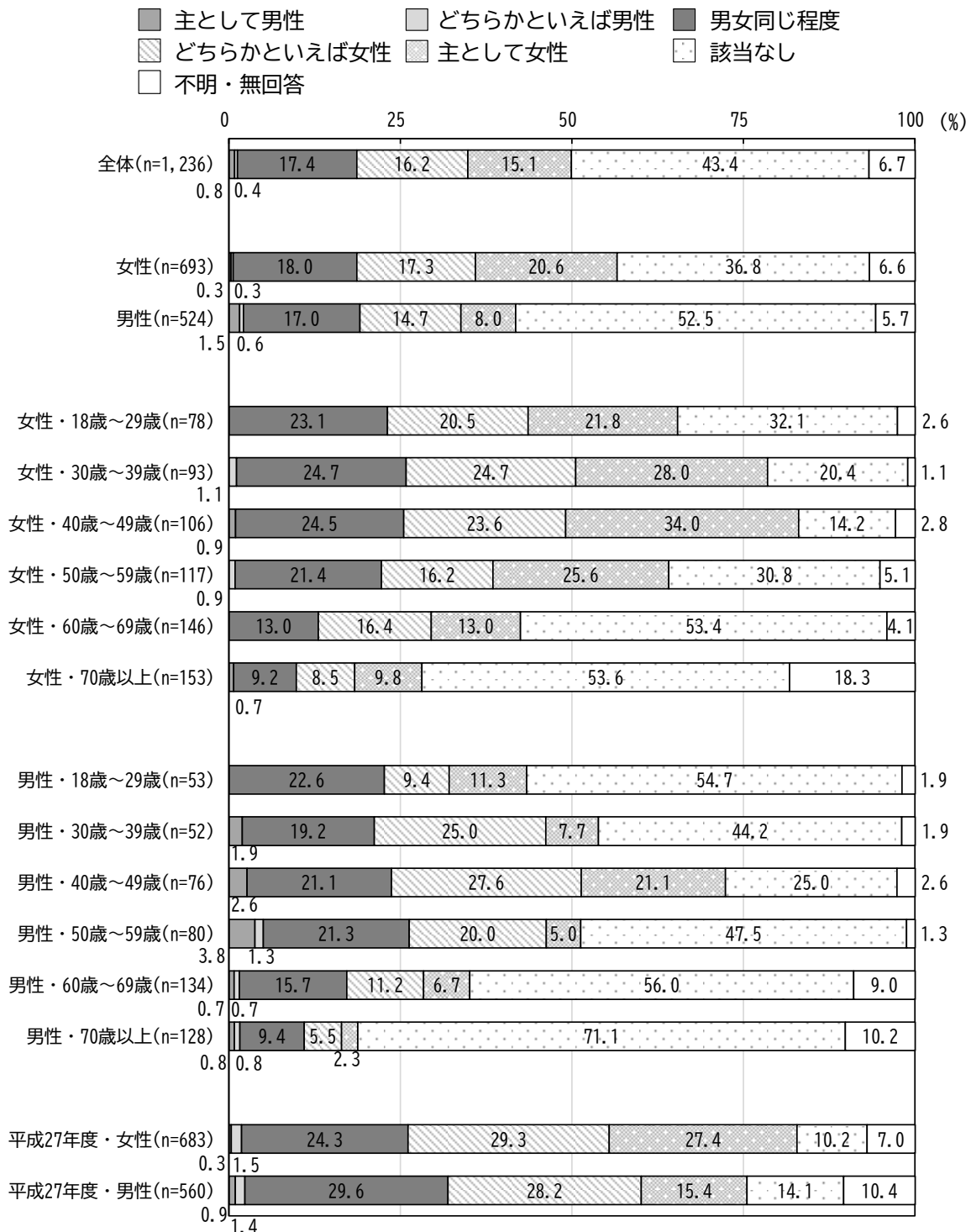
「該当なし」を除くと、女性では「主として女性」が20.6%と最も多く、次いで「男女同じ程度」が18.0%などとなっています。男性では「男女同じ程度」が17.0%と最も多く、次いで「どちらかといえば女性」が14.7%などとなっています。

性別で比較すると、女性では「主として女性」が多く、男性では「主として男性」が多くなっています。

前回調査と比較すると、女性では「男女同じ程度」「どちらかといえば女性」「主として女性」が少なくなっています。

生活における役割分担の現状

⑦子どものしつけや教育



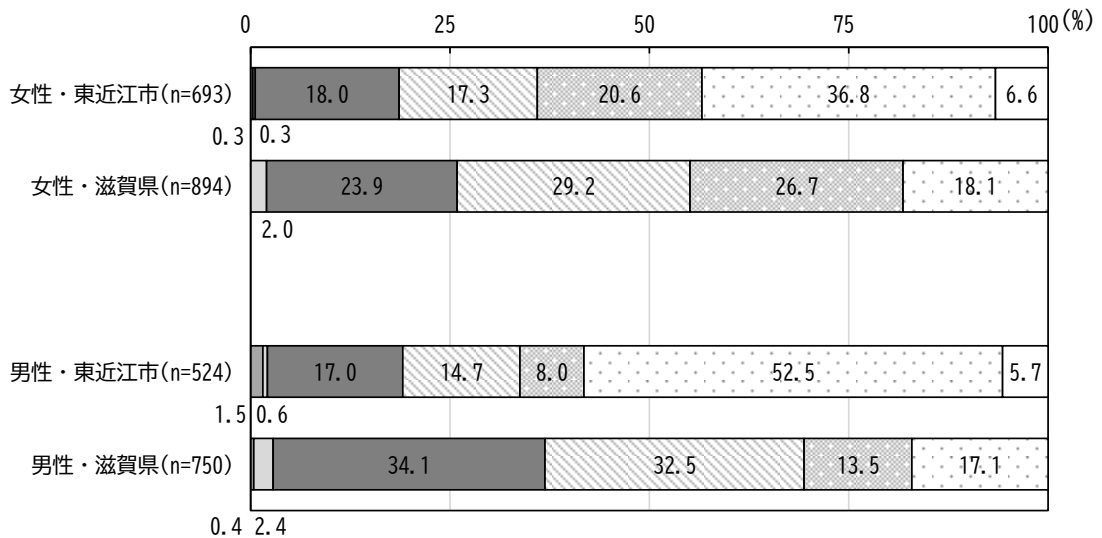
〔県との比較〕

県と比較すると、「該当なし」が多いことを考慮する必要がありますが、男女ともに「男女同じ程度」「どちらかといえば女性」「主として女性」が少なくなっています。

生活における役割分担の現状

⑦子どものしつけや教育

- 主として男性 □ どちらかといえば男性 ■ 男女同じ程度
- ▨ どちらかといえば女性 ▨ 主として女性 □ 該当なし
- 不明・無回答



※ 県調査の回答数には、この設問での「不明・無回答」が含まれていません。

⑧ 育児（乳幼児の世話）

男女ともに「該当なし」が最も多く、女性で52.5%、男性で67.2%となっています。

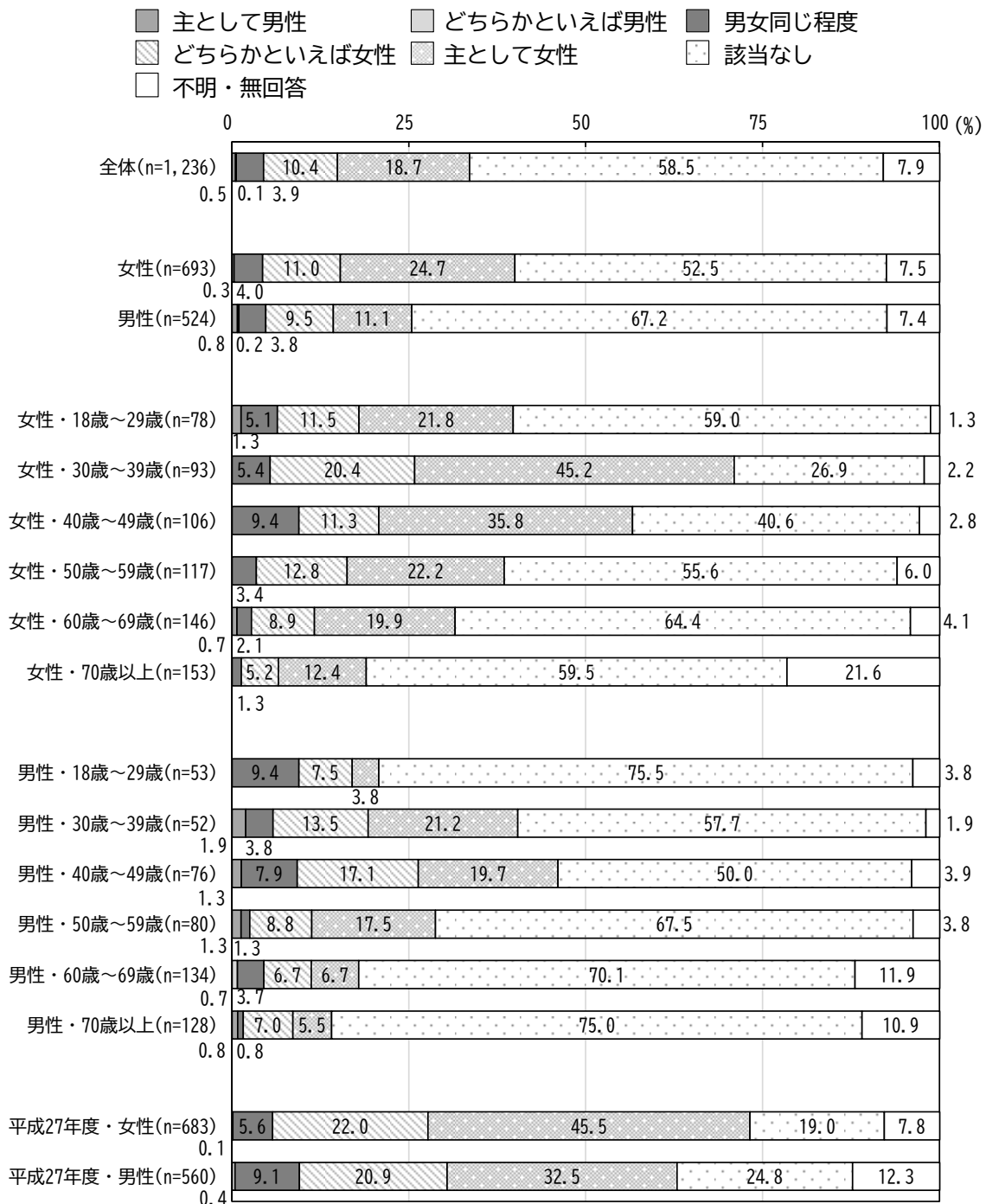
「該当なし」を除くと、男女ともに「主として女性」が最も多く、女性で24.7%、男性で11.1%となっています。次いで「どちらかといえば女性」が、女性で11.0%、男性で9.5%などとなっています。

性別で比較すると、女性では「主として女性」が多くなっています。

前回調査と比較すると、女性では「どちらかといえば女性」「主として女性」が少なくなっています。

生活における役割分担の現状

⑧育児（乳幼児の世話）



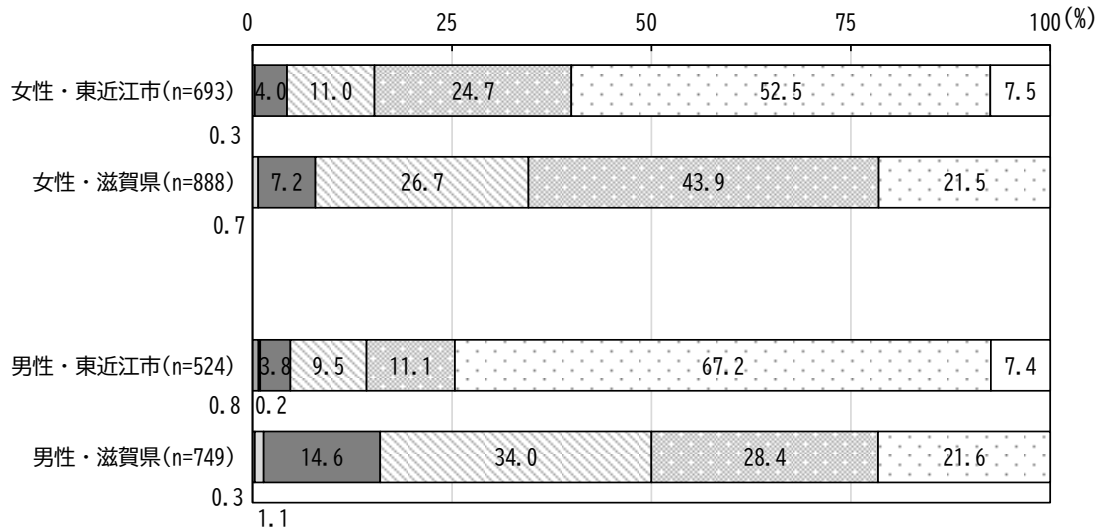
〔県との比較〕

県と比較すると、「該当なし」が多いことを考慮する必要がありますが、男女ともに「男女同じ程度」「どちらかといえば女性」「主として女性」が少なくなっています。

生活における役割分担の現状

⑧育児（乳幼児の世話）

- 主として男性 □ どちらかといえば男性 ■ 男女同じ程度
- ▨ どちらかといえば女性 ▨ 主として女性 □ 該当なし
- 不明・無回答



※ 県調査の回答数には、この設問での「不明・無回答」が含まれていません。

⑨ 自治会・地域活動

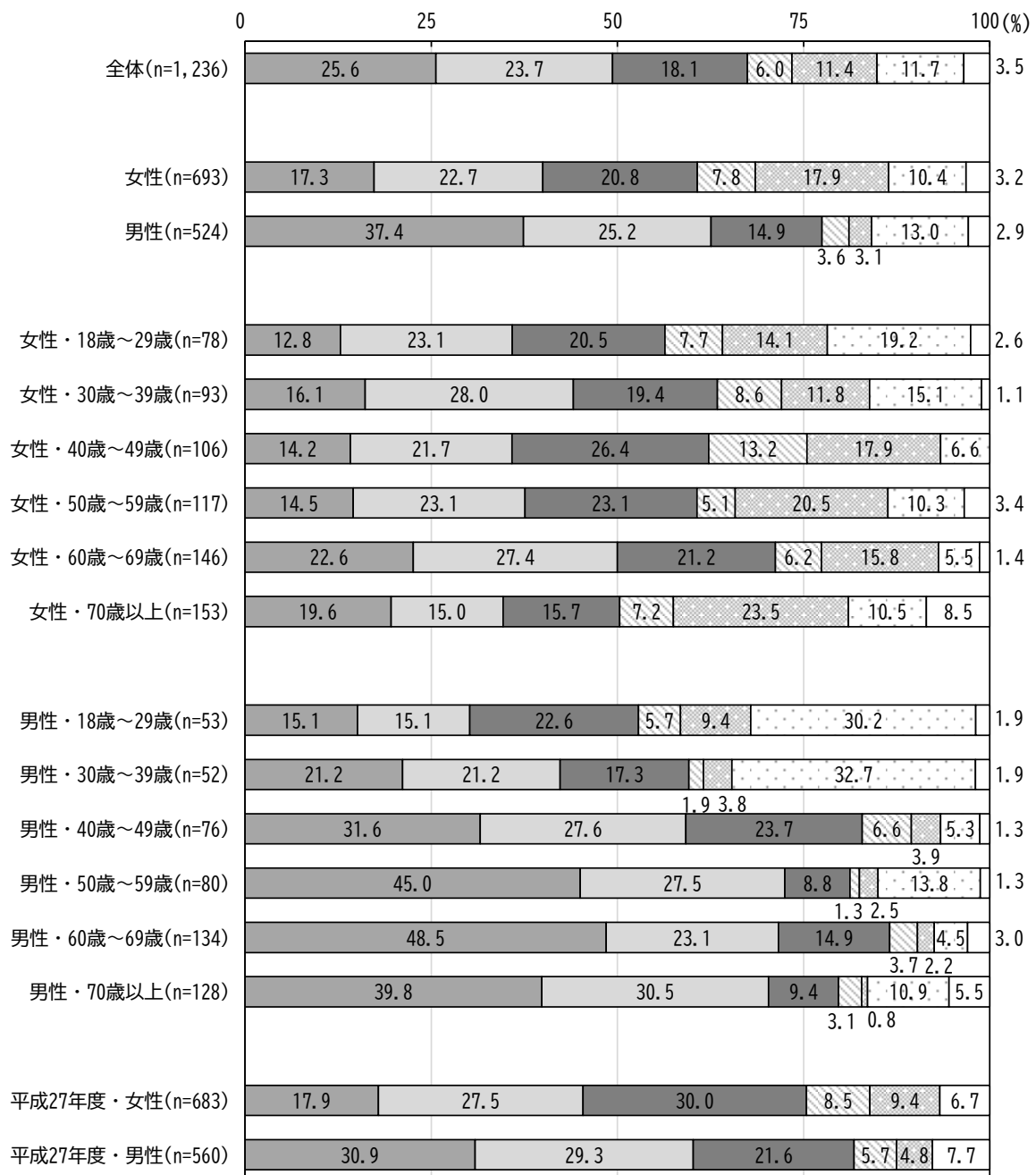
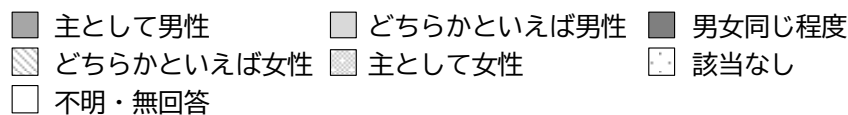
女性では「どちらかといえば男性」が22.7%で最も多く、次いで「男女同じ程度」が20.8%などとなっています。男性では「主として男性」が37.4%で最も多く、次いで「どちらかといえば男性」が25.2%などとなっています。

性別で比較すると、女性では「主として女性」が多く、男性では「主として男性」が多くなっています。

前回調査と比較すると、女性では「主として女性」が多く、「男女同じ程度」が少なくなっています。男性では「主として男性」が多く、「男女同じ程度」が少なくなっています。

生活における役割分担の現状

⑨自治会・地域活動



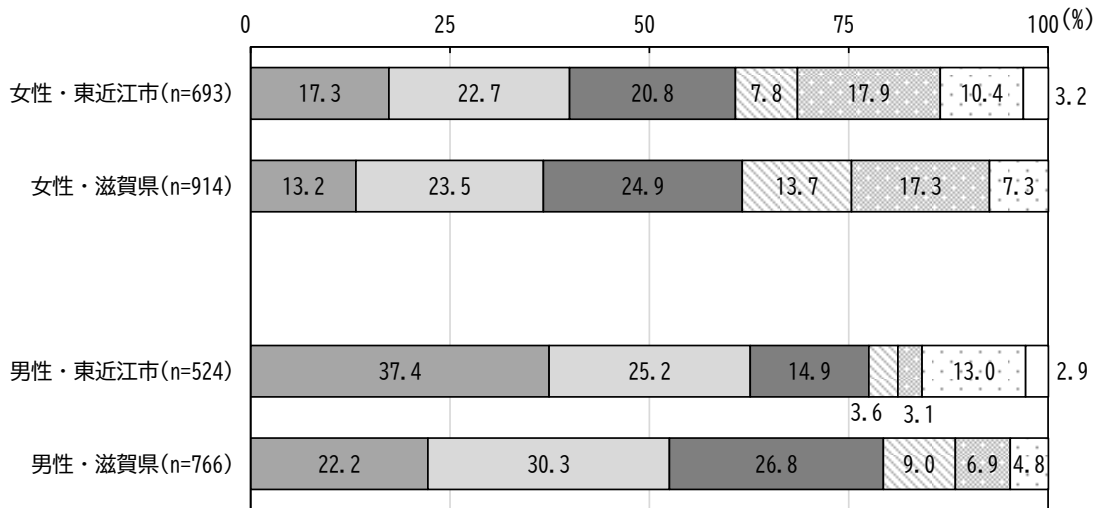
〔県との比較〕

県と比較すると、男女ともに「主として男性」が多く、「男女同じ程度」「どちらかといえば女性」が少なくなっています。

生活における役割分担の現状

⑨自治会・地域活動

- 主として男性 □ どちらかといえば男性 ■ 男女同じ程度
- ▨ どちらかといえば女性 ▨ 主として女性 □ 該当なし
- 不明・無回答



※ 県調査の回答数には、この設問での「不明・無回答」が含まれていません。

(2) 男性が家庭生活に積極的に参加していくために必要なこと

問8 あなたは、男性が女性とともに家事・育児・介護など家庭生活により積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

男女ともに「夫婦や家族間でのコミュニケーションをはかること」が最も多く、女性で69.6%、男性で64.9%となっています。次いで、「男性も育児や介護の休業を取得しやすい環境にすること」が、女性で60.2%、男性で48.9%などとなっています。

性別で比較すると、女性で「育児や介護を行っていくうえでの仲間がいること」「男性が家事などを行うことへの、男性自身の抵抗感をなくすこと」などが多くなっています。

前回調査と比較すると、女性では「夫婦や家族間でのコミュニケーションをはかること」「育児や介護を行っていくうえでの仲間がいること」が多くなっています。男性では「夫婦や家族間でのコミュニケーションをはかること」が多くなっています。

男性が家庭生活に積極的に参加していくために必要なこと（複数回答）

	男性が家事などを行うことへの、男性自身の抵抗感をなくすこと	男性が家事などを行うことへの、女性自身の抵抗感をなくすこと	夫婦や家族間でのコミュニケーションをはかること	まわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること	社会の中で、男性による家事、育児、介護などについての評価を高めること
全体(n=1,236)	52.4	19.7	67.7	30.3	40.6
女性(n=693)	58.1	22.3	69.6	34.5	45.3
男性(n=524)	44.2	16.2	64.9	24.6	33.9
女性・18歳～29歳(n=78)	47.4	9.0	67.9	26.9	35.9
女性・30歳～39歳(n=93)	51.1	14.1	67.4	31.5	47.8
女性・40歳～49歳(n=106)	61.0	23.8	65.7	37.1	44.8
女性・50歳～59歳(n=117)	59.5	22.4	66.4	33.6	50.0
女性・60歳～69歳(n=146)	66.9	26.1	69.0	28.9	46.5
女性・70歳以上(n=153)	56.6	29.7	77.9	44.8	44.1
男性・18歳～29歳(n=53)	39.2	11.8	68.6	27.5	41.2
男性・30歳～39歳(n=52)	27.5	13.7	60.8	31.4	33.3
男性・40歳～49歳(n=76)	30.3	15.8	57.9	19.7	44.7
男性・50歳～59歳(n=80)	45.6	15.2	58.2	24.1	36.7
男性・60歳～69歳(n=134)	51.9	16.5	69.9	25.6	33.8
男性・70歳以上(n=128)	53.3	19.7	68.9	23.0	23.0
平成27年度・女性(n=683)	54.3	19.0	57.5	32.8	48.0
平成27年度・男性(n=560)	46.1	13.6	55.4	24.3	37.3

	労働時間の短縮や休暇制度を普及させることで、仕事以外の時間を持てるようにすること	男性も育児や介護の休業を取得しやすい環境にすること	育児や介護を行っていくうえでの仲間がいること	その他	特に必要なことはない
全体(n=1,236)	43.5	55.4	28.2	5.5	3.5
女性(n=693)	44.8	60.2	34.4	5.8	1.6
男性(n=524)	41.3	48.9	19.5	5.1	5.8
女性・18歳～29歳(n=78)	51.3	66.7	25.6	3.8	0.0
女性・30歳～39歳(n=93)	62.0	63.0	28.3	7.6	1.1
女性・40歳～49歳(n=106)	44.8	59.0	34.3	9.5	2.9
女性・50歳～59歳(n=117)	37.1	56.0	37.1	6.0	2.6
女性・60歳～69歳(n=146)	40.1	62.0	38.7	5.6	0.7
女性・70歳以上(n=153)	41.4	57.2	36.6	2.8	2.1
男性・18歳～29歳(n=53)	51.0	62.7	19.6	5.9	2.0
男性・30歳～39歳(n=52)	49.0	54.9	25.5	7.8	3.9
男性・40歳～49歳(n=76)	44.7	48.7	17.1	13.2	7.9
男性・50歳～59歳(n=80)	46.8	59.5	20.3	0.0	5.1
男性・60歳～69歳(n=134)	38.3	45.9	21.1	3.0	3.8
男性・70歳以上(n=128)	32.0	37.7	15.6	4.1	6.4
平成27年度・女性(n=683)	42.6	-	22.1	2.2	2.6
平成27年度・男性(n=560)	40.4	-	21.1	1.4	6.4

3 地域活動について

(1) 地域行事等における男女不平等の内容

問9 あなたが住んでいる地域の行事等に、男女の不平等はありますか。(あてはまるものすべてに○)

男女ともに「男女の不平等はない」が最も多く、女性で56.4%、男性で52.6%となっています。次いで「役員選挙や運営に女性が参加しにくく、また選ばれにくい」が女性で20.8%、男性で34.4%などとなっています。

性別で比較すると、女性では「会議などで女性が意見を言いにくかったり、意見が取り上げられにくかったりする」が多く、男性では「役員選挙や運営に女性が参加しにくく、また選ばれにくい」が多くなっています。

地域行事等における男女不平等の内容（複数回答）

	役員選挙や運営に女性が参加しにくく、また選ばれにくい	地域の行事で女性が参加できなかったり、男女の差があったりする	会議などで女性が意見を言いにくかったり、意見が取り上げられにくかったりする	その他	男女の不平等はない
全体(n=1,236)	26.9	12.7	13.0	11.3	54.6
女性(n=693)	20.8	14.2	14.5	12.6	56.4
男性(n=524)	34.4	11.1	10.7	9.7	52.6
女性・18歳～29歳(n=78)	12.7	7.0	7.0	14.1	63.4
女性・30歳～39歳(n=93)	8.6	18.5	12.3	27.2	51.9
女性・40歳～49歳(n=106)	13.0	13.0	12.0	16.0	61.0
女性・50歳～59歳(n=117)	22.4	8.4	13.1	9.3	57.9
女性・60歳～69歳(n=146)	28.6	20.3	20.3	9.8	49.6
女性・70歳以上(n=153)	29.1	14.9	17.2	6.0	57.5
男性・18歳～29歳(n=53)	4.1	4.1	2.0	10.2	81.6
男性・30歳～39歳(n=52)	17.4	8.7	6.5	4.3	69.6
男性・40歳～49歳(n=76)	28.4	6.8	13.5	6.8	59.5
男性・50歳～59歳(n=80)	30.4	15.2	10.1	16.5	41.8
男性・60歳～69歳(n=134)	48.5	15.2	13.6	11.4	40.2
男性・70歳以上(n=128)	44.0	10.4	11.2	7.2	50.4
旧八日市市地区 (n=486)	21.1	10.5	8.1	12.8	51.9
永源寺地区 (n=55)	40.0	18.2	21.8	3.6	41.8
五個荘地区 (n=133)	25.6	14.3	11.3	9.0	48.9
愛東地区 (n=43)	51.2	7.0	11.6	4.7	34.9
湖東地区 (n=80)	40.0	8.8	12.5	7.5	45.0
能登川地区 (n=275)	23.2	12.7	16.7	11.6	51.8
蒲生地区 (n=145)	20.3	12.8	13.5	8.8	57.4
平成27年度・女性(n=683)	21.2	12.0	16.0	7.5	42.6
平成27年度・男性(n=560)	35.2	9.6	15.0	6.1	45.0

(2) 男性と女性がともに地域活動に積極的に参加するために必要なこと

問 10 男性と女性がともに地域活動に積極的に参加するためには、あなたは、どのようなことが必要だと思いますか。(3つまでに○)

男女ともに「地域の中に仲間がいること」が最も多く、女性で 47.3%、男性で 38.5%となっています。次いで「配偶者や家族の協力」が、女性で 38.7%、男性で 36.5%、「参加のきっかけとなる地域活動情報の提供」が、女性で 25.7%、男性で 29.2%などとなっています。

男性と女性がともに地域行事に積極的に参加するために必要なこと（3つ以内で複数回答）

(%)

	参加のきっかけとなる地域活動情報の提供	地域活動の場での男女共の性別役割分担意識の解消	配偶者や家族の協力	労働時間の短縮や休暇制度を普及させることで、仕事以外の時間を持てるようにすること	団体等に対する補助金等の行政の支援
全体(n=1,236)	26.9	24.5	38.0	22.6	12.3
女性(n=693)	25.7	22.2	38.7	23.1	11.7
男性(n=524)	29.2	27.7	36.5	21.4	13.2
女性・18歳～29歳(n=78)	24.4	23.1	32.1	28.2	15.4
女性・30歳～39歳(n=93)	22.6	24.7	39.8	32.3	8.6
女性・40歳～49歳(n=106)	23.6	21.7	34.9	28.3	10.4
女性・50歳～59歳(n=117)	22.2	20.5	35.0	20.5	9.4
女性・60歳～69歳(n=146)	32.2	26.0	35.6	18.5	14.4
女性・70歳以上(n=153)	26.1	18.3	49.7	17.6	11.8
男性・18歳～29歳(n=53)	32.1	18.9	17.0	22.6	13.2
男性・30歳～39歳(n=52)	19.2	23.1	30.8	30.8	17.3
男性・40歳～49歳(n=76)	19.7	27.6	28.9	31.6	6.6
男性・50歳～59歳(n=80)	28.8	26.3	40.0	27.5	5.0
男性・60歳～69歳(n=134)	34.3	32.1	44.0	18.7	20.1
男性・70歳以上(n=128)	32.8	29.7	41.4	10.2	13.3
平成27年度・女性(n=683)	30.3	21.7	42.9	26.4	12.3
平成27年度・男性(n=560)	33.2	26.8	40.5	26.4	15.9

	社会の中で地域活動への参加についての評価を高めること	地域の中に仲間がいること	その他	特に必要なことはない
全体(n=1,236)	25.6	43.2	3.4	8.5
女性(n=693)	24.5	47.3	3.0	6.8
男性(n=524)	27.1	38.5	4.0	10.7
女性・18歳～29歳(n=78)	30.8	41.0	1.3	7.7
女性・30歳～39歳(n=93)	16.1	52.7	6.5	6.5
女性・40歳～49歳(n=106)	23.6	42.5	4.7	9.4
女性・50歳～59歳(n=117)	21.4	47.9	2.6	10.3
女性・60歳～69歳(n=146)	28.1	48.6	0.7	4.8
女性・70歳以上(n=153)	26.1	49.0	3.3	3.9
男性・18歳～29歳(n=53)	26.4	39.6	1.9	17.0
男性・30歳～39歳(n=52)	13.5	46.2	3.8	11.5
男性・40歳～49歳(n=76)	31.6	30.3	5.3	15.8
男性・50歳～59歳(n=80)	27.5	37.5	6.3	5.0
男性・60歳～69歳(n=134)	28.4	42.5	4.5	5.2
男性・70歳以上(n=128)	28.9	35.9	2.3	14.1
平成27年度・女性(n=683)	21.2	47.7	1.5	8.2
平成27年度・男性(n=560)	28.8	38.9	2.0	6.8

(3) 防災・災害復興対策における性別に配慮した対応の必要性

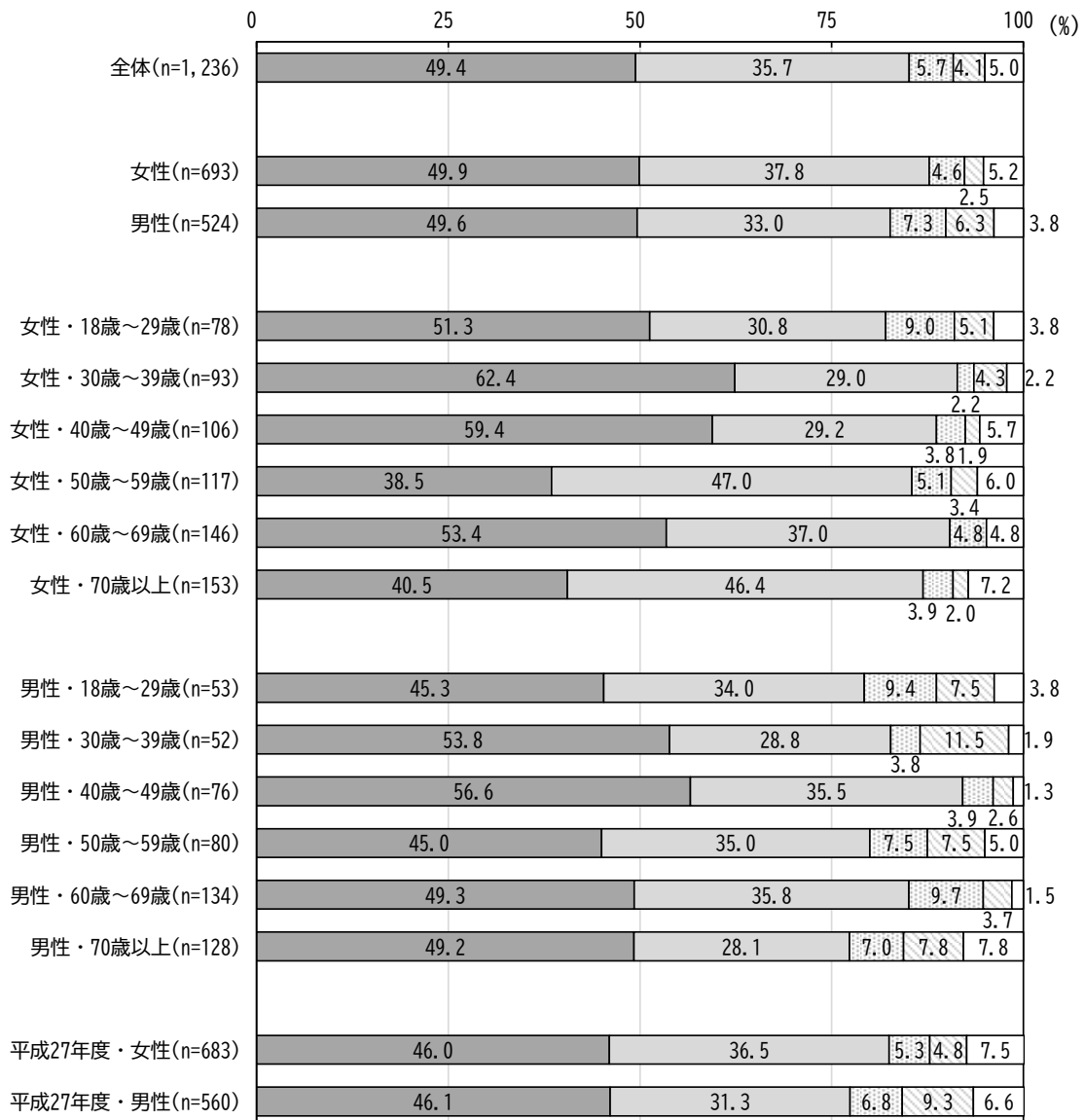
問 11 あなたは防災・災害復興対策において、性別に配慮した対応が必要だと思いますか（1つに○）

男女ともに「必要である」が最も多く、女性で49.9%、男性で49.6%となっています。次いで「どちらかといえば必要である」が、女性で37.8%、男性で33.0%、「どちらかといえば必要でない」が、女性で4.6%、男性で7.3%などとなっています。

前回調査と比較すると、男女ともに「必要でない」が少なくなっています。

防災・災害復興対策における性別に配慮した対応の必要性

- 必要である
- どちらかといえば必要である
- どちらかといえば必要でない
- 必要でない
- 不明・無回答



(4) 防災・災害復興対策において必要な性別に配慮した対応

<問11で「1必要である」「2どちらかといえば必要である」と答えた方におたずねします>

問12 防災・災害復興対策において、性別に配慮したどのような対応が必要だと思いますか。
(3つまでに○)

男女ともに「避難所の設備（男女別のトイレや更衣室、物干し場など）を整えること」が最も多く、女性で82.2%、男性で82.2%となっています。次いで「災害時の救援医療体制（乳幼児、高齢者、障害者、妊産婦へのサポート体制）を整えること」が、女性で64.5%、男性で58.4%、「避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること」が、女性で49.5%、男性で53.3%などとなっています。

防災・災害復興対策において必要な性別に配慮した対応（3つ以内で複数回答）

	避難所の設備（男女別のトイレや更衣室、物干し場など）を整えること	避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること	災害時の救援医療体制（乳幼児、高齢者、障害者、妊産婦へのサポート体制）を整えること	公的施設での備蓄品のニーズを把握し、災害時の支給に配慮すること	被災者に対する相談体制を整えること
全体(n=1,052)	82.2	51.0	62.1	25.5	16.3
女性(n=608)	82.2	49.5	64.5	27.3	16.6
男性(n=433)	82.2	53.3	58.4	22.9	15.2
女性・18歳～29歳(n=64)	82.8	35.9	67.2	35.9	12.5
女性・30歳～39歳(n=85)	83.5	48.2	71.8	30.6	11.8
女性・40歳～49歳(n=94)	87.2	56.4	60.6	25.5	8.5
女性・50歳～59歳(n=100)	87.0	63.0	60.0	26.0	16.0
女性・60歳～69歳(n=132)	80.3	52.3	67.4	24.2	15.2
女性・70歳以上(n=133)	75.9	39.1	61.7	26.3	29.3
男性・18歳～29歳(n=42)	90.5	50.0	57.1	31.0	14.3
男性・30歳～39歳(n=43)	83.7	51.2	65.1	34.9	7.0
男性・40歳～49歳(n=70)	87.1	41.4	54.3	32.9	11.4
男性・50歳～59歳(n=64)	71.9	59.4	59.4	28.1	17.2
男性・60歳～69歳(n=114)	79.8	58.8	63.2	14.9	19.3
男性・70歳以上(n=99)	83.8	53.5	52.5	13.1	16.2
平成27年度・女性(n=683)	89.0	60.2	66.1	17.8	17.1
平成27年度・男性(n=560)	84.3	62.1	63.5	18.0	15.7

	市の防災会議や防災計画に男女両方の視点が入ること	その他
全体(n=1,052)	34.1	0.8
女性(n=608)	30.9	0.8
男性(n=433)	38.6	0.7
女性・18歳～29歳(n=64)	23.4	3.1
女性・30歳～39歳(n=85)	23.5	1.2
女性・40歳～49歳(n=94)	36.2	0.0
女性・50歳～59歳(n=100)	23.0	0.0
女性・60歳～69歳(n=132)	38.6	0.0
女性・70歳以上(n=133)	33.8	1.5
男性・18歳～29歳(n=42)	23.8	0.0
男性・30歳～39歳(n=43)	32.6	0.0
男性・40歳～49歳(n=70)	40.0	0.0
男性・50歳～59歳(n=64)	34.4	1.6
男性・60歳～69歳(n=114)	46.5	0.0
男性・70歳以上(n=99)	40.4	2.0
平成27年度・女性(n=683)	23.8	0.7
平成27年度・男性(n=560)	30.7	0.9

4 職業生活について

(1) 職場の所在地

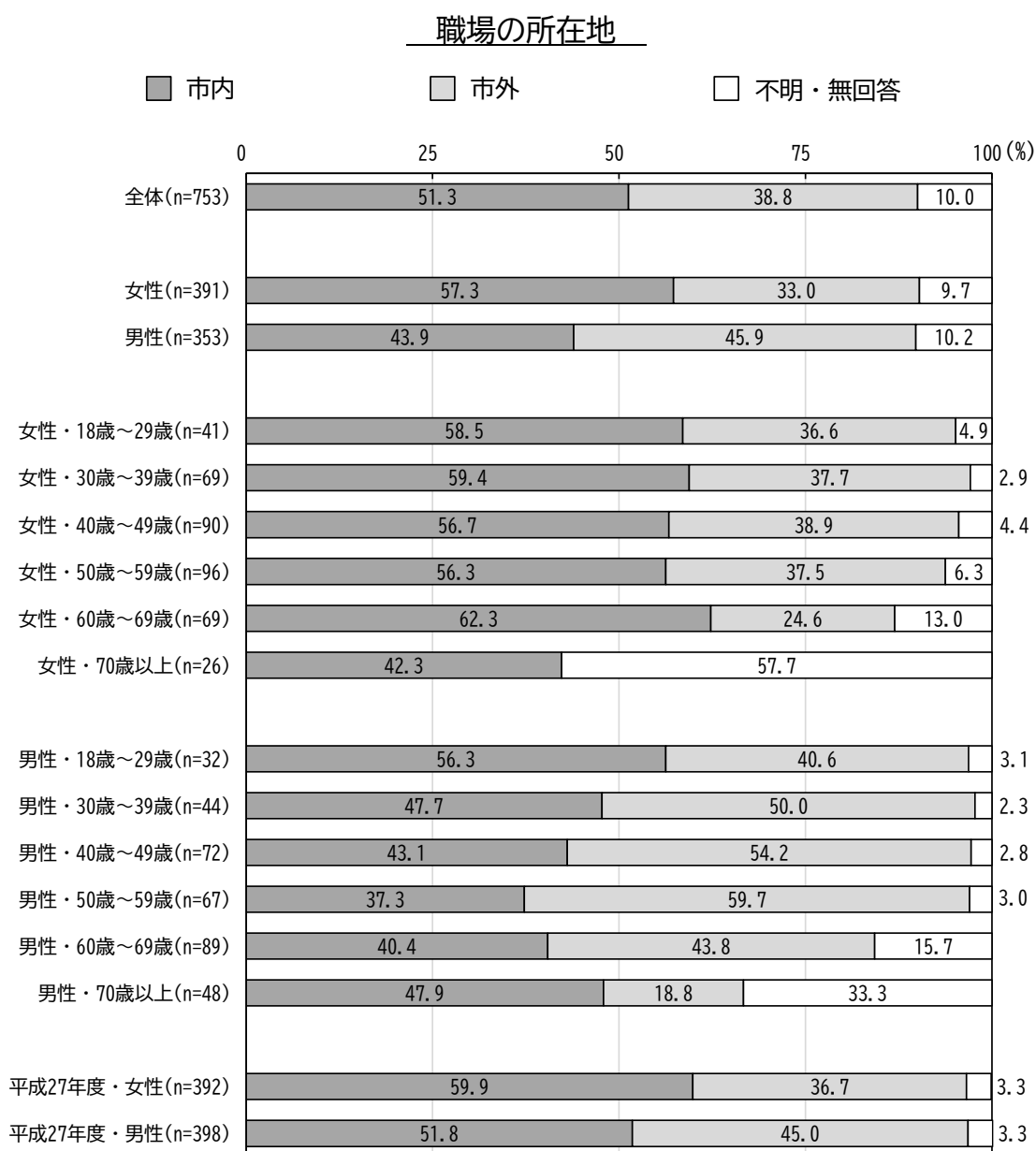
<あなたの職場についておたずねします>

<あてはまらない方は問16へお進みください>

問13 あなたの職場は、東近江市「市内」か「市外」のどちらにありますか。(1つに○)

女性では「市内」が57.3%、「市外」が33.0%となっています。男性では「市外」が45.9%、「市内」が43.9%となっています。

性別で比較すると、女性で「市内」が多くなっています。



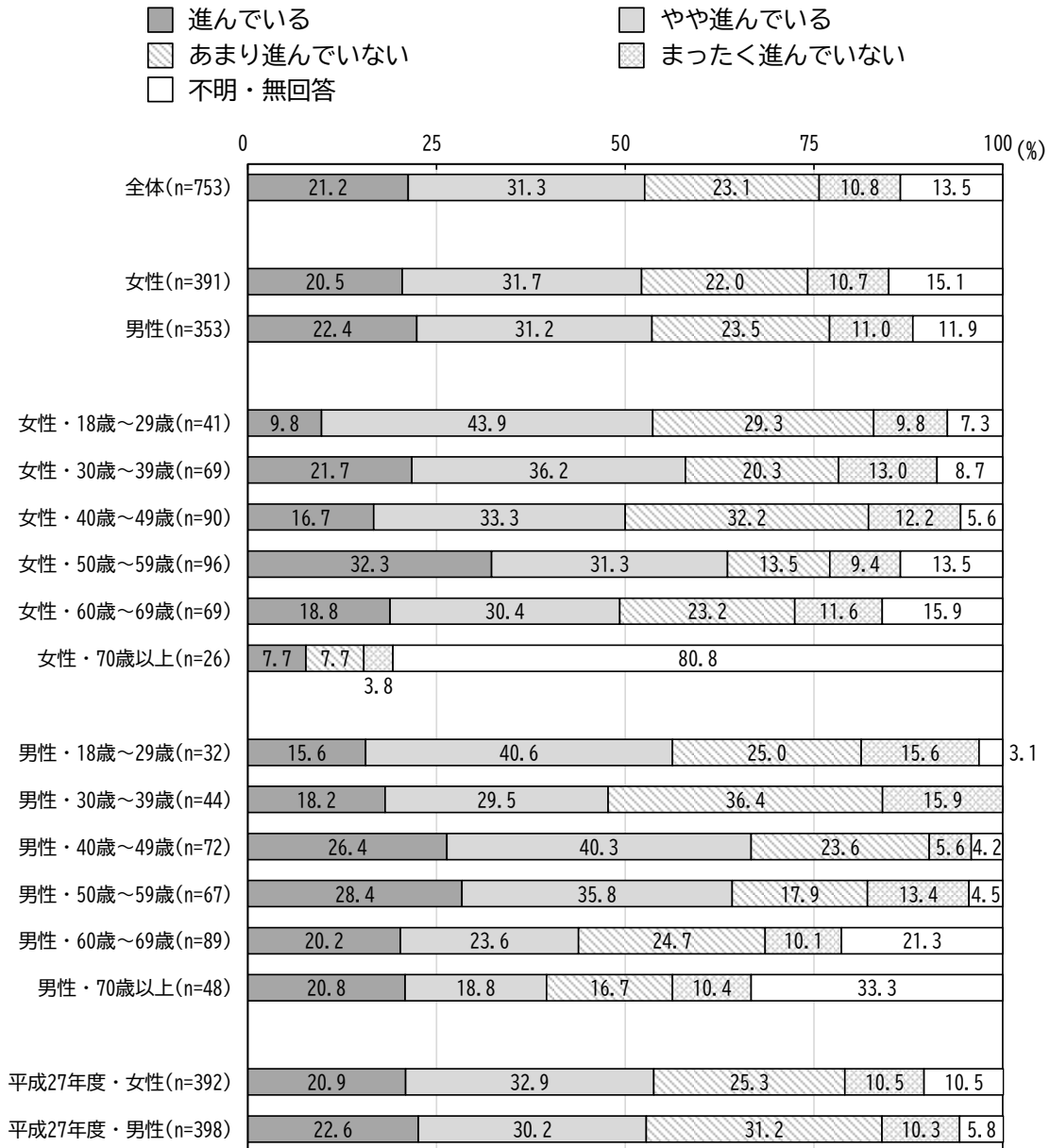
(2) 職場での男女共同参画の取組状況とその理由

問 14 あなたの職場では、男女共同参画の取組がどの程度進んでいますか。(1つに○)

① 取組状況

男女ともに「やや進んでいる」が最も多く、女性で 31.7%、男性で 31.2%となっています。次いで「あまり進んでいない」が、女性で 22.0%、男性で 23.5%、「進んでいる」が、女性で 20.5%、男性で 22.4%などとなっています。

職場における男女共同参画の取組状況



② その理由

問 15 問 14 であなたがそう思った理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

（『取組が進んでいる』理由）

男女ともに「仕事の内容」が最も多く、女性で 55.4%、男性で 60.3%となっています。次いで女性では「能力の評価」が 43.1%、「募集・採用の条件」が 41.7%、男性では「募集・採用の条件」が 41.8%、「仕事と生活の両立の支援」が 37.0%などとなっています。

前回調査と比較すると、女性では「退職の年齢」が少なくなっています。男性では「研修・訓練の機会」「退職の年齢」が少なくなっています。

『取組が進んでいる』理由（複数回答）

	募集・採用の条件	仕事の内容	賃金・昇給	能力の評価	研修・訓練の機会
全体(n=396)	41.9	57.8	31.1	39.9	28.0
女性(n=204)	41.7	55.4	32.8	43.1	27.9
男性(n=189)	41.8	60.3	29.1	36.5	28.6
女性・18歳～29歳(n=22)	27.3	50.0	27.3	31.8	13.6
女性・30歳～39歳(n=40)	40.0	50.0	17.5	42.5	22.5
女性・40歳～49歳(n=45)	37.8	57.8	31.1	42.2	37.8
女性・50歳～59歳(n=61)	50.8	59.0	41.0	49.2	27.9
女性・60歳～69歳(n=34)	44.1	52.9	41.2	41.2	29.4
女性・70歳以上(n=2)	0.0	100.0	50.0	50.0	50.0
男性・18歳～29歳(n=18)	44.4	22.2	11.1	22.2	22.2
男性・30歳～39歳(n=21)	28.6	47.6	28.6	33.3	4.8
男性・40歳～49歳(n=48)	37.5	66.7	27.1	33.3	29.2
男性・50歳～59歳(n=43)	44.2	65.1	34.9	44.2	39.5
男性・60歳～69歳(n=39)	51.3	69.2	33.3	41.0	30.8
男性・70歳以上(n=19)	42.1	68.4	26.3	36.8	31.6
平成27年度・女性(n=211)	45.5	57.8	30.3	36.5	36.5
平成27年度・男性(n=210)	48.1	53.8	35.2	40.5	35.7

	退職の年齢	昇進・昇格	仕事と生活の両立の支援
全体(n=396)	16.7	22.0	34.3
女性(n=204)	16.2	21.1	32.4
男性(n=189)	17.5	22.8	37.0
女性・18歳～29歳(n=22)	4.5	22.7	40.9
女性・30歳～39歳(n=40)	12.5	30.0	50.0
女性・40歳～49歳(n=45)	15.6	17.8	40.0
女性・50歳～59歳(n=61)	18.0	21.3	14.8
女性・60歳～69歳(n=34)	23.5	14.7	23.5
女性・70歳以上(n=2)	50.0	0.0	100.0
男性・18歳～29歳(n=18)	5.6	27.8	44.4
男性・30歳～39歳(n=21)	4.8	14.3	52.4
男性・40歳～49歳(n=48)	16.7	33.3	45.8
男性・50歳～59歳(n=43)	18.6	25.6	39.5
男性・60歳～69歳(n=39)	33.3	17.9	12.8
男性・70歳以上(n=19)	10.5	5.3	36.8
平成27年度・女性(n=211)	26.5	21.8	32.7
平成27年度・男性(n=210)	29.5	20.0	35.7

（『取組が進んでいない』理由）

男女ともに「仕事の内容」が最も多く、女性で46.9%、男性で63.9%となっています。次いで女性では「賃金・昇給」が34.4%、「能力の評価」が32.8%、男性では「仕事と生活の両立の支援」が29.5%、「募集・採用の条件」が25.4%などとなっています。

前回調査と比較すると、女性で「賃金・昇給」が少なくなっています。

『取組が進んでいない』理由（複数回答）

(%)

	募集・採用の条件	仕事の内容	賃金・昇給	能力の評価	研修・訓練の機会
全体(n=255)	21.6	55.7	27.1	28.2	5.5
女性(n=128)	18.0	46.9	34.4	32.8	5.5
男性(n=122)	25.4	63.9	20.5	23.8	5.7
女性・18歳～29歳(n=16)	12.5	68.8	18.8	25.0	0.0
女性・30歳～39歳(n=23)	13.0	47.8	26.1	30.4	4.3
女性・40歳～49歳(n=40)	22.5	45.0	35.0	22.5	7.5
女性・50歳～59歳(n=22)	31.8	31.8	54.5	54.5	13.6
女性・60歳～69歳(n=24)	8.3	45.8	37.5	41.7	0.0
女性・70歳以上(n=3)	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0
男性・18歳～29歳(n=13)	38.5	61.5	38.5	23.1	7.7
男性・30歳～39歳(n=23)	26.1	69.6	13.0	21.7	0.0
男性・40歳～49歳(n=21)	14.3	61.9	9.5	33.3	0.0
男性・50歳～59歳(n=21)	33.3	71.4	33.3	23.8	4.8
男性・60歳～69歳(n=31)	22.6	54.8	25.8	22.6	12.9
男性・70歳以上(n=13)	23.1	69.2	0.0	15.4	7.7
平成27年度・女性(n=140)	23.6	37.1	55.0	27.9	9.3
平成27年度・男性(n=165)	21.2	55.2	24.8	18.2	9.7

	退職の年齢	昇進・昇格	仕事と生活の両立の支援
全体(n=255)	2.4	19.6	30.6
女性(n=128)	3.1	21.9	32.0
男性(n=122)	1.6	17.2	29.5
女性・18歳～29歳(n=16)	0.0	31.3	31.3
女性・30歳～39歳(n=23)	0.0	8.7	39.1
女性・40歳～49歳(n=40)	7.5	35.0	40.0
女性・50歳～59歳(n=22)	4.5	18.2	18.2
女性・60歳～69歳(n=24)	0.0	12.5	25.0
女性・70歳以上(n=3)	0.0	0.0	33.3
男性・18歳～29歳(n=13)	0.0	23.1	46.2
男性・30歳～39歳(n=23)	0.0	26.1	21.7
男性・40歳～49歳(n=21)	4.8	14.3	23.8
男性・50歳～59歳(n=21)	0.0	23.8	42.9
男性・60歳～69歳(n=31)	3.2	6.5	19.4
男性・70歳以上(n=13)	0.0	15.4	38.5
平成27年度・女性(n=140)	0.7	15.7	27.9
平成27年度・男性(n=165)	2.4	13.9	21.2

(3) 女性の働き方についての理想と現実

問16 「女性の働き方」について、あなたが「理想」だと思ふ働き方、「現実」だと思ふ働き方に最も近いものはどれですか。(「理想」「現実」それぞれ1つを選んで番号を記入)

① 理想とする女性の働き方

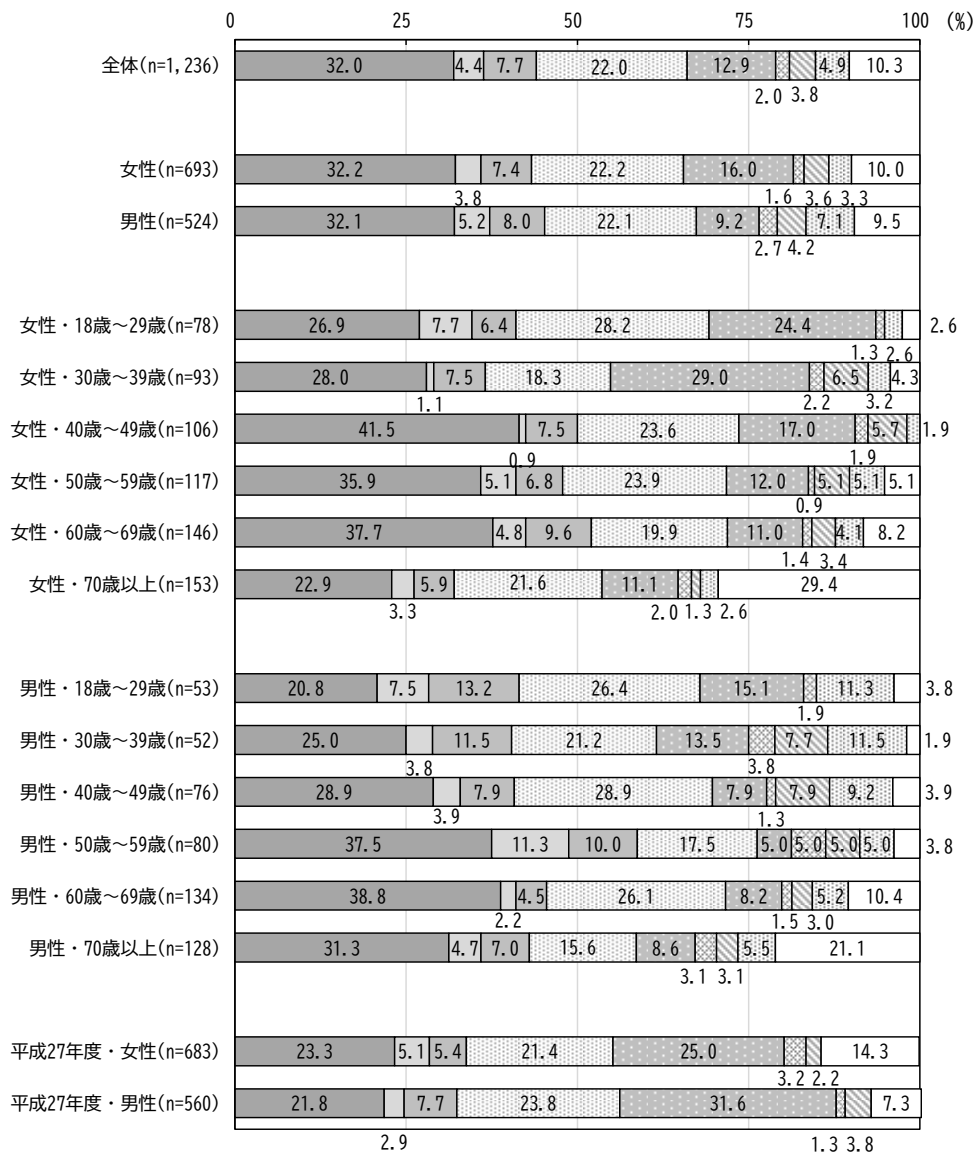
男女ともに「仕事を続ける」が最も多く、女性で32.2%、男性で32.1%となっています。次いで「子育て中は仕事を一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」が、女性で22.2%、男性で22.1%、「子育て中は仕事を一時やめ、その後はパートタイム等で仕事を続ける」が、女性で16.0%、男性で9.2%などとなっています。

性別で比較すると、女性で「子育て中は仕事を一時やめ、その後はパートタイム等で仕事を続ける」が多くなっています。

前回調査と比較すると、男女ともに「仕事を続ける」が多く、「子育て中は仕事を一時やめ、その後はパートタイム等で仕事を続ける」が少なくなっています。

理想とする女性の働き方

- 仕事を続ける
- 子どもができるまで仕事をもち、子どもができたら仕事をもちたない
- 子育て中は仕事を一時やめ、その後はパートタイム等で仕事を続ける
- その他
- 結婚するまで仕事をもち、結婚後は仕事をもちたない
- 子育て中は仕事を一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける
- 仕事はもちたない
- わからない
- 不明・無回答



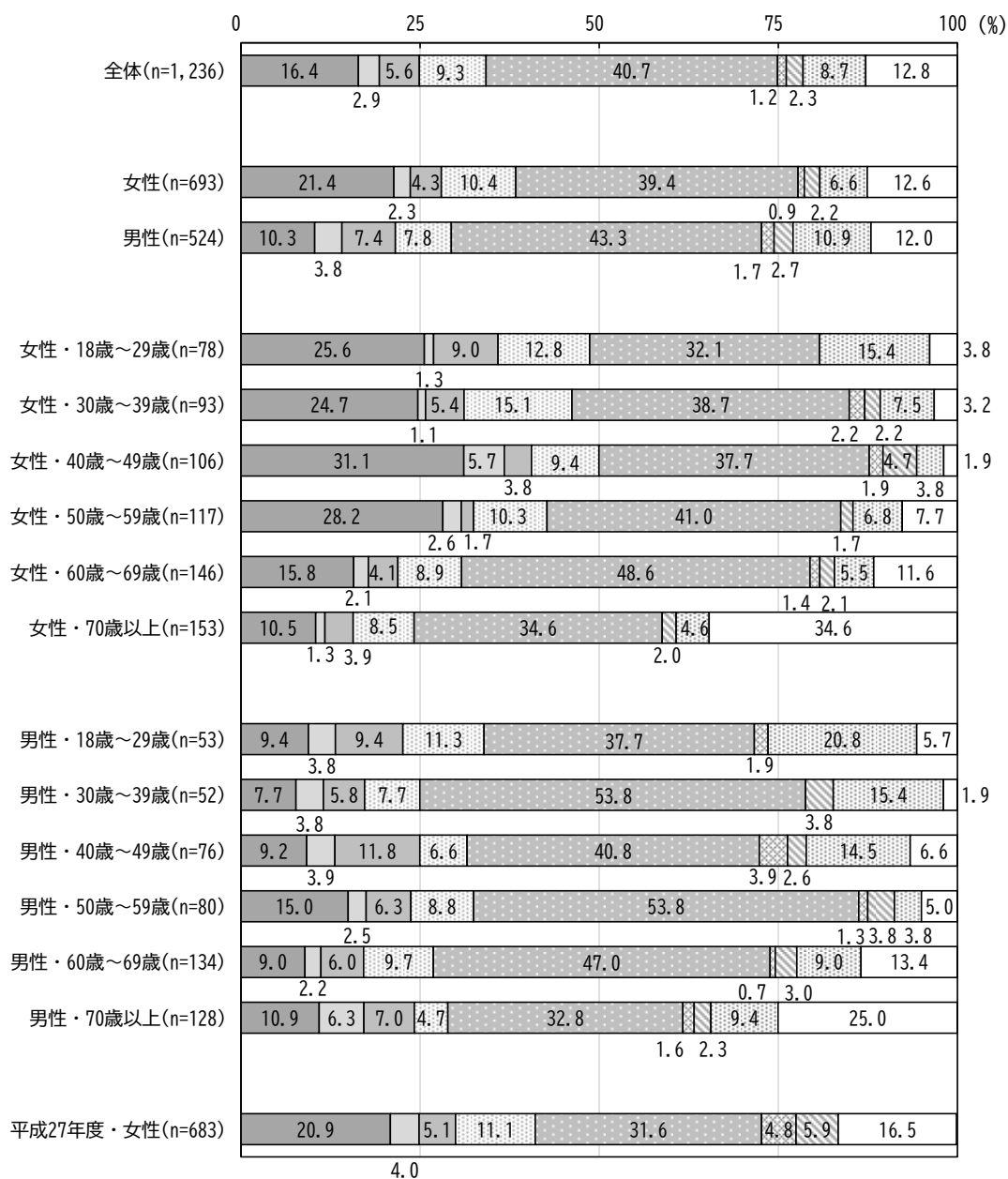
② 現実だと思う女性の働き方

男女ともに「子育て中は仕事を一時やめ、その後はパートタイム等で仕事を続ける」が最も多く、女性で39.4%、男性で43.3%となっています。次いで女性では、「仕事を続ける」が21.4%、「子育て中は仕事を一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」が10.4%。男性では「わからない」が10.9%、「仕事を続ける」が10.3%などとなっています。

前回調査と比較すると、女性で「子育て中は仕事を一時やめ、その後はパートタイム等で仕事を続ける」が多くなっています。

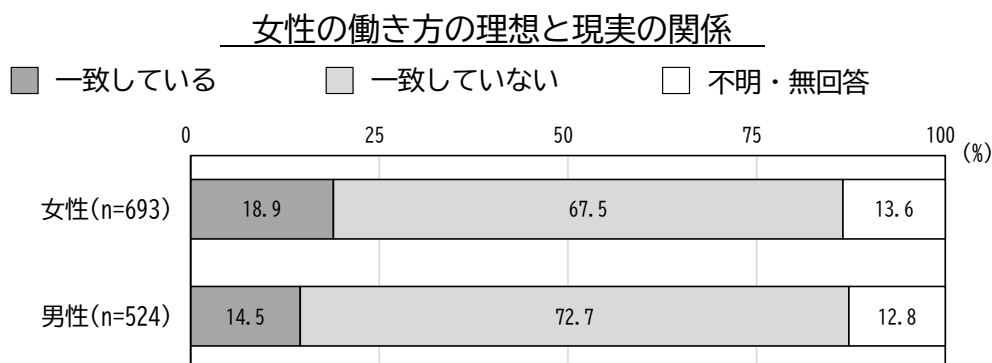
現実だと思う女性の働き方

- 仕事を続ける
- 子どもができるまで仕事をもち、子どもができたら仕事をもちたない
- 子育て中は仕事を一時やめ、その後はパートタイム等で仕事を続ける
- その他
- 結婚するまで仕事をもち、結婚後は仕事をもちたない
- 子育て中は仕事を一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける
- 仕事をもちたない
- わからない
- 不明・無回答



③ 女性の働き方の理想と現実の関係

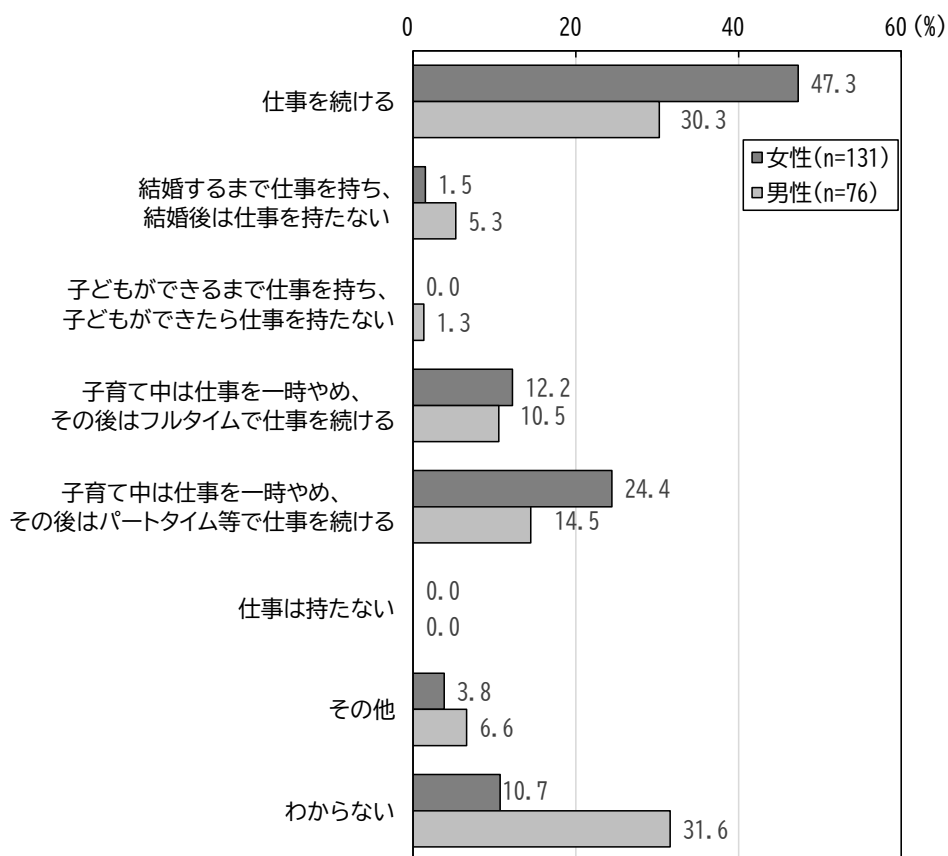
女性の働き方の理想と現実の関係をみると、「一致している」が、女性では18.9%、男性では14.5%、「一致していない」が、女性では67.5%、男性では72.7%となっています。



<理想と現実が一致している>

理想と現実が一致している場合では、男女ともに「仕事を続ける」が最も多く、女性では47.3%、男性では30.3%となっています。次いで「子育て中は仕事を一時やめ、その後はパートタイム等で仕事を続ける」が、女性では24.4%、男性では14.5%、「子育て中は仕事を一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」が、女性では12.2%、男性では10.5%などとなっています。

理想と現実が一致している場合の女性の働き方



<理想と現実が一致していない>

理想と現実が一致していない場合では、男女ともに理想が「仕事を続ける」、現実が「子育て中は仕事を一時やめ、その後はパートタイム等で仕事を続ける」が最も多く、女性では 22.8%、男性では 22.7%となっています。次いで理想が「子育て中は仕事を一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」、現実が「子育て中は仕事を一時やめ、その後はパートタイム等で仕事を続ける」が、女性では 17.0%、男性では 19.3%などとなっています。

理想と現実が一致していない場合の女性の働き方（女性）

n=464 (%)

理想 \ 現実		理想					仕事は持たない
		仕事を続ける	結婚するまで仕事を 持ち、結婚後は 仕事を持たない	子どもができるま で仕事をもち、子 どもができたら仕 事を持たない	子育て中は仕事を 一時やめ、その後 はフルタイムで仕 事を続ける	子育て中は仕事を 一時やめ、その後 はパートタイム等 で仕事を続ける	
現実	仕事を続ける		1.3	2.2	6.5	4.7	1.1
	結婚するまで仕事をもち、 結婚後は仕事を持たない	1.1		0.2	1.3	0.4	0.0
	子どもができるまで仕事を もち、子どもができたら仕 事を持たない	2.2	0.2		1.9	1.9	0.2
	子育て中は仕事を一時や め、その後はフルタイムで 仕事を続ける	4.7	1.3	1.3		4.1	0.2
	子育て中は仕事を一時や め、その後はパートタイム 等で仕事を続ける	22.8	1.7	6.5	17.0		0.6
	仕事は持たない	0.0	0.2	0.2	0.4	0.4	

理想と現実が一致していない場合の女性の働き方（男性）

n=379 (%)

理想 \ 現実		理想					仕事は持たない
		仕事を続ける	結婚するまで仕事を もち、結婚後は 仕事を持たない	子どもができるま で仕事をもち、子 どもができたら仕 事を持たない	子育て中は仕事を 一時やめ、その後 はフルタイムで仕 事を続ける	子育て中は仕事を 一時やめ、その後 はパートタイム等 で仕事を続ける	
現実	仕事を続ける		1.6	1.3	1.3	2.1	0.3
	結婚するまで仕事をもち、 結婚後は仕事を持たない	1.8		0.0	1.1	1.3	0.0
	子どもができるまで仕事を もち、子どもができたら仕 事を持たない	4.0	0.3		2.9	2.4	0.3
	子育て中は仕事を一時や め、その後はフルタイムで 仕事を続ける	4.7	0.8	1.1		1.3	0.5
	子育て中は仕事を一時や め、その後はパートタイム 等で仕事を続ける	22.7	2.9	6.1	19.3		2.1
	仕事は持たない	0.0	0.5	0.3	1.1	0.5	

(4) 女性が仕事を続けていくために必要なこと

問 17 あなたは、女性が仕事を続けていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

男女ともに「安心して子どもを預けられるなど、育児の負担が軽減されること」が最も多く、女性で 75.9%、男性で 72.6%となっています。次いで「家事の負担が軽減されること」が、女性で 65.8%、男性で 59.2%、「男女がともに日常的に家事・育児・介護を分担すること」が、女性で 65.6%、男性で 58.2%などとなっています。

性別で比較すると、女性で「介護支援サービスが充実するなど、介護の負担が軽減されること」「女性が働き続けることへの家族や周囲の理解が進むこと」などが多くなっています。

前回調査と比較すると、男女ともに「短時間勤務制度や在宅勤務制度などを導入し、多様な働き方が選べること」が多くなっています。また、女性では「介護支援サービスが充実するなど、介護の負担が軽減されること」「長時間労働の改善などが進むこと」などが多くなっています。

女性が仕事を続けていくために必要なこと（複数回答）

	家事の負担が軽減されること	安心して子どもを預けられるなど、育児の負担が軽減されること	介護支援サービスが充実するなど、介護の負担が軽減されること	男女がともに日常的に家事・育児・介護を分担すること	女性が働き続けることへの家族や周囲の理解が進むこと	女性が働き続けることへの女性自身の意識が変わること
全体 (n=1,236)	62.8	74.3	54.3	62.3	45.5	21.5
女性 (n=693)	65.8	75.9	61.3	65.6	49.7	19.8
男性 (n=524)	59.2	72.6	45.3	58.2	40.1	23.3
女性・18歳～29歳 (n=78)	71.8	78.2	34.6	67.9	35.9	10.3
女性・30歳～39歳 (n=93)	69.2	78.0	42.9	73.6	35.2	13.2
女性・40歳～49歳 (n=106)	69.8	72.6	49.1	68.9	46.2	20.8
女性・50歳～59歳 (n=117)	68.1	81.9	78.4	69.8	46.6	19.8
女性・60歳～69歳 (n=146)	62.9	76.2	69.9	67.1	60.1	28.0
女性・70歳以上 (n=153)	58.0	70.3	74.6	51.4	61.6	20.3
男性・18歳～29歳 (n=53)	54.7	69.8	22.6	52.8	37.7	17.0
男性・30歳～39歳 (n=52)	61.5	73.1	38.5	65.4	38.5	23.1
男性・40歳～49歳 (n=76)	56.0	72.0	34.7	50.7	28.0	18.7
男性・50歳～59歳 (n=80)	65.0	76.3	50.0	61.3	43.8	32.5
男性・60歳～69歳 (n=134)	63.4	79.9	59.0	63.4	50.0	29.1
男性・70歳以上 (n=128)	54.0	64.5	46.8	54.8	36.3	16.9
平成27年度・女性 (n=683)	-	66.9	49.6	-	40.8	19.0
平成27年度・男性 (n=560)	-	66.3	39.1	-	39.1	20.2

	長時間労働の改善などが進むこと	短時間勤務制度や在宅勤務制度などを導入し、多様な働き方が選べること	職場における育児・介護との両立支援などの制度が充実すること	育児や介護による仕事への制約を理由とする、昇進などへの不利益がないこと	その他	特になし
全体 (n=1,236)	40.7	52.1	56.0	37.3	2.7	2.6
女性 (n=693)	42.1	56.0	59.1	39.1	2.5	1.5
男性 (n=524)	38.3	47.4	52.4	34.9	2.7	3.7
女性・18歳～29歳 (n=78)	47.4	61.5	56.4	46.2	5.1	2.6
女性・30歳～39歳 (n=93)	49.5	70.3	67.0	47.3	3.3	2.2
女性・40歳～49歳 (n=106)	45.3	52.8	51.9	33.0	2.8	0.9
女性・50歳～59歳 (n=117)	38.8	57.8	62.9	35.3	2.6	1.7
女性・60歳～69歳 (n=146)	35.7	51.7	63.6	39.2	1.4	0.7
女性・70歳以上 (n=153)	41.3	48.6	52.9	37.7	1.4	1.4
男性・18歳～29歳 (n=53)	58.5	50.9	54.7	47.2	0.0	3.8
男性・30歳～39歳 (n=52)	51.9	55.8	51.9	34.6	5.8	3.8
男性・40歳～49歳 (n=76)	38.7	52.0	42.7	30.7	5.3	2.7
男性・50歳～59歳 (n=80)	33.8	47.5	52.5	37.5	2.5	2.5
男性・60歳～69歳 (n=134)	39.6	43.3	58.2	37.3	3.7	0.7
男性・70歳以上 (n=128)	25.8	44.4	50.8	28.2	0.0	8.1
平成27年度・女性 (n=683)	24.9	37.5	52.3	27.5	2.3	2.2
平成27年度・男性 (n=560)	30.2	30.2	41.8	28.0	2.7	2.1

※ 前回調査の「男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革」を「長時間労働の改善などが進むこと」とみなして比較しています。

(5) 管理職につく女性が少ない理由

問 18 現状では、管理職（意思決定を行う管理的部門や指導的地位）につく女性が少ない状況にあります。あなたは理由としてどのようなものがあると思いますか。（あてはまるものをすべてに○）

男女ともに「女性は、家庭における責任を多く担っているため、責任の重い仕事につきにくいから」が最も多く、女性で 60.6%、男性で 46.7%となっています。

次いで女性では「会社や組織の中に昇進・昇格に対する男性優先の意識や、女性管理職に対する不安感があるから」が 47.8%、「女性は、勤続年数が短く、管理職になる前に退職するから」が 31.7%、男性では、「女性自身が管理職につくことに消極的だから」が 39.5%、「会社や組織の中に昇進・昇格に対する男性優先の意識や、女性管理職に対する不安感があるから」が 39.1%などとなっています。

性別で比較すると、女性では「女性は、家庭における責任を多く担っているため、責任の重い仕事につきにくいから」などが多く、男性では「女性自身が管理職につくことに消極的だから」などが多くなっています。

前回調査と比較すると、女性では「会社や組織の中に昇進・昇格に対する男性優先の意識や、女性管理職に対する不安感があるから」が多く、男性では「女性自身が管理職につくことに消極的だから」が多くなっています。

管理職につく女性が少ない理由（複数回答）

	女性自身が管理職につくことに消極的だから	女性は、勤続年数が短く、管理職になる前に退職するから	女性は、家庭における責任を多く担っているため、責任の重い仕事につきにくいから	女性は、能力的にみて管理職に向いていないから	女性は、管理職に必要なとされる能力（知識や経験、判断力など）を高める機会が少ないから
全体(n=1,236)	30.9	33.5	54.3	2.5	21.9
女性(n=693)	25.0	31.7	60.6	2.4	22.5
男性(n=524)	39.5	36.4	46.7	2.5	21.4
女性・18歳～29歳(n=78)	20.5	35.9	51.3	2.6	16.7
女性・30歳～39歳(n=93)	17.6	35.2	54.9	1.1	16.5
女性・40歳～49歳(n=106)	24.5	34.9	67.0	1.9	20.8
女性・50歳～59歳(n=117)	29.9	25.6	59.8	2.6	19.7
女性・60歳～69歳(n=146)	29.6	28.2	69.7	2.1	26.1
女性・70歳以上(n=153)	23.9	33.6	56.0	3.7	29.9
男性・18歳～29歳(n=53)	24.5	34.0	39.6	3.8	18.9
男性・30歳～39歳(n=52)	35.3	37.3	41.2	7.8	11.8
男性・40歳～49歳(n=76)	33.3	34.7	38.7	4.0	14.7
男性・50歳～59歳(n=80)	50.0	38.8	43.8	1.3	18.8
男性・60歳～69歳(n=134)	44.7	39.4	50.0	0.8	24.2
男性・70歳以上(n=128)	38.5	32.8	55.7	1.6	29.5
平成27年度・女性(n=683)	24.2	28.6	56.8	2.0	22.0
平成27年度・男性(n=560)	28.9	33.4	42.0	3.2	23.4

	会社や組織の中に昇進・昇格に対する男性優先の意識や、女性管理職に対する不安感があるから	その他	わからない
全体(n=1,236)	43.6	3.6	8.3
女性(n=693)	47.8	4.0	7.3
男性(n=524)	39.1	2.9	8.6
女性・18歳～29歳(n=78)	43.6	3.8	9.0
女性・30歳～39歳(n=93)	49.5	6.6	7.7
女性・40歳～49歳(n=106)	44.3	5.7	4.7
女性・50歳～59歳(n=117)	50.4	4.3	3.4
女性・60歳～69歳(n=146)	52.8	2.8	3.5
女性・70歳以上(n=153)	44.0	2.2	15.7
男性・18歳～29歳(n=53)	28.3	1.9	18.9
男性・30歳～39歳(n=52)	41.2	0.0	9.8
男性・40歳～49歳(n=76)	29.3	4.0	10.7
男性・50歳～59歳(n=80)	36.3	3.8	3.8
男性・60歳～69歳(n=134)	43.9	4.5	3.8
男性・70歳以上(n=128)	45.1	1.6	10.7
平成27年度・女性(n=683)	42.3	3.4	5.6
平成27年度・男性(n=560)	33.9	3.2	6.8

(6) 女性の活躍が進むべき分野・立場

問 19 あなたは今後どのような分野・立場で、女性の活躍が進むのがよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

男女ともに「国会・県議会・市町議会等の議員」が最も多く、女性で52.6%、男性で52.7%となっています。次いで女性では「弁護士・医師などの専門職」が40.2%、「国の省庁・県庁・市町の役所等の公務員」が37.0%、男性では「自治会・PTAなどのリーダー」が43.6%、「企業の管理職、労働組合の幹部」が42.2%などとなっています。

性別で比較すると、女性では「弁護士・医師などの専門職」が多く、男性では「自治会・PTAなどのリーダー」が多くなっています。

前回調査と比較すると、男女ともに「建設作業や運転業務に従事する者」「国会・県議会・市町議会等の議員」「企業・大学・研究所などの研究者」が多くなっています。また、女性では「弁護士・医師などの専門職」「警察官や消防士」が多く、男性では「企業の管理職、労働組合の幹部」「国の省庁・県庁・市町の役所等の公務員」が多くなっています。

女性の活躍が進むべき分野・立場（複数回答）

(%)

	自治会・PTAなどのリーダー	ボランティアグループ等のリーダー	企業の管理職、労働組合の幹部	農林漁業団体などの役員	建設作業や運転業務に従事する者	弁護士・医師などの専門職
全体(n=1,236)	32.8	29.8	38.8	8.9	10.4	36.0
女性(n=693)	24.6	26.6	36.4	7.7	9.9	40.2
男性(n=524)	43.6	33.8	42.2	10.7	11.1	31.3
女性・18歳～29歳(n=78)	18.2	18.2	27.3	9.1	10.4	44.2
女性・30歳～39歳(n=93)	19.1	22.5	42.7	12.4	15.7	43.8
女性・40歳～49歳(n=106)	16.5	25.2	44.7	8.7	12.6	46.6
女性・50歳～59歳(n=117)	27.2	25.4	43.9	9.6	10.5	43.0
女性・60歳～69歳(n=146)	27.4	28.9	37.0	5.9	8.1	42.2
女性・70歳以上(n=153)	33.6	34.4	23.4	3.1	4.7	25.8
男性・18歳～29歳(n=53)	28.8	15.4	34.6	11.5	11.5	36.5
男性・30歳～39歳(n=52)	23.1	19.2	44.2	13.5	11.5	44.2
男性・40歳～49歳(n=76)	30.3	28.9	46.1	13.2	7.9	26.3
男性・50歳～59歳(n=80)	41.8	27.8	50.6	10.1	12.7	29.1
男性・60歳～69歳(n=134)	60.3	43.5	42.0	7.6	11.5	31.3
男性・70歳以上(n=128)	50.4	43.8	37.2	11.6	11.6	28.1
平成27年度・女性(n=683)	22.8	25.3	34.3	6.3	4.2	32.5
平成27年度・男性(n=560)	41.3	32.1	33.4	10.0	7.0	26.1

	警察官や消防士	国の省庁・県庁・市町の役所等の公務員	国会・県議会・市町議会等の議員	企業・大学・研究所などの研究者	その他	特にない
全体(n=1,236)	14.8	36.3	52.4	26.0	3.2	17.2
女性(n=693)	15.2	37.0	52.6	26.3	3.7	18.1
男性(n=524)	14.3	35.5	52.7	26.0	2.7	15.2
女性・18歳～29歳(n=78)	18.2	35.1	40.3	20.8	1.3	20.8
女性・30歳～39歳(n=93)	20.2	46.1	58.4	30.3	6.7	15.7
女性・40歳～49歳(n=106)	19.4	39.8	56.3	36.9	3.9	12.6
女性・50歳～59歳(n=117)	14.0	38.6	56.1	31.6	1.8	16.7
女性・60歳～69歳(n=146)	12.6	37.8	60.0	25.2	3.7	17.8
女性・70歳以上(n=153)	10.2	27.3	42.2	14.8	4.7	24.2
男性・18歳～29歳(n=53)	21.2	36.5	46.2	32.7	1.9	25.0
男性・30歳～39歳(n=52)	17.3	44.2	53.8	30.8	1.9	17.3
男性・40歳～49歳(n=76)	11.8	31.6	52.6	22.4	3.9	18.4
男性・50歳～59歳(n=80)	7.6	32.9	49.4	29.1	5.1	8.9
男性・60歳～69歳(n=134)	15.3	36.6	58.8	26.7	3.1	13.0
男性・70歳以上(n=128)	14.9	34.7	51.2	20.7	0.8	14.9
平成27年度・女性(n=683)	11.0	26.2	34.3	18.9	2.6	16.4
平成27年度・男性(n=560)	13.6	28.4	33.2	17.7	3.0	14.5

5 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

(1) ワーク・ライフ・バランスについての希望と現状

問 20 あなたの生活の中で、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」で何を優先しますか。あなたの「希望」と「現状」に最も近いものをそれぞれお答えください。（「希望」「現状」それぞれに1つを選んで番号を記入）

① ワーク・ライフ・バランスの希望

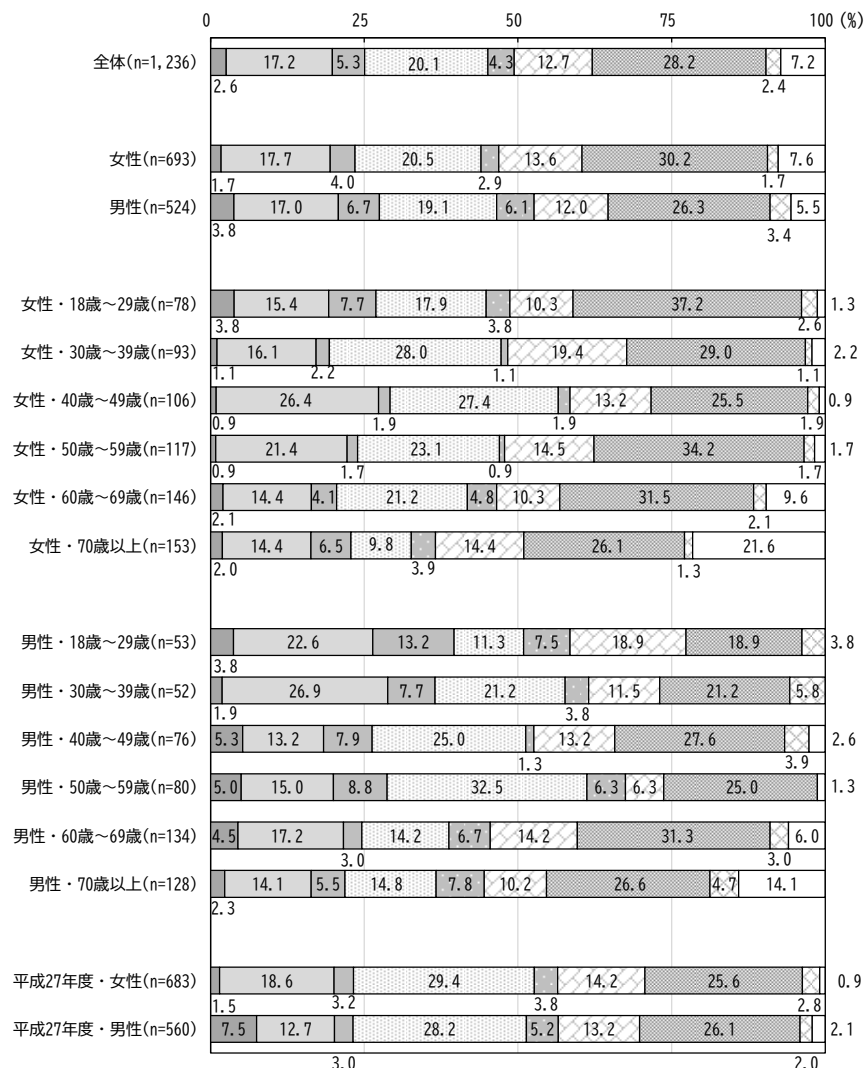
男女ともに『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先が最も多く、女性で 30.2%、男性で 26.3%となっています。次いで『仕事』と『家庭生活』をともに優先が、女性で 20.5%、男性で 19.1%、『家庭生活』を優先が、女性で 17.7%、男性で 17.0% などとなっています。

性別で比較すると、男性で『仕事』を優先『仕事』と『地域・個人の生活』をともに優先が多くなっています。

前回調査と比較すると、女性では『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先が多く、『仕事』と『家庭生活』をともに優先が少なくなっています。男性では『家庭生活』を優先『地域・個人の生活』をともに優先が多く、『仕事』を優先『仕事』と『家庭生活』をともに優先が少なくなっています。

ワーク・ライフ・バランスの希望

- 「仕事」を優先
- 「地域・個人の生活」を優先
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- 不明・無回答
- 「家庭生活」を優先
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- わからない



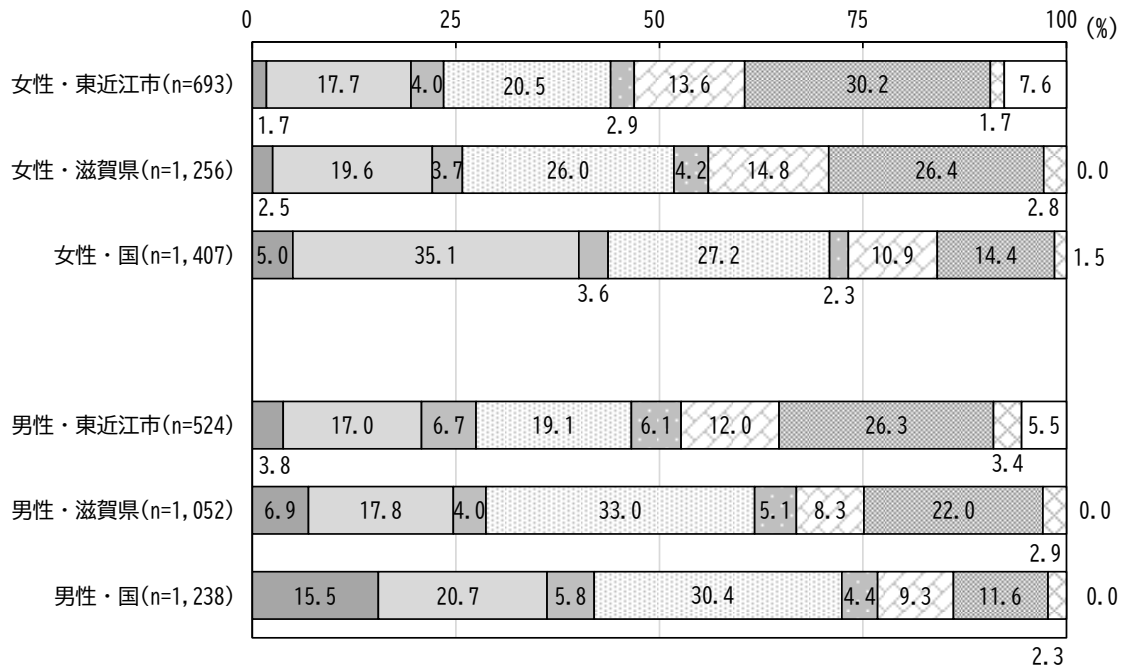
〔県・国との比較〕

県と比較すると、男女ともに『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先が多く、『仕事』と『家庭生活』をともに優先が少なくなっています。

国と比較すると、男女ともに『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先が多く、『仕事』を優先『仕事』と『家庭生活』をともに優先が少なくなっています。

ワーク・ライフ・バランスの希望

- 「仕事」を優先
- 「地域・個人の生活」を優先
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- 不明・無回答
- 「家庭生活」を優先
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- わからない



※ 県調査・国調査の回答数には、この設問での「不明・無回答」が含まれていません。

② ワーク・ライフ・バランスの現状

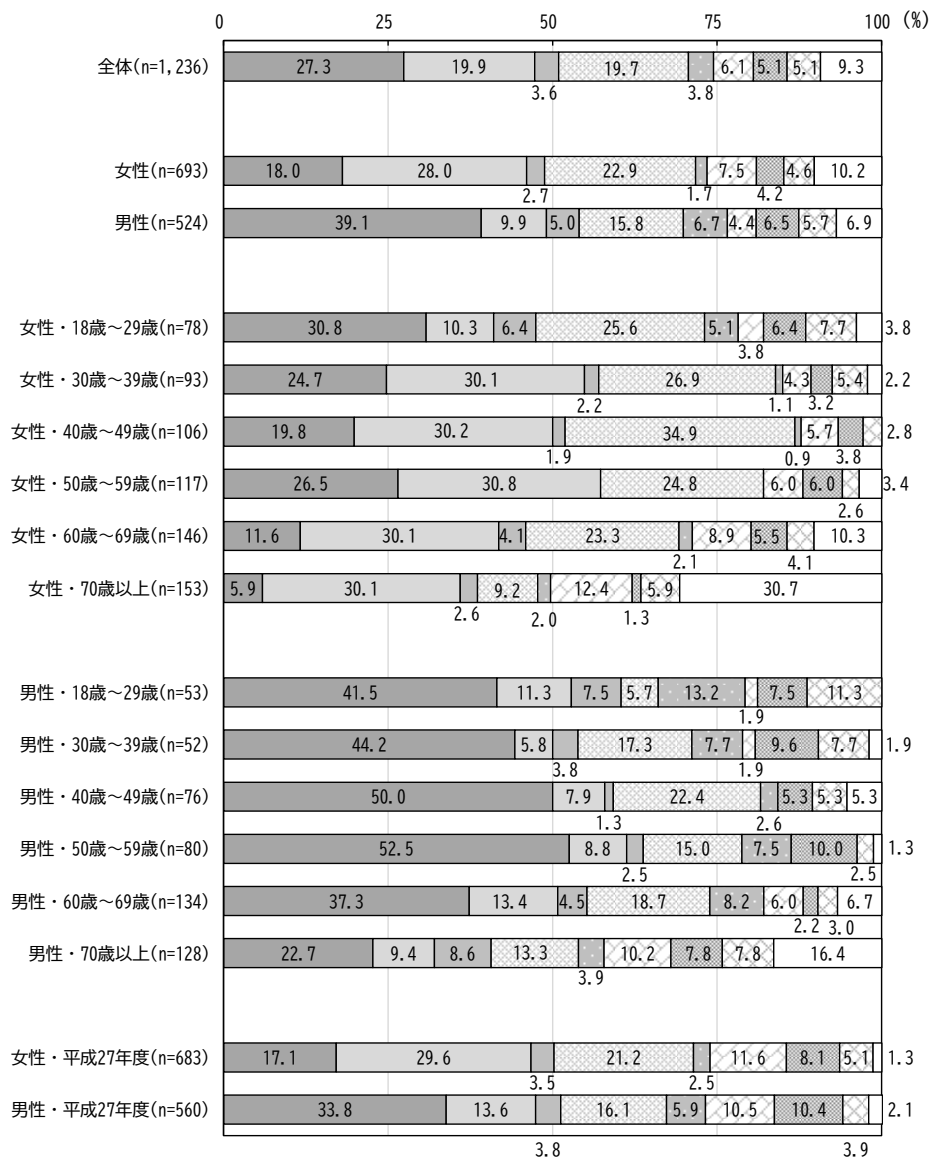
女性では『家庭生活』を優先が28.0%と最も多く、次いで『仕事』と『家庭生活』をともに優先が22.9%、『仕事』を優先が18.0%などとなっています。男性では『仕事』を優先が39.1%と最も多く、次いで『仕事』と『家庭生活』をともに優先が15.8%、『家庭生活』を優先が9.9%などとなっています。

性別で比較すると、女性では『家庭生活』を優先、『仕事』と『家庭生活』をともに優先が多く、男性では『仕事』を優先、『仕事』と『地域・個人の生活』をともに優先が多くなっています。

前回調査と比較すると、男女ともに『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先、『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先が少なくなっています。また、男性では『仕事』を優先が多くなっています。

ワーク・ライフ・バランスの現状

- 「仕事」を優先
- 「地域・個人の生活」を優先
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- 不明・無回答
- 「家庭生活」を優先
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- わからない



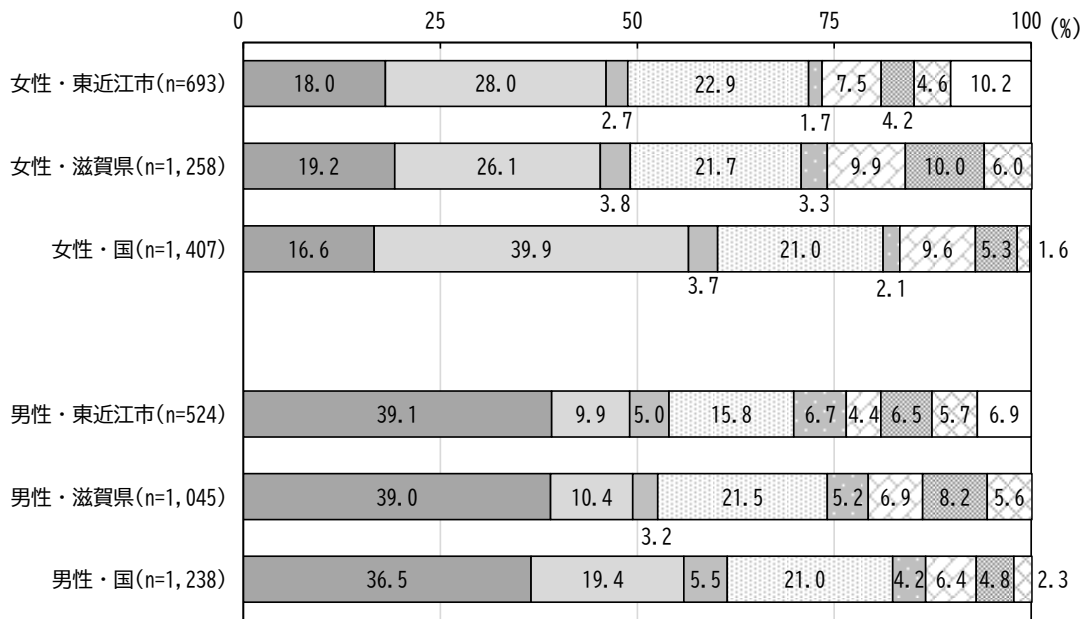
〔県・国との比較〕

県と比較すると、女性では『家庭生活』を優先が多く、『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先が少なく、男性では『仕事』と『家庭生活』をともに優先が少なくなっています。

国と比較すると、男女ともに『仕事』を優先が多く、『家庭生活』を優先が少なくなっています。

ワーク・ライフ・バランスの現状

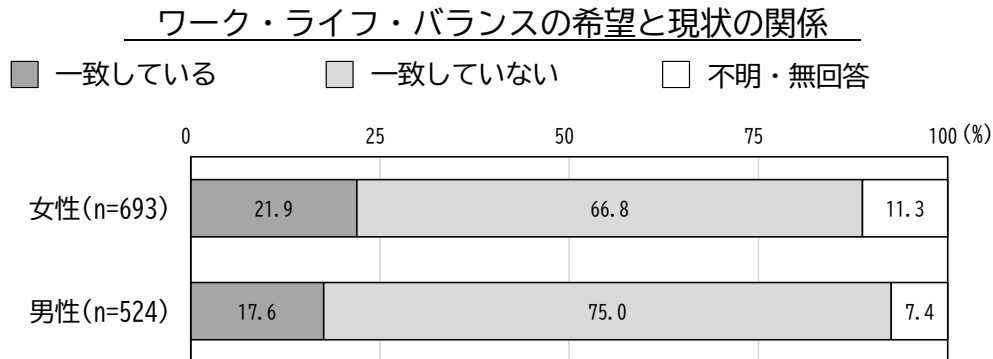
- 「仕事」を優先
- 「地域・個人の生活」を優先
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- 不明・無回答
- 「家庭生活」を優先
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- わからない



※ 県調査・国調査の回答数には、この設問での「不明・無回答」が含まれていません。

③ ワーク・ライフ・バランスの希望と現状の関係

ワーク・ライフ・バランスの希望と現状の関係をみると、「一致している」が、女性では21.9%、男性では17.6%、「一致していない」が、女性では66.8%、男性では75.0%となっています。

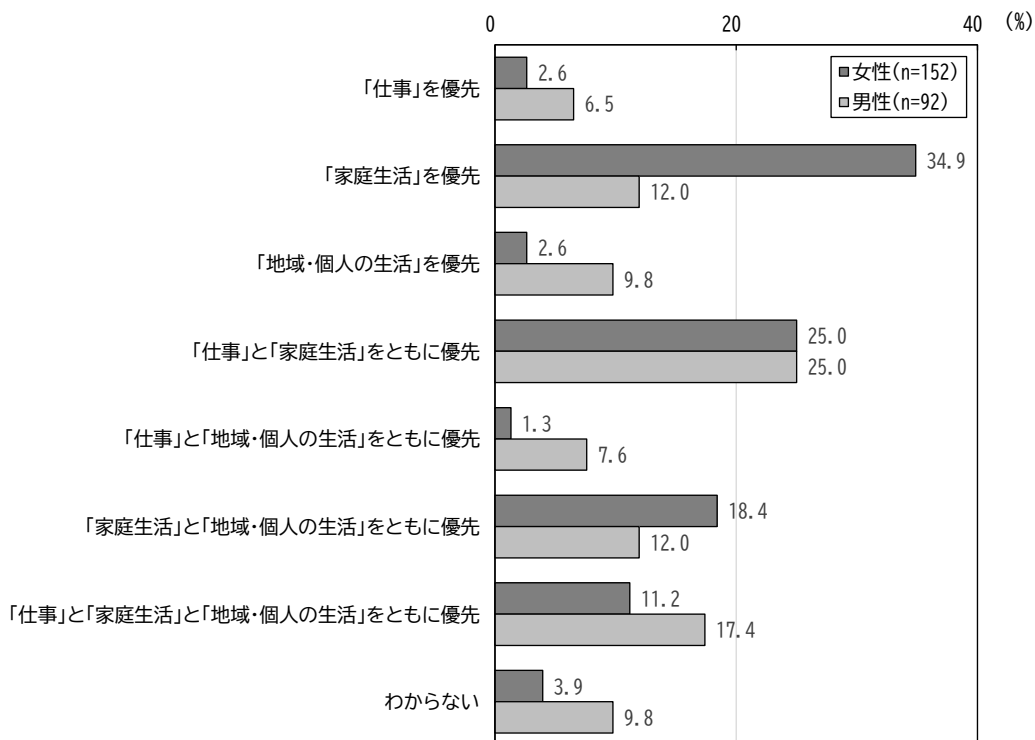


<希望と現状が一致している>

希望と現状が一致している場合では、女性では『家庭生活』を優先が最も多く34.9%、次いで『仕事』と『家庭生活』をともに優先が25.0%、『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先が18.4%などとなっています。

男性では『仕事』と『家庭生活』をともに優先が最も多く25.0%、次いで『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先が17.4%、『家庭生活』を優先、『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先が12.0%などとなっています。

希望と現状が一致している場合のワーク・ライフ・バランス



<希望と現状が一致していない>

希望と現状が一致していない場合では、女性では、希望が『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先、現状が『仕事』と『家庭生活』をともに優先が最も多く14.3%、次いで希望が『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先で、現状が『家庭生活』を優先が11.9%などとなっています。

男性では、希望が『仕事』と『家庭生活』をともに優先、現状が『仕事』を優先が最も多く14.0%、次いで希望が『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先、現状が『仕事』を優先が13.2%などとなっています。

希望と現状が一致していない場合のワーク・ライフ・バランス（女性）

n=481 (%)

希望 \ 現状	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
「仕事」を優先		4.8	2.3	6.2	1.0	2.7	7.3
「家庭生活」を優先	0.2		0.6	10.4	0.8	4.8	11.9
「地域・個人の生活」を優先	0.2	0.2		0.6	0.2	0.4	1.2
「仕事」と「家庭生活」をともに優先	0.2	5.2	0.4		0.8	3.7	14.3
「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	0.2	0.0	0.2	0.4		0.4	0.8
「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	0.0	1.7	0.4	0.6	0.2		1.9
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	0.0	0.6	0.0	0.6	0.0	1.0	

希望と現状が一致していない場合のワーク・ライフ・バランス（男性）

n=393 (%)

希望 \ 現状	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
「仕事」を優先		10.4	2.8	14.0	0.0	5.9	13.2
「家庭生活」を優先	1.3		0.5	2.0	1.0	3.1	2.3
「地域・個人の生活」を優先	0.5	0.5		0.5	0.5	0.8	1.3
「仕事」と「家庭生活」をともに優先	0.8	3.8	0.5		0.5	1.5	7.6
「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	0.0	1.3	1.0	0.3		0.5	3.8
「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	0.5	0.5	0.5	0.0	0.3		1.0
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	0.3	1.8	0.8	0.8	0.3	0.8	

(2) ワーク・ライフ・バランスの希望実現をさまたげている要因

<問 20 の「希望」と「現状」の回答が異なる方におたずねします>

問 21 「現状」を「希望」に近づけることをさまたげている（ていた）のはどんなことですか。（あてはまるものすべてに○）

女性では「仕事が忙しくて時間がない」が 40.2%と最も多く、次いで「家事や子育てで時間がない」が 24.9%などとなっています。男性では「仕事が忙しくて時間がない」が 57.8%と最も多く、次いで「職場の理解や支援が不足している」が 22.0%などとなっています。

性別で比較すると、女性では「家事や子育てで時間がない」などが多く、男性では「仕事が忙しくて時間がない」などが多くなっています。

前回調査と比較すると、女性では「家事や子育てで時間がない」「男女の役割分担についての社会通念等」などが多くなっています。男性では「職場の理解や支援が不足している」「男女の役割分担についての社会通念等」などが多くなっています。

ワーク・ライフ・バランスの希望実現をさまたげている要因（複数回答）

(%)

	仕事が忙しくて時間がない	家事や子育てで時間がない	家族の介護や看護などで時間がない	家族の理解や協力を得にくい	職場の理解や支援が不足している	隣近所の目や世間体が気になる	男女の役割分担についての社会通念等	自分の能力に自信がない
全体(n=825)	48.4	16.5	8.7	11.6	18.1	8.7	12.6	14.7
女性(n=438)	40.2	24.9	11.9	14.8	14.6	8.7	13.9	18.5
男性(n=377)	57.8	6.9	5.3	7.7	22.0	8.8	11.4	10.3
女性・18歳～29歳(n=61)	60.7	16.4	4.9	3.3	16.4	4.9	8.2	13.1
女性・30歳～39歳(n=66)	47.0	45.5	4.5	9.1	13.6	3.0	10.6	12.1
女性・40歳～49歳(n=71)	46.5	42.3	7.0	11.3	19.7	8.5	14.1	21.1
女性・50歳～59歳(n=84)	44.0	26.2	11.9	22.6	15.5	8.3	19.0	13.1
女性・60歳～69歳(n=90)	27.8	10.0	16.7	15.6	7.8	7.8	15.6	22.2
女性・70歳以上(n=66)	19.7	12.1	24.2	24.2	16.7	19.7	13.6	28.8
男性・18歳～29歳(n=41)	65.9	0.0	2.4	2.4	12.2	4.9	2.4	12.2
男性・30歳～39歳(n=40)	70.0	7.5	2.5	2.5	22.5	10.0	12.5	17.5
男性・40歳～49歳(n=57)	63.2	14.0	1.8	7.0	35.1	7.0	7.0	5.3
男性・50歳～59歳(n=68)	73.5	8.8	5.9	5.9	26.5	4.4	7.4	5.9
男性・60歳～69歳(n=98)	50.0	6.1	6.1	12.2	18.4	13.3	13.3	13.3
男性・70歳以上(n=73)	38.4	4.1	9.6	9.6	17.8	9.6	20.5	9.6
平成27年度・女性(n=383)	34.2	18.3	8.9	8.4	9.4	6.0	6.5	14.4
平成27年度・男性(n=313)	50.2	2.9	3.2	2.6	11.5	4.2	1.6	7.7

	健康状態に不安がある	適当な仕事がない	就職に関する情報を得にくい	地域活動に関する情報を得にくい	自分に興味のある内容がない	人間関係がわずらわしい	何からはじめてよいかわからない	その他
全体(n=825)	16.2	8.8	3.8	9.0	8.0	16.2	10.1	8.5
女性(n=438)	18.5	8.9	4.1	8.4	7.1	17.1	11.0	8.0
男性(n=377)	14.1	9.0	3.4	9.8	9.0	14.3	9.3	9.0
女性・18歳～29歳(n=61)	6.6	9.8	4.9	4.9	4.9	23.0	16.4	14.8
女性・30歳～39歳(n=66)	10.6	7.6	3.0	3.0	6.1	4.5	16.7	12.1
女性・40歳～49歳(n=71)	12.7	12.7	5.6	8.5	4.2	15.5	12.7	5.6
女性・50歳～59歳(n=84)	16.7	9.5	6.0	9.5	10.7	15.5	6.0	9.5
女性・60歳～69歳(n=90)	27.8	8.9	2.2	8.9	6.7	23.3	8.9	2.2
女性・70歳以上(n=66)	33.3	4.5	3.0	15.2	9.1	19.7	7.6	6.1
男性・18歳～29歳(n=41)	2.4	12.2	4.9	2.4	9.8	9.8	12.2	7.3
男性・30歳～39歳(n=40)	2.5	15.0	0.0	12.5	12.5	22.5	10.0	7.5
男性・40歳～49歳(n=57)	7.0	8.8	3.5	5.3	5.3	12.3	5.3	10.5
男性・50歳～59歳(n=68)	10.3	4.4	2.9	7.4	8.8	4.4	8.8	10.3
男性・60歳～69歳(n=98)	25.5	11.2	6.1	11.2	12.2	18.4	10.2	10.2
男性・70歳以上(n=73)	20.5	5.5	1.4	16.4	5.5	17.8	9.6	6.8
平成27年度・女性(n=383)	17.8	9.4	3.7	3.4	7.3	12.5	9.4	9.9
平成27年度・男性(n=313)	14.1	6.1	1.6	4.8	5.4	9.6	8.0	8.3

6 配偶者等からの暴力について

(1) 配偶者や交際相手からの暴力の経験

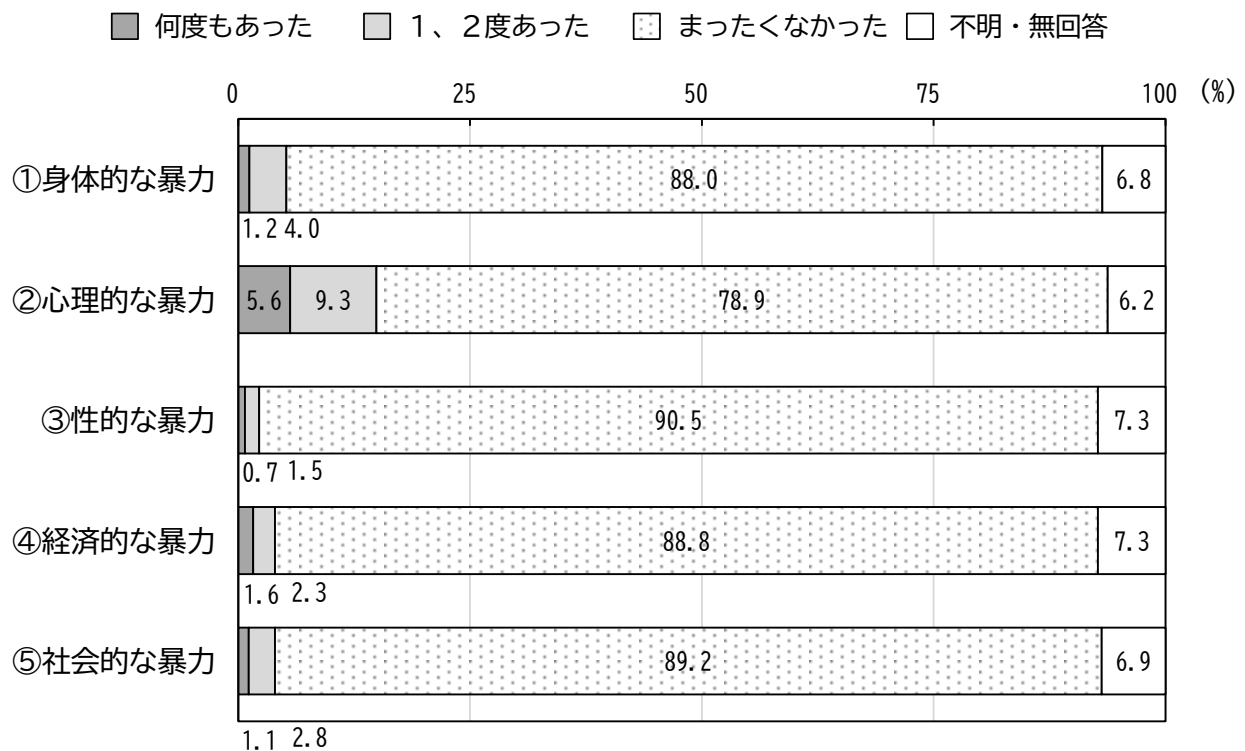
問22 あなたは、次のようなDV（ドメスティック・バイオレンス）を過去5年以内に受けた経験がありますか。（①～⑤それぞれ1つに○）

(全体)

配偶者や交際相手からの暴力の経験についてみると、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計が最も多いのは「心理的な暴力」で、14.9%となっており、次いで「身体的な暴力」が5.2%、「経済的な暴力」「社会的な暴力」が3.9%、「性的な暴力」が2.2%となっています。

配偶者や交際相手からの暴力の経験

[全体]



① 身体的な暴力

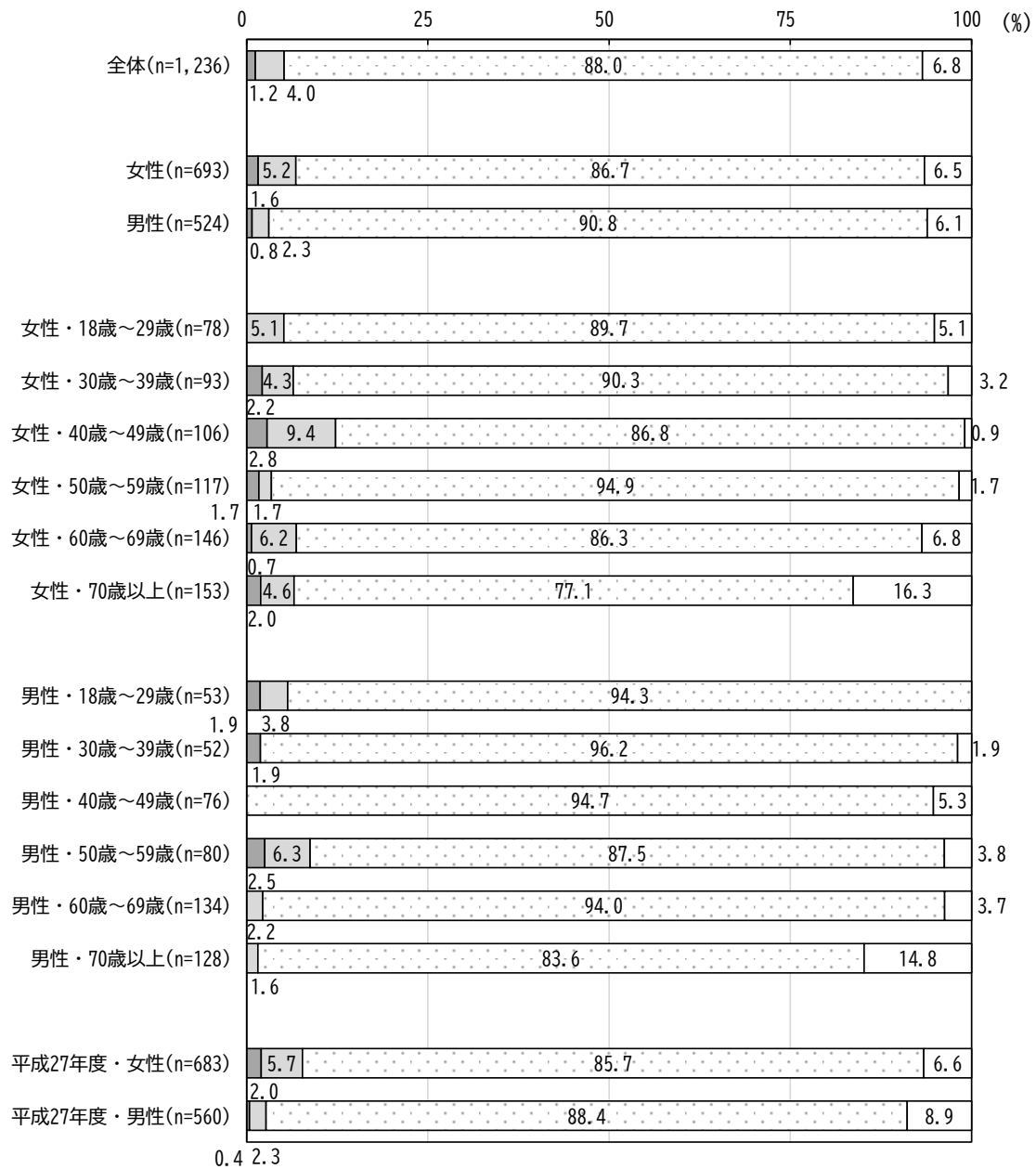
「何度もあった」が、女性では1.6%、男性では0.8%、「1、2度あった」が、女性では5.2%、男性では2.3%となっています。

また、「まったくなかった」が、女性では86.7%、男性では90.8%となっています。

配偶者や交際相手からの暴力の経験

①身体的な暴力

■ 何度もあった ▨ 1、2度あった ▩ まったくなかった □ 不明・無回答



② 心理的な暴力

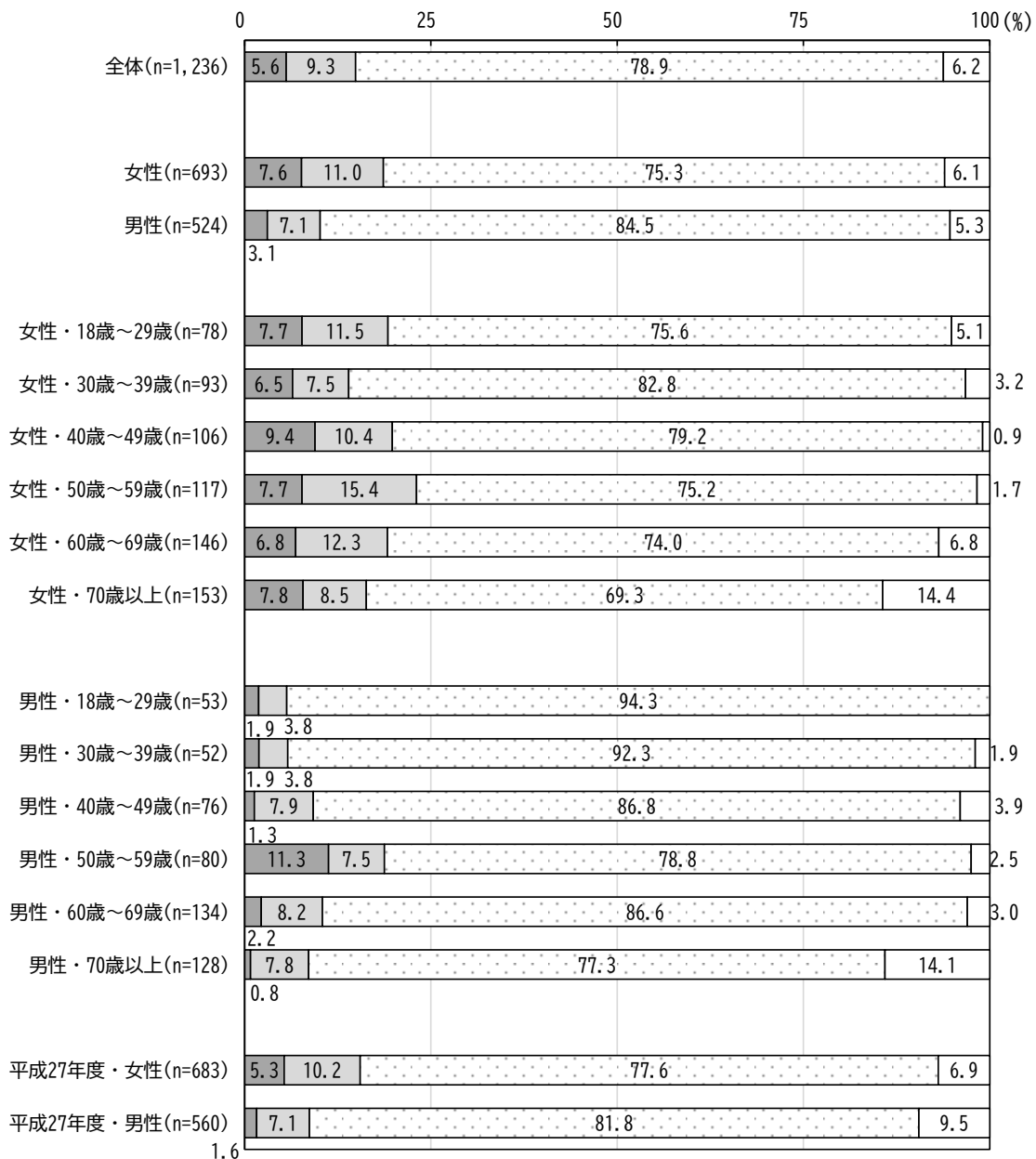
「何度もあった」が、女性では7.6%、男性では3.1%、「1、2度あった」が、女性では11.0%、男性では7.1%となっています。

また、「まったくなかった」が、女性では75.3%、男性では84.5%となっています。

配偶者や交際相手からの暴力の経験

②心理的な暴力

■ 何度もあった □ 1、2度あった ▨ まったくなかった □ 不明・無回答



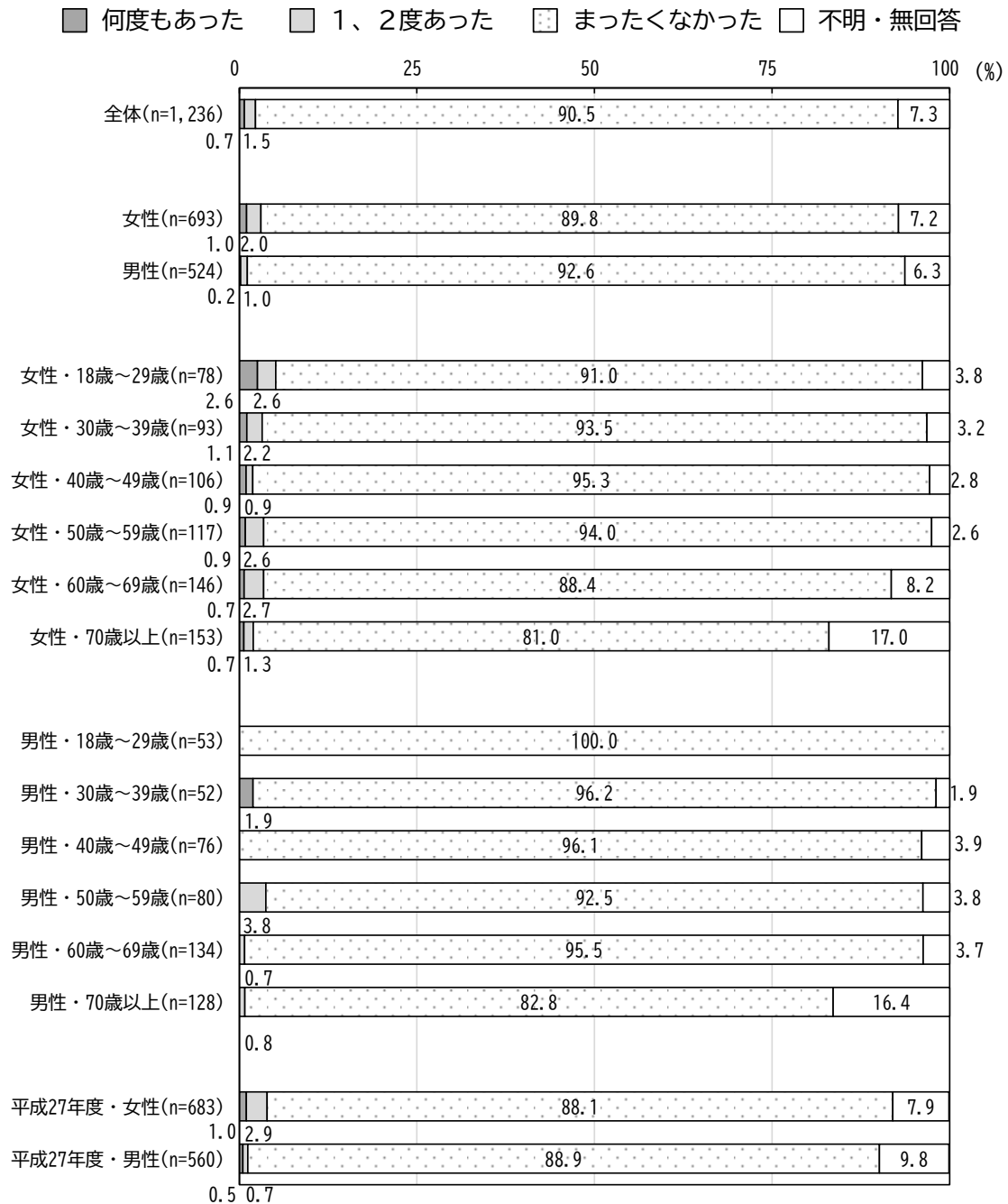
③ 性的な暴力

「何度もあった」が、女性では1.0%、男性では0.2%、「1、2度あった」が、女性では2.0%、男性では1.0%となっています。

また、「まったくなかった」が、女性では89.8%、男性では92.6%となっています。

配偶者や交際相手からの暴力の経験

③性的な暴力



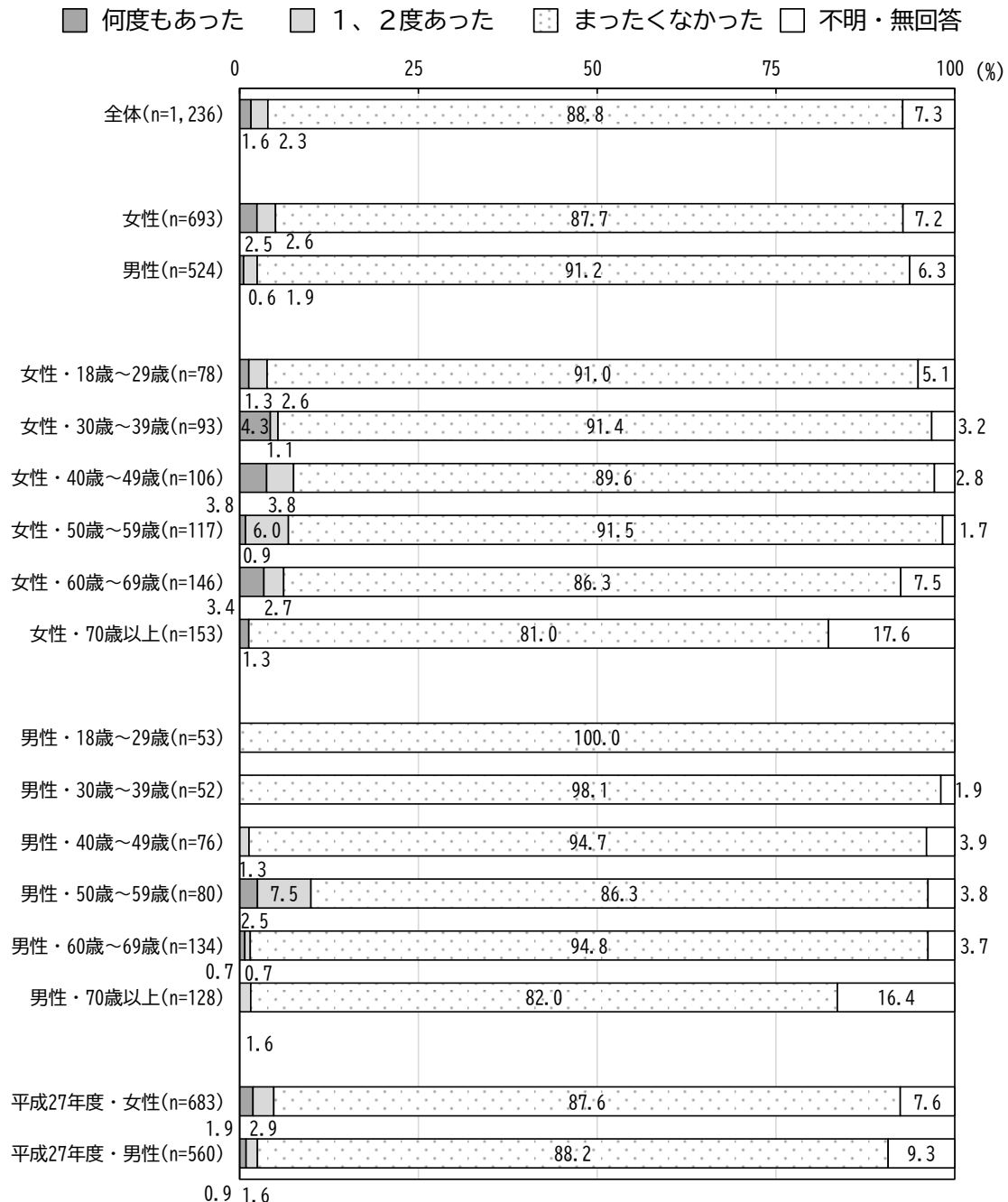
④ 経済的な暴力

「何度もあった」が、女性では2.5%、男性では0.6%、「1、2度あった」が、女性では2.6%、男性では1.9%となっています。

また、「まったくなかった」が、女性では87.7%、男性では91.2%となっています。

配偶者や交際相手からの暴力の経験

④経済的な暴力



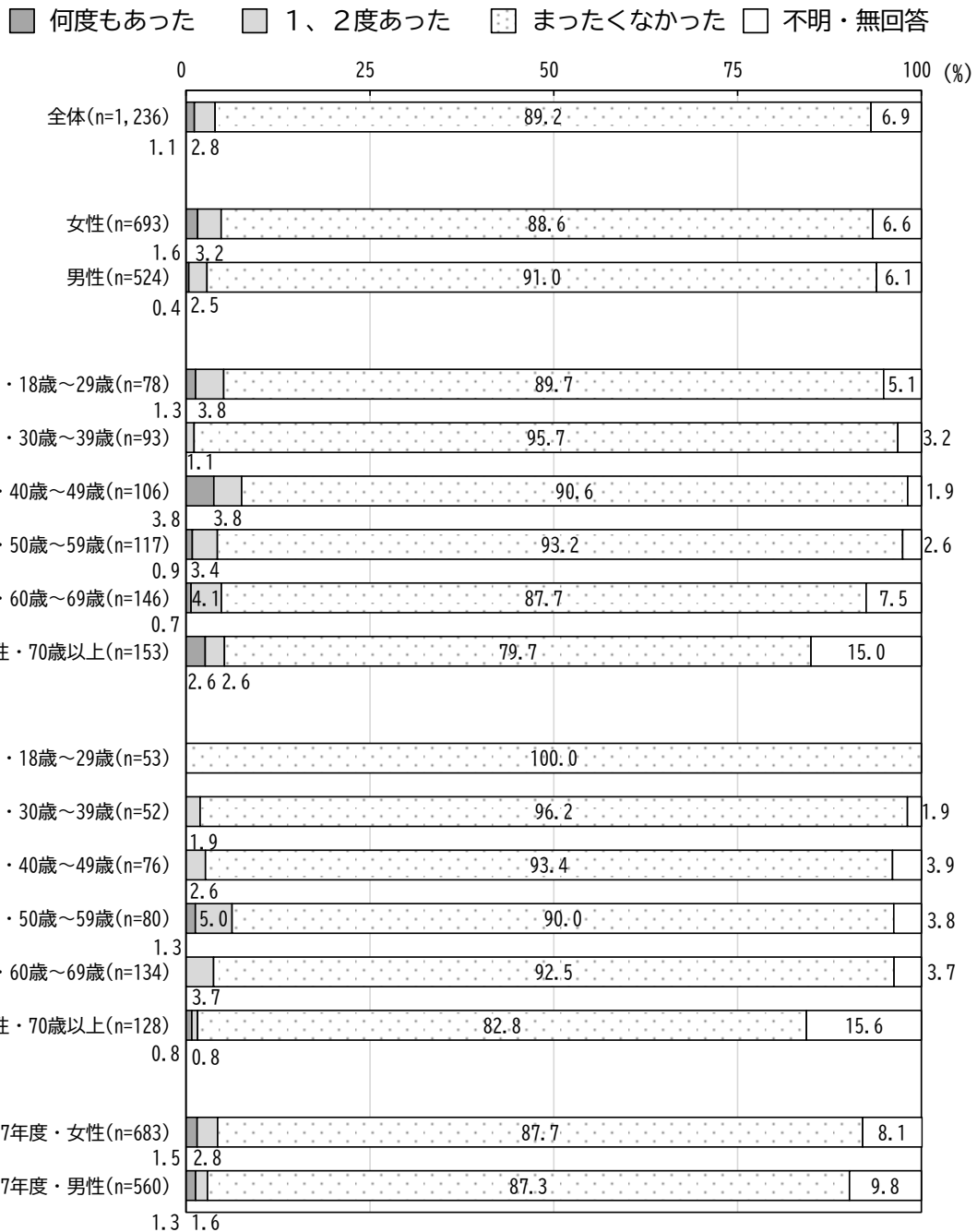
⑤ 社会的な暴力

「何度もあった」が、女性では1.6%、男性では0.4%、「1、2度あった」が、女性では3.2%、男性では2.5%となっています。

また、「まったくなかった」が、女性では88.6%、男性では91.0%となっています。

配偶者や交際相手からの暴力の経験

⑤社会的な暴力



(2) 配偶者や交際相手からの暴力に関する相談

<問 22 で「何度もあった」「1、2度あった」と答えた方におたずねします>

問 23 あなたは、これまでに配偶者または交際相手（同様の関係にある方を含みます。）から受けたそのような行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。（あてはまるものすべてに○）

男女ともに「どこ（誰）にも相談しなかった」が最も多く、女性で 51.0%、男性で 73.7% となっています。

次いで女性では「家族や親戚、友人・知人に相談した」が 42.2%、「警察に連絡・相談した」「民間の専門家や専門機関（弁護士、カウンセラー、民間シェルターなど）に相談した」が 2.0% などとなっています。男性では「家族や親戚、友人・知人に相談した」が 22.8%、「市町の行政機関に相談した」「民間の専門家や専門機関（弁護士、カウンセラー、民間シェルターなど）に相談した」「医療関係者（医者・看護師など）に相談した」が 1.8% などとなっています。

性別で比較すると、女性では「家族や親戚、友人・知人の相談した」が多く、男性では「どこ（誰）にも相談しなかった」が多くなっています。

配偶者や交際相手からの暴力に関する相談（複数回答）

	配偶者暴力相談支援センター（子ども家庭相談センター・男女共同参画センター）に相談した	警察に連絡・相談した	法務局・人権擁護委員に相談した	市町の行政機関に相談した	民生委員児童委員または社会福祉協議会の相談窓口相談した	民間の専門家や専門機関（弁護士、カウンセラー、民間シェルターなど）に相談した
全体(n=206)	0.5	1.5	0.0	1.0	0.0	1.9
女性(n=147)	0.7	2.0	0.0	0.7	0.0	2.0
男性(n=57)	0.0	0.0	0.0	1.8	0.0	1.8
女性・18歳～29歳(n=16)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
女性・30歳～39歳(n=16)	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5
女性・40歳～49歳(n=24)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
女性・50歳～59歳(n=30)	0.0	3.3	0.0	3.3	0.0	3.3
女性・60歳～69歳(n=30)	0.0	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0
女性・70歳以上(n=31)	0.0	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0
男性・18歳～29歳(n=4)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
男性・30歳～39歳(n=3)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
男性・40歳～49歳(n=8)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
男性・50歳～59歳(n=17)	0.0	0.0	0.0	5.9	0.0	5.9
男性・60歳～69歳(n=13)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
男性・70歳以上(n=12)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平成27年度・女性(n=138)	0.7	2.9	0.7	1.4	0.7	2.2
平成27年度・男性(n=63)	0.0	1.6	0.0	0.0	3.2	1.6

	医療関係者（医者・看護師など）に相談した	学校関係者（教員、養護教員、スクールカウンセラーなど）に相談した	家族や親戚、友人・知人に相談した	その他	どこ（誰）にも相談しなかった
全体(n=206)	1.0	0.5	36.9	4.9	57.3
女性(n=147)	0.7	0.7	42.2	6.8	51.0
男性(n=57)	1.8	0.0	22.8	0.0	73.7
女性・18歳～29歳(n=16)	0.0	6.3	25.0	18.8	56.3
女性・30歳～39歳(n=16)	0.0	0.0	56.3	12.5	37.5
女性・40歳～49歳(n=24)	4.2	0.0	50.0	0.0	50.0
女性・50歳～59歳(n=30)	0.0	0.0	50.0	3.3	46.7
女性・60歳～69歳(n=30)	0.0	0.0	46.7	6.7	46.7
女性・70歳以上(n=31)	0.0	0.0	25.8	6.5	64.5
男性・18歳～29歳(n=4)	0.0	0.0	25.0	0.0	75.0
男性・30歳～39歳(n=3)	0.0	0.0	33.3	0.0	66.7
男性・40歳～49歳(n=8)	0.0	0.0	25.0	0.0	75.0
男性・50歳～59歳(n=17)	0.0	0.0	17.6	0.0	76.5
男性・60歳～69歳(n=13)	7.7	0.0	23.1	0.0	69.2
男性・70歳以上(n=12)	0.0	0.0	25.0	0.0	75.0
平成27年度・女性(n=138)	0.7	0.7	43.5	2.2	47.8
平成27年度・男性(n=63)	1.6	0.0	14.3	4.8	69.8

(3) 配偶者や交際相手からの暴力を相談しなかった理由

<問 23 で「11 どころ（誰）にも相談しなかった」と答えた方におたずねします>

問 24 どこ（誰）にも相談しなかったのは、なぜですか。（あてはまるものすべてに○）

女性では「相談しても無駄と思ったから」が 45.3%で最も多く、次いで「相談するほどのことではないと思ったから」が 41.3%などとなっています。

男性では「相談するほどのことではないと思ったから」が 53.7%で最も多く、次いで「相談しても無駄と思ったから」が 36.6%などとなっています。

前回調査と比較すると、女性で「どこ（誰）に相談してよいのかわからなかったから」「相談しても無駄と思ったから」が多く、「自分にも悪いところがあると思ったから」「相談するほどのことではないと思ったから」が少なくなっています。

配偶者や交際相手からの暴力を相談しなかった理由（複数回答）

	どこ（誰）に相談してよいのかわからなかったから	恥ずかしくて誰にも言えなかったから	相談しても無駄と思ったから	相談したことがわかると、仕返しをされるなどもっとひどい暴力を受けると思ったから	自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
全体(n=117)	10.3	8.5	42.7	5.1	25.6
女性(n=75)	9.3	6.7	45.3	6.7	28.0
男性(n=41)	12.2	9.8	36.6	2.4	22.0
女性・18歳～29歳(n=9)	11.1	11.1	55.6	11.1	44.4
女性・30歳～39歳(n=6)	16.7	16.7	50.0	0.0	33.3
女性・40歳～49歳(n=12)	8.3	25.0	58.3	8.3	41.7
女性・50歳～59歳(n=14)	21.4	0.0	35.7	7.1	21.4
女性・60歳～69歳(n=14)	7.1	0.0	42.9	14.3	28.6
女性・70歳以上(n=20)	0.0	0.0	40.0	0.0	15.0
男性・18歳～29歳(n=3)	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0
男性・30歳～39歳(n=2)	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
男性・40歳～49歳(n=6)	16.7	16.7	0.0	0.0	33.3
男性・50歳～59歳(n=12)	8.3	8.3	41.7	0.0	16.7
男性・60歳～69歳(n=9)	11.1	0.0	33.3	0.0	33.3
男性・70歳以上(n=9)	22.2	11.1	55.6	11.1	22.2
平成27年度・女性(n=66)	1.5	13.6	25.8	3.0	21.2
平成27年度・男性(n=44)	9.1	20.5	29.5	2.3	15.9

	世間体が悪いと思ったから	他人を巻き込みたくなかったから	自分にも悪いところがあると思ったから	相談するほどのことではないと思ったから	その他
全体(n=117)	5.1	8.5	29.1	45.3	5.1
女性(n=75)	5.3	9.3	26.7	41.3	5.3
男性(n=41)	2.4	7.3	34.1	53.7	4.9
女性・18歳～29歳(n=9)	22.2	22.2	22.2	44.4	0.0
女性・30歳～39歳(n=6)	0.0	0.0	33.3	83.3	0.0
女性・40歳～49歳(n=12)	16.7	16.7	33.3	33.3	0.0
女性・50歳～59歳(n=14)	0.0	7.1	14.3	35.7	14.3
女性・60歳～69歳(n=14)	0.0	7.1	35.7	42.9	7.1
女性・70歳以上(n=20)	0.0	5.0	25.0	35.0	5.0
男性・18歳～29歳(n=3)	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0
男性・30歳～39歳(n=2)	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
男性・40歳～49歳(n=6)	16.7	0.0	16.7	50.0	0.0
男性・50歳～59歳(n=12)	0.0	8.3	16.7	50.0	16.7
男性・60歳～69歳(n=9)	0.0	22.2	55.6	88.9	0.0
男性・70歳以上(n=9)	0.0	0.0	55.6	33.3	0.0
平成27年度・女性(n=66)	6.1	9.1	42.4	60.6	-
平成27年度・男性(n=44)	6.8	4.5	43.2	54.5	-

(4) DVに関する相談機関の認知

問 25 あなたは、DV（ドメスティック・バイオレンス）に関して、次の相談窓口があることを知っていますか。（知っているものすべてに○）

男女ともに「警察」が最も多く、女性で60.0%、男性で61.4%となっています。次いで「東近江市役所の相談窓口」が、女性で38.4%、男性で39.8%、「すべて知らない」が、女性で23.7%、男性で25.7%などとなっています。

性別で比較すると、女性で「女性の人権ホットライン（大津地方法務局）」が多くなっています。

前回調査と比較すると、男女ともに「東近江市役所の相談窓口」「警察」が多く、「すべて知らない」が少なくなっています。

DVに関する相談機関の認知（複数回答）

	東近江市役所の相談窓口	滋賀県配偶者暴力相談支援センター	滋賀県立彦根子ども家庭相談センター	滋賀県立男女共同参画センター（G-N E Tしが）	女性の人権ホットライン（大津地方法務局）
全体(n=1,236)	38.8	5.1	12.1	19.3	11.8
女性(n=693)	38.4	5.1	12.5	19.3	15.0
男性(n=524)	39.8	5.2	11.6	19.5	7.8
女性・18歳～29歳(n=78)	31.6	9.2	10.5	13.2	17.1
女性・30歳～39歳(n=93)	27.2	5.4	10.9	14.1	20.7
女性・40歳～49歳(n=106)	38.5	3.8	12.5	16.3	16.3
女性・50歳～59歳(n=117)	41.4	7.8	15.5	25.0	13.8
女性・60歳～69歳(n=146)	46.0	3.6	18.0	26.6	15.8
女性・70歳以上(n=153)	39.3	3.0	6.7	16.3	8.9
男性・18歳～29歳(n=53)	34.0	3.8	11.3	15.1	3.8
男性・30歳～39歳(n=52)	21.2	0.0	5.8	5.8	1.9
男性・40歳～49歳(n=76)	28.0	4.0	9.3	13.3	8.0
男性・50歳～59歳(n=80)	40.0	8.0	9.3	17.3	5.3
男性・60歳～69歳(n=134)	45.3	8.6	16.4	26.6	10.9
男性・70歳以上(n=128)	51.8	3.5	11.4	25.4	10.5
平成27年度・女性(n=683)	18.4	4.7	-	16.1	13.2
平成27年度・男性(n=560)	19.6	5.0	-	16.6	7.3

	犯罪被害者相談窓口 （公益社団法人おうみ犯罪被害者支援センター）	性暴力被害者総合ケア アワンストップびわ湖（SATOCO）	警察	すべて知らない
全体(n=1,236)	3.7	2.8	60.5	24.7
女性(n=693)	2.7	3.0	60.0	23.7
男性(n=524)	5.2	2.6	61.4	25.7
女性・18歳～29歳(n=78)	1.3	6.6	71.1	13.2
女性・30歳～39歳(n=93)	2.2	4.3	63.0	23.9
女性・40歳～49歳(n=106)	1.0	2.9	64.4	18.3
女性・50歳～59歳(n=117)	6.0	4.3	56.0	28.4
女性・60歳～69歳(n=146)	2.9	2.2	62.6	20.9
女性・70歳以上(n=153)	2.2	0.0	48.9	32.6
男性・18歳～29歳(n=53)	1.9	0.0	64.2	28.3
男性・30歳～39歳(n=52)	0.0	0.0	61.5	32.7
男性・40歳～49歳(n=76)	6.7	2.7	69.3	24.0
男性・50歳～59歳(n=80)	5.3	2.7	61.3	26.7
男性・60歳～69歳(n=134)	7.8	5.5	61.7	24.2
男性・70歳以上(n=128)	5.3	1.8	54.4	23.7
平成27年度・女性(n=683)	5.4	-	44.4	35.1
平成27年度・男性(n=560)	5.5	-	40.2	43.6

(5) 職場や地域等の社会的な場で不快な言動を受けた経験

問 26 あなたは過去5年以内に、職場や地域など社会的な場で、以下のような言動をされて不快な思いをした（セクシャル・ハラスメントを受けた）ことはありますか。（あてはまるものすべてに○）

不快な言動を受けた経験のある人について、男女ともに「特にない」が最も多く、女性で 85.0%、男性で 93.4%となっています。

「特にない」を除くと、男女ともに「容姿・服装・婚姻状況（未婚・既婚・離婚）などについてからかわれた」が最も多く、女性で 8.2%、男性で 4.6%となっています。

性別で比較すると、女性で「容姿・服装・婚姻状況（未婚・既婚・離婚）などについてからかわれた」「性的な話題（自分が直接の対象でない場合を含む）を聞かされた」などが多くなっています。

前回調査と比較すると、男女ともに「特にない」が多くなっています。また、女性では「容姿・服装・婚姻状況（未婚・既婚・離婚）などについてからかわれた」「性的な話題（自分が直接の対象でない場合を含む）を聞かされた」が多くなっています。

職場や地域等の社会的な場で不快な言動を受けた経験（複数回答）

(%)

	容姿・服装・婚姻状況（未婚・既婚・離婚）などについてからかわれた	性的な話題（自分が直接の対象でない場合を含む）を聞かされた	ヌード画像等が見えるところに置かれていた	必要のない場面で相手から身体的接触を受けた	上司や先輩、顧客などの立場を利用した性的な誘いや強要を受けた	その他	特にない
全体(n=1,236)	6.7	3.9	0.5	2.9	1.2	1.2	88.5
女性(n=693)	8.2	6.2	0.9	4.6	1.7	1.3	85.0
男性(n=524)	4.6	1.0	0.0	0.8	0.4	0.8	93.4
女性・18歳～29歳(n=78)	16.2	12.2	2.7	12.2	5.4	4.1	68.9
女性・30歳～39歳(n=93)	17.6	6.6	0.0	4.4	3.3	3.3	75.8
女性・40歳～49歳(n=106)	12.0	9.0	2.0	5.0	1.0	0.0	80.0
女性・50歳～59歳(n=117)	6.1	7.9	1.8	5.3	0.9	0.9	87.7
女性・60歳～69歳(n=146)	3.8	3.1	0.0	3.8	0.8	0.8	90.0
女性・70歳以上(n=153)	0.0	1.6	0.0	0.0	0.8	0.0	97.6
男性・18歳～29歳(n=53)	1.9	3.8	0.0	1.9	0.0	0.0	96.2
男性・30歳～39歳(n=52)	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	5.8	88.5
男性・40歳～49歳(n=76)	9.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	90.4
男性・50歳～59歳(n=80)	6.8	4.1	0.0	0.0	1.4	1.4	87.7
男性・60歳～69歳(n=134)	3.3	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	95.1
男性・70歳以上(n=128)	0.9	0.0	0.0	0.9	0.9	0.0	98.1
平成27年度・女性(n=683)	5.1	3.4	0.1	3.2	1.2	-	77.3
平成27年度・男性(n=560)	2.9	1.6	0.2	0.4	0.0	-	84.1

7 男女共同参画社会について

(1) 性別役割分担意識について

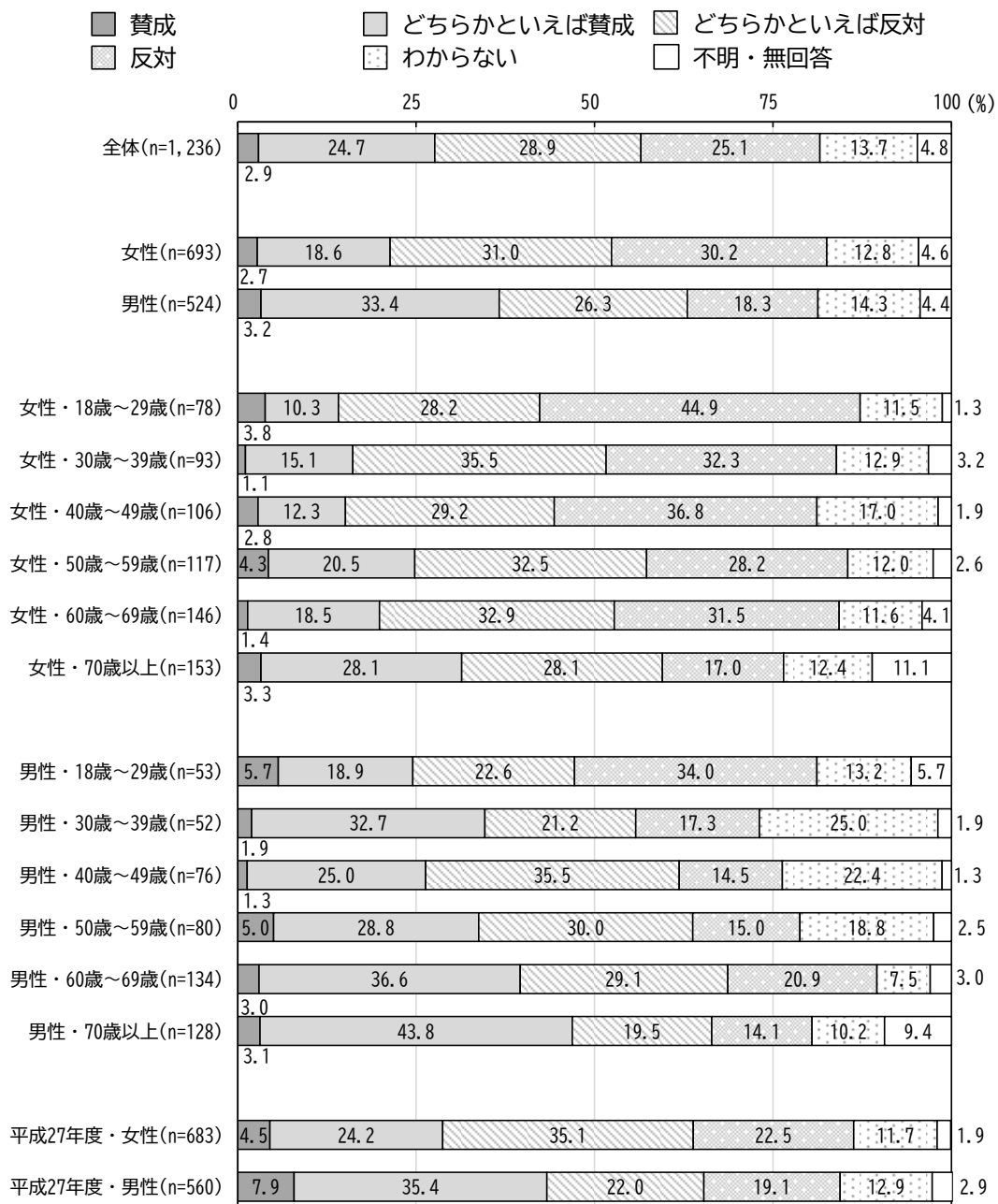
問 27 「男は仕事、女は家事・育児」という考え方について、あなたはどのように思いますか。(1つに○)

女性では「どちらかといえば反対」が 31.0%と最も多く、次いで「反対」が 30.2%、「どちらかといえば賛成」が 18.6%となっています。男性では「どちらかといえば賛成」が 33.4%と最も多く、次いで「どちらかといえば反対」が 26.3%、「反対」が 18.3%となっています。

性別で比較すると、女性では「反対」が多く、男性では「どちらかといえば賛成」が多くなっています。

前回調査と比較すると、女性では「反対」が多く、「賛成」が少なくなっています。男性では「どちらかといえば反対」が多く、「賛成」が少なくなっています。

性別役割分担意識について

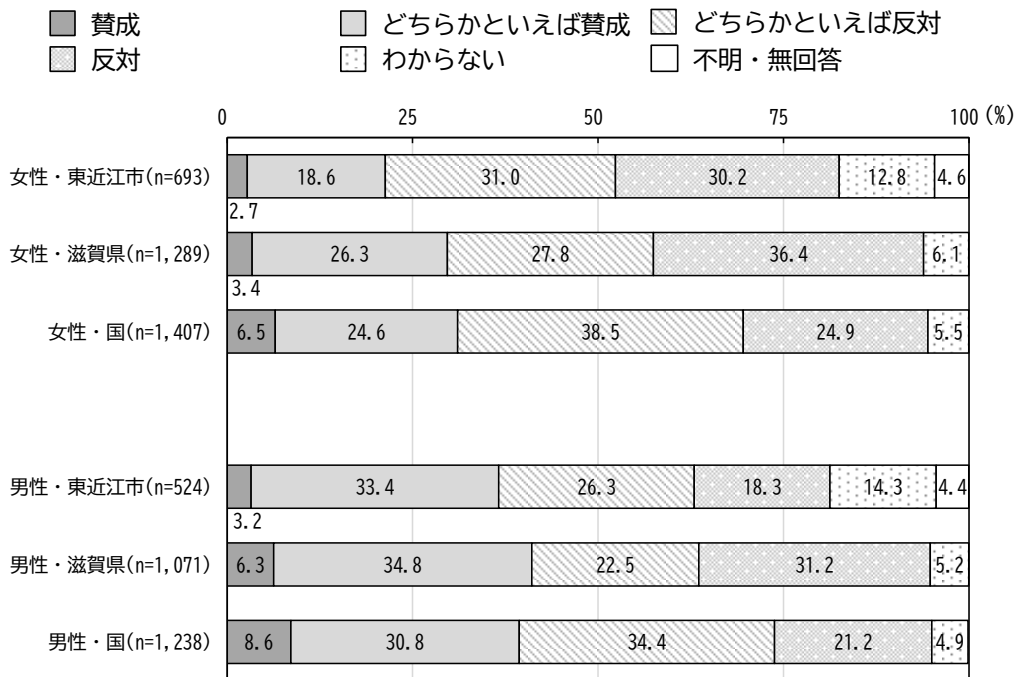


〔県・国との比較〕

県と比較すると、女性では「どちらかといえば反対」が多く、「どちらかといえば賛成」が少なくなっています。男性では「どちらかといえば反対」が多く、「賛成」「反対」が少なくなっています。

国と比較すると、女性では「反対」が多く、「賛成」が少なくなっています。また、男性では「どちらかといえば賛成」が多く、「賛成」が少なくなっています。

性別役割分担意識について



※ 県調査の回答項目は、「同感する」「どちらかといえば同感する方である」「どちらかといえば同感しない方である」「同感しない」「わからない」となっています。

※ 県調査・国調査の回答数には、この設問での「不明・無回答」が含まれていません。

(2) 男女の地位の平等感

問 28 あなたは次のような分野で、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。
 (①～⑨それぞれ1つに○)

(全体)

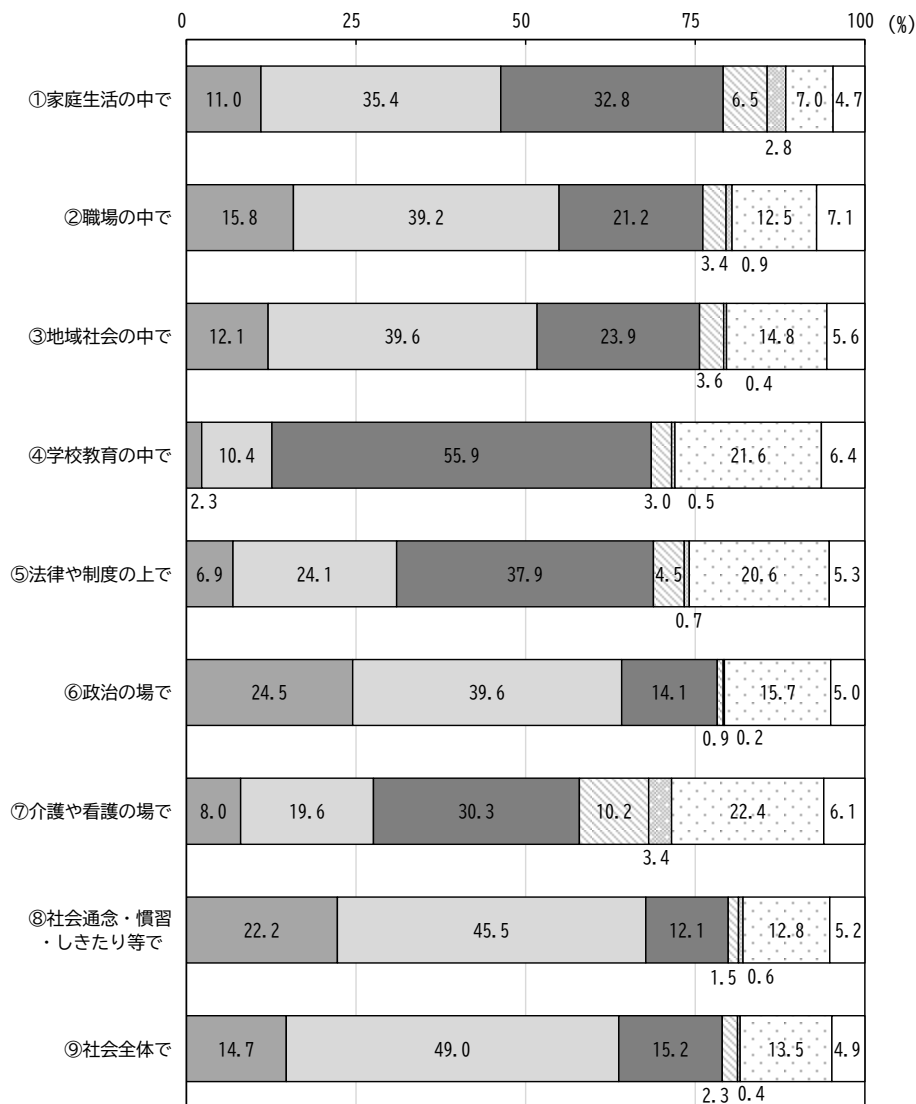
「平等である」が最も多いのは、「学校教育の中で」で 55.9%、次いで「法律や制度の上で」が 37.9%、「家庭生活の中で」が 32.8%などとなっています。

不平等について、「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計が最も多いのは、「社会通念・慣習・しきたり等で」67.7%、次いで「政治の場で」64.1%、「社会全体で」63.7%などとなっています。

「女性が優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」の合計が最も多いのは、「介護や看護の場で」13.6%、次いで「家庭生活の中で」9.3%、「法律や制度の上で」5.2%などとなっています。

男女の地位の平等感 [全体]

- 男性が優遇されている
- どちらかといえば男性が優遇されている
- 平等である
- どちらかといえば女性が優遇されている
- 女性が優遇されている
- わからない
- 不明・無回答



① 家庭生活の中で

女性では「どちらかといえば男性が優遇されている」が 39.1%と最も多く、次いで「平等である」が 27.4%、「男性が優遇されている」が 16.0%などとなっています。

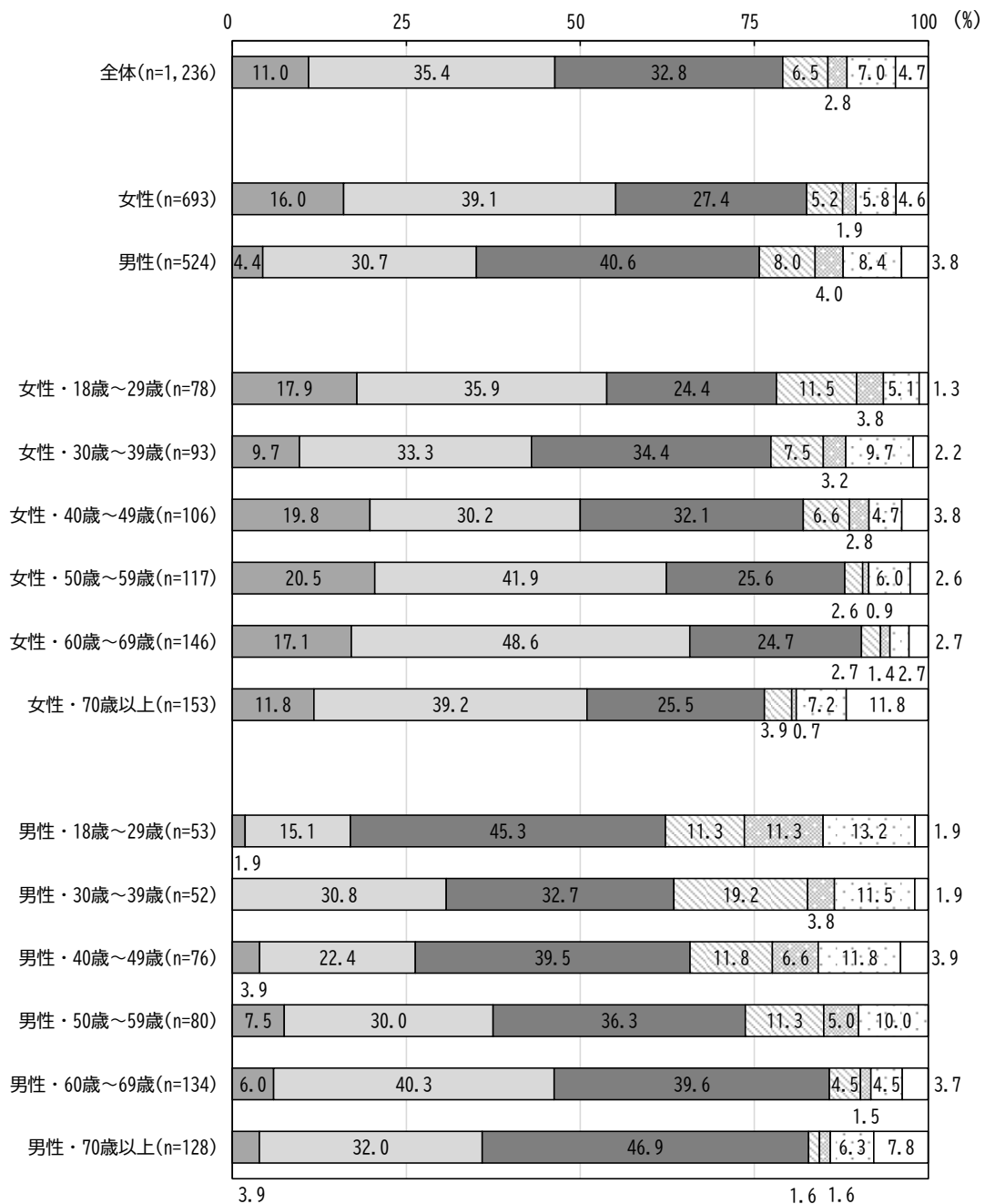
男性では「平等である」が 40.6%と最も多く、次いで「どちらかといえば男性が優遇されている」が 30.7%、「どちらかといえば女性が優遇されている」が 8.0%などとなっています。

性別で比較すると、女性では「男性が優遇されている」が多く、男性では「平等である」が多くなっています。

男女の地位の平等感

①家庭生活の中で

- 男性が優遇されている
- どちらかといえば男性が優遇されている
- 平等である
- ▨ どちらかといえば女性が優遇されている
- ▩ 女性が優遇されている
- わからない
- 不明・無回答



〔県・国との比較〕

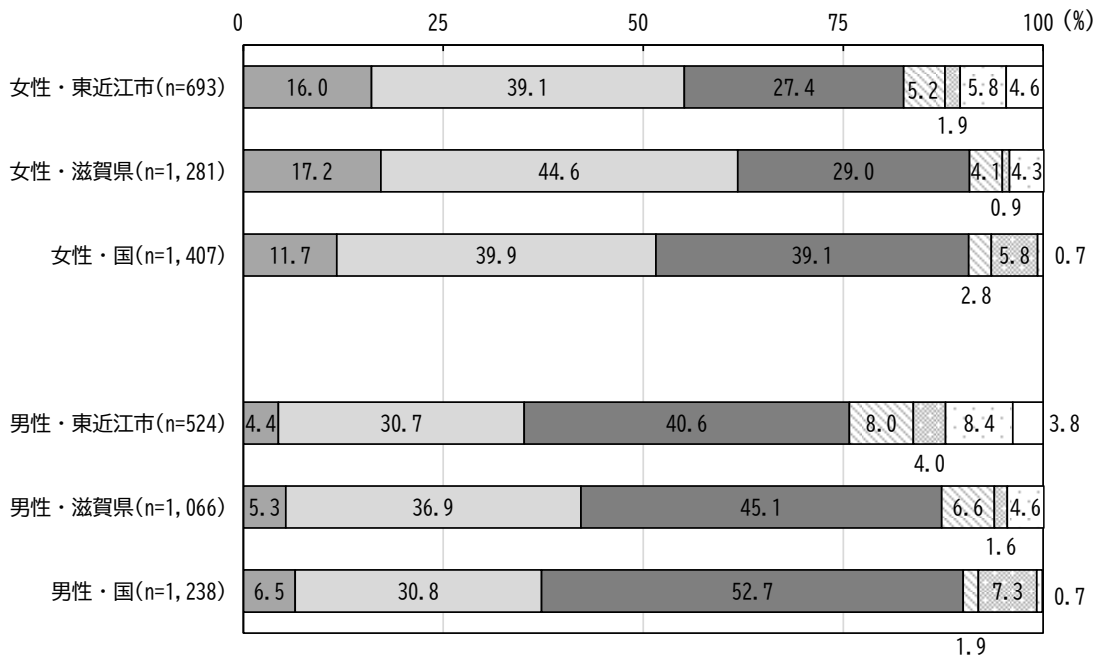
県と比較すると、男性では「女性が優遇されている」が多くなっています。

国と比較すると、男女ともに「平等である」「女性が優遇されている」が少なくなっています。また、女性では「男性が優遇されている」が多くなっています。

男女の地位の平等感

①家庭生活の中で

- 男性が優遇されている
- どちらかといえば男性が優遇されている
- 平等である
- ▨ どちらかといえば女性が優遇されている
- ▨ 女性が優遇されている
- わからない
- 不明・無回答



※ 県調査・国調査の回答数には、この設問での「不明・無回答」が含まれていません。

② 職場の中で

女性では「どちらかといえば男性が優遇されている」が 36.5%と最も多く、次いで「男性が優遇されている」が 19.3%、「平等である」が 18.5%などとなっています。

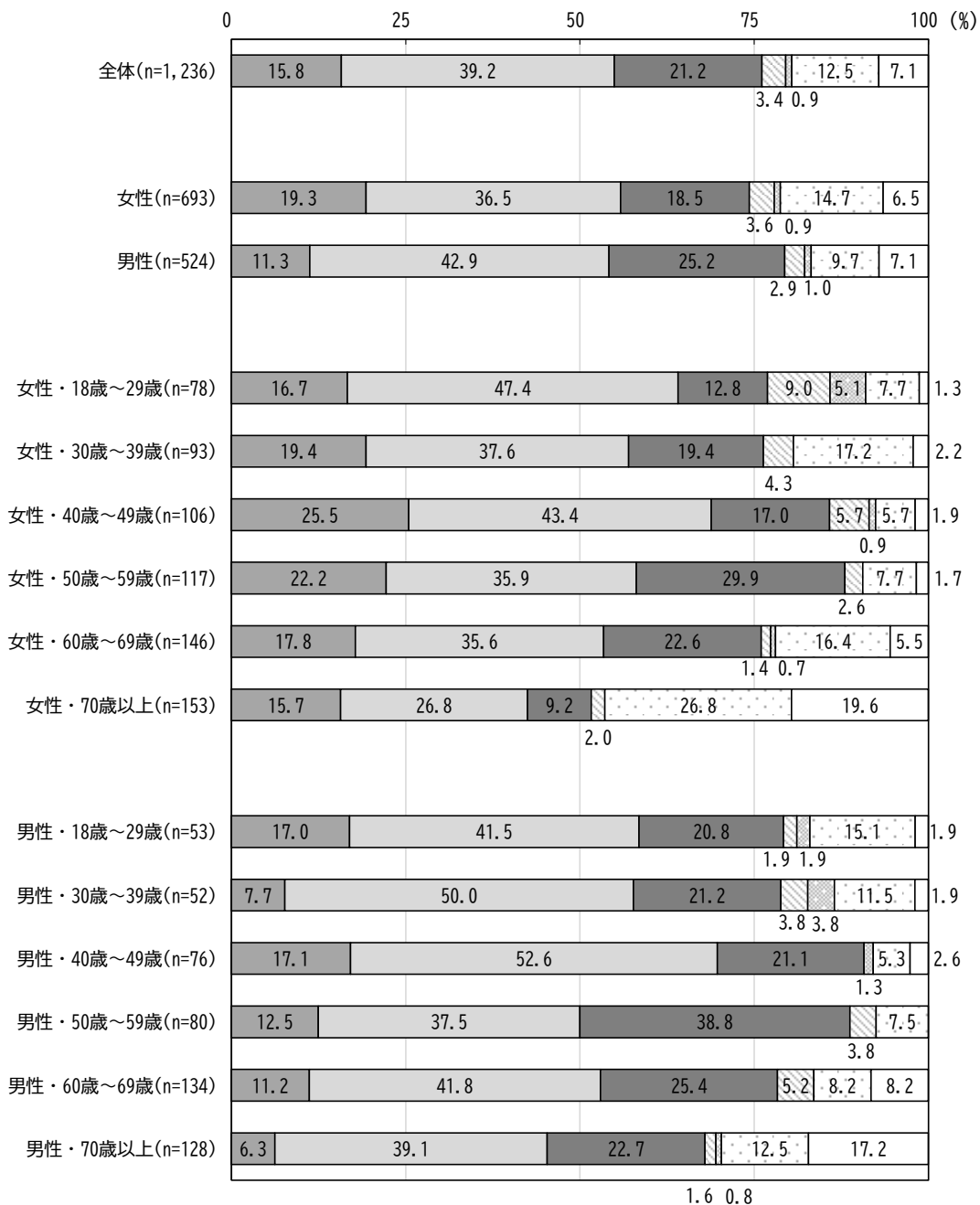
男性では「どちらかといえば男性が優遇されている」が 42.9%と最も多く、次いで「平等である」が 25.2%、「男性が優遇されている」が 11.3%などとなっています。

性別で比較すると、女性では「男性が優遇されている」が多く、男性では「どちらかといえば男性が優遇されている」「平等である」が多くなっています。

男女の地位の平等感

②職場の中で

- 男性が優遇されている
- どちらかといえば男性が優遇されている
- 平等である
- ▨ どちらかといえば女性が優遇されている
- ▩ 女性が優遇されている
- わからない
- 不明・無回答



〔県・国との比較〕

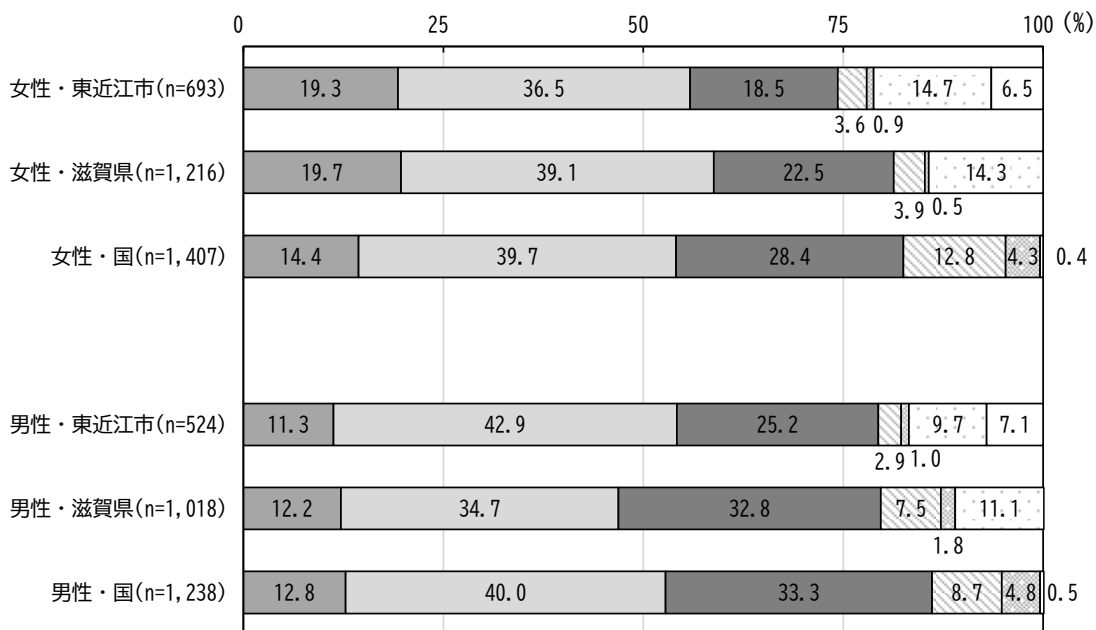
県と比較すると、男性で「どちらかといえば男性が優遇されている」が多く、「平等である」「どちらかといえば女性が優遇されている」が少なくなっています。

国と比較すると、男女ともに「平等である」「どちらかといえば女性が優遇されている」が少なくなっています。また、女性では「男性が優遇されている」が多くなっています。男性では「どちらかといえば男性が優遇されている」が多くなっています。

男女の地位の平等感

②職場の中で

- 男性が優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性が優遇されている
- 不明・無回答
- 平等である
- ▨ 女性が優遇されている
- わからない



※ 県調査・国調査の回答数には、この設問での「不明・無回答」が含まれていません。

③ 地域社会の中で

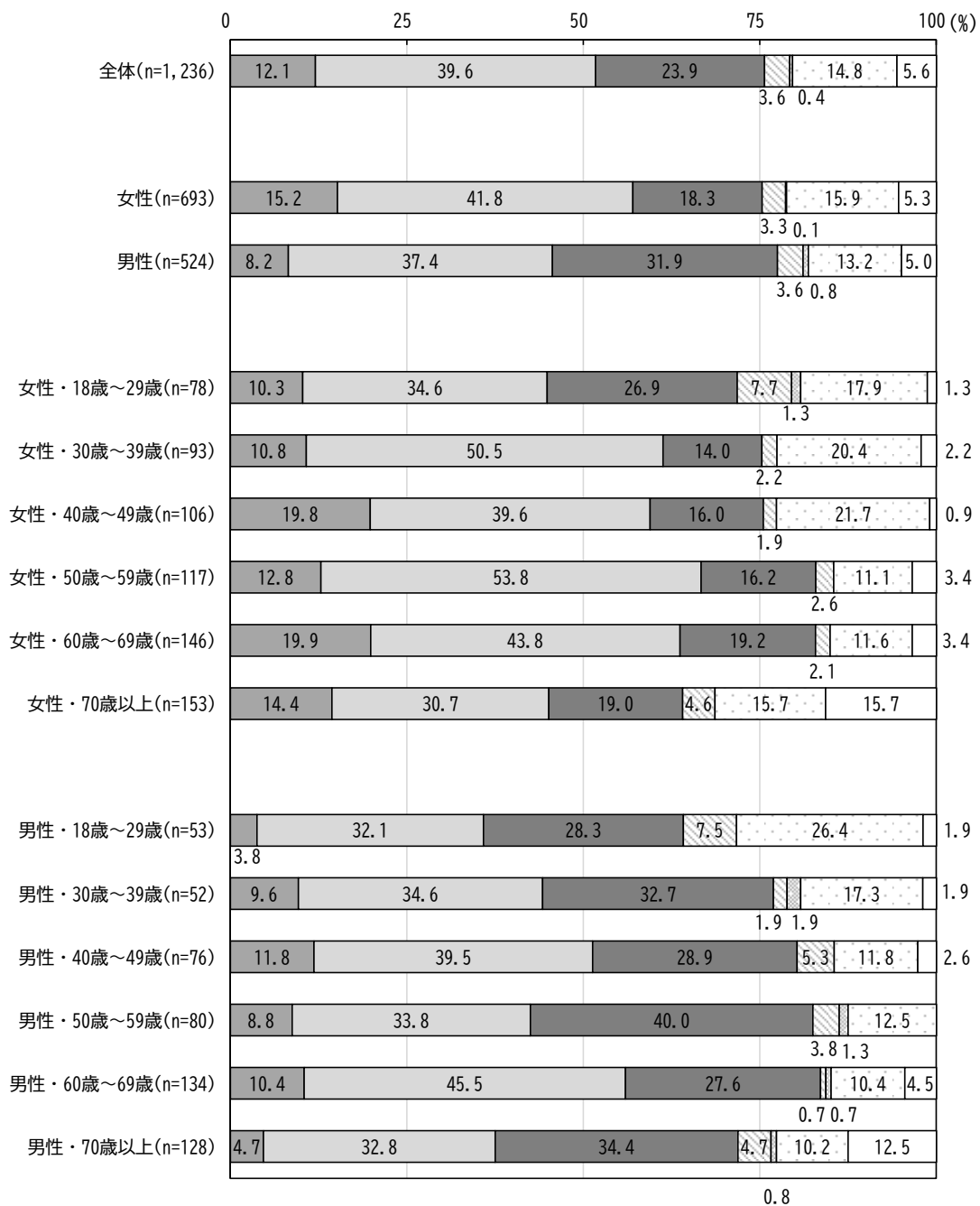
男女ともに「どちらかといえば男性が優遇されている」が最も多く、女性では 41.8%、男性では 37.4%となっています。次いで「平等である」が、女性では 18.3%、男性では 31.9%などとなっています。

性別で比較すると、女性では「男性が優遇されている」が多く、男性では「平等である」が多くなっています。

男女の地位の平等感

③地域社会の中で

- 男性が優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性が優遇されている
- 平等である
- ▨ どちらかといえば女性が優遇されている
- ▨ 女性が優遇されている
- わからない
- 不明・無回答



〔県・国との比較〕

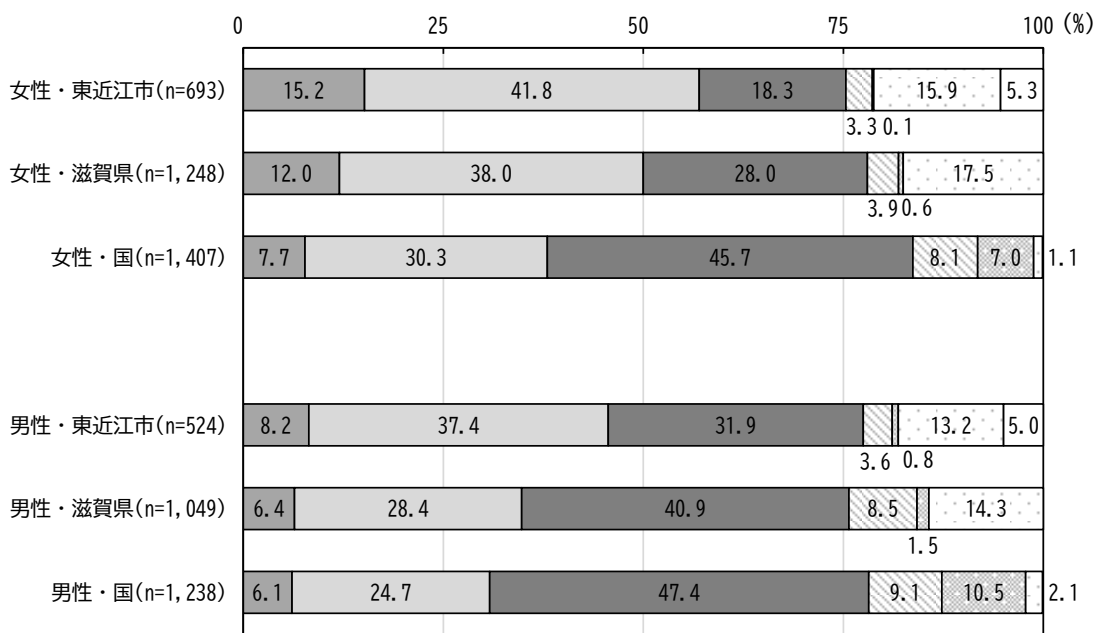
県と比較すると、男女ともに「どちらかといえば男性が優遇されている」が多く、「平等である」が少なくなっています。また、女性で「男性が優遇されている」が多くなっています。男性では「どちらかといえば女性が優遇されている」が少なくなっています。

国と比較すると、男女ともに「どちらかといえば男性が優遇されている」が多く、「平等である」「女性が優遇されている」が少なくなっています。

男女の地位の平等感

③地域社会の中で

- 男性が優遇されている
- どちらかといえば男性が優遇されている
- 平等である
- ▨ どちらかといえば女性が優遇されている
- ▨ 女性が優遇されている
- わからない
- 不明・無回答



※ 県調査・国調査の回答数には、この設問での「不明・無回答」が含まれていません。

④ 学校教育の中で

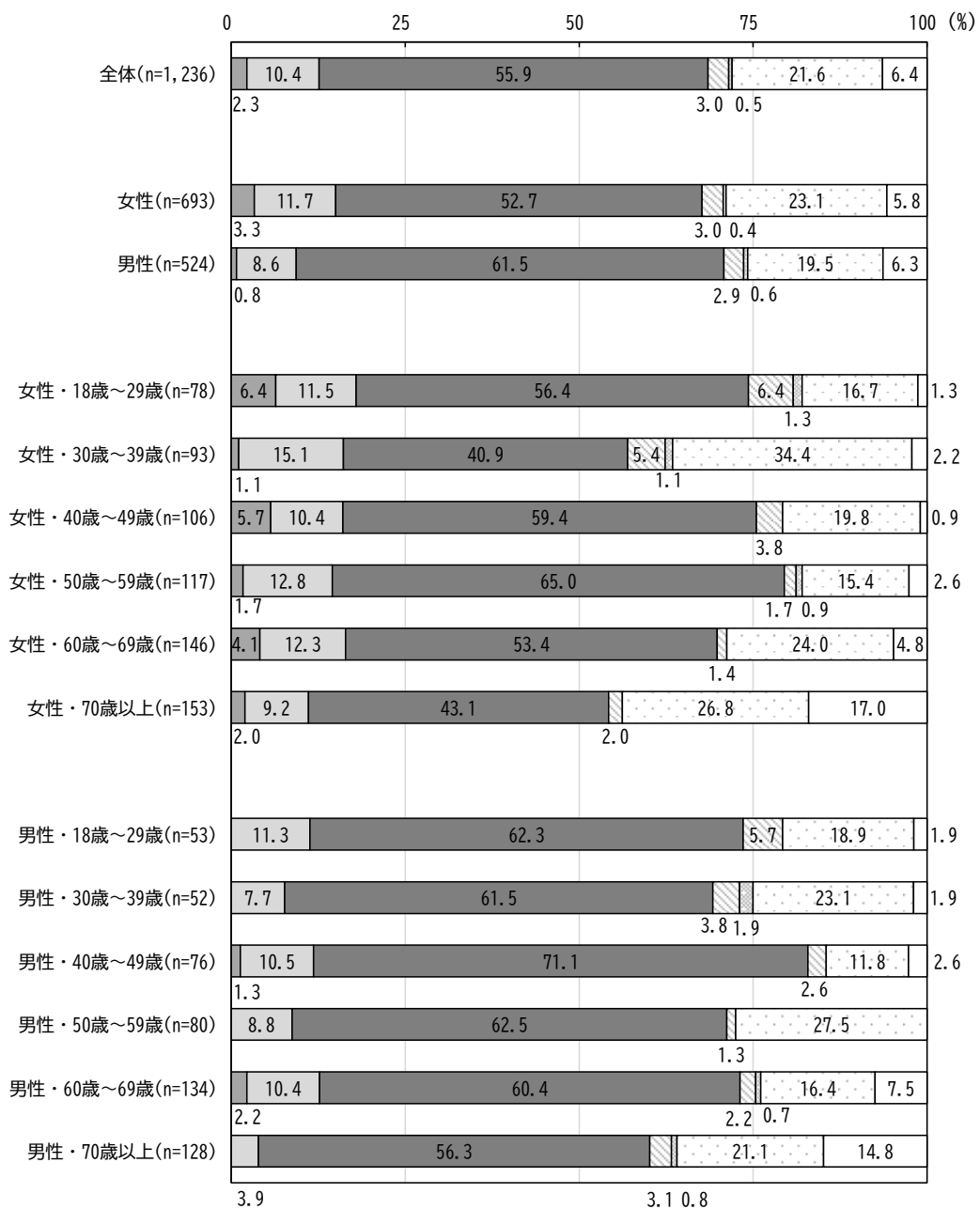
男女ともに「平等である」が最も多く、女性では 52.7%、男性では 61.5%となっています。次いで「わからない」が、女性では 23.1%、男性では 19.5%、「どちらかといえば男性が優遇されている」が、女性では 11.7%、男性では 8.6%などとなっています。

性別で比較すると、女性では「男性が優遇されている」が多く、男性では「平等である」が多くなっています。

男女の地位の平等感

④学校教育の中で

- 男性が優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性が優遇されている
- 平等である
- ▨ どちらかといえば女性が優遇されている
- ▨ 女性が優遇されている
- わからない
- 不明・無回答



〔県・国との比較〕

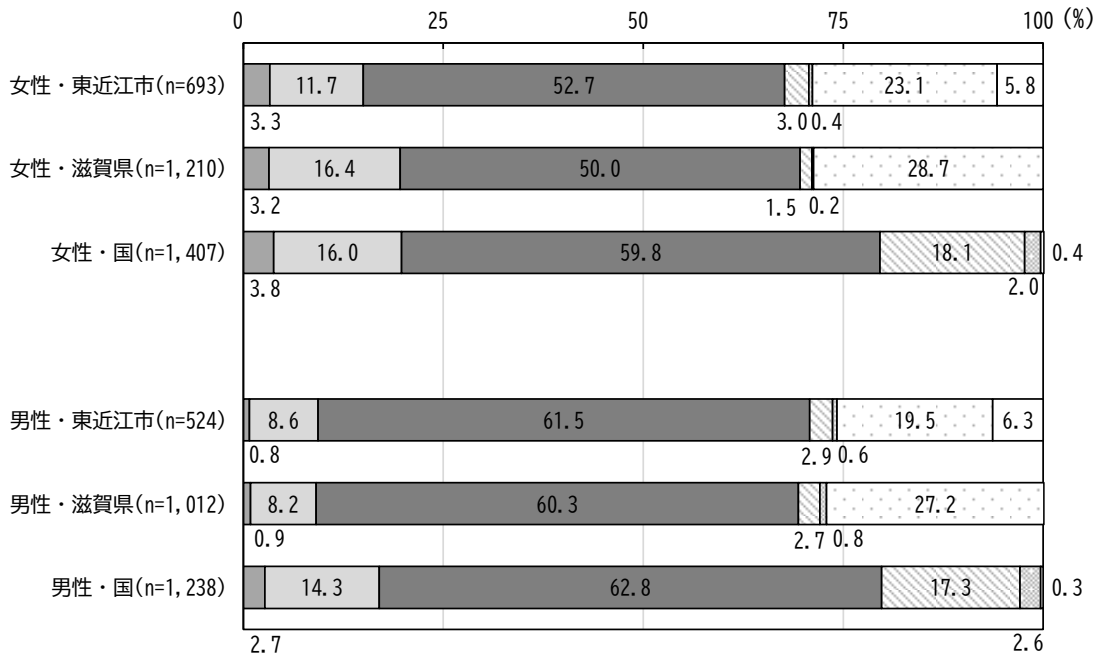
県と比較すると、女性で「平等である」「どちらかといえば女性が優遇されている」が多くなっています。

国と比較すると、男女ともに「どちらかといえば女性が優遇されている」が少なくなっています。

男女の地位の平等感

④学校教育の中で

- 男性が優遇されている
- どちらかといえば男性が優遇されている
- 平等である
- ▨ どちらかといえば女性が優遇されている
- ▨ 女性が優遇されている
- わからない
- 不明・無回答



※ 県調査・国調査の回答数には、この設問での「不明・無回答」が含まれていません。

⑤ 法律や制度の上で

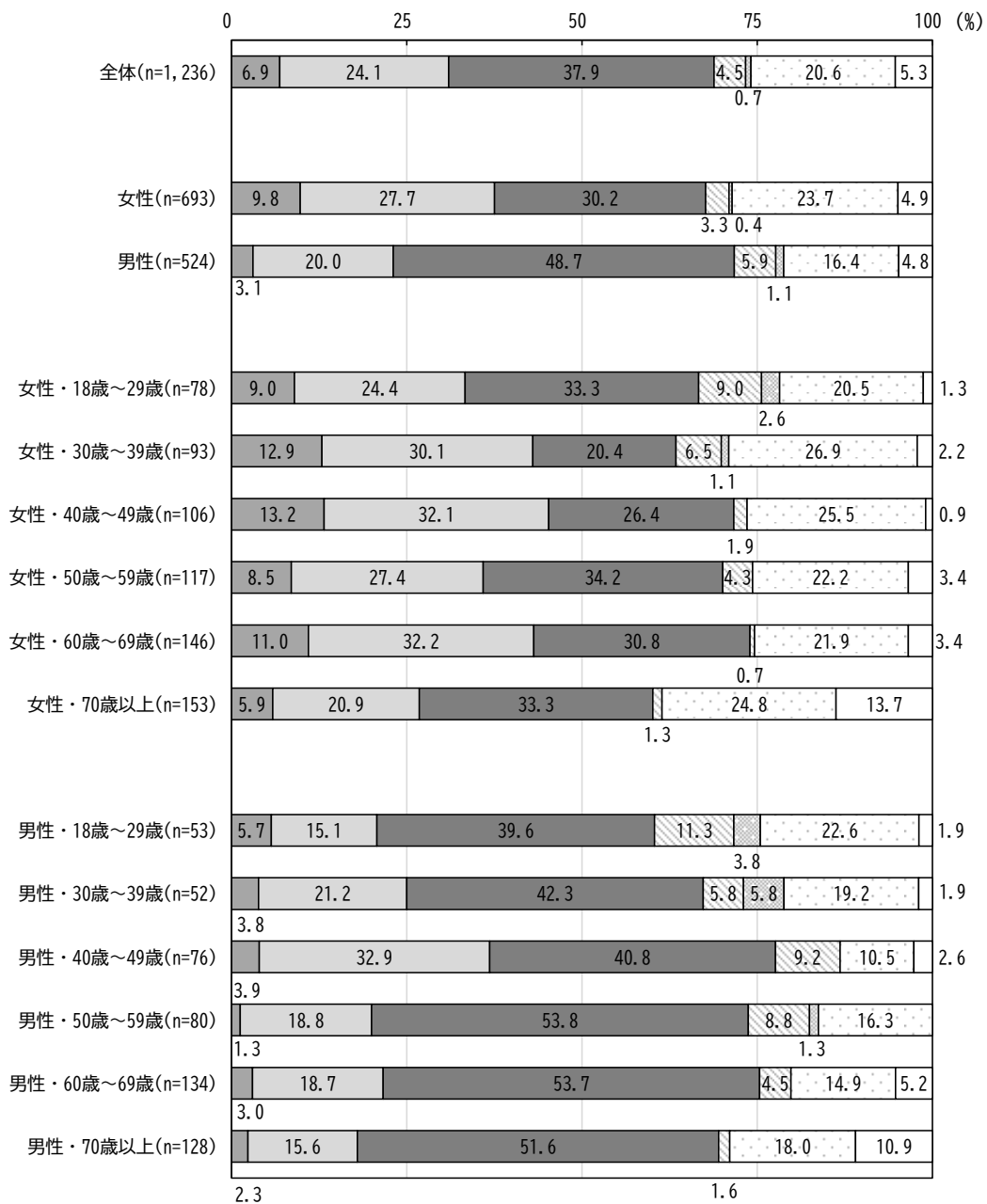
男女ともに「平等である」が最も多く、女性では 30.2%、男性では 48.7%となっています。次いで「どちらかといえば男性が優遇されている」が、女性では 27.7%、男性では 20.0%などとなっています。

性別で比較すると、女性では「男性が優遇されている」が多く、男性では「平等である」が多くなっています。

男女の地位の平等感

⑤法律や制度の中で

- 男性が優遇されている
- どちらかといえば男性が優遇されている
- 平等である
- ▨ どちらかといえば女性が優遇されている
- ▩ 女性が優遇されている
- わからない
- 不明・無回答



〔県・国との比較〕

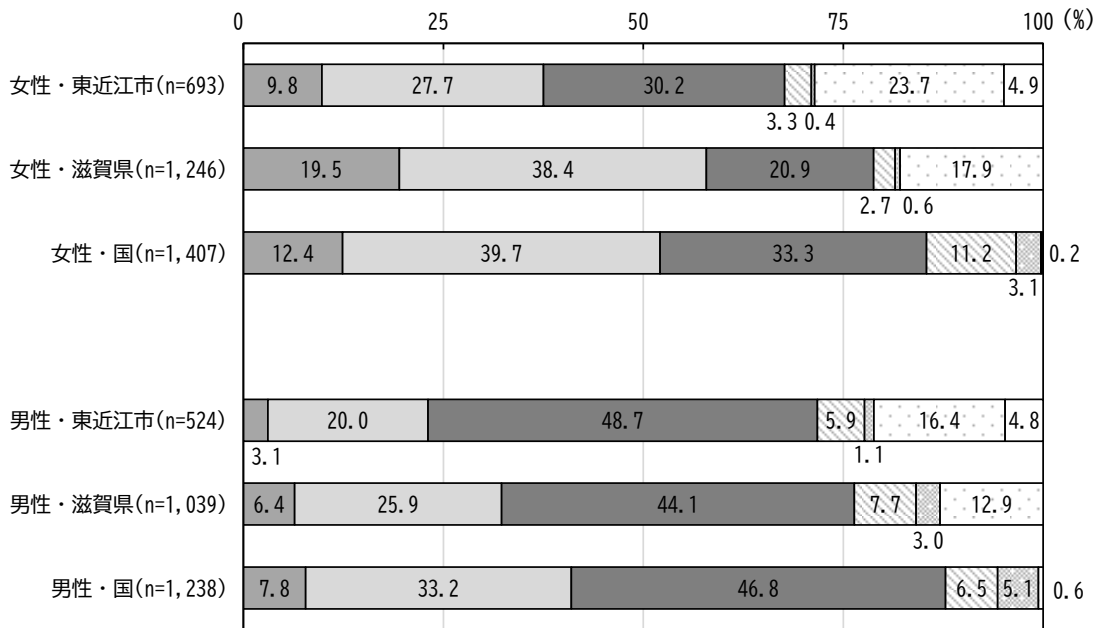
県と比較すると、男女ともに「男性が優遇されている」が少なく、「平等である」が多くなっています。また、女性で「どちらかといえば男性が優遇されている」が少なくなっています。

国と比較すると、男女ともに「どちらかといえば男性が優遇されている」が少なくなっています。また、女性では「どちらかといえば女性が優遇されている」が少なく、男性では「男性が優遇されている」「女性が優遇されている」が少なくなっています。

男女の地位の平等感

⑤法律や制度の中で

- 男性が優遇されている
- ▨ どちらかといえば女性が優遇されている
- 平等である
- ▨ どちらかといえば男性が優遇されている
- ▨ 女性が優遇されている
- わからない
- 不明・無回答



※ 県調査・国調査の回答数には、この設問での「不明・無回答」が含まれていません。

⑥ 政治の場で

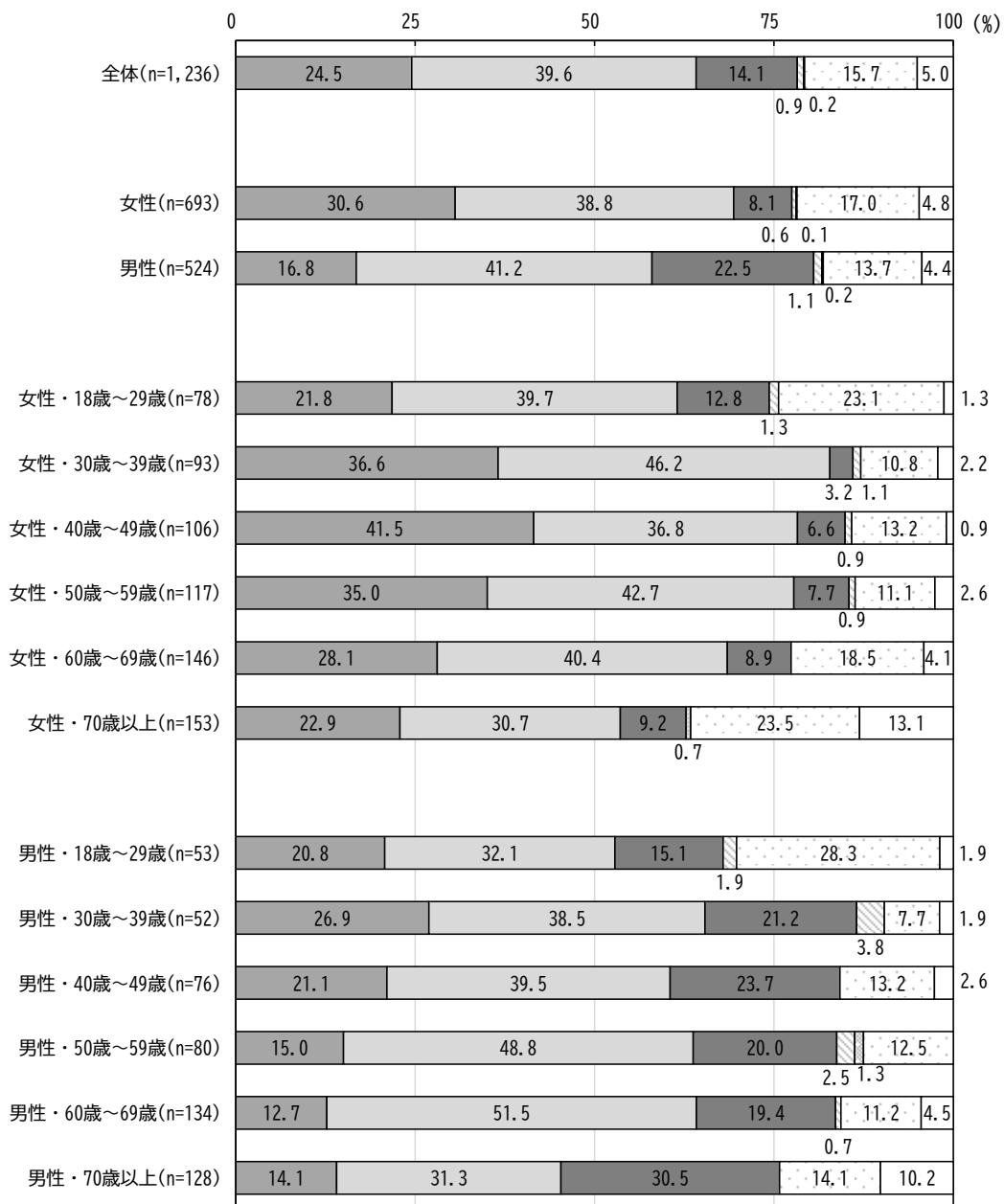
男女ともに「どちらかといえば男性が優遇されている」が最も多く、女性で 38.8%、男性で 41.2%となっています。次いで女性では「男性が優遇されている」が 30.6%、男性では「平等である」が 22.5%などとなっています。

性別で比較すると、女性では「男性が優遇されている」が多く、男性では「平等である」が多くなっています。

男女の地位の平等感

⑥政治の場で

- 男性が優遇されている
- どちらかといえば男性が優遇されている
- 平等である
- ▨ どちらかといえば女性が優遇されている
- ▩ 女性が優遇されている
- わからない
- 不明・無回答



〔県・国との比較〕

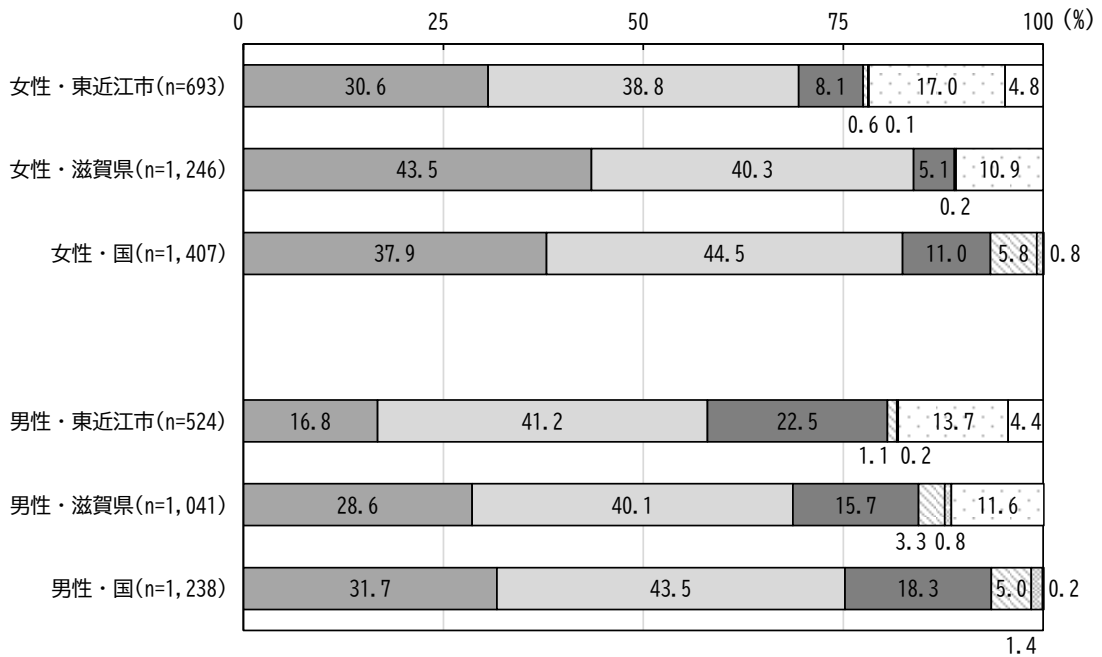
県と比較すると、男女ともに「平等である」が多く、「男性が優遇されている」が少なくなっています。

国と比較すると、男女ともに「男性が優遇されている」が少なくなっています。また、女性で「どちらかといえば女性が優遇されている」が少なく、男性で「平等である」が多くなっています

男女の地位の平等感

⑥政治の場で

- 男性が優遇されている
- どちらかといえば男性が優遇されている
- 平等である
- ▨ どちらかといえば女性が優遇されている
- ▩ 女性が優遇されている
- わからない
- 不明・無回答



※ 県調査・国調査の回答数には、この設問での「不明・無回答」が含まれていません。

⑦ 介護や看護の場で

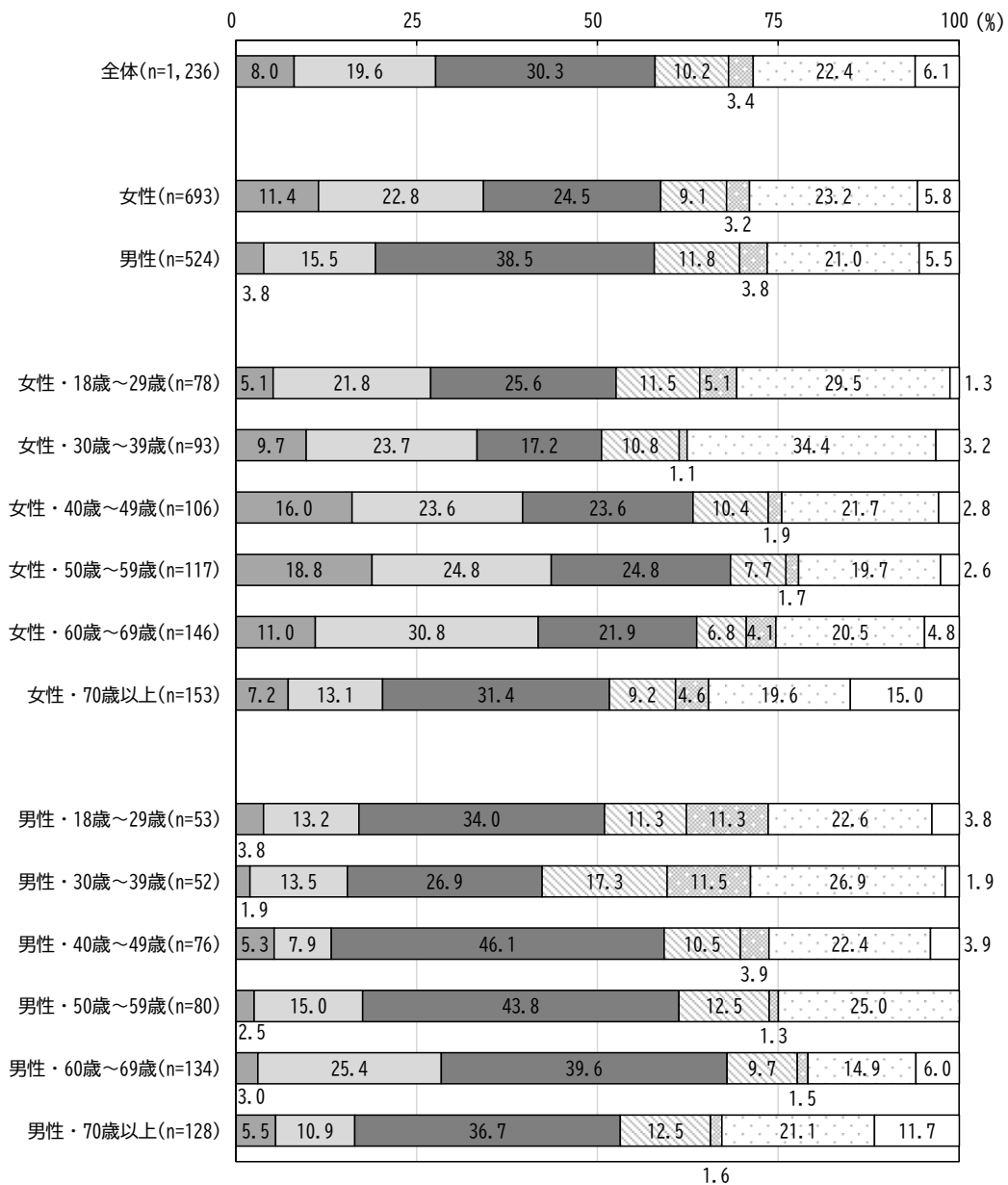
男女ともに「平等である」が最も多く、女性では 24.5%、男性では 38.5%となっています。次いで「わからない」が、女性では 23.2%、男性では 21.0%、「どちらかといえば男性が優遇されている」が、女性では 22.8%、男性では 15.5%などとなっています。

性別で比較すると、女性では「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」が多く、男性では「平等である」が多くなっています。

男女の地位の平等感

⑦介護や看護の場で

- 男性が優遇されている
- どちらかといえば男性が優遇されている
- 平等である
- ▨ どちらかといえば女性が優遇されている
- ▩ 女性が優遇されている
- わからない
- 不明・無回答



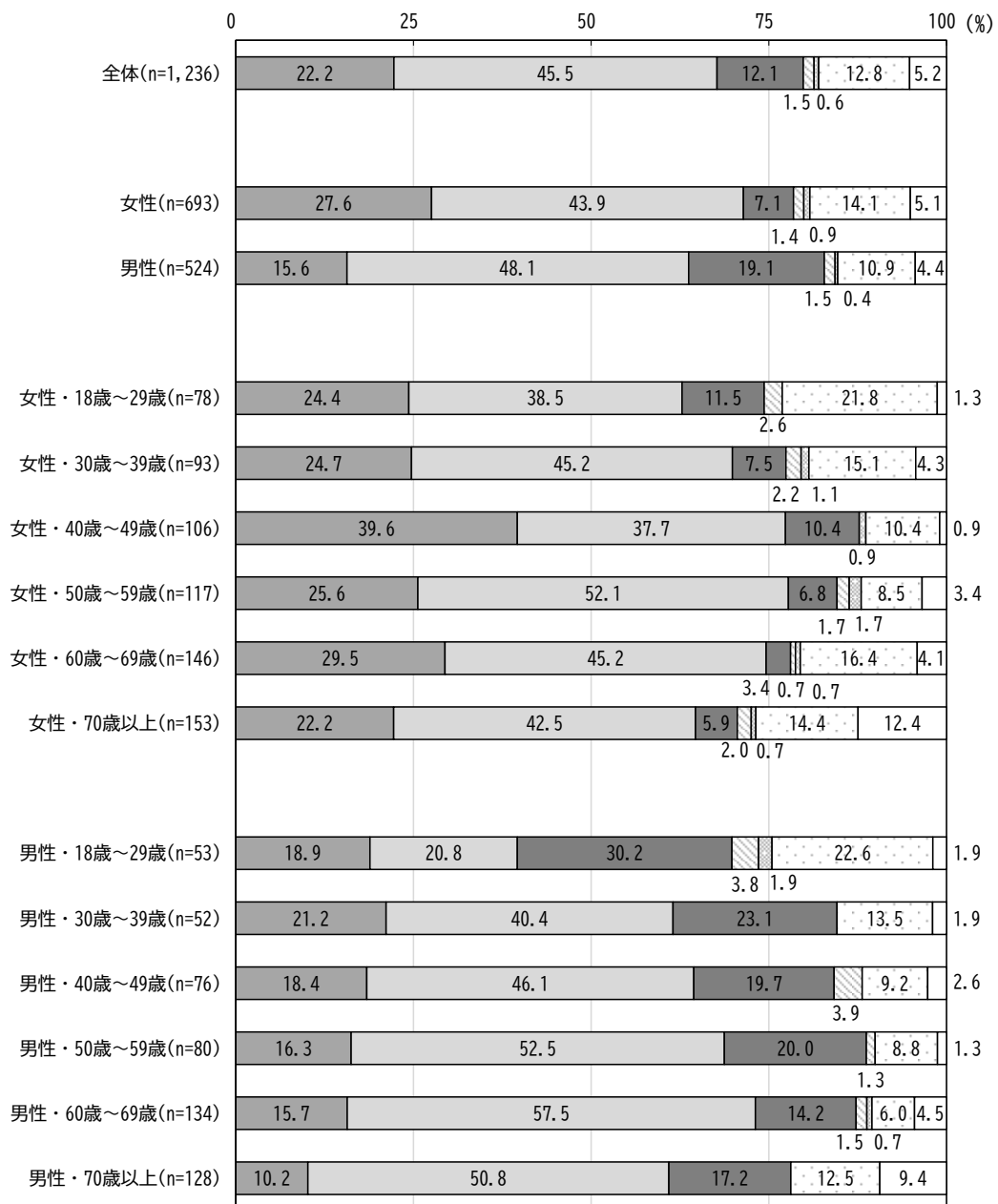
⑧ 社会通念・慣習・しきたり等で

男女ともに「どちらかといえば男性が優遇されている」が最も多く、女性で 43.9%、男性で 48.1%となっています。次いで女性では「男性が優遇されている」が 27.6%、男性では「平等である」が 19.1%などとなっています。

性別で比較すると、女性では「男性が優遇されている」が多く、男性では「平等である」が多くなっています。

男女の地位の平等感 ⑧社会通念・慣習・しきたり等で

- 男性が優遇されている
- ▨ どちらかといえば女性が優遇されている
- 平等である
- ▨ どちらかといえば男性が優遇されている
- ▨ 女性が優遇されている
- わからない
- 不明・無回答



〔県・国との比較〕

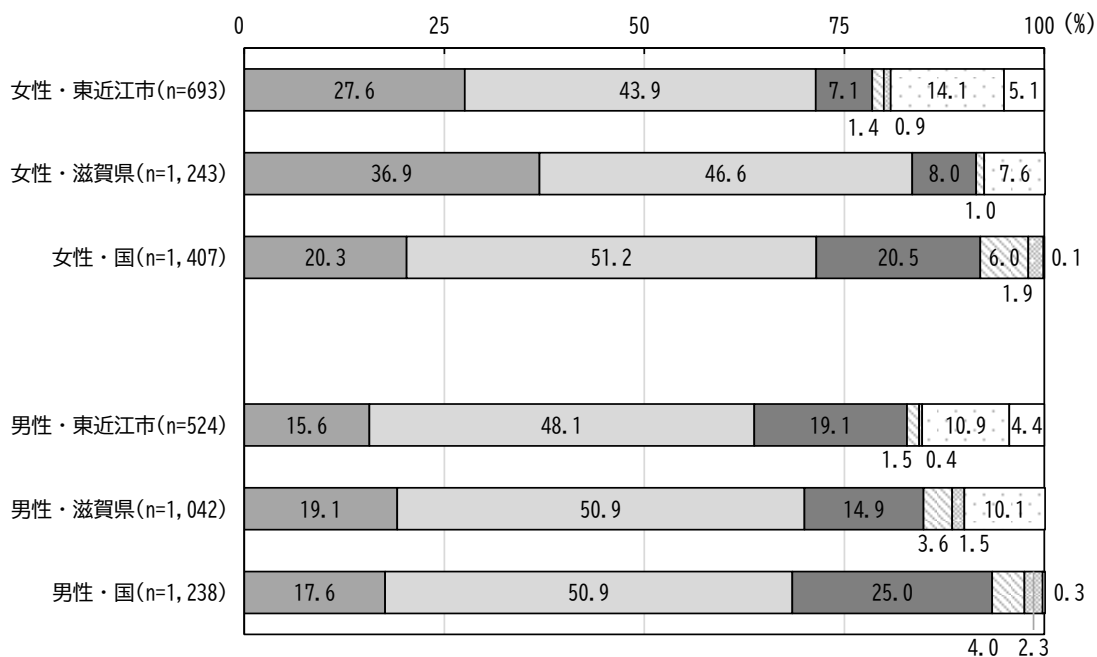
県と比較すると、女性で「男性が優遇されている」が少なくなっています。男性では「平等である」が多くなっています。

国と比較すると、男女ともに「平等である」「どちらかといえば女性が優遇されている」が少なくなっています。

男女の地位の平等感

⑧社会通念・慣習・しきたり等で

- 男性が優遇されている
- ▨ どちらかといえば女性が優遇されている
- 平等である
- ▨ どちらかといえば男性が優遇されている
- ▨ 女性が優遇されている
- わからない
- 不明・無回答



※ 県調査・国調査の回答数には、この設問での「不明・無回答」が含まれていません。

⑨ 社会全体で

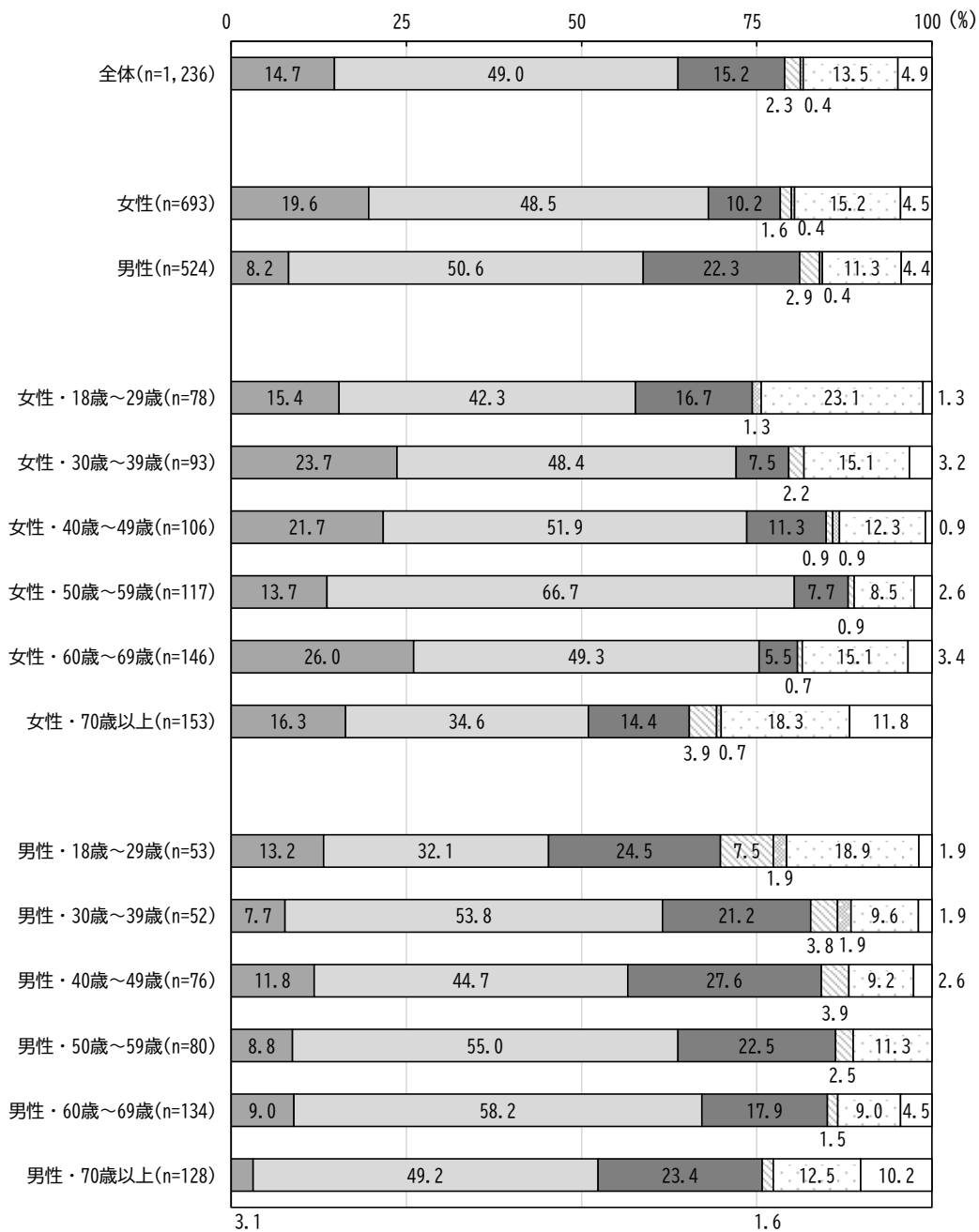
男女ともに「どちらかといえば男性が優遇されている」が最も多く、女性で 48.5%、男性で 50.6%となっています。次いで女性で「男性が優遇されている」が 19.6%、男性で「平等である」が 22.3%などとなっています。

性別で比較すると、女性では「男性が優遇されている」が多く、男性では「平等である」が多くなっています。

男女の地位の平等感

⑨社会全体で

- 男性が優遇されている
- どちらかといえば男性が優遇されている
- 平等である
- ▨ どちらかといえば女性が優遇されている
- ▨ 女性が優遇されている
- わからない
- 不明・無回答



〔県・国との比較〕

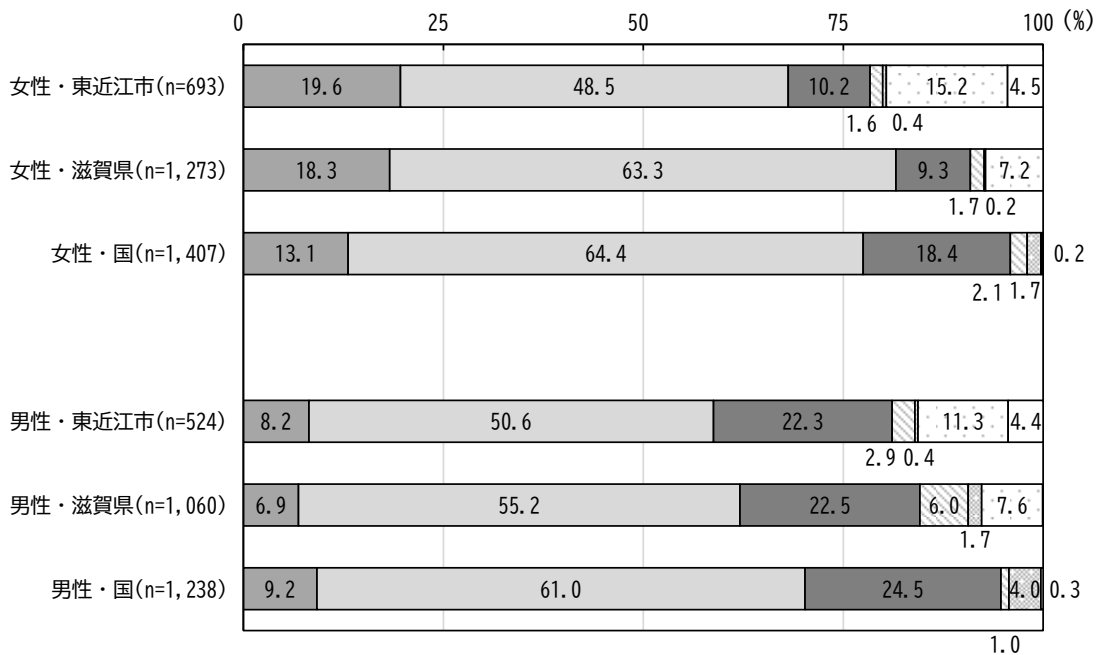
県と比較すると、女性で「どちらかといえば男性が優遇されている」が少なくなっています。男性では「どちらかといえば女性が優遇されている」が少なくなっています。

国と比較すると、女性では「どちらかといえば男性が優遇されている」「平等である」が少なくなっています。男性では「どちらかといえば女性が優遇されている」が多く、「女性が優遇されている」が少なくなっています。

男女の地位の平等感

⑨社会全体で

- 男性が優遇されている
- どちらかといえば男性が優遇されている
- 平等である
- どちらかといえば女性が優遇されている
- 女性が優遇されている
- わからない
- 不明・無回答



※ 県調査・国調査の回答数には、この設問での「不明・無回答」が含まれていません。

(3) 東近江市における男女共同参画社会づくりについての満足度と重要度

問 29 東近江市における男女共同参画社会づくりについて、現状の満足度と今後の重要度についておたずねします。以下の①～⑩のそれぞれの項目について、右の欄の1～5の中からあなたが感じる満足度、重要度に最も近いものを選んでください。(①～⑩について、「現状の満足度」「今後の重要度」をそれぞれ1つに○)

(全体)

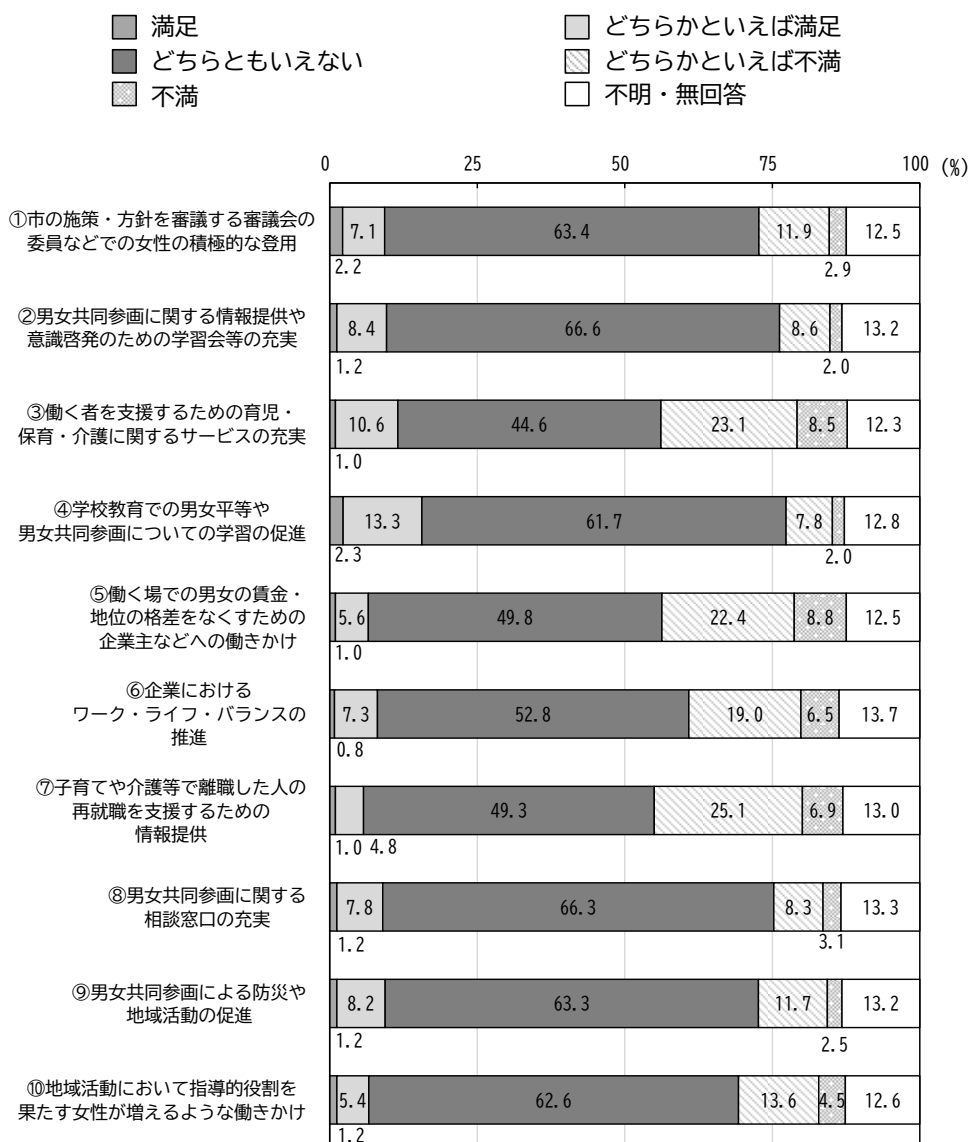
<満足度>

「満足」と「どちらかといえば満足」の合計をみると、「学校教育での男女平等や男女共同参画についての学習の促進」が15.6%と最も多く、次いで「働く者を支援するための育児・保育・介護に関するサービスの充実」が11.6%、「男女共同参画に関する情報提供や意識啓発のための学習会等の充実」が9.6%などとなっています。

「どちらかといえば不満」と「不満」の合計をみると、「子育てや介護等で離職した人の再就職を支援するための情報提供」が32.0%と最も多く、次いで「働く者を支援するための育児・保育・介護に関するサービスの充実」が31.6%、「働く場での男女の賃金・地位の格差をなくすための企業主などへの働きかけ」が31.2%などとなっています。

東近江市における男女共同参画社会づくりの満足度

[全体]



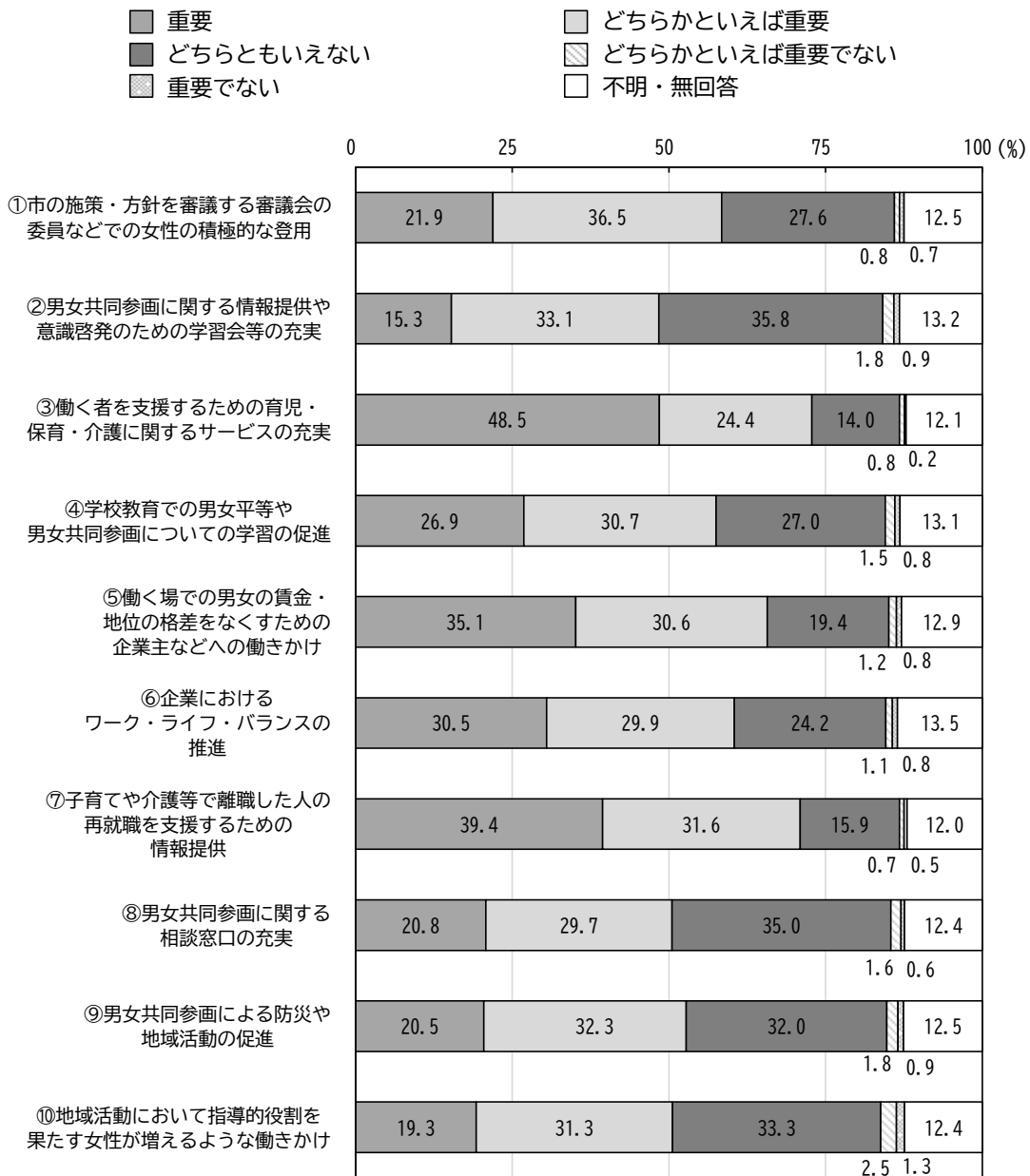
<重要度>

「重要」をみると、「働く者を支援するための育児・保育・介護に関するサービスの充実」が48.5%と最も多く、次いで「子育てや介護等で離職した人の再就職を支援するための情報提供」が39.4%、「働く場での男女の賃金・地位の格差をなくすための企業主などへの働きかけ」35.1%などとなっています。

「どちらかといえば重要」をみると、「市の施策・方針を審議する審議会の委員などでの女性の積極的な登用」が36.5%と最も多く、次いで「男女共同参画に関する情報提供や意識啓発のための学習会等の充実」が33.1%、「男女共同参画による防災や地域活動の促進」が32.3%などとなっています。

東近江市における男女共同参画社会づくりの重要度

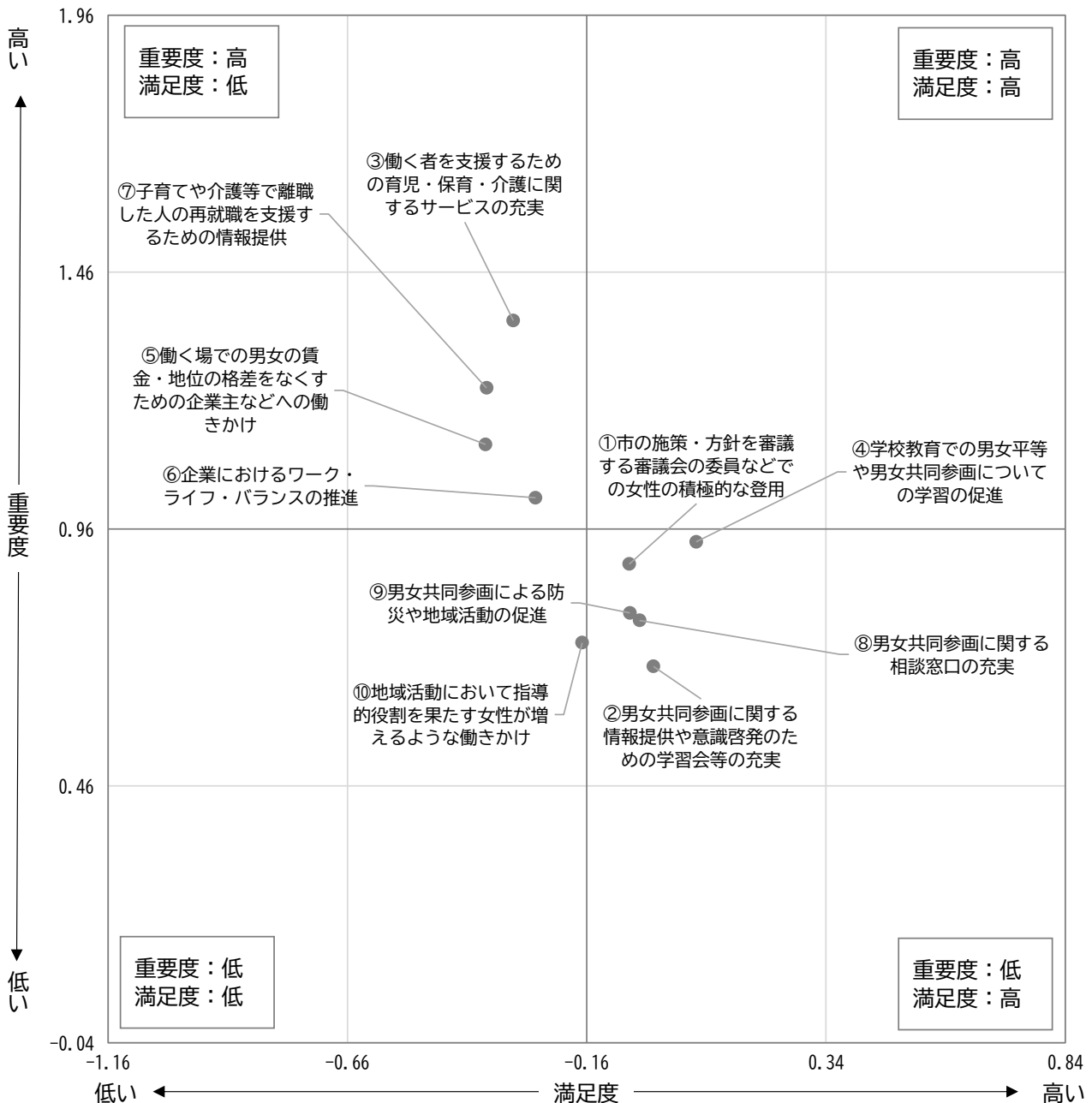
[全体]



<東近江市における男女共同参画社会づくりの取組の満足度・重要度評価>

本市における男女共同参画づくりの取組の満足度・重要度について、加重平均による相対比較をすると、すべての項目において重要度は高くなっていますが、その中でも重要度が高く、満足度が低くなっている項目としては「③働く者を支援するための育児・保育・介護に関するサービスの充実」「⑤働く場での男女の賃金・地位の格差をなくすための企業主などへの働きかけ」「⑥企業におけるワーク・ライフ・バランスの推進」「⑦子育てや介護等で離職した人の再就職を支援するための情報提供」となっています。

東近江市における男女共同参画社会づくりの取組の満足度・重要度評価



※ 加重平均について、満足度は「満足」に2、「どちらかといえば満足」に1、「どちらともいえない」に0、「どちらかといえば不満」に-1、「不満」に-2 を与えて算出しています。重要度は「重要」に2、「どちらかといえば重要」に1、「どちらともいえない」に0、「どちらかといえば重要でない」に-1、「重要でない」に-2 を与えて算出しています。

※ 満足度と重要度それぞれの加重平均の総平均を原点として散布図を作成しています。

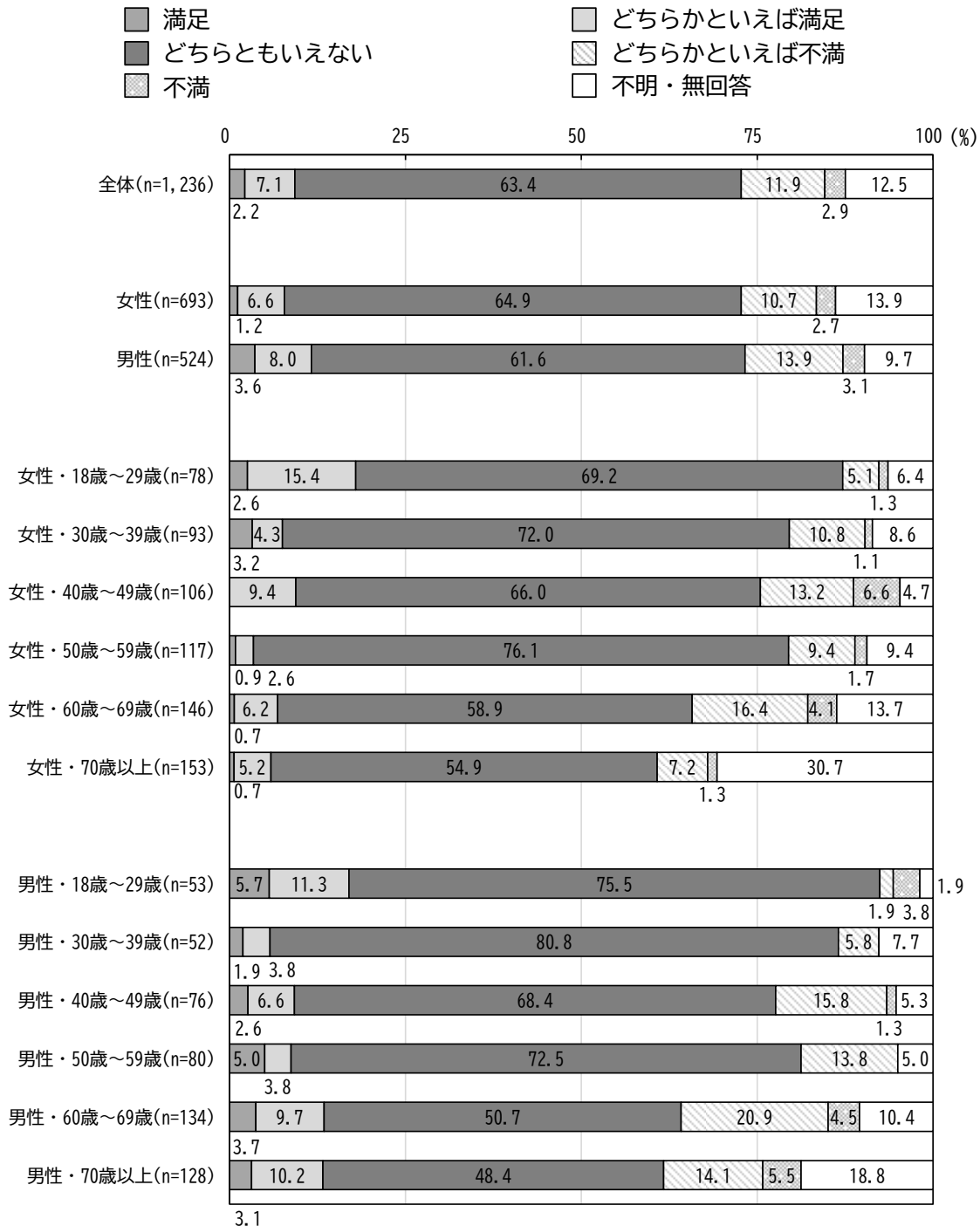
① 市の施策・方針を審議する審議会の委員などでの女性の積極的な登用

<満足度>

男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、女性で64.9%、男性で61.6%となっています。次いで「どちらかといえば不満」が、女性で10.7%、男性で13.9%、「どちらかといえば満足」が、女性で6.6%、男性で8.0%などとなっています。

①市の施策・方針を審議する審議会の委員などでの女性の積極的な登用

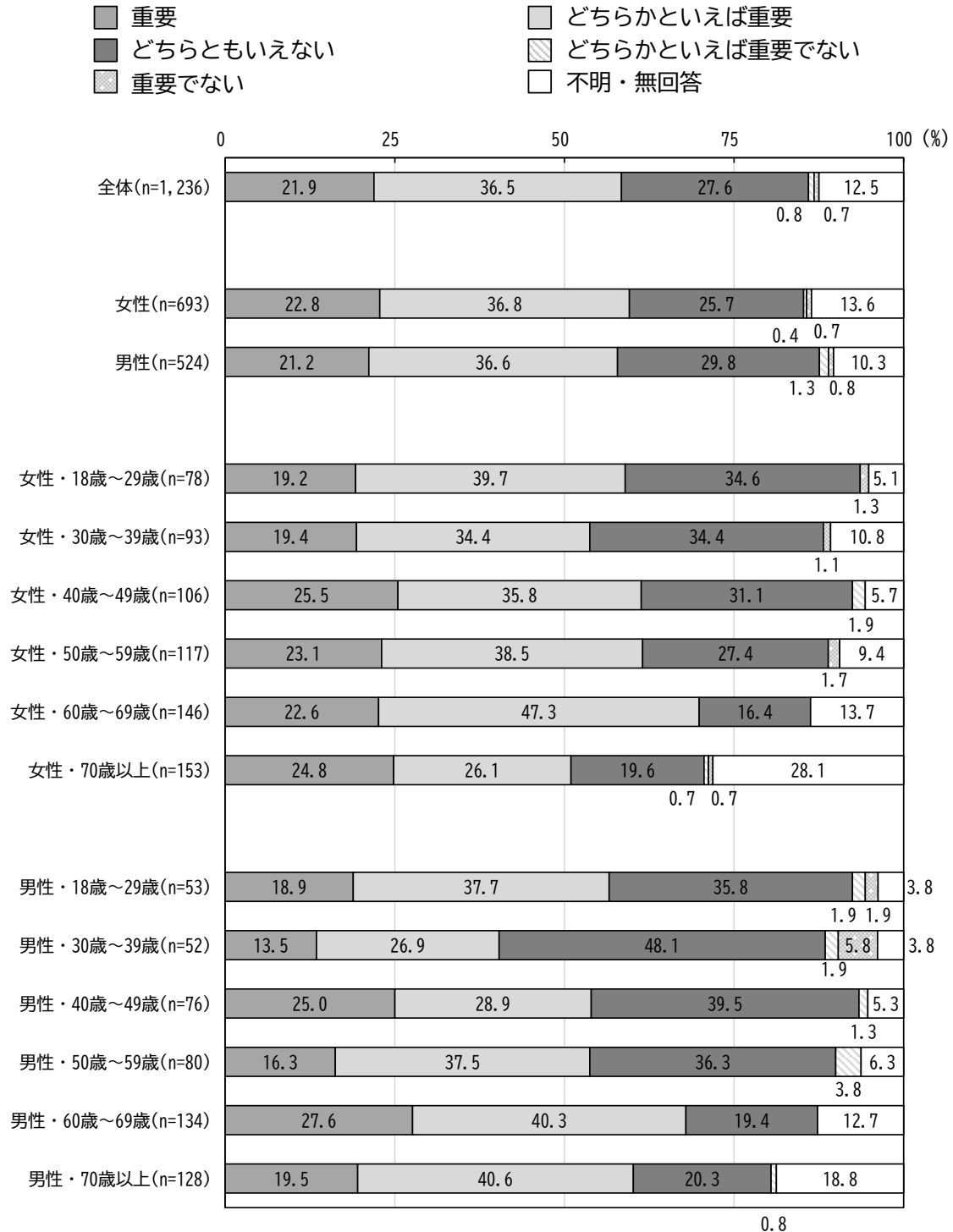
(満足度)



<重要度>

男女ともに「どちらかといえば重要」が最も多く、女性で36.8%、男性で36.6%となっています。次いで「どちらともいえない」が、女性で25.7%、男性で29.8%、「重要」が、女性で22.8%、男性で21.2%などとなっています。

①市の施策・方針を審議する審議会の委員などでの女性の積極的な登用
(重要度)



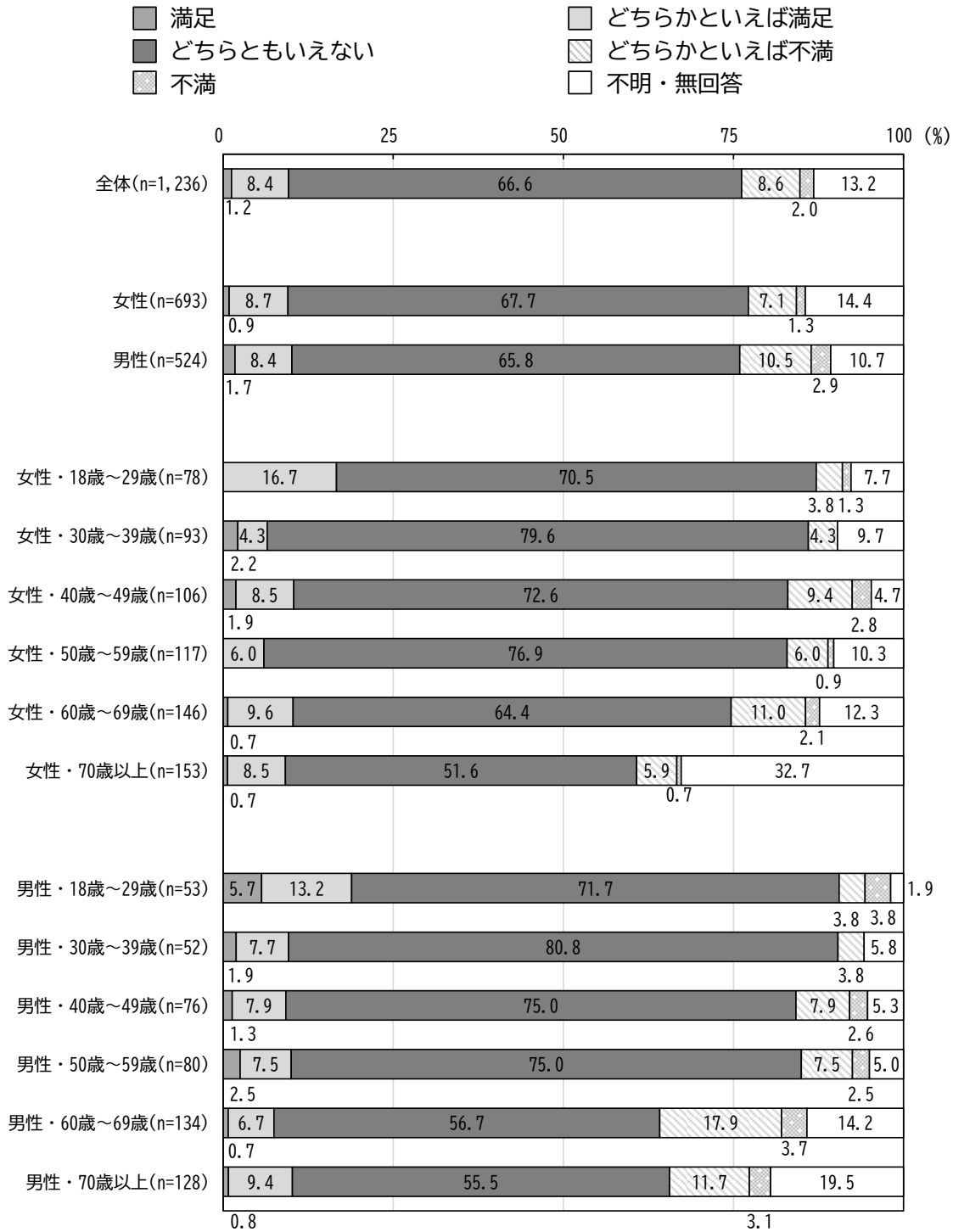
② 男女共同参画に関する情報提供や意識啓発のための学習会等の充実

<満足度>

男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、女性で67.7%、男性で65.8%となっています。次いで「どちらかといえば不満」が、女性で7.1%、男性で10.5%、「どちらかといえば満足」が、女性で8.7%、男性で8.4%などとなっています。

②男女共同参画に関する情報提供や意識啓発のための学習会等の充実

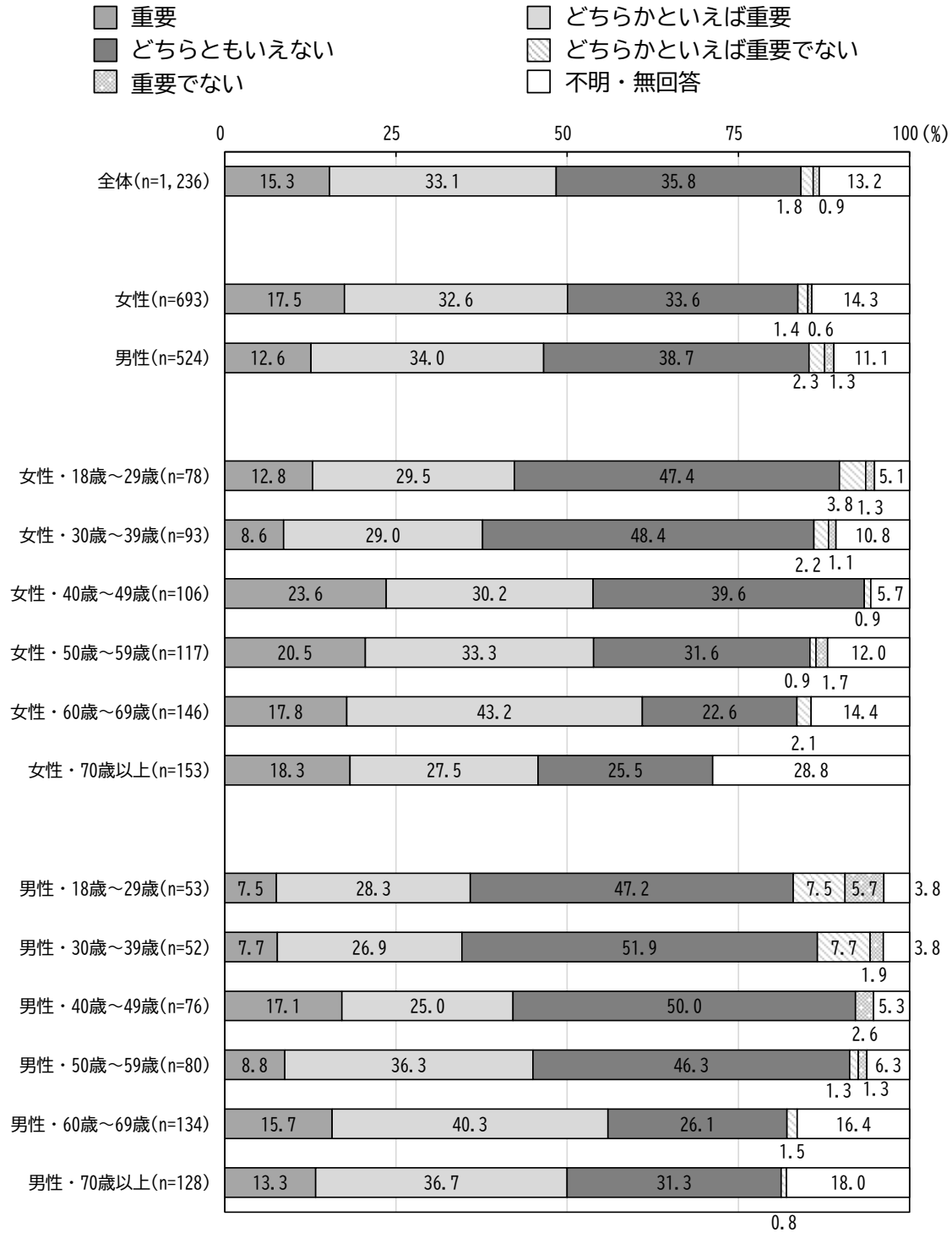
(満足度)



<重要度>

男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、女性で 33.6%、男性で 38.7%となっています。次いで「どちらかといえば重要」が、女性で 32.6%、男性で 34.0%、「重要」が、女性で 17.5%、男性で 12.6%などとなっています。

②男女共同参画に関する情報提供や意識啓発のための学習会等の充実
(重要度)



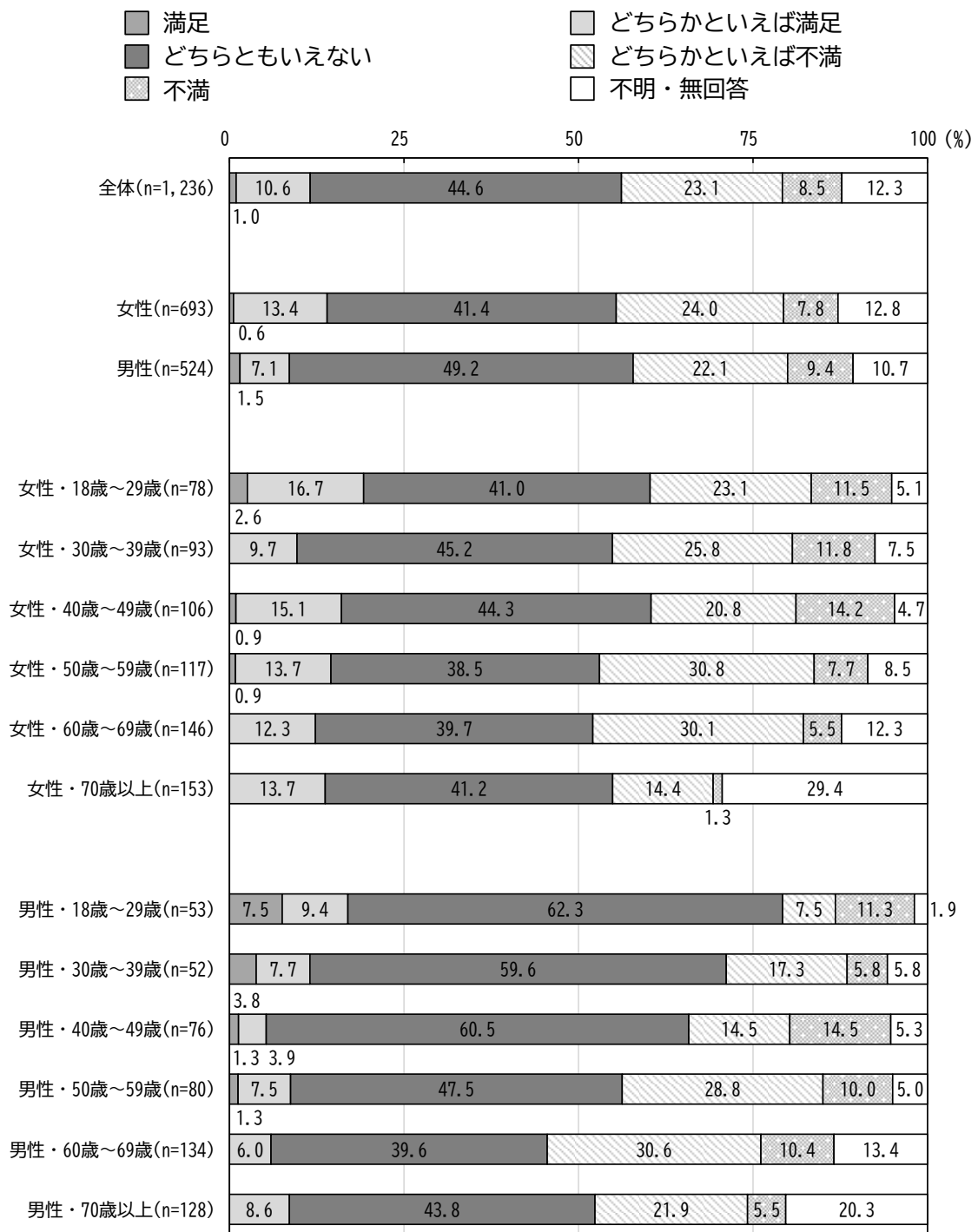
③ 働く者を支援するための育児・保育・介護に関するサービスの充実

<満足度>

男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、女性で41.4%、男性で49.2%となっています。次いで「どちらかといえば不満」が、女性で24.0%、男性で22.1%、女性では「どちらかといえば満足」が13.4%、男性では「不満」が9.4%などとなっています。

性別で比較すると、女性では「どちらかといえば満足」が多く、男性では「どちらともいえない」が多くなっています。

③働く者を支援するための育児・保育・介護に関するサービスの充実 (満足度)

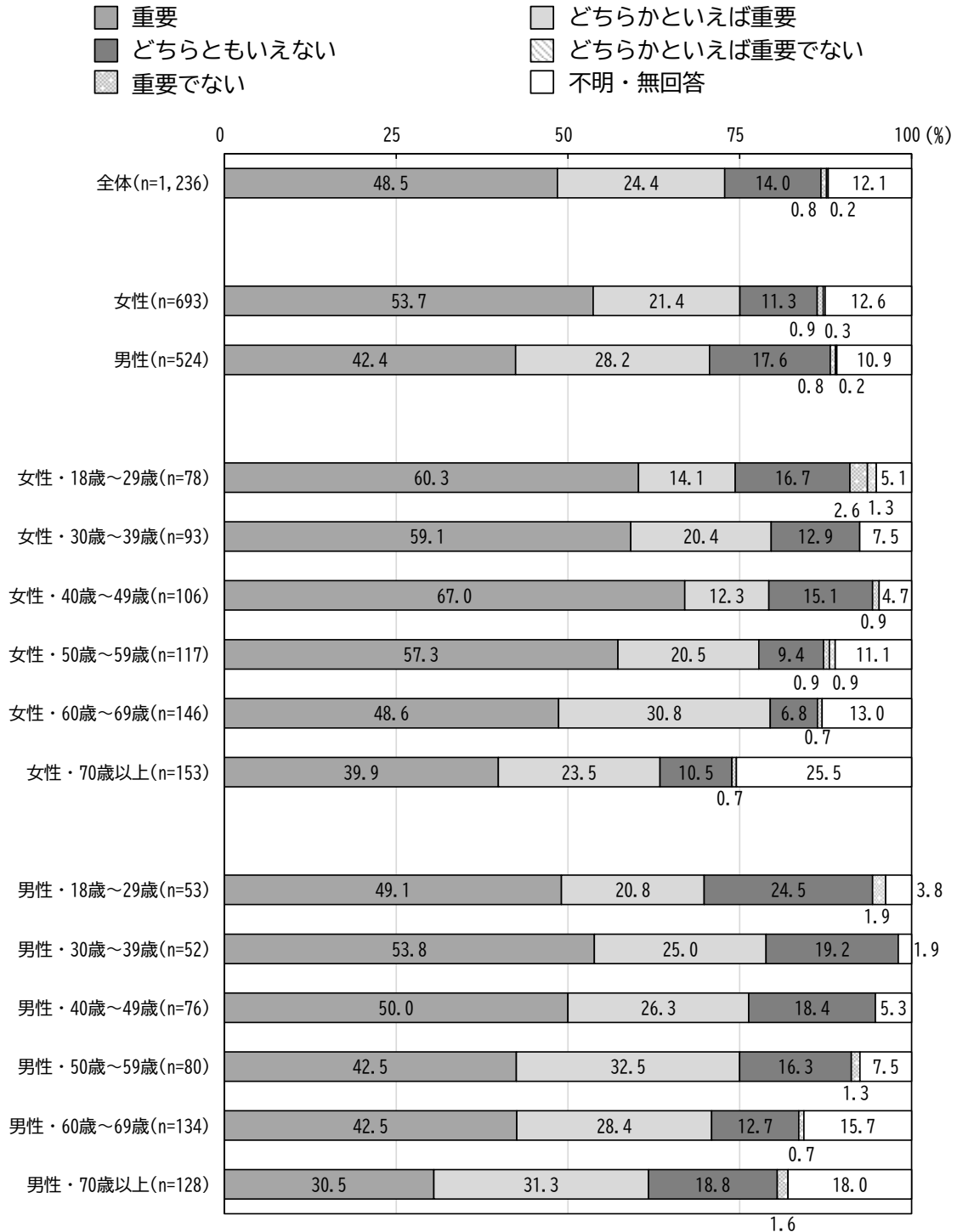


<重要度>

男女ともに「重要」が最も多く、女性では53.7%、男性では42.4%となっています。次いで「どちらかといえば重要」が、女性では21.4%、男性では28.2%、「どちらともいえない」が、女性では11.3%、男性では17.6%などとなっています。

性別で比較すると、女性では「重要」が多く、男性では「どちらかといえば重要」「どちらともいえない」が多くなっています。

③働く者を支援するための育児・保育・介護に関するサービスの充実
(重要度)



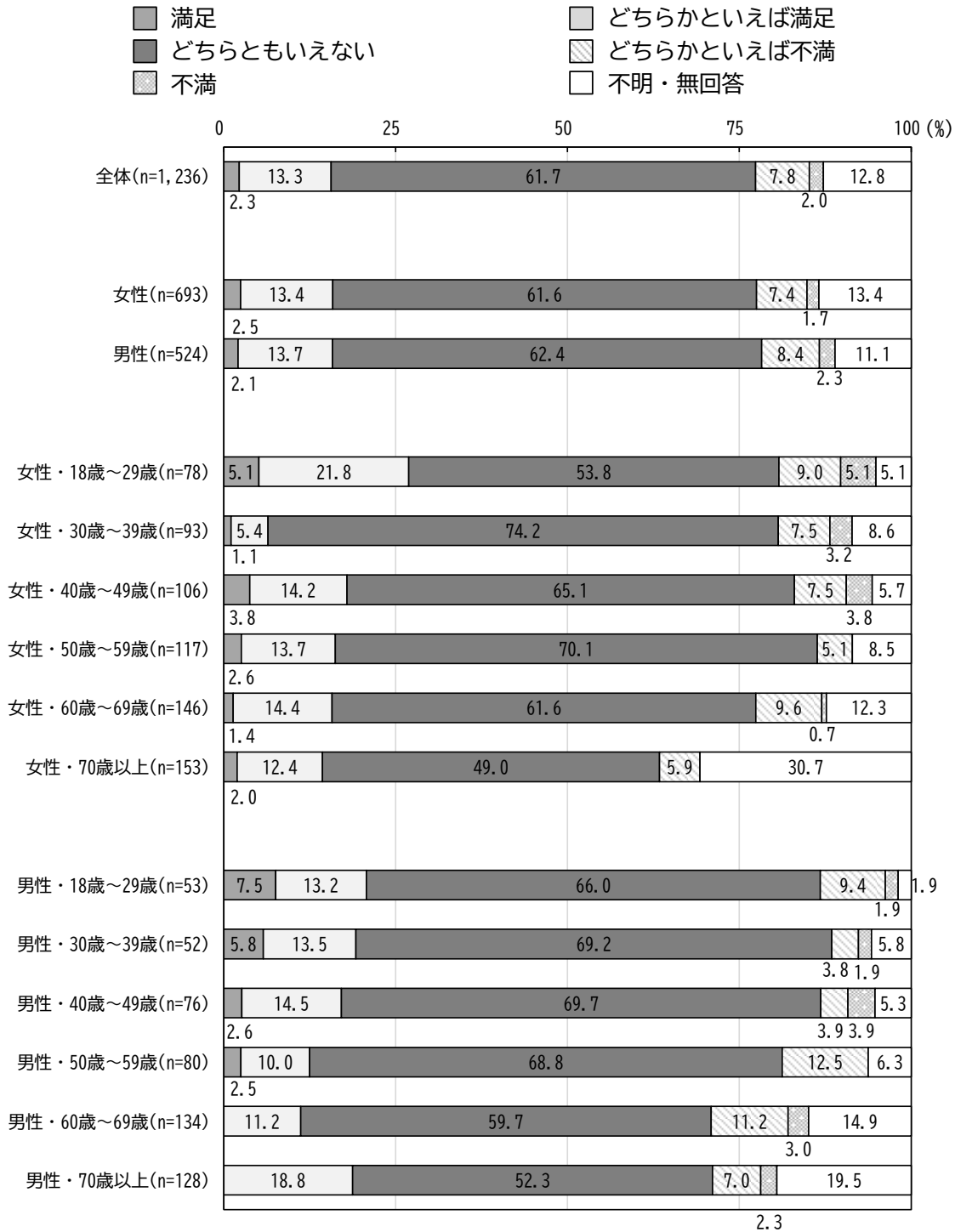
④ 学校教育での男女平等や男女共同参画についての学習の促進

<満足度>

男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、女性で61.6%、男性で62.4%となっています。次いで「どちらかといえば満足」が、女性で13.4%、男性で13.7%、「どちらかといえば不満」が、女性で7.4%、男性で8.4%などとなっています。

④学校教育での男女平等や男女共同参画についての学習の促進

(満足度)



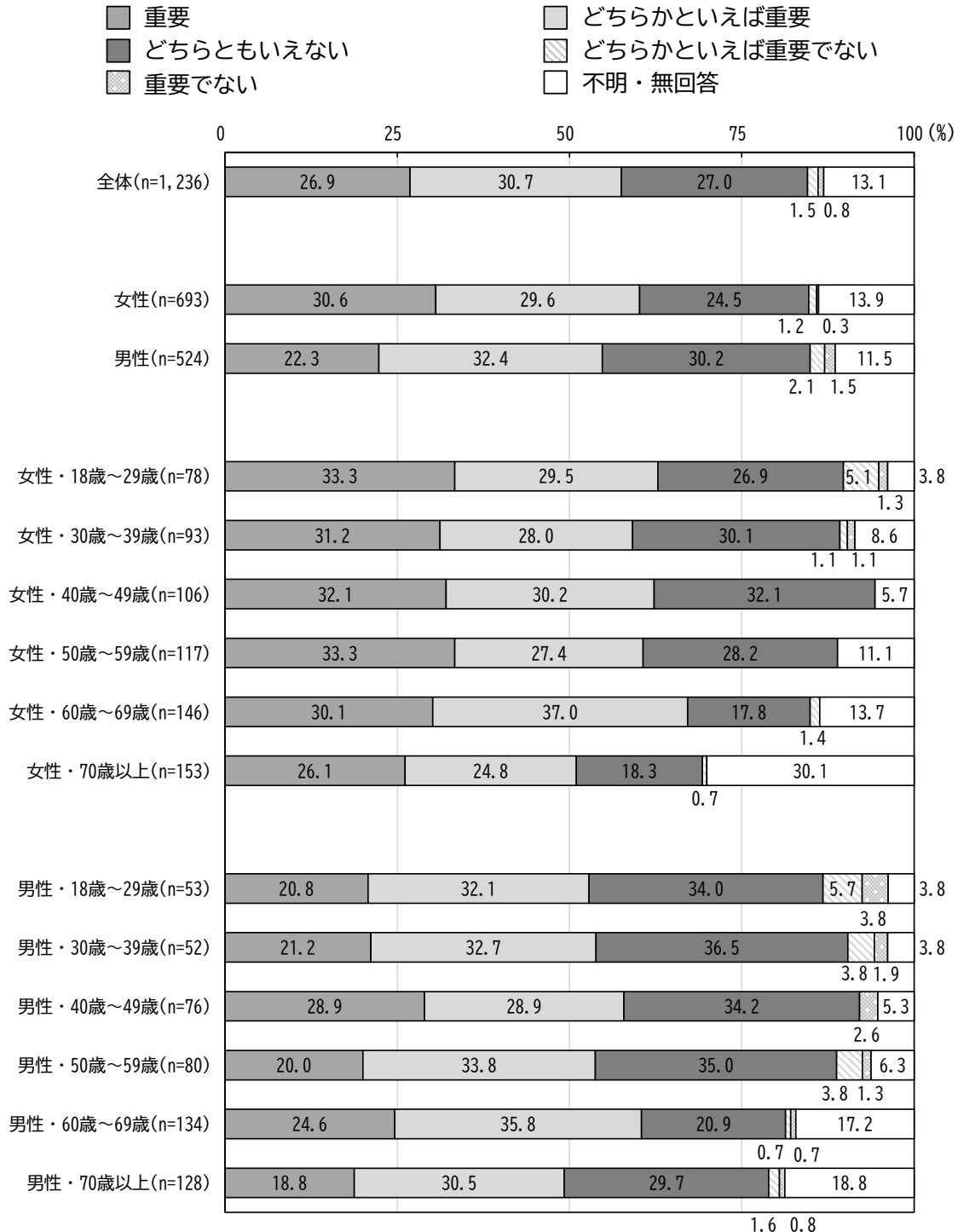
<重要度>

女性では「重要」が 30.6%と最も多く、次いで「どちらかといえば重要」が 29.6%、「どちらともいえない」が 24.5%などとなっています。

男性では「どちらかといえば重要」が 32.4%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が 30.2%、「重要」が 22.3%などとなっています。

性別で比較すると、女性で「重要」が多くなっています。

④学校教育での男女平等や男女共同参画についての学習の促進
(重要度)

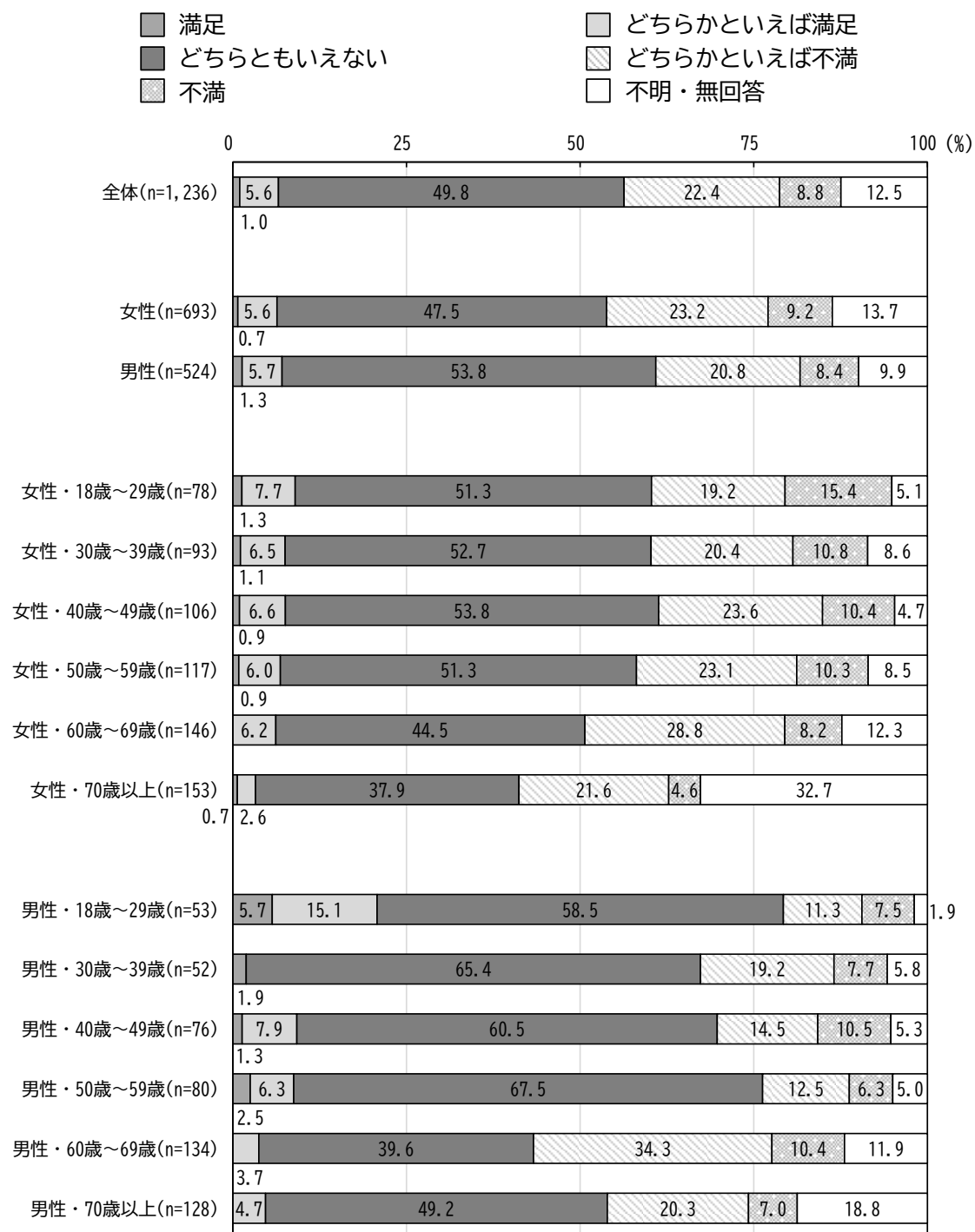


⑤ 働く場での男女の賃金・地位の格差をなくすための企業主などへの働きかけ

<満足度>

男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、女性で47.5%、男性で53.8%となっています。次いで「どちらかといえば不満」が、女性で23.2%、男性で20.8%、「不満」が、女性で9.2%、男性で8.4%などとなっています。

⑤ 働く場での男女の賃金・地位の格差をなくすための企業主などへの働きかけ
(満足度)



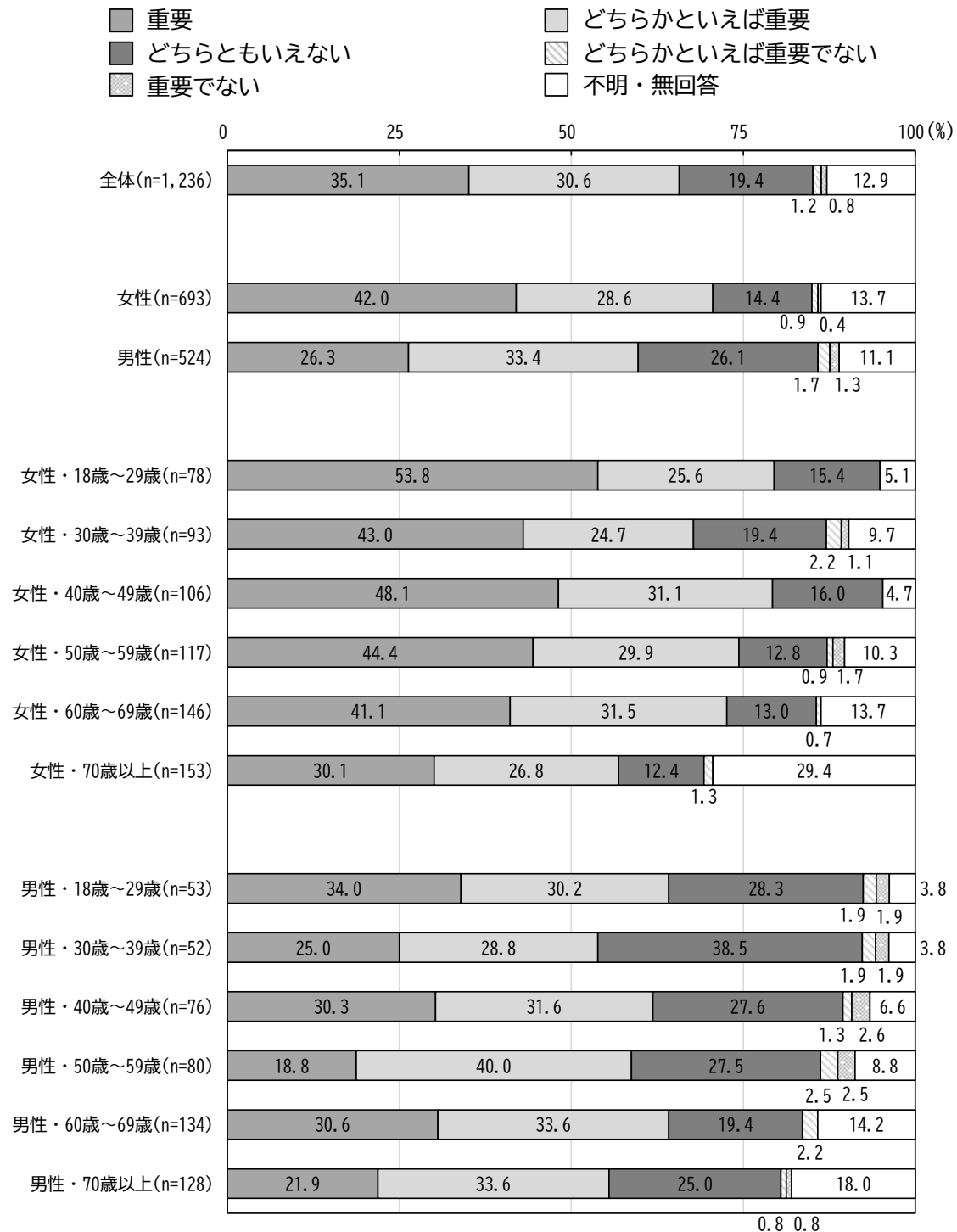
<重要度>

女性では「重要」が 42.0%と最も多く、次いで「どちらかといえば重要」が 28.6%、「どちらともいえない」が 14.4%などとなっています。

男性では「どちらかといえば重要」が 33.4%と最も多く、次いで「重要」が 26.3%、「どちらともいえない」が 26.1%などとなっています。

性別で比較すると、女性では「重要」が多く、男性では「どちらともいえない」が多くなっています。

⑤働く場での男女の賃金・地位の格差をなくすための企業主などへの働きかけ
(重要度)



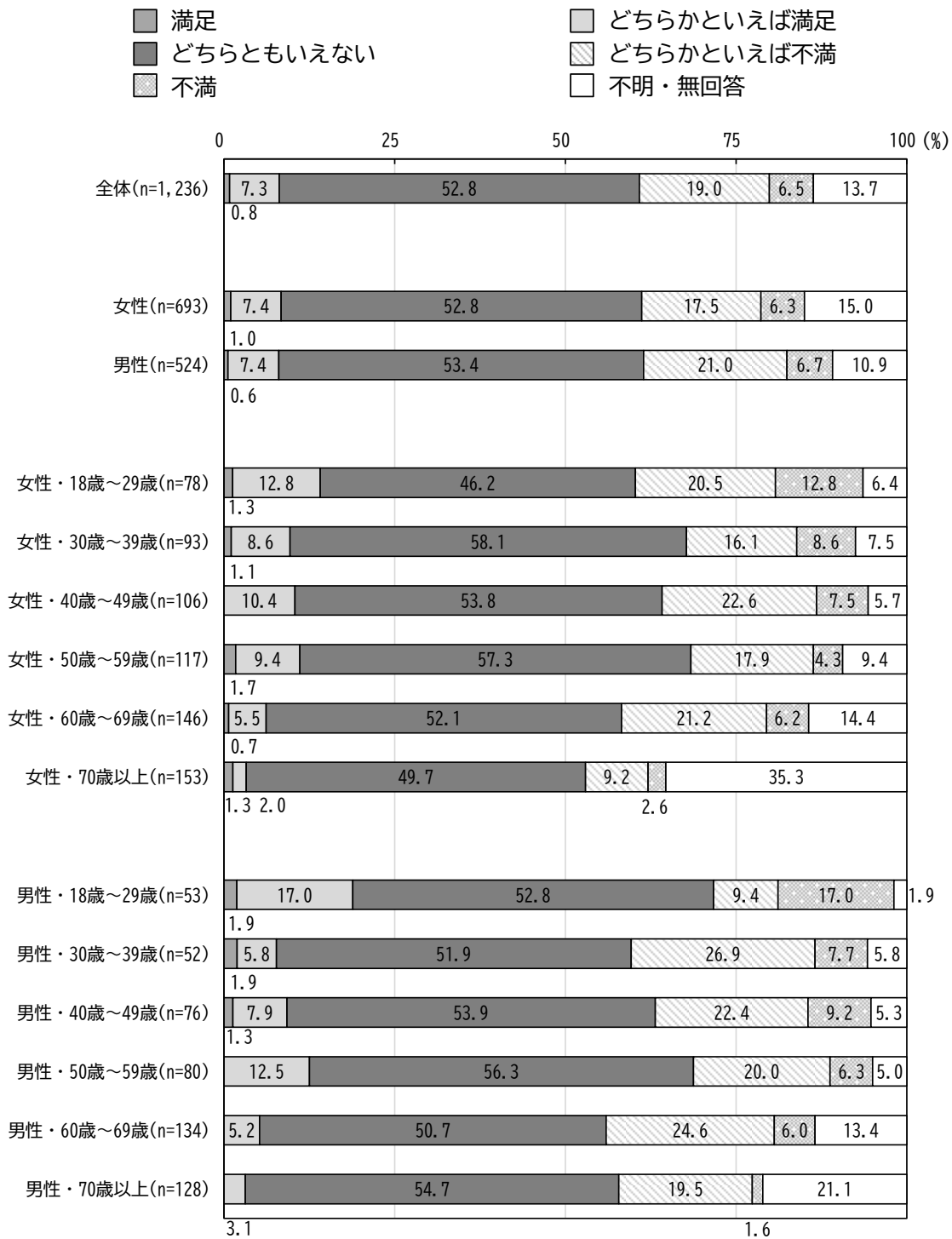
⑥ 企業におけるワーク・ライフ・バランスの推進

<満足度>

男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、女性で52.8%、男性で53.4%となっています。次いで「どちらかといえば不満」が、女性で17.5%、男性で21.0%、「どちらかといえば満足」が、男女ともに7.4%などとなっています。

⑥企業におけるワーク・ライフ・バランスの推進

(満足度)



<重要度>

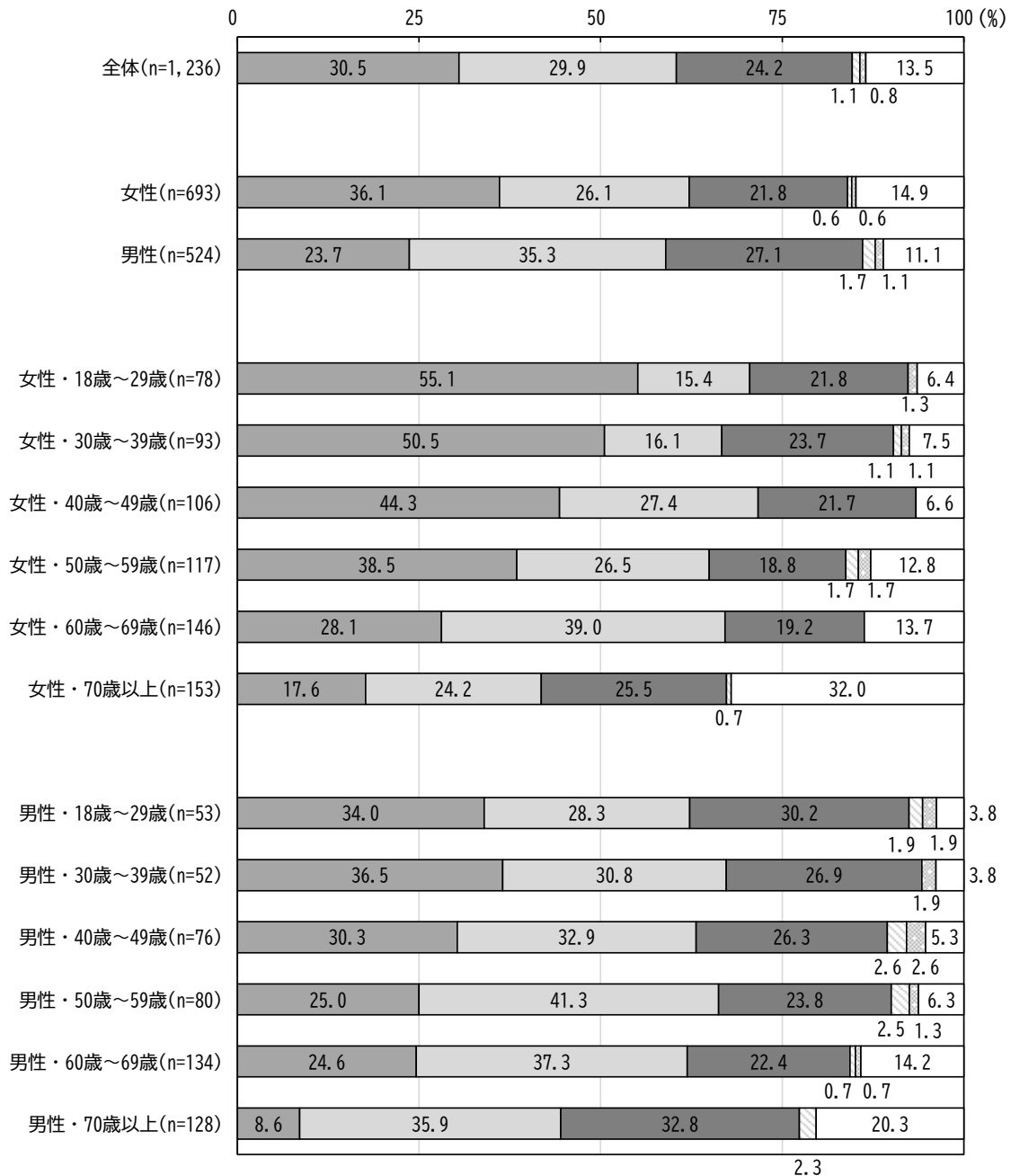
女性では「重要」が 36.1%と最も多く、次いで「どちらかといえば重要」が 26.1%、「どちらともいえない」が 21.8%などとなっています。

男性では「どちらかといえば重要」が 35.3%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が 27.1%、「重要」が 23.7%などとなっています。

性別で比較すると、女性では「重要」が多く、男性では「どちらかといえば重要」が多くなっています。

⑥企業におけるワーク・ライフ・バランスの推進

(重要度)



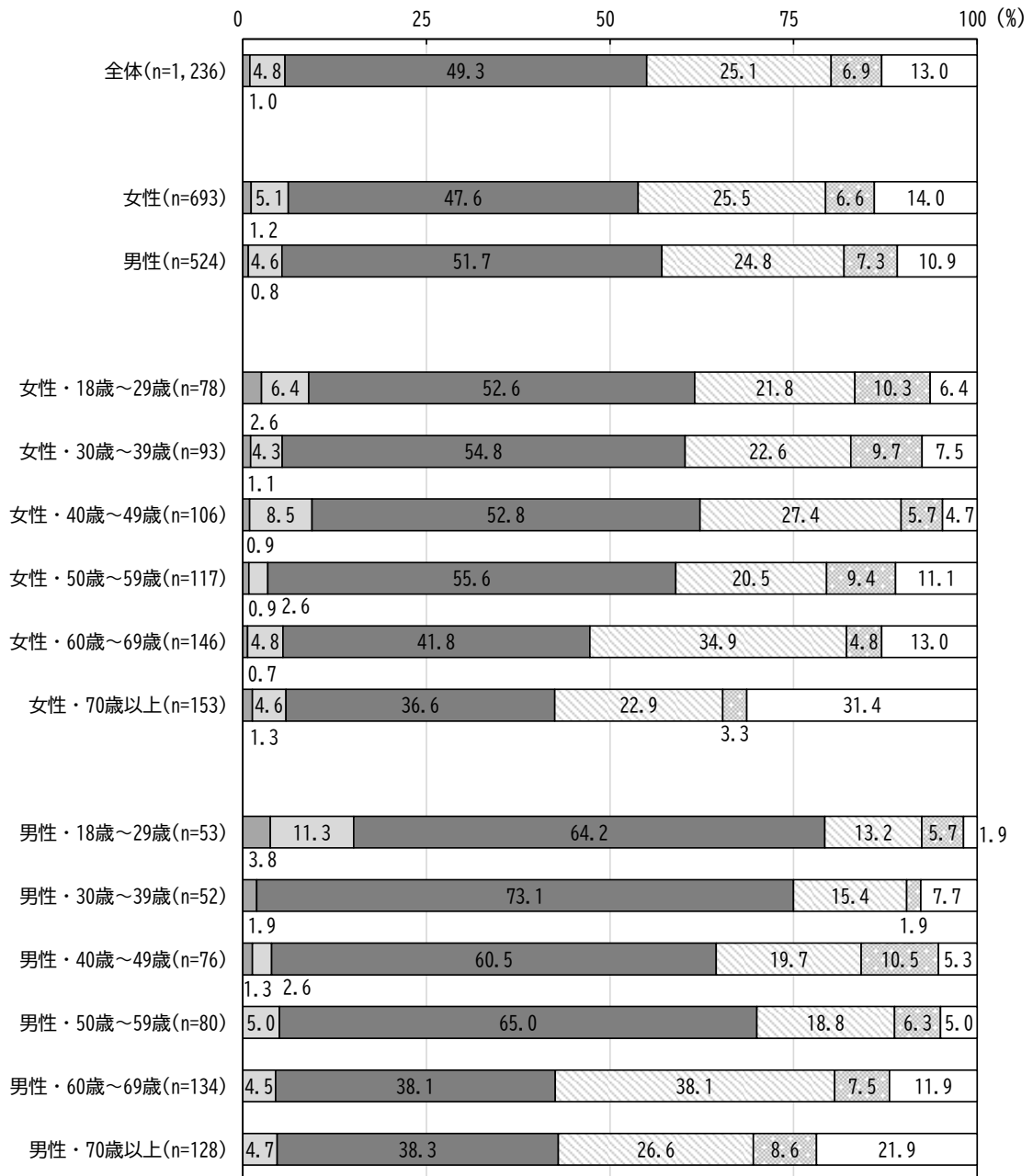
⑦ 子育てや介護等で離職した人の再就職を支援するための情報提供

<満足度>

男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、女性で47.6%、男性で51.7%となっています。次いで「どちらかといえば不満」が、女性で25.5%、男性で24.8%、「不満」が、女性で6.6%、男性で7.3%などとなっています。

⑦子育てや介護等で離職した人の再就職を支援するための情報提供

(満足度)

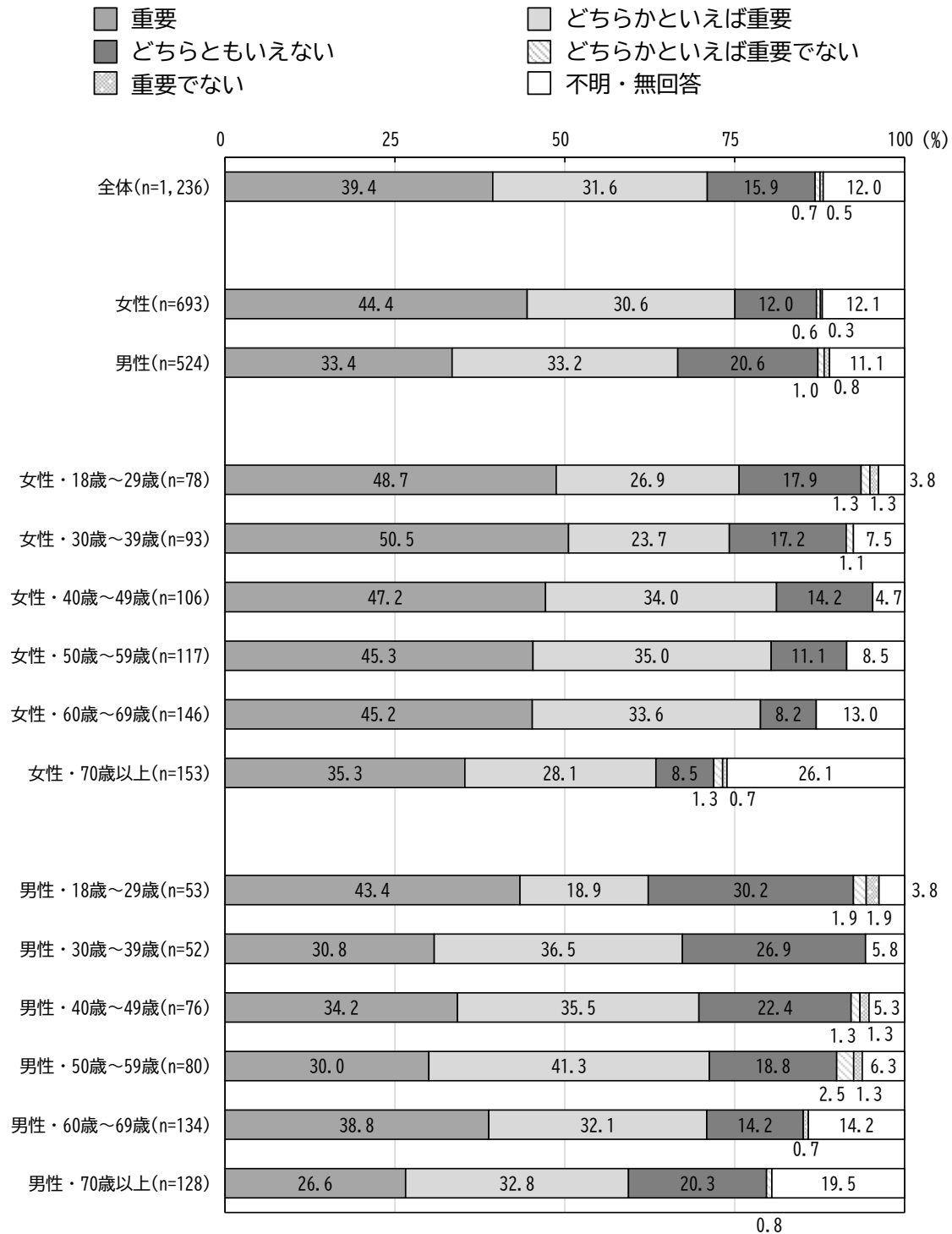


<重要度>

男女ともに「重要」が最も多く、女性で44.4%、男性で33.4%となっています。次いで「どちらかといえば重要」が、女性で30.6%、男性で33.2%、「どちらともいえない」が、女性で12.0%、男性で20.6%などとなっています。

性別で比較すると、女性では「重要」が多く、男性では「どちらともいえない」が多くなっています。

⑦子育てや介護等で離職した人の再就職を支援するための情報提供
(重要度)



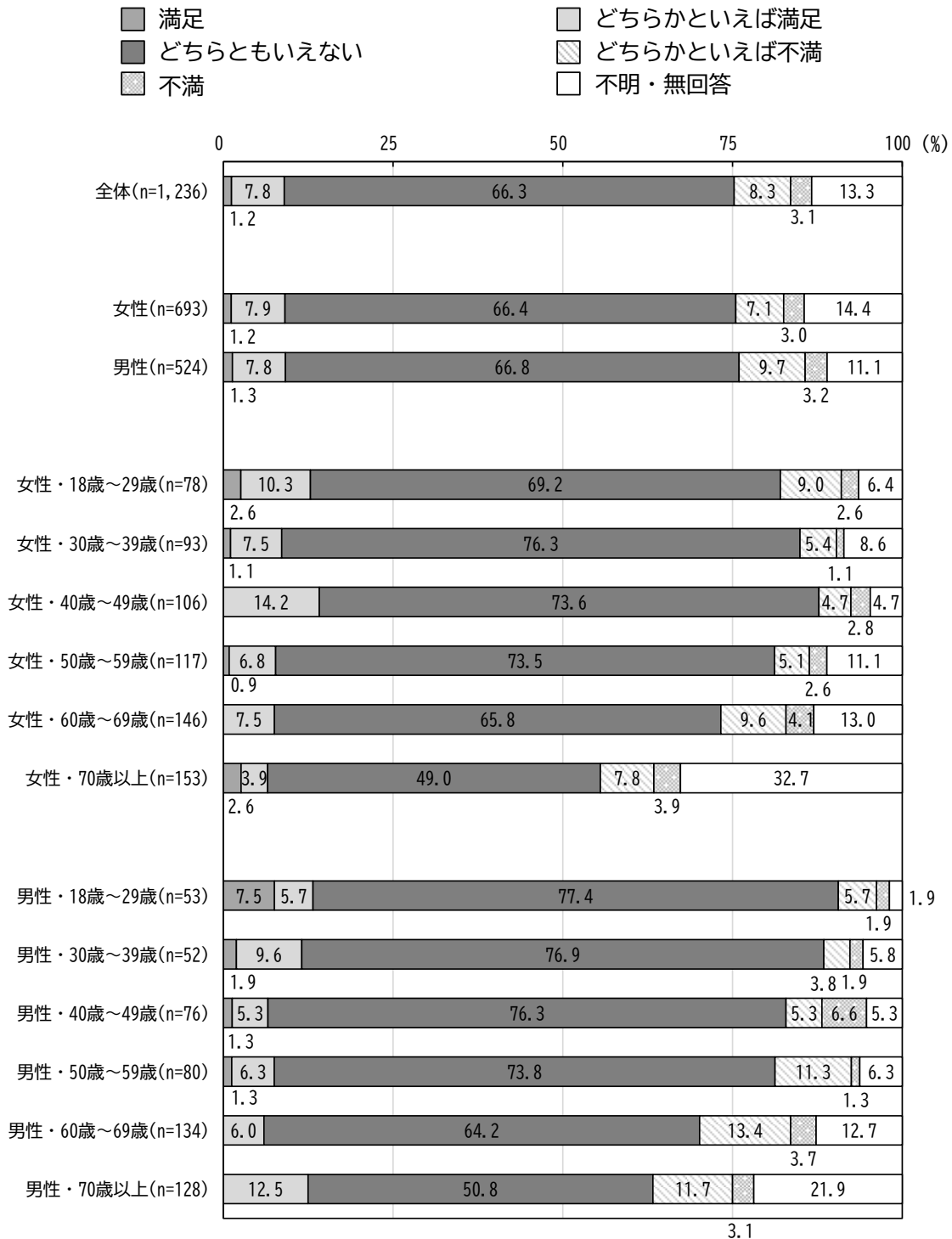
⑧ 男女共同参画に関する相談窓口の充実

<満足度>

男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、女性で66.4%、男性で66.8%となっています。次いで女性では「どちらかといえば満足」が7.9%、「どちらかといえば不満」が7.1%、男性では「どちらかといえば不満」が9.7%、「どちらかといえば満足」が7.8%などとなっています。

⑧男女共同参画に関する相談窓口の充実

(満足度)



<重要度>

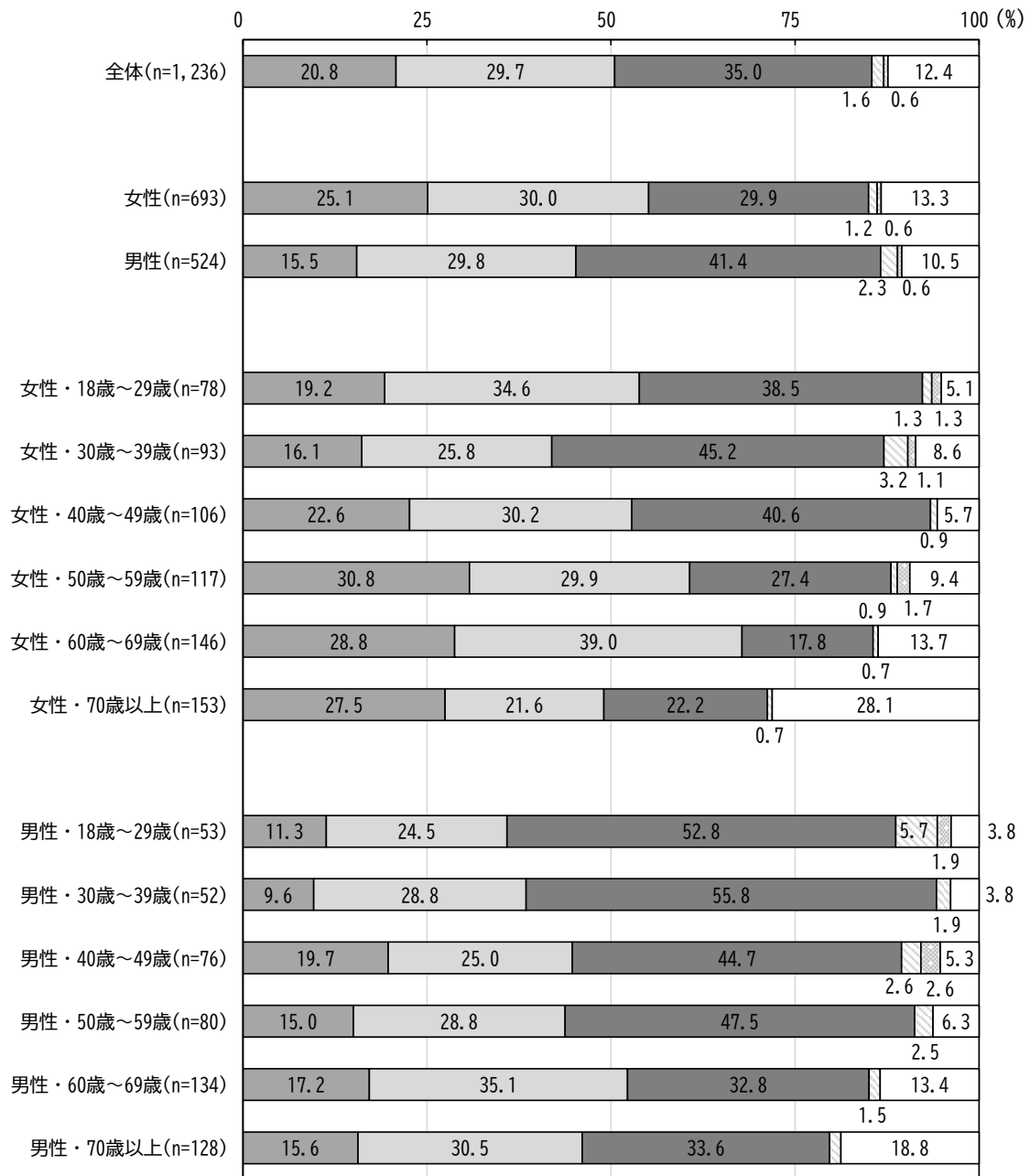
女性では「どちらかといえば重要」が 30.0%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が 29.9%、「重要」が 25.1%などとなっています。

男性では「どちらともいえない」が 41.4%と最も多く、次いで「どちらかといえば重要」が 29.8%、「重要」が 15.5%などとなっています。

性別で比較すると、女性では「重要」が多く、男性では「どちらともいえない」が多くなっています。

⑧男女共同参画に関する相談窓口の充実

(重要度)



⑨ 男女共同参画による防災や地域活動の促進

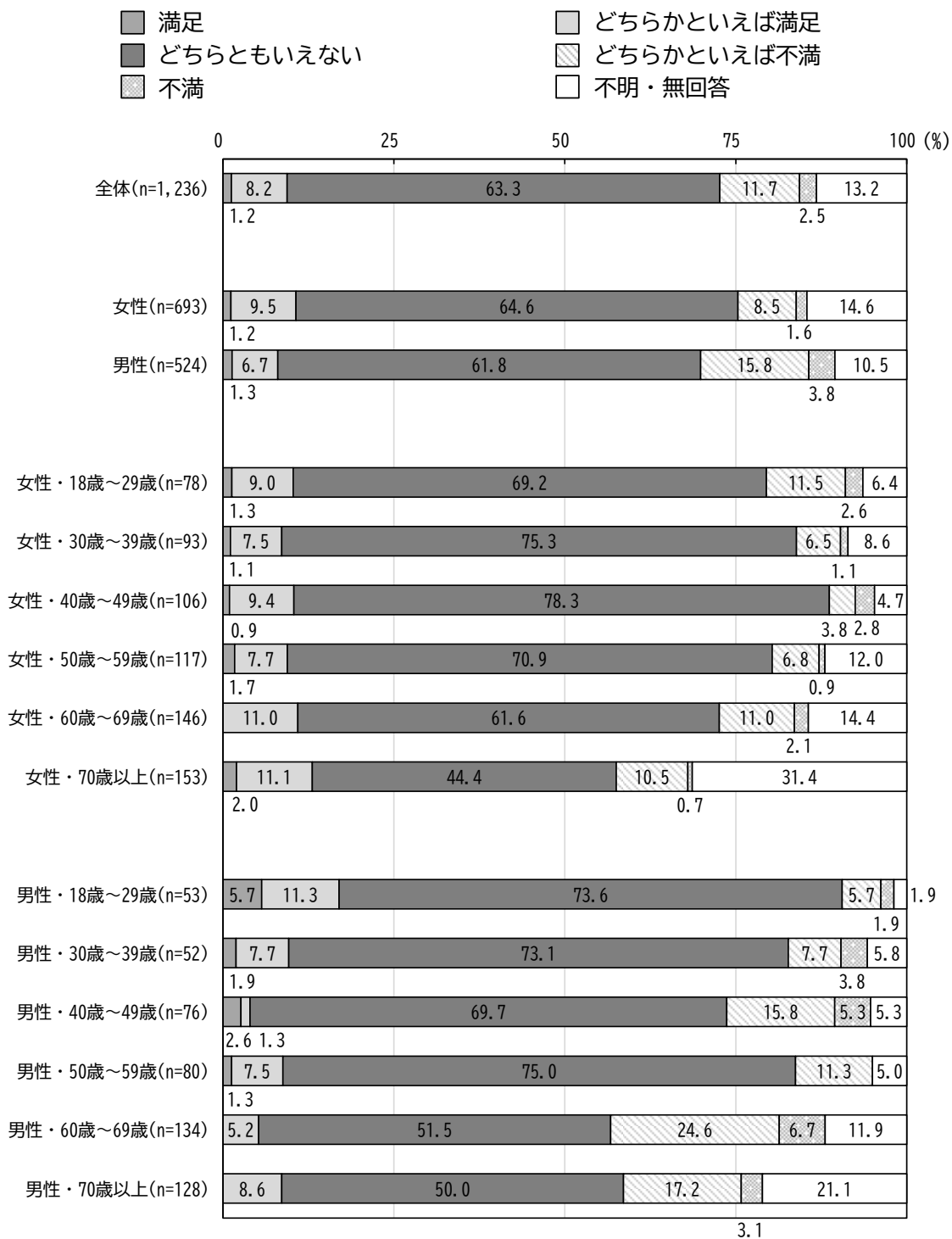
<満足度>

男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、女性で64.6%、男性で61.8%となっています。次いで女性では「どちらかといえば満足」が9.5%、「どちらかといえば不満」が8.5%、男性では「どちらかといえば不満」が15.8%、「どちらかといえば満足」が6.7%などとなっています。

性別で比較すると、女性では「どちらかといえば満足」「どちらともいえない」が多く、男性では「どちらかといえば不満」「不満」が多くなっています。

⑨男女共同参画による防災や地域活動の促進

(満足度)



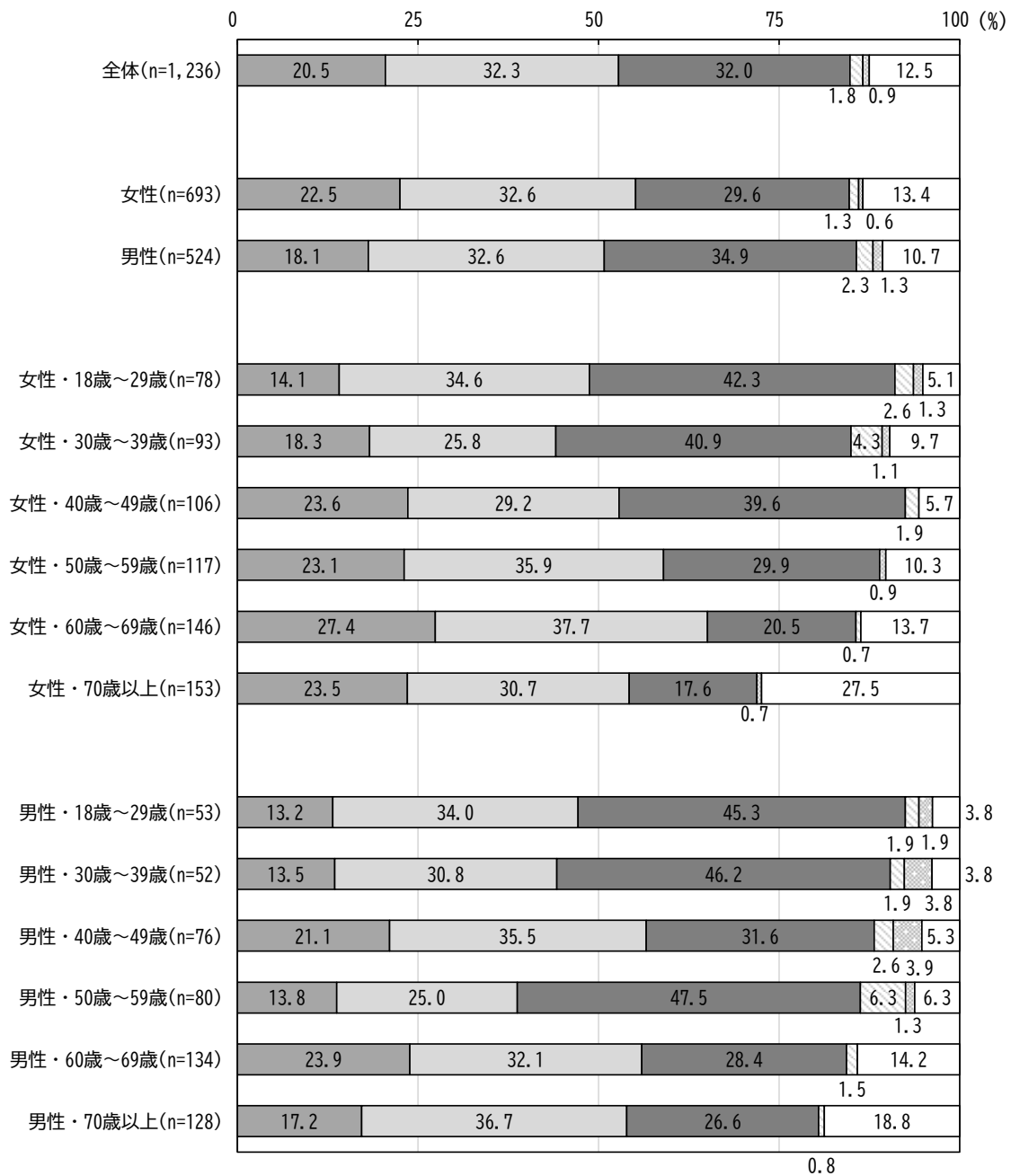
<重要度>

男女ともに「どちらかといえば重要」が最も多く、男女ともに 32.6%となっています。次いで「どちらともいえない」が、女性で 29.6%、男性で 34.9%、「重要」が、女性で 22.5%、男性で 18.1%などとなっています。

⑨男女共同参画による防災や地域活動の促進

(重要度)

- 重要
- どちらともいえない
- 重要でない
- どちらかといえば重要
- どちらかといえば重要でない
- 不明・無回答



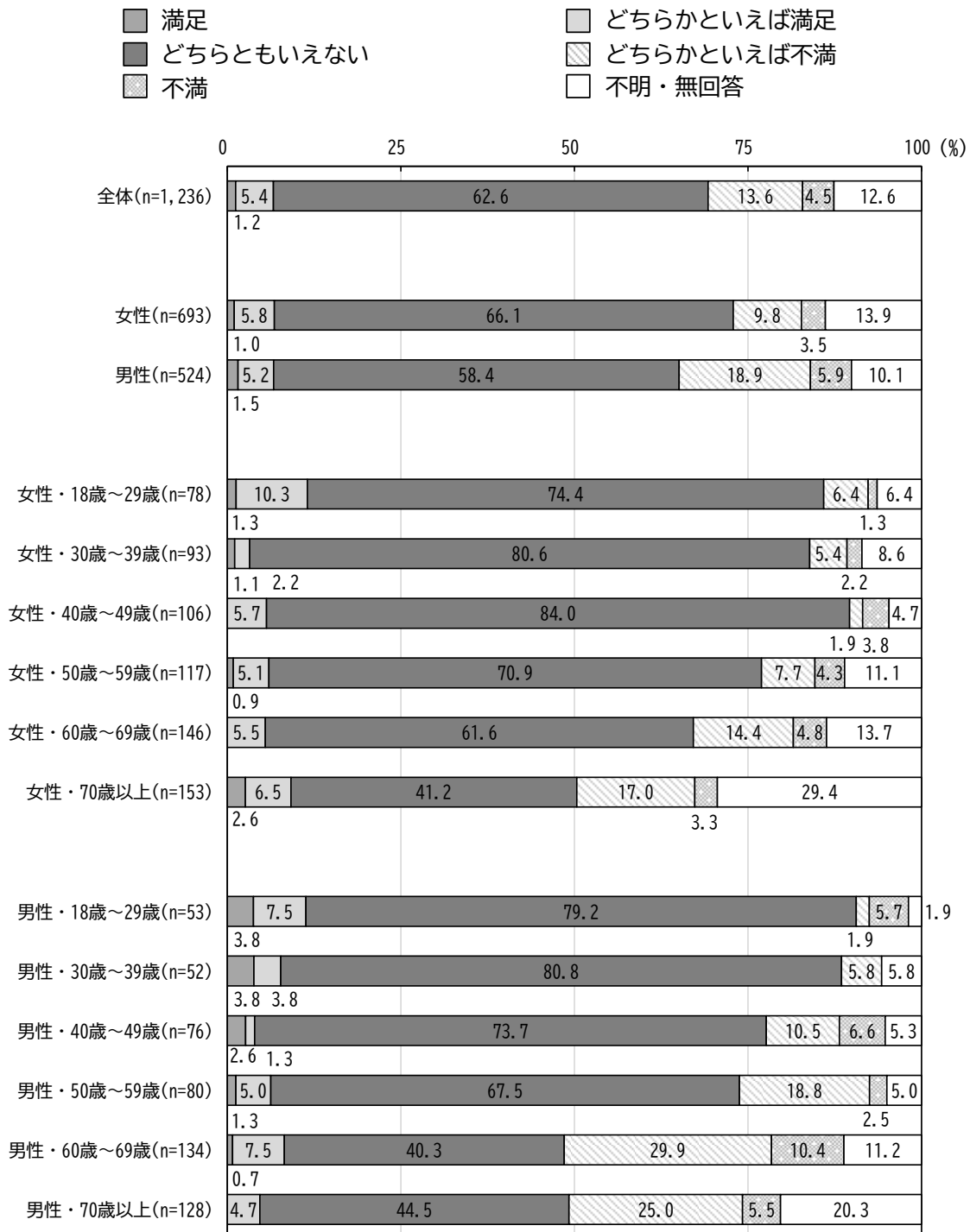
⑩ 地域活動において指導的役割を果たす女性が増えるような働きかけ

<満足度>

男女ともに「どちらともいえない」が最も多く、女性で66.1%、男性で58.4%となっています。次いで「どちらかといえば不満」が、女性で9.8%、男性で18.9%、女性では「どちらかといえば満足」が5.8%、男性では「不満」が5.9%などとなっています。

性別で比較すると、女性では「どちらともいえない」が多く、男性では「どちらかといえば不満」が多くなっています。

⑩地域活動において指導的役割を果たす女性が増えるような働きかけ
(満足度)



<重要度>

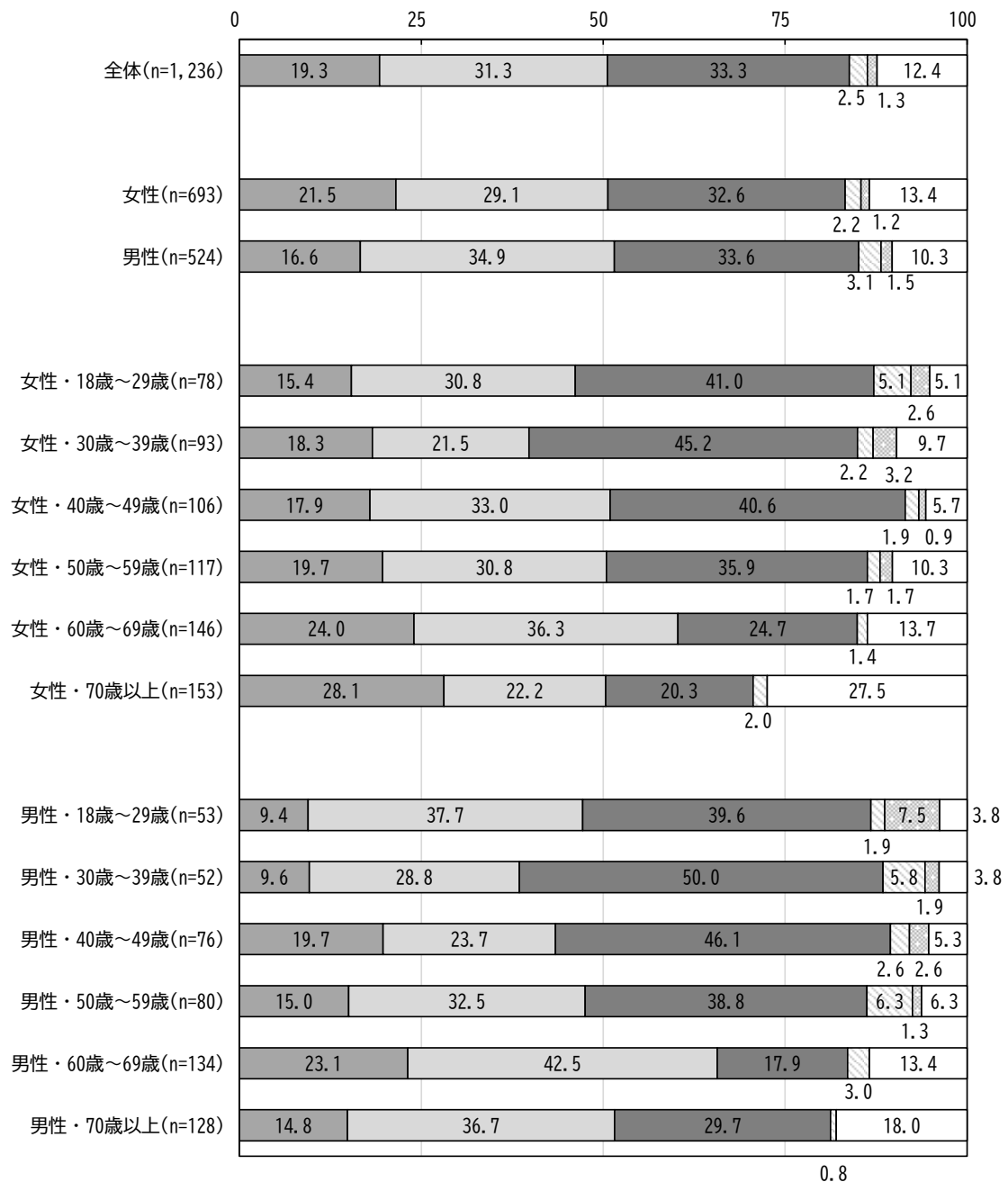
女性では「どちらともいえない」が 32.6%と最も多く、次いで「どちらかといえば重要」が 29.1%、「重要」が 21.5%などとなっています。

男性では「どちらかといえば重要」が 34.9%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が 33.6%、「重要」が 16.6%などとなっています。

性別で比較すると、女性では「重要」が多く、男性では「どちらかといえば重要」が多くなっています。

⑩地域活動において指導的役割を果たす女性が増えるような働きかけ
(重要度)

- 重要
- どちらともいえない
- 重要でない
- どちらかといえば重要
- どちらかといえば重要でない
- 不明・無回答



(4) 男女共同参画社会に関する「ことば」や「ことば」の認知

問 30 この調査票を受け取る前から、次の「ことば」や「ことば」を知っていましたか。(①～⑨それぞれについて1つに○)

(全体)

「内容(趣旨)を知っている」は「LGBT」が最も多く 37.1%、次いで「ジェンダー」が 33.5%、「男女共同参画社会」が 32.0%などとなっています。

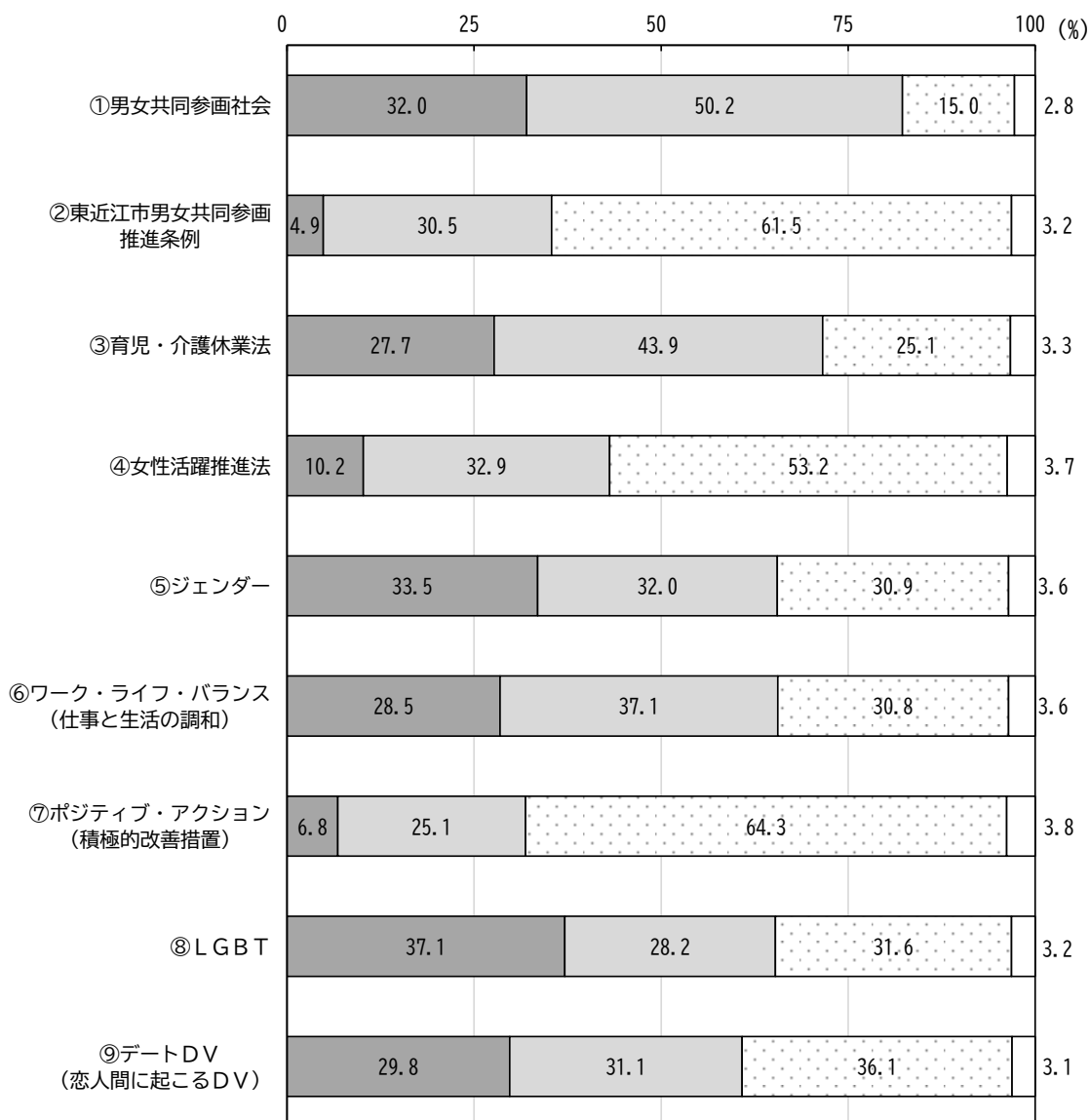
「聞いたことはある」は「男女共同参画社会」が最も多く 50.2%、次いで「育児・介護休業法」が 43.9%、「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」が 37.1%などとなっています。

「知らない」は「ポジティブ・アクション(積極的改善措置)」が最も多く 64.3%、次いで「東近江市男女共同参画推進条例」が 61.5%、「女性活躍推進法」が 53.2%などとなっています。

男女共同参画社会に関する「ことば」や「ことば」の認知

[全体]

■ 内容(趣旨)を知っている □ 聞いたことはある ▨ 知らない □ 不明・無回答



① 男女共同参画社会

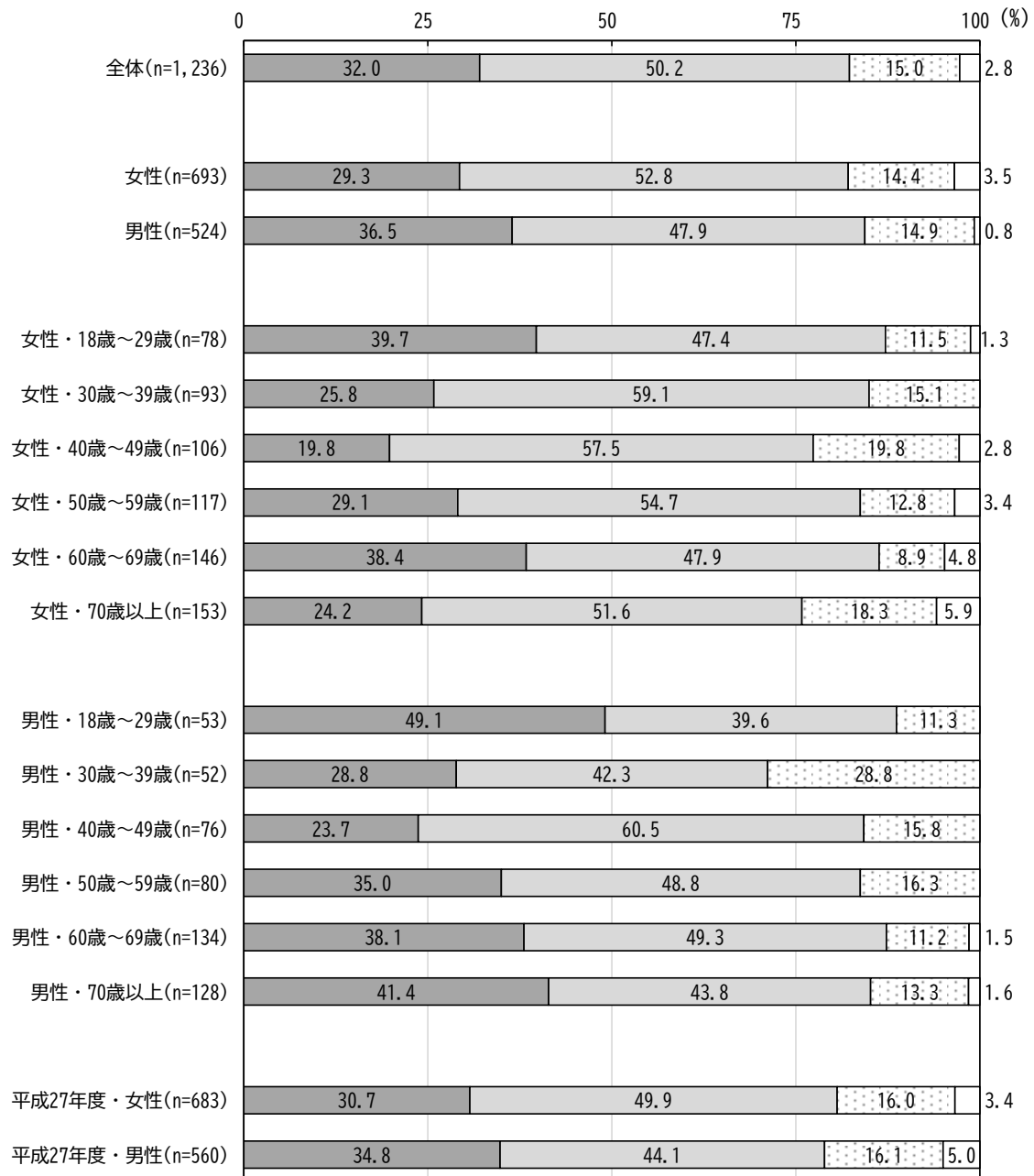
男女ともに「聞いたことはある」が最も多く、女性で 52.8%、男性で 47.9%となっています。次いで「内容（趣旨）を知っている」が、女性で 29.3%、男性で 36.5%、「知らない」が女性で 14.4%、男性で 14.9%となっています。

性別で比較すると、女性では「聞いたことはある」が多く、男性では「内容（趣旨）を知っている」が多くなっています。

男女共同参画社会に関する「ことば」や「ことば」の認知

①男女共同参画社会

■ 内容（趣旨）を知っている □ 聞いたことはある ▨ 知らない □ 不明・無回答



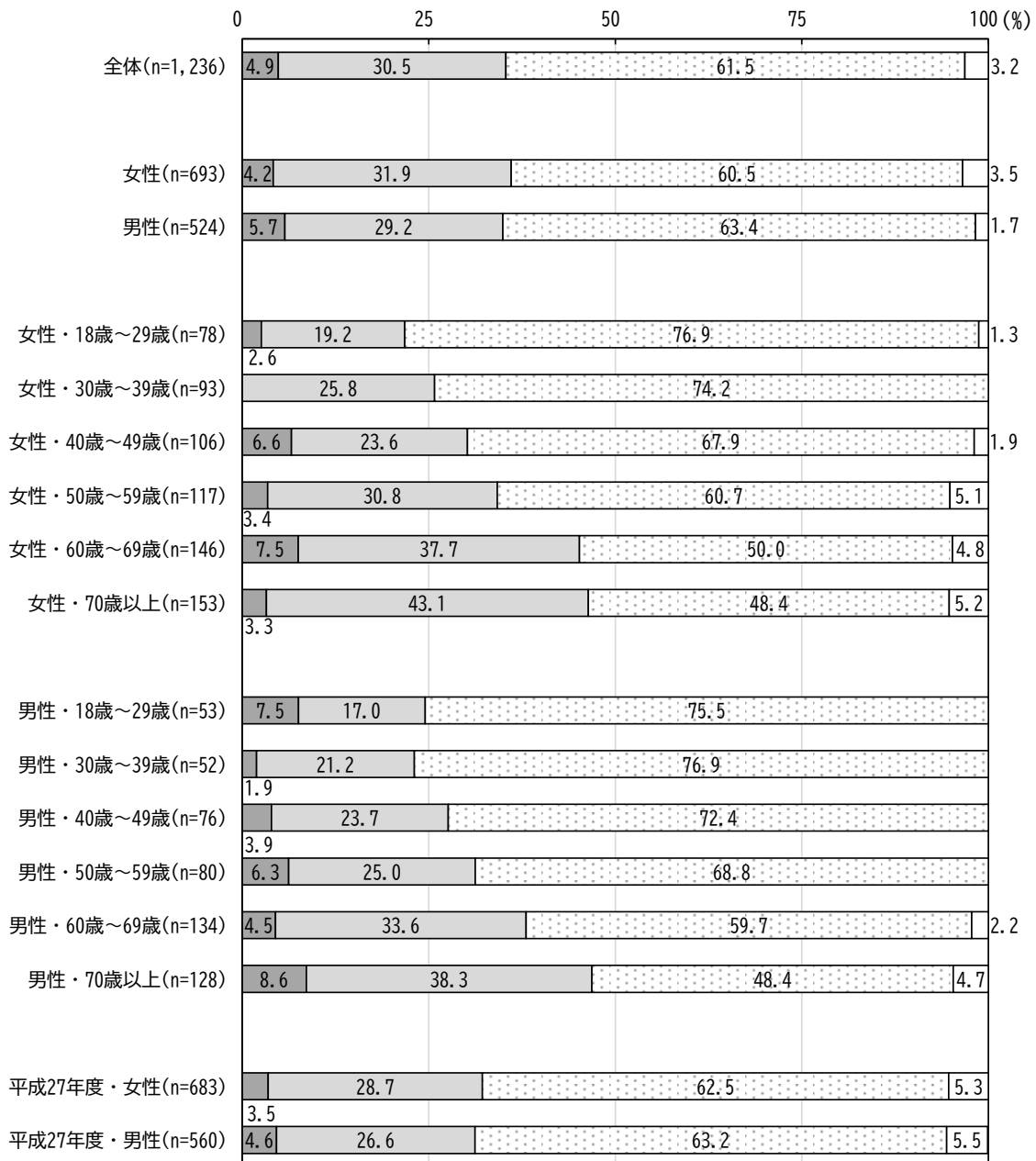
② 東近江市男女共同参画推進条例

男女ともに、「知らない」が最も多く、女性で 60.5%、男性で 63.4%となっています。次いで「聞いたことはある」が女性で 31.9%、男性で 29.2%、「内容（趣旨）を知っている」が女性で 4.2%、男性で 5.7%となっています。

男女共同参画社会に関する「ことがら」や「ことば」の認知

②東近江市男女共同参画推進条例

■ 内容（趣旨）を知っている □ 聞いたことはある □ 知らない □ 不明・無回答



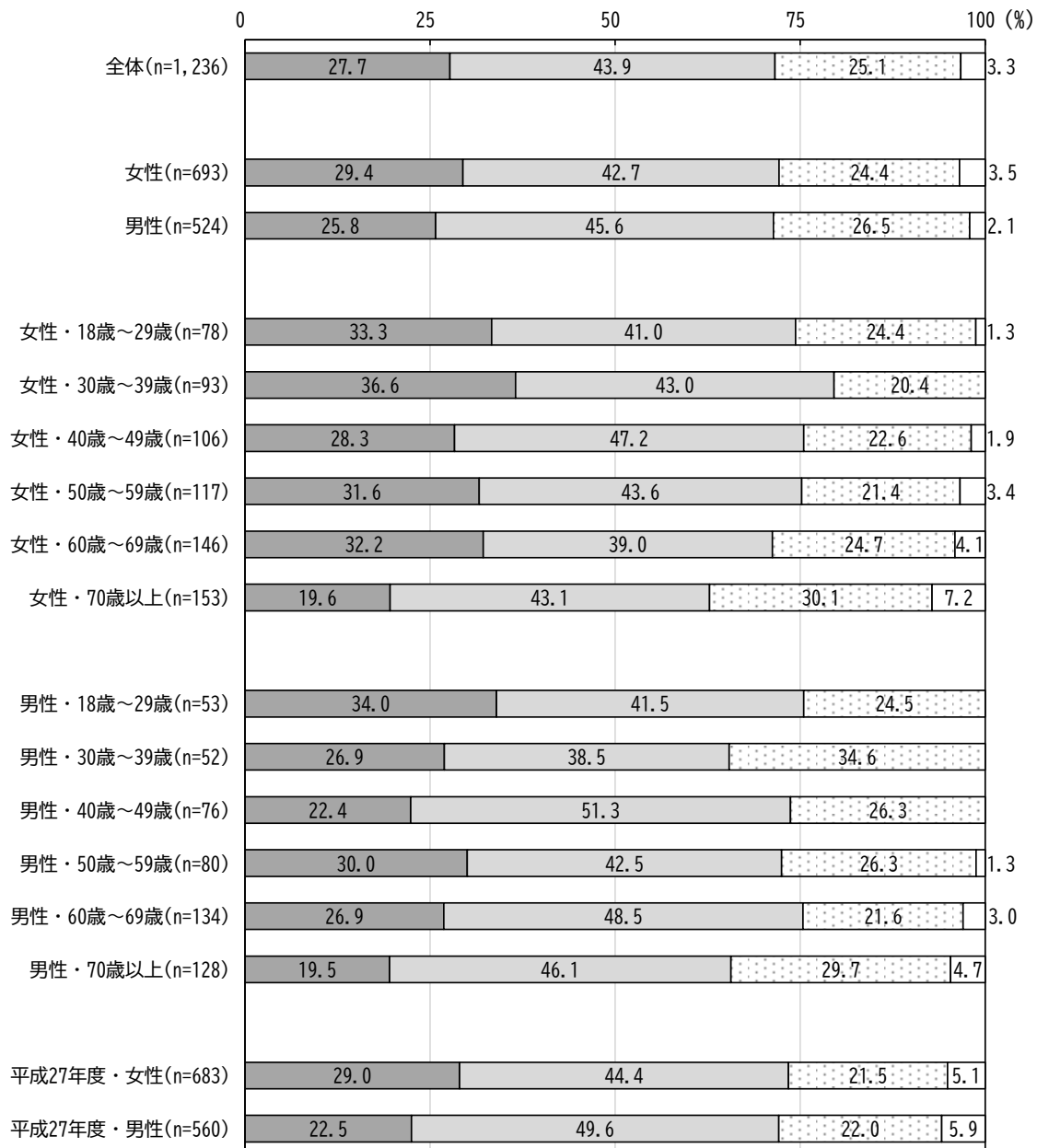
③ 育児・介護休業法

男女ともに、「聞いたことはある」が最も多く、女性で 42.7%、男性で 45.6%となっています。次いで女性では「知っている」が 29.4%、男性では、「知らない」が 26.5%などとなっています。

男女共同参画社会に関する「ことば」や「ことば」の認知

③育児・介護休業法

■ 内容（趣旨）を知っている □ 聞いたことはある ▨ 知らない □ 不明・無回答



④ 女性活躍推進法

男女ともに「知らない」が最も多く、女性では56.6%、男性では49.4%となっています。次いで「聞いたことはある」が、女性では31.9%、男性では34.4%、「内容（趣旨）を知っている」が、女性では7.6%、男性では13.7%となっています。

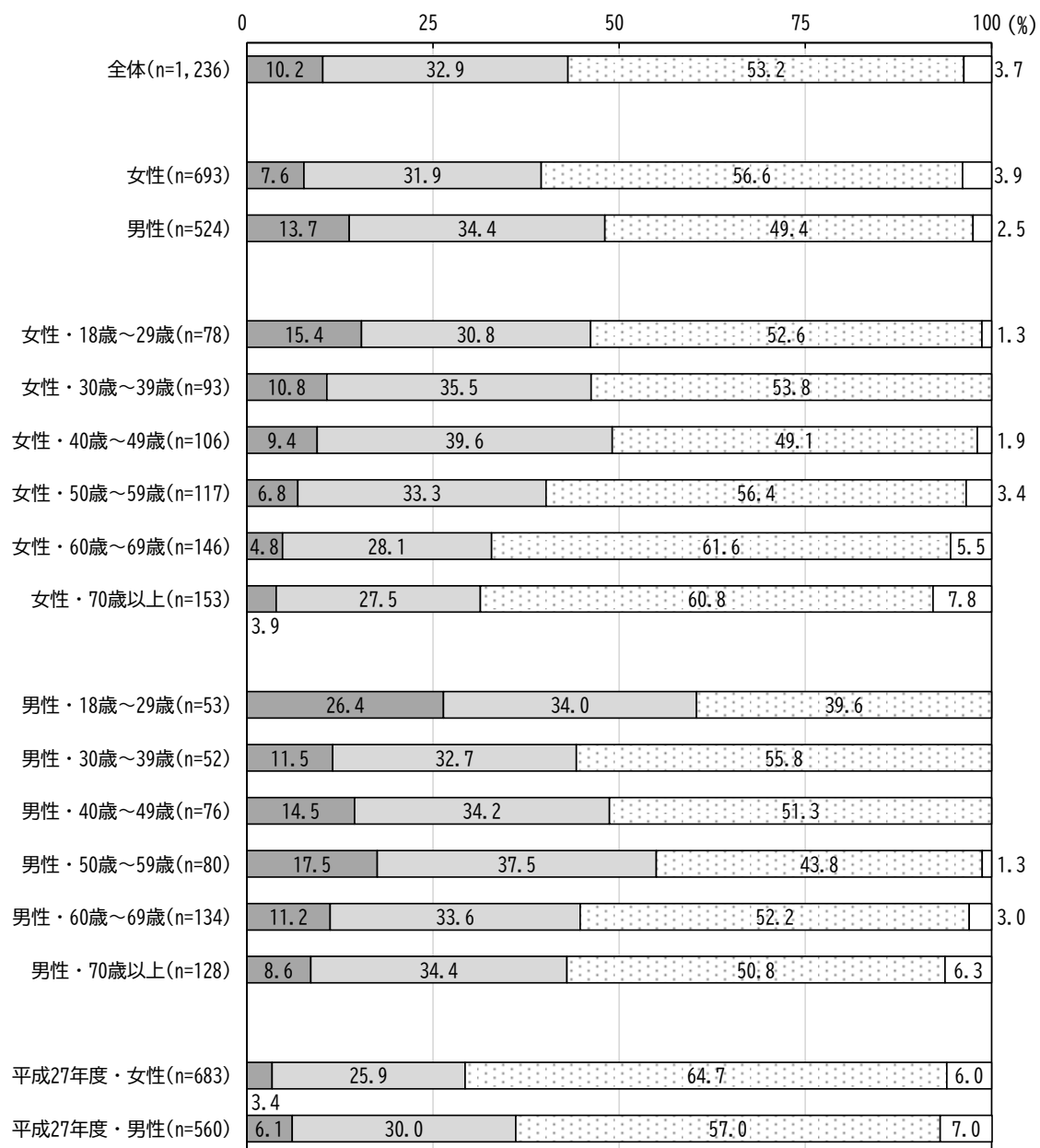
性別で比較すると、女性では「知らない」が多く、男性では「内容（趣旨）を知っている」が多くなっています。

前回調査と比較すると、男女ともに「内容（趣旨）を知っている」が多く、「知らない」が少なくなっています。

男女共同参画社会に関する「ことば」や「ことば」の認知

④女性活躍推進法

■ 内容（趣旨）を知っている □ 聞いたことはある ▨ 知らない □ 不明・無回答



⑤ ジェンダー

女性では「内容（趣旨）を知っている」が36.5%と最も多く、次いで「知らない」が31.7%、「聞いたことはある」が28.0%となっています。

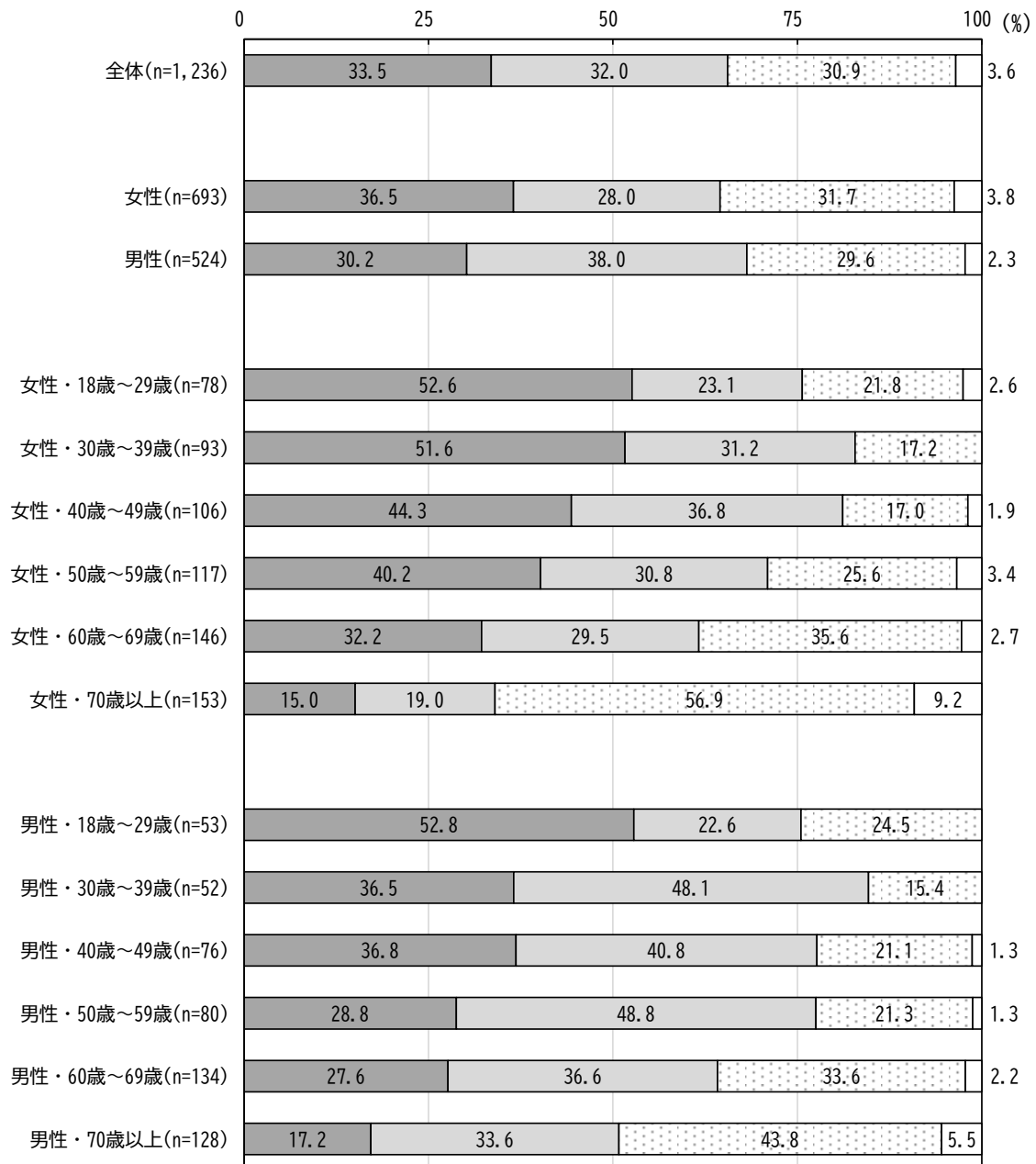
男性では「聞いたことはある」が38.0%と最も多く、次いで「内容（趣旨）を知っている」が30.2%、「知らない」が29.6%となっています。

性別で比較すると、女性では「内容（趣旨）を知っている」が多く、男性では「聞いたことはある」が多くなっています。

男女共同参画社会に関する「ことがら」や「ことば」の認知

⑤ ジェンダー

■ 内容（趣旨）を知っている □ 聞いたことはある ▨ 知らない □ 不明・無回答



⑥ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

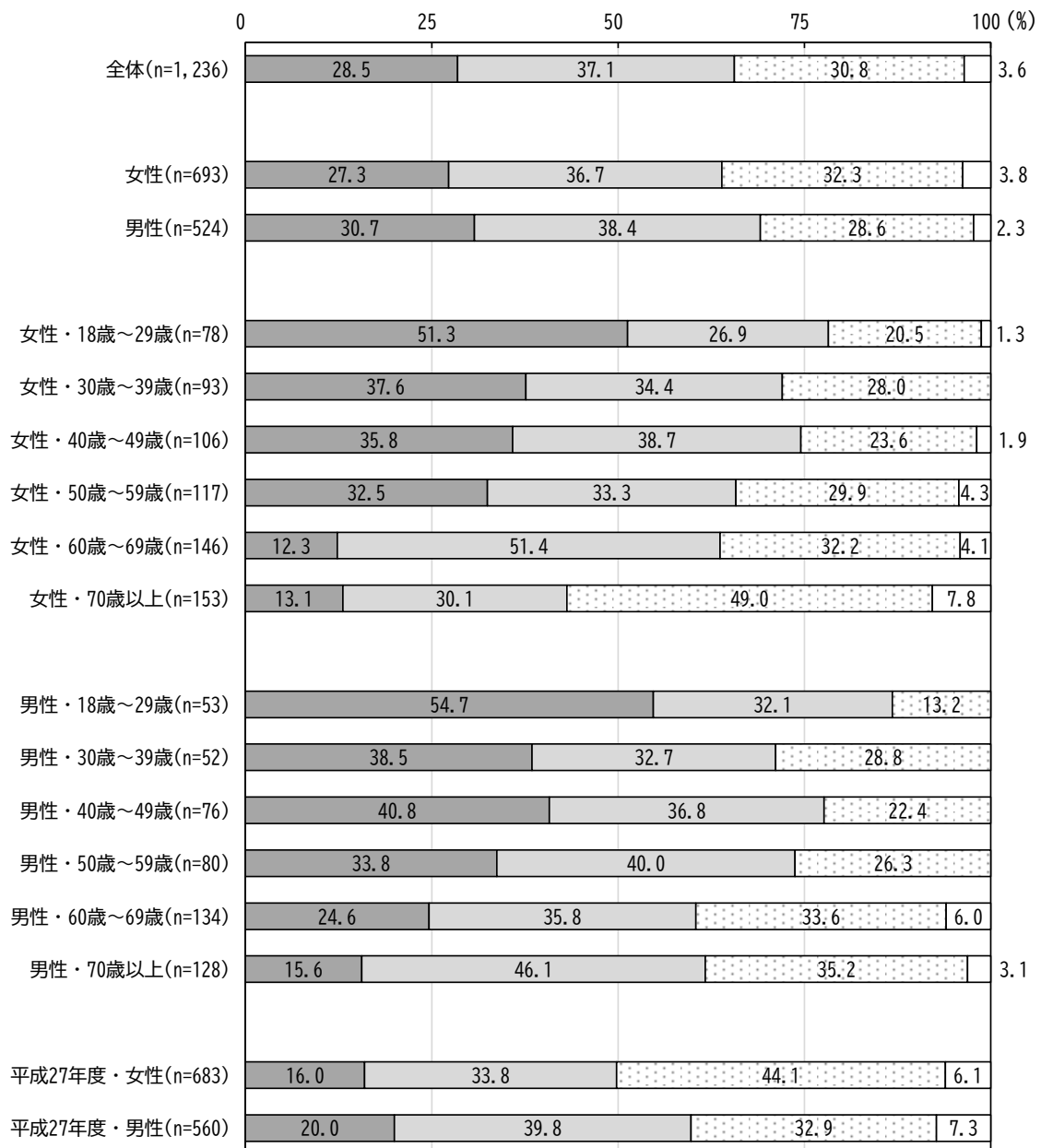
男女ともに、「聞いたことはある」が最も多く、女性で 36.7%、男性で 38.4%となっています。次いで女性では、「知らない」が 32.3%、男性では「内容（趣旨）を知っている」が 30.7%などとなっています。

前回調査と比較すると、男女ともに「内容（趣旨）を知っている」が多く、「知らない」が少なくなっています。

男女共同参画社会に関する「ことば」や「ことば」の認知

⑥ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

■ 内容（趣旨）を知っている □ 聞いたことはある ▨ 知らない □ 不明・無回答



⑦ ポジティブ・アクション（積極的改善措置）

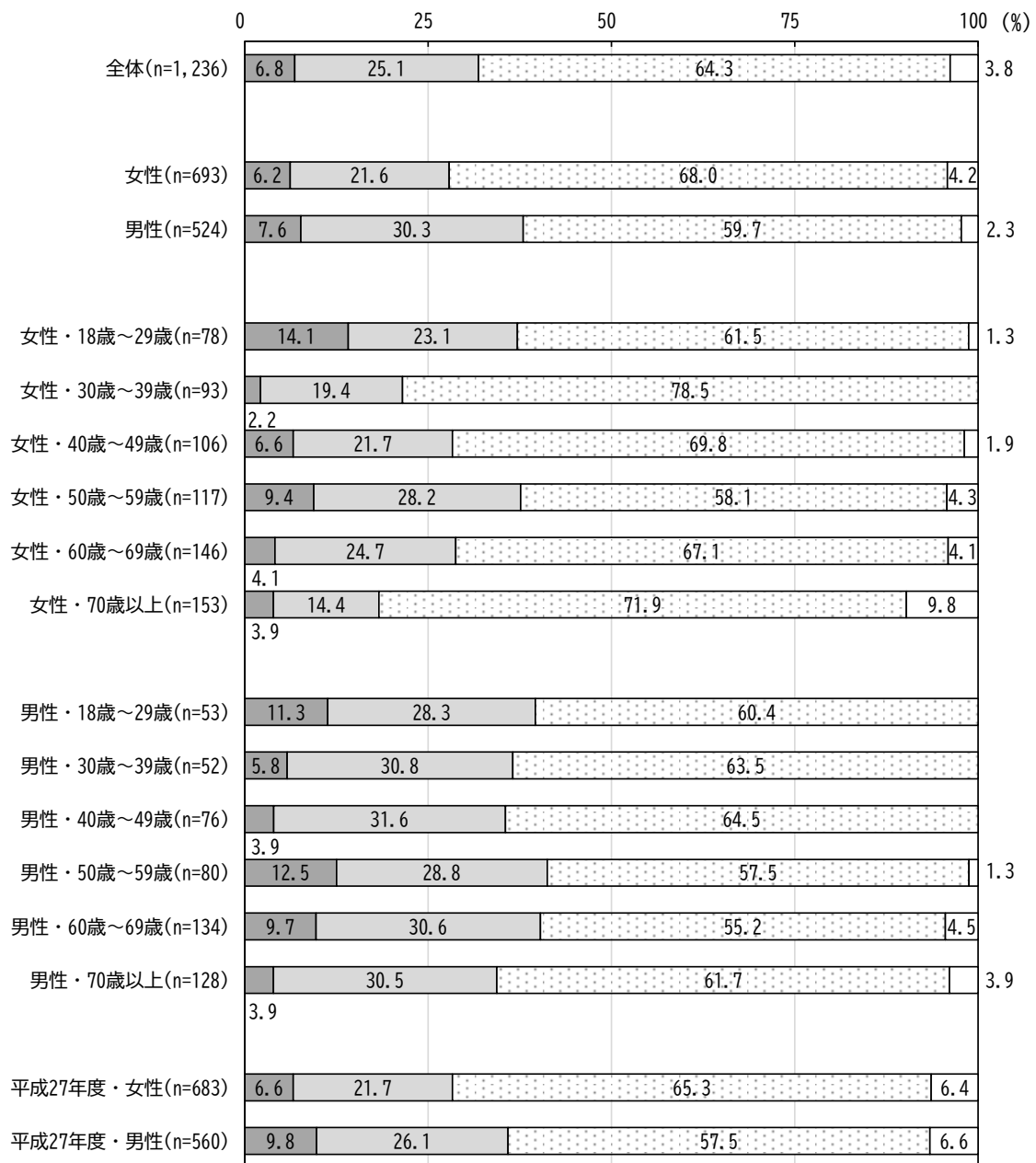
男女ともに「知らない」が最も多く、女性では 68.0%、男性では 59.7%となっています。次いで「聞いたことはある」が、女性では 21.6%、男性では 30.3%、「内容（趣旨）を知っている」が、女性では 6.2%、男性では 7.6%となっています。

性別で比較すると、女性では「知らない」が多く、男性では「聞いたことはある」が多くなっています。

男女共同参画社会に関する「ことば」や「ことば」の認知

⑦ ポジティブ・アクション（積極的改善措置）

■ 内容（趣旨）を知っている □ 聞いたことはある □ 知らない □ 不明・無回答



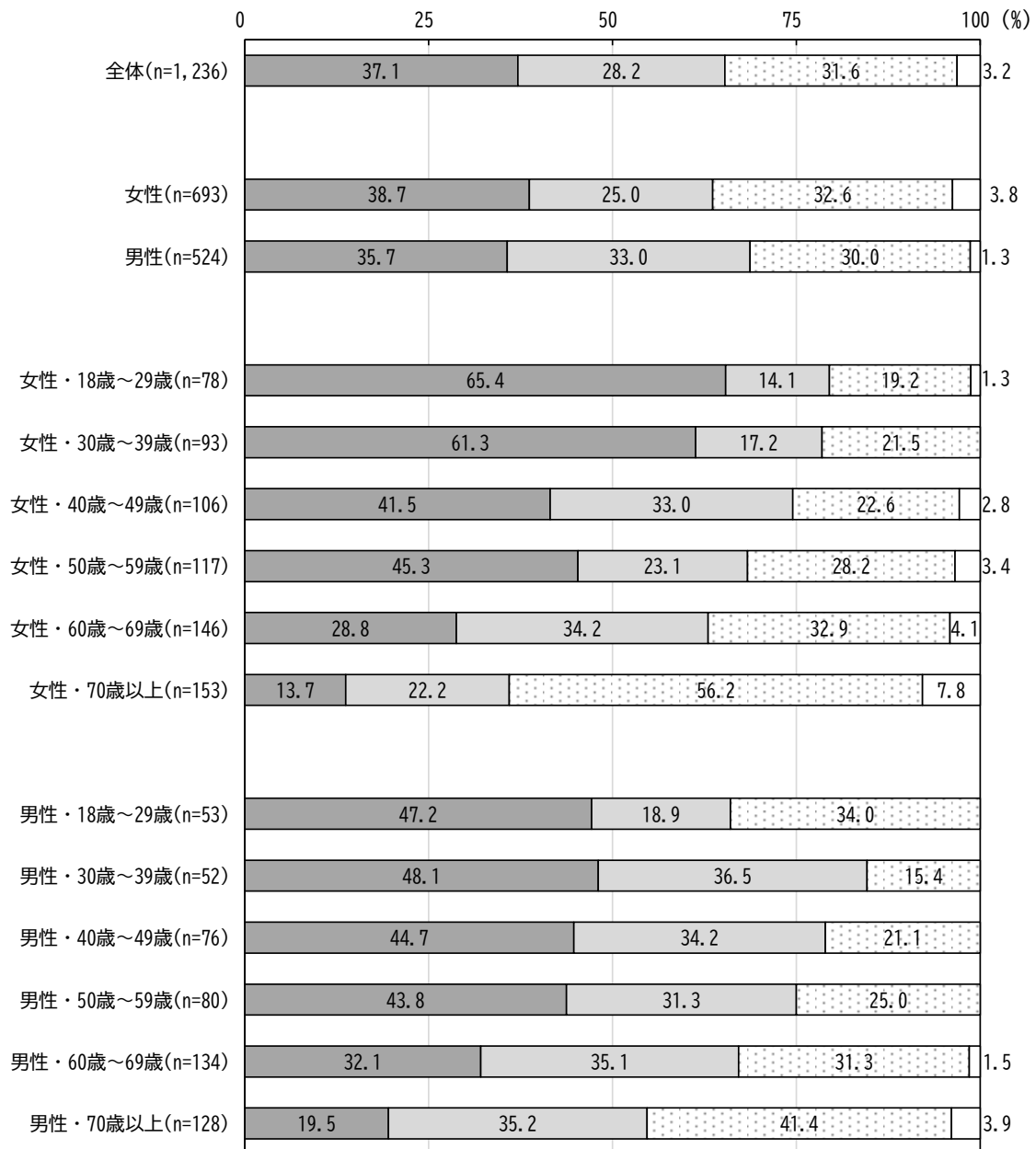
⑧ LGBT

男女ともに「内容（趣旨）を知っている」が最も多く、女性で38.7%、男性で35.7%となっています。次いで女性では「知らない」が32.6%、男性では「聞いたことはある」が33.0%などとなっています。

男女共同参画社会に関する「ことば」や「ことば」の認知

⑧ LGBT

■ 内容（趣旨）を知っている □ 聞いたことはある ▨ 知らない □ 不明・無回答



⑨ デートDV（恋人間に起こるDV）

女性では「知らない」が35.4%と最も多く、次いで「内容（趣旨）を知っている」が33.2%、「聞いたことはある」が28.1%となっています。

男性では「知らない」が37.4%と最も多く、次いで「聞いたことはある」が35.1%、「内容（趣旨）を知っている」が25.8%となっています。

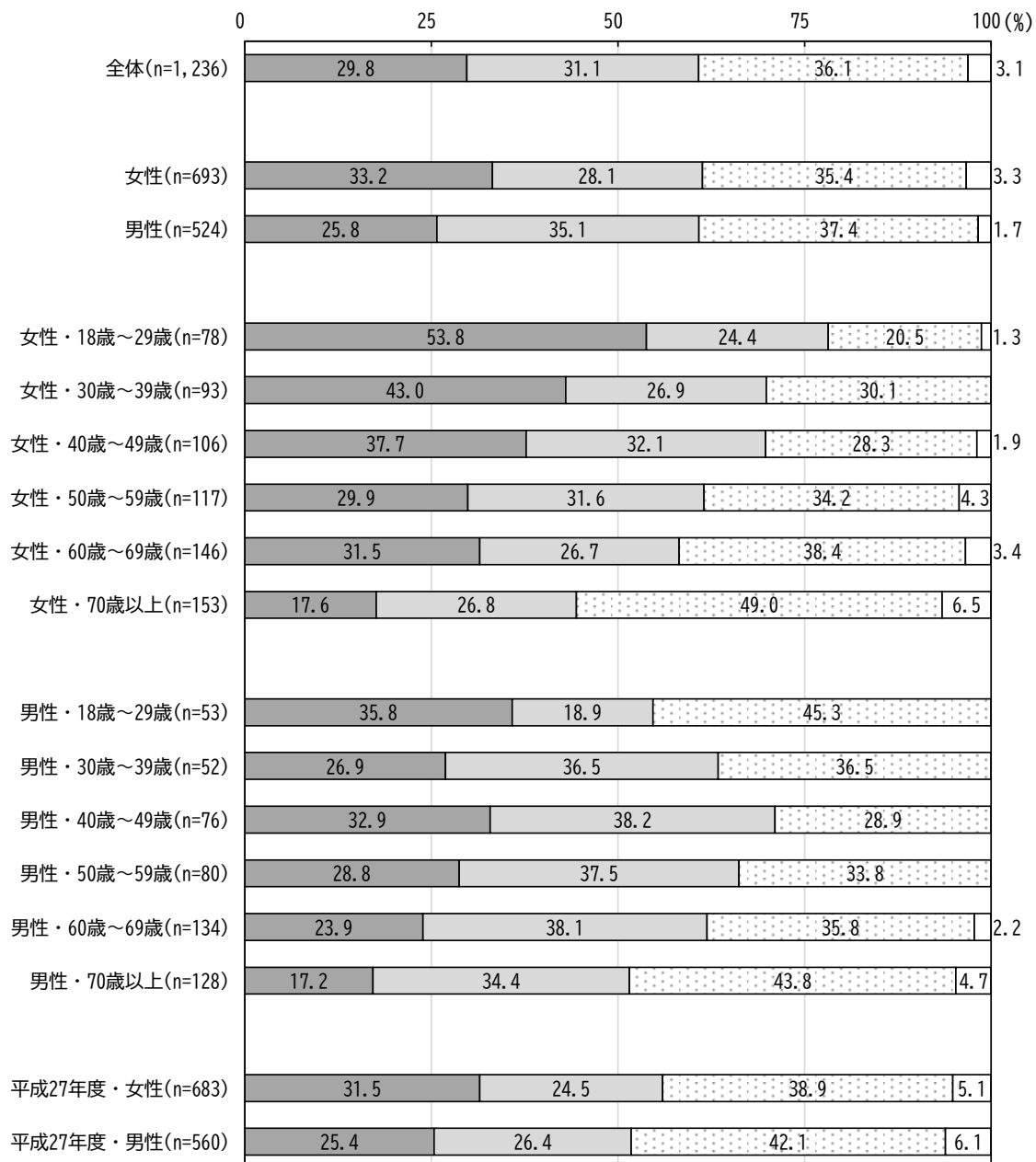
性別で比較すると、女性では「内容（趣旨）を知っている」が多く、男性では「聞いたことはある」が多くなっています。

前回調査と比較すると、男性で「聞いたことはある」が多く、「知らない」が少なくなっています。

男女共同参画社会に関する「ことがら」や「ことば」の認知

⑨デートDV（恋人間に起こるDV）

■ 内容（趣旨）を知っている □ 聞いたことはある ▨ 知らない □ 不明・無回答



8 自由記述

問 31 御意見や御感想がございましたら御自由にお書きください。

142 人から延べ 146 件の意見等があり、下表の通り分類しました。

大分類でみると、「男女がともに参画できる社会づくり」が 34 件と最も多く、次いで「就労の場での人権や子育てについて」が 29 件などとなっています。小分類でみると、「アンケート調査について」が 42 件と最も多く、次いで「男女共同参画の推進」が 22 件などとなっています。

「男女共同参画の推進」「性差別と性区分の違いを認識して互いの協力が必要」「子育て支援を充実させてほしい」などで女性の意見が多くなっています。

大分類	小分類	女性	男性	不明・無回答	件数
1 男女がともに参画できる社会づくり	1-1 男女共同参画の推進	14	7	1	22
	1-2 性差別と性区分の違いを認識して互いの協力が必要	6	1	0	7
	1-3 男性における不平等も改善してほしい	1	2	0	3
	1-4 男女平等を主張しすぎている	1	1	0	2
	小計	22	11	1	34
2 就労の場での人権や子育てについて	2-1 女性の働きやすい職場環境の改善	5	7	0	12
	2-2 男女でうまく仕事を分担できるようにしてほしい	4	1	0	5
	2-3 子育て支援を充実させてほしい	8	2	0	10
	2-4 介護しやすい環境にしてほしい	2	0	0	2
	小計	19	10	0	29
3 人権教育・啓発の推進	3-1 人権教育の推進	3	4	0	7
	3-2 意識啓発や講座等の推進	1	3	0	4
	小計	4	7	0	11
4 安全・安心な暮らしの実現	4-1 経済的な困難に関すること	2	2	0	4
小計	2	2	0	4	
5 人権相談・支援体制の充実	5-1 相談窓口について	2	0	0	2
	5-2 行政サービスに関すること	4	3	0	7
	小計	6	3	0	9
6 その他	6-1 アンケート調査について	19	23	0	42
	6-2 その他	11	6	0	17
	小計	30	29	0	59
合計		83	62	1	146

※ 自由記述の意見等は、原文の内容を意見の趣旨ごとに要約して集計しているため、件数の合計は回答数より多くなっています。

東近江市 男女共同参画に関する市民意識調査

御協力をお願い

日頃は、市政各般に御理解、御協力をいただきありがとうございます。

東近江市では、互いを認め合い、誰もが輝く社会の実現をめざし、平成27年4月1日より東近江市男女共同参画推進条例を施行するとともに、平成29年に「第2次東近江市男女共同参画推進計画」を策定し、様々な取組を進めています。

このたび、男女共同参画についてのこれまでの取組の成果や実態を把握し、今後の施策や計画づくりの参考とさせていただくため、東近江市にお住まいの18歳以上の方から無作為に抽出した3,000人の方を対象として、市民意識調査を実施することといたしました。

つきましては、お忙しいところ誠に恐縮ではございますが、調査の趣旨を御理解いただき、御協力くださいますようお願い申し上げます。

令和2年10月 東近江市

調査票の御記入にあたって

- お答えいただきました内容は、統計的な分析にのみ使用するものであり、それ以外には使用いたしません。
- お名前の記入も不要ですので、御安心のうえ、あなたのお考えをもとに率直にお答えください。
- ボールペンや鉛筆などで、回答内容がはっきりわかるように御記入ください。
- 設問ごとに、選択肢から選んで「1つに○」「3つまでに○」「あてはまるものすべてに○」などの指定がありますので、御注意ください。
- 記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、【令和2年11月10日(火)】までに、切手を貼らずに郵便ポストに入れてください。

お問合せ先

東近江市 市民環境部 人権・男女共同参画課

電 話 0748-24-5620

I P 電 話 050-5801-5620

F A X 0748-24-0217

Eメール jinken@city.higashiomi.lg.jp

東近江市 男女共同参画に関する市民意識調査 【調査票】

あなた自身のことについておたずねします

問1 あなたの性別をお答えください。(1つに○)

- | | | |
|------|------|--------|
| 1 女性 | 2 男性 | 3 答えない |
|------|------|--------|

問2 あなたの年齢を令和2年10月1日現在でお答えください。(1つに○)

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| 1 18歳～29歳 | 2 30歳～39歳 | 3 40歳～49歳 |
| 4 50歳～59歳 | 5 60歳～69歳 | 6 70歳以上 |

問3 あなたのお住まいの地域はどちらですか。(1つに○)

- | | | | |
|----------|----------|-------------------|---------|
| 1 平田地区 | 2 市辺地区 | 3 玉緒地区 | 4 御園地区 |
| 5 建部地区 | 6 中野地区 | 7 八日市地区 | 8 南部地区 |
| 9 永源寺地区 | 10 五個荘地区 | 11 愛東地区 | 12 湖東地区 |
| 13 能登川地区 | 14 蒲生地区 | 15 わからない(町・丁目名:) | |

問4 あなたの家族構成はどれにあたりますか。(1つに○)

- | | |
|---------------|----------------|
| 1 一人暮らし(単身世帯) | 2 夫婦のみ(1世代世帯) |
| 3 親と子(2世代世帯) | 4 親と子と孫(3世代世帯) |
| 5 その他(構成内容:) | |

問5 あなたは結婚されていますか。(1つに○)

- | | | |
|------|------|---------|
| 1 未婚 | 2 既婚 | 3 死別・離婚 |
|------|------|---------|

* 「結婚」は、「事実婚」を含めてお考えください。

問6 あなたと配偶者の職業はどれにあたりますか。(「あなた」「配偶者」それぞれに1つを選んで番号を記入)

	あなた	配偶者
1 自営業及び家族従業員(農林漁業、商工業、サービス業など)		
2 正社員(会社、団体、公務員、学校などの正規雇用者)		
3 非正規社員(パート、アルバイト、契約社員、嘱託などの非正規雇用者)		
4 家事専業(主婦、主夫) 5 学生 6 無職		
7 その他()		

↑
<配偶者については、問5で「2 既婚」と答えた方がお答えください>

家庭生活についておたずねします

問7 あなたの家庭では、次のようなことを主として男性・女性どちらがされていますか。(①～⑨それぞれ1つに○)

	男性 主として	どちらか といえば男性	男女 同じ程度	どちらか といえば女性	女性 主として	該当なし
① 生活費を稼ぐ	1	2	3	4	5	6
② 農作業等(林業・漁業含む)	1	2	3	4	5	6
③ 食事のしたく・あとかたづけ	1	2	3	4	5	6
④ 掃除・洗濯	1	2	3	4	5	6
⑤ 日常の買い物	1	2	3	4	5	6
⑥ 介護・看護	1	2	3	4	5	6
⑦ 子どものしつけや教育	1	2	3	4	5	6
⑧ 育児(乳幼児の世話)	1	2	3	4	5	6
⑨ 自治会・地域活動	1	2	3	4	5	6

問8 あなたは、男性が女性とともに家事・育児・介護などの家庭生活により積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 男性が家事などを行うことへの、男性自身の抵抗感をなくすこと 2 男性が家事などを行うことへの、女性自身の抵抗感をなくすこと 3 夫婦や家族間でのコミュニケーションをはかること 4 まわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること 5 社会の中で、男性による家事、育児、介護などについての評価を高めること 6 労働時間の短縮や休暇制度を普及させることで、仕事以外の時間を持てるようにすること 7 男性も育児や介護の休業を取得しやすい環境にすること 8 育児や介護を行っていくうえでの仲間がいること 9 その他(具体的に: _____) 10 特に必要なことはない |
|--|

地域活動についておたずねします

問9 あなたが住んでいる地域の行事等に、男女の不平等はありますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 役員選挙や運営に女性が参加しにくく、また選ばれにくい
- 2 地域の行事で女性が参加できなかつたり、男女の差があつたりする
- 3 会議などで女性が意見を言いにくかつたり、意見が取り上げられにくかつたりする
- 4 その他(具体的に: _____)
- 5 男女の不平等はない

問10 男性と女性がともに地域活動に積極的に参加するためには、あなたは、どのようなことが必要だと思えますか。(3つまでに○)

- 1 参加のきっかけとなる地域活動情報の提供
- 2 地域活動の場での男女共の性別役割分担意識の解消
- 3 配偶者や家族の協力
- 4 労働時間の短縮や休暇制度を普及させることで、仕事以外の時間を持てるようにすること
- 5 団体等に対する補助金等の行政の支援
- 6 社会の中で地域活動への参加についての評価を高めること
- 7 地域の中に仲間がいること
- 8 その他(具体的に: _____)
- 9 特に必要なことはない

問11 あなたは防災・災害復興対策において、性別に配慮した対応が必要だと思えますか。(1つに○)

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1 必要である → 問12へ | 2 どちらかといえば必要である → 問12へ |
| 3 どちらかといえば必要でない → 問13へ | 4 必要でない → 問13へ |

<問11で「1 必要である」「2 どちらかといえば必要である」と答えた方におたずねします>

問12 防災・災害復興対策において、性別に配慮したどのような対応が必要だと思えますか。(3つまでに○)

- 1 避難所の設備(男女別のトイレや更衣室、物干し場など)を整えること
- 2 避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること
- 3 災害時の救援医療体制(乳幼児、高齢者、障害者、妊産婦へのサポート体制)を整えること
- 4 公的施設での備蓄品のニーズを把握し、災害時の支給に配慮すること
- 5 被災者に対する相談体制を整えること
- 6 市の防災会議や防災計画に男女両方の視点が入ること
- 7 その他(具体的に: _____)

職業生活についておたずねします

<あなたの職場についておたずねします>
 <あてはまらない方は問 16 へお進みください>

問 13 あなたの職場は、東近江市「市内」か「市外」のどちらにありますか。(1つに○)

1 市内	2 市外
------	------

問 14 あなたの職場では、男女共同参画の取組がどの程度進んでいますか。(1つに○)

1 進んでいる	2 やや進んでいる
3 あまり進んでいない	4 まったく進んでいない

問 15 問 14 であなたがそう思った理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1 募集・採用の条件	2 仕事の内容	3 賃金・昇給
4 能力の評価	5 研修・訓練の機会	6 退職の年齢
7 昇進・昇格	8 仕事と生活の両立の支援	

<すべての方におたずねします>

問 16 「女性の働き方」について、あなたが「理想」だと思う働き方、「現実」だと思う働き方に最も近いものはどれですか。(「理想」「現実」それぞれに1つを選んで番号を記入)

	理想	現実
1 仕事を続ける		
2 結婚するまで仕事を持ち、結婚後は仕事を持たない		
3 子どもができるまで仕事を持ち、子どもができたなら仕事を持たない		
4 子育て中は仕事を一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける		
5 子育て中は仕事を一時やめ、その後はパートタイム等で仕事を続ける		
6 仕事は持たない		
7 その他(具体的に:)		
8 わからない		

問 17 あなたは、女性が仕事を続けていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 家事の負担が軽減されること
- 2 安心して子どもを預けられるなど、育児の負担が軽減されること
- 3 介護支援サービスが充実するなど、介護の負担が軽減されること
- 4 男女がともに日常的に家事・育児・介護を分担すること
- 5 女性が働き続けることへの家族や周囲の理解が進むこと
- 6 女性が働き続けることへの女性自身の意識が変わること
- 7 長時間労働の改善などが進むこと
- 8 短時間勤務制度や在宅勤務制度などを導入し、多様な働き方が選べること
- 9 職場における育児・介護との両立支援などの制度が充実すること
- 10 育児や介護による仕事への制約を理由とする、昇進などへの不利益がないこと
- 11 その他(具体的に:)
- 12 特にな

問 18 現状では管理職(意思決定を行う管理的部門や指導的地位)につく女性が少ない状況にありますが、あなたは理由としてどのようなものがあると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 女性自身が管理職につくことに消極的だから
- 2 女性は、勤続年数が短く、管理職になる前に退職するから
- 3 女性は、家庭における責任を多く担っているため、責任の重い仕事につきにくいから
- 4 女性は、能力的にみて管理職に向いていないから
- 5 女性は、管理職に必要とされる能力(知識や経験、判断力など)を高める機会が少ないから
- 6 会社や組織の中に昇進・昇格に対する男性優先の意識や、女性管理職に対する不安感があるから
- 7 その他(具体的に:)
- 8 わからない

問 19 あなたは今後どのような分野・立場で、女性の活躍が進むのがよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1 自治会・PTAなどのリーダー | 2 ボランティアグループ等のリーダー |
| 3 企業の管理職、労働組合の幹部 | 4 農林漁業団体などの役員 |
| 5 建設作業や運転業務に従事する者 | 6 弁護士・医師などの専門職 |
| 7 警察官や消防士 | 8 国の省庁・県庁・市町の役所等の公務員 |
| 9 国会・県議会・市町議会等の議員 | 10 企業・大学・研究所などの研究者 |
| 11 その他(具体的に:) | 12 特にな |

仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）についておたずねします

* ワーク・ライフ・バランス

男女がともに、人生の段階に応じて、仕事、家庭生活、地域生活、個人の自己啓発など、さまざまな活動について、自らの希望に応じて多様な生き方を選択、実現できる状態のこと。

<すべての方におたずねします>

問 20 あなたは生活の中で、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」で何を優先しますか。あなたの「希望」と「現状」に最も近いものをそれぞれお答えください。（「希望」「現状」それぞれに1つを選んで番号を記入）

	希望	現状
1 「仕事」を優先		
2 「家庭生活」を優先		
3 「地域・個人の生活」を優先		
4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先		
5 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先		
6 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先		
7 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先		
8 わからない		

「仕事」……………自営業主、家族従業、雇用者として、週1時間以上働いていること。
フルタイム、パート、アルバイト、嘱託などは問わない。

「家庭生活」……………家族と過ごすこと。家事、育児、介護・看護など。

「地域・個人の生活」……自治会活動、ボランティア活動、社会参加活動、交際・つきあいなど。
趣味・娯楽、スポーツ、学習・研究（学業も含む）など。

<問 20 の「希望」と「現状」の回答が異なる方におたずねします>

問 21 「現状」を「希望」に近づけることをさまたげている（ていた）のはどんなことですか。（あてはまるものすべてに○）

1 仕事が忙しくて時間がない	2 家事や子育てで時間がない
3 家族の介護や看護などで時間がない	4 家族の理解や協力を得にくい
5 職場の理解や支援が不足している	6 隣近所の日や世間体が気になる
7 男女の役割分担についての社会通念等	8 自分の能力に自信がない
9 健康状態に不安がある	10 適当な仕事がない
11 就職に関する情報を得にくい	12 地域活動に関する情報を得にくい
13 自分に興味のある内容がない	14 人間関係がわずらわしい
15 何からはじめてよいかわからない	16 その他（具体的に： _____）

配偶者等からの暴力についておたずねします

<すべての方におたずねします>

問 22 あなたは、次のような DV（ドメスティック・バイオレンス）を過去5年以内に受けた経験がありますか。

（①～⑤それぞれ1つに○）

*** DV（ドメスティック・バイオレンス）**

配偶者や恋人など親密な関係にある、又はあった者から振るわれる暴力のこと。

	あ っ た も	あ っ た 1、 2 度	な ま っ た く な か っ た
① 身体的な暴力 ・ 殴る、蹴る、物を投げつける、突き飛ばすなど	1	2	3
② 心理的な暴力 ・ 人格を否定することを言う、「出て行け」「口答えするな」と怒鳴る、脅迫するなど	1	2	3
③ 性的な暴力 ・ 性的な行為を強要する、避妊に協力しない、望まないポルノ動画を見せるなど	1	2	3
④ 経済的な暴力 ・ 生活費を渡さない、お金の使途を細かくチェックする、仕事をさせないなど	1	2	3
⑤ 社会的な暴力 ・ 実家や友人とつきあうのを制限する、電話やメールを細かくチェックする、社会との接触を遮断するなど	1	2	3

→ ①～⑤すべてに「まったくなかった」と答えた方は、問 25 へお進みください

<問 22 で「何度もあった」「1、2度あった」と答えた方におたずねします>

問 23 あなたは、これまでに配偶者または交際相手（同様の関係にある方を含みます。）から受けたそのような行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。（あてはまるものすべてに○）

<ul style="list-style-type: none"> 1 配偶者暴力相談支援センター（子ども家庭相談センター・男女共同参画センター）に相談した 2 警察に連絡・相談した 3 法務局・人権擁護委員に相談した 4 市町の行政機関に相談した 5 民生委員児童委員または社会福祉協議会の相談窓口相談した 6 民間の専門家や専門機関（弁護士、カウンセラー、民間シェルターなど）に相談した 7 医療関係者（医者・看護師など）に相談した 8 学校関係者（教員、養護教員、スクールカウンセラーなど）に相談した 9 家族や親戚、友人・知人に相談した 10 その他（具体的に： _____) 11 どこ（誰）にも相談しなかった → 問 24 へ 	}	→ 問 25 へ
--	---	----------

<問23で「11 どこ（誰）にも相談しなかった」と答えた方におたずねします>

問24 どこ（誰）にも相談しなかったのは、なぜですか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 どこ（誰）に相談してよいのかわからなかったから
- 2 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
- 3 相談しても無駄と思ったから
- 4 相談したことがわかると、仕返しをされるなどもっとひどい暴力を受けると思ったから
- 5 自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
- 6 世間体が悪いと思ったから
- 7 他人を巻き込みたくなかったから
- 8 自分にも悪いところがあると思ったから
- 9 相談するほどのことではないと思ったから
- 10 その他（具体的に： _____）

<すべての方におたずねします>

問25 あなたは、DV（ドメスティック・バイオレンス）に関して、次の相談場所があることを知っていますか。（知っているものすべてに○）

- | | |
|-------------------------------|---------------------------------------|
| 1 東近江市役所の相談窓口 | 2 滋賀県配偶者暴力相談支援センター |
| 3 滋賀県立彦根子ども家庭相談センター | 4 滋賀県立男女共同参画センター（G-NETしが） |
| 5 女性の人権ホットライン（大津地方法務局） | 6 犯罪被害者相談窓口（公益社団法人
おうみ犯罪被害者支援センター） |
| 7 性暴力被害者総合ケアワンストップびわ湖（SATOCO） | 8 警察 |
| 9 すべて知らない | |

問26 あなたは過去5年以内に、職場や地域など社会的な場で、以下のような言動をされて不快な思いをした（セクシュアル・ハラスメントを受けた）ことはありますか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 容姿・服装・婚姻状況（未婚・既婚・離婚）などについてからかわれた
- 2 性的な話題（自分が直接の対象でない場合を含む）を聞かされた
- 3 ヌード画像等が見えるところに置かれていた
- 4 必要のない場面で相手から身体的接触を受けた
（例：自分の肩や腰に手を回す、体を異常に接近する、ぶつかってくる、胸や足に触る）
- 5 上司や先輩、顧客などの立場を利用した性的な誘い（例：デート、肉体関係）や強要を受けた
- 6 その他（具体的に： _____）
- 7 特にない

男女共同参画社会についておたずねします

<すべての方におたずねします>

問 27 「男は仕事、女は家事・育児」という考え方について、あなたはどのように思いますか。(1つに○)

1 賛成	2 どちらかといえば賛成	3 どちらかといえば反対
4 反対	5 わからない	

問 28 あなたは次のような分野で、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。(①～⑨それぞれ1つに○)

	男性が優遇 されている	どちらかとい えば男性が優 遇されている	平等である	どちらかとい えば女性が優 遇されている	女性が優遇 されている	わからない
① 家庭生活の中で	1	2	3	4	5	6
② 職場の中で	1	2	3	4	5	6
③ 地域社会の中で	1	2	3	4	5	6
④ 学校教育の中で	1	2	3	4	5	6
⑤ 法律や制度の上で	1	2	3	4	5	6
⑥ 政治の場で	1	2	3	4	5	6
⑦ 介護や看護の場で	1	2	3	4	5	6
⑧ 社会通念・慣習・しきたり等で	1	2	3	4	5	6
⑨ 社会全体で	1	2	3	4	5	6



問 29 東近江市における男女共同参画社会づくりについて、現状の満足度と今後の重要度についておたずねします。以下の①～⑩のそれぞれの項目について、右の欄の1～5の中からあなたが感じる満足度、重要度に最も近いものを選んでください。(①～⑩について、「現状の満足度」「今後の重要度」をそれぞれ1つに○)

	現状の満足度 (①～⑩それぞれ1つに○)					今後の重要度 (①～⑩それぞれ1つに○)				
	1 満足	2 どちらか といえば満足	3 どちらとも いえない	4 どちらか といえば不満	5 不満	1 重要	2 どちらか といえば重要	3 どちらとも いえない	4 どちらか と重要でない といえば	5 重要でない
① 市の施策・方針を審議する審議会の委員などでの女性の積極的な登用	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
② 男女共同参画に関する情報提供や意識啓発のための学習会等の充実	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
③ 働く者を支援するための育児・保育・介護に関するサービスの充実	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
④ 学校教育での男女平等や男女共同参画についての学習の促進	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑤ 働く場での男女の賃金・地位の格差をなくすための企業主などへの働きかけ	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑥ 企業におけるワーク・ライフ・バランスの推進	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑦ 子育てや介護等で離職した人の再就職を支援するための情報提供	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑧ 男女共同参画に関する相談窓口の充実	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑨ 男女共同参画による防災や地域活動の促進	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑩ 地域活動において指導的役割を果たす女性が増えるような働きかけ	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

問 30 この調査票を受け取る前から、次の「ことがら」や「ことば」を知っていましたか。(①～⑨それぞれについて1つに○)

	内容(趣旨)を知っている	聞いたことはある	知らない
① 男女共同参画社会	1	2	3
② 東近江市男女共同参画推進条例	1	2	3
③ 育児・介護休業法	1	2	3
④ 女性活躍推進法	1	2	3
⑤ ジェンダー	1	2	3
⑥ ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)	1	2	3
⑦ ポジティブ・アクション(積極的改善措置)	1	2	3
⑧ LGBT	1	2	3
⑨ デートDV(恋人間に起こるDV)	1	2	3

* ジェンダー

男らしさ、女らしさといった、生まれてから後に社会的につくられた性差のこと。生物学的な男性、女性といった性別とは区別される。

* LGBT

性的少数者の一部で、Lesbian(レズビアン、女性同性愛の人)、Gay(ゲイ、男性同性愛の人)、Bisexual(バイセクシュアル、両性愛の人)、Transgender(トランスジェンダー、性別違和のある人)の頭文字を並べた略称。また、性的少数者とは、性的指向(どの性別を恋愛・性愛の対象とするか)あるいは性自認(自己をどの性別と認識するか)に関する少数者のこと。

問 31 御意見や御感想がございましたら御自由にお書きください。

調査に御協力いただき、誠にありがとうございました。

御回答を今一度お確かめの上、記入済みの調査票を3つ折りにして返信用封筒に入れ、
【令和2年11月10日(火)】までに、切手を貼らずに郵便ポストに入れてください。

東近江市男女共同参画に関する市民意識調査
報告書

令和3年3月

東近江市 市民環境部 人権・男女共同参画課

滋賀県東近江市八日市緑町10番5号

I P 電話 050-5801-5620

電 話 0748-24-5620

F A X 0748-24-0217